『男祭り』vs『Dynamite!!』大晦日直前大特集!!

kamipro

紙のプロレス

WRESTLING MAGAZINE

enterbrain MOOK

2005
94
880yen

宿命の吉田秀彦戦直前!
独占インタビュー
小川直也

行ってみよう!

大晦日は、誰になんと言われようと
俺にとってはハッスル!!

ただならぬ一大決戦を語れ!
どうなる!? 小川vs吉田!!
古賀稔彦/浅草キッド
小野寺力/夢枕獏

2005年のMVP最有力候補が
有終の美を飾る!
五味隆典

渦巻く賛否両論! この男は
なぜ過酷なリングに上がるのか!?
金子賢

格闘情熱大陸ブラジル大特集!!
ヴァンダレイ・シウバ
ヒカルド・アローナ
ムリーロ・ブスタマンチ
中村和裕
桜庭和志

頑固者、ここに極まれり!
田村潔司

"世界の所さん"が
五輪銀メダリストと激突!
所英男
秋山成勲
「反骨の真実」

あのチャック・ウィルソンが
曙vsボビーにもの申す!!

どうなってしまうんだ!? 新日本プロレス!
ユークス谷口社長
"元GK"金澤克彦登場!

12・24&25『ハッスル・ハウス』ソールドアウト!!
インリン様よ永遠に!

超常現象の頂 -ITADAKI- 対談
ザ・グレート・サスケ×
韮沢潤一郎(超常現象研究家)

kamipro 94 大晦日大特集 行ってみよう!

印刷・製本/図書印刷株式会社

大晦日格闘技大戦 総力特集!

頂-ITADAKI-を超えてゆけ!

2005 No.94 CONTENTS

kamipro

1994.4.29

…11年を問う!

小川直也vs吉田秀彦、ついに実現！

12・31『PRIDE男祭り』のリングで、あの小川vs吉田が本当に実現することとなった。この対戦が正式発表されてからもうずいぶん経つが、いまだに信じられない。この二人の闘いは決して実現しないもの、いや実現させてはいけないものだと思われていたからだ。

混ぜるな、危険！というやつである。

では、なぜ危険なのか。それを説明するにはいまから17年前に遡らなければならない。しかし、88年4月、吉田秀彦、明治大学柔道部入門。その二年先輩に小川直也……と、いちいち歴史を説明していたらいくら誌面があっても足りないので、16ページから掲載されている「小川直也にはいつだって逆風が吹いていた」を読んでいただきたい。

小川と吉田の関係は　もう長々と書く必要もないだろう。

「プロレスに再び熱を持たせるために闘う」

「観客は道化を見に来るわけではない」

どのまでも平行線をたどる両者の考え。決して交わることがないと思われた二人が、あの94年の柔道全日本選手権以来、11年ぶりに交わることとなった。

この二人の闘いは、生き様と生き様のぶつかり合いだという。

ならば、この一戦から問われるのは、小川直也にとってこの11年間とは何だったのか？　ということである。

吉田秀彦によって全日本選手権6連覇を阻止された3年後、アマチュアリズムの極地である柔道界とオリンピックに背を向け、アントニオ猪木という、アマチュアとは正反対の怪物の門

2005.12.31

(大晦日)

PRIDE 男祭り 2005 -ITADAKI-

小川直也の

を叩いた小川直也。

そこでプロとは自分の生き様を大衆にさらし、自分の人生自体をエンターテインメントとして表現することだということを学んだ。

自分の人生、生き様を見せることがプロレスというのなら、この吉田秀彦との一戦はまぎれもなくプロレスだ。

こういったプロレスラー自身が織りなすドラマを見て、感じて、見る側が自分なりのドラマに仕立て上げていく。これこそが「プロレスを見る」という行為なのである。

プロレスとは考えることだ。

ならば、この小川vs吉田ほど考えさせられる試合はない。

この二人は、なぜ闘うのか。この闘いの先には何があるのか？　そして我々はこの闘いを見たあと何を感じるのか？

小川直也はプロレスを背負って人生の大一番を闘うことで、プロレスラーとしての自分とは何かを知ることになるだろう。

そして我々はそんな小川の織りなすドラマを見て、考えることによって、プロレスファンとしての自分を見つめ直す機会となるのである。

この世紀の一戦を前に、小川は盟友・橋本真也の墓参りを行なった。「破壊王は俺の心の中のセコンドです」という小川にとっての橋本は、田村潔司にとっての小太刀のお守りのような心の支えなのかもしれない。

小川は「プロレス復興」の旗印の下、いまは亡き盟友とともに、再び孤独な戦場へと赴く決意をしたのである。

世紀の一戦、小川直也vs吉田秀彦。

男には一生に一度、ハッスルしなければならないときがあるのだ。

（堀江ガンツ）

相容れない生き様の激突!
これが小川の生きる道!!

俺はプロレスラーだから
プロレスを背負う
でも、彼はもう
柔道家じゃないだろ?

ただならぬ緊張感の中行なわれた記者会見から早1ヶ月。
いよいよ"世紀の一戦"小川直也vs吉田秀彦が目前に迫ってきた。
明大柔道部の先輩後輩ながら、生き方や考え方がまるで違う二人。
はたして勝つのはどちらの生き様か?
12月7日、盟友・橋本真也の墓参りに訪れた直後、
「プロレス復興」を墓前に誓った小川を直撃した!

聞き手/堀江ガンツ　撮影/山口比佐夫
designed by hisa (TwoThree)

直　也

©DSE

小川

ファンが頭の中で物語を想像できるという点ではいい相手なんじゃないの

小川直也

――今日は大一番前のお忙しい中、時間を割いていただいてありがとうございます！

小川　やっぱりガンツ〝編集長〟直々に土岐まで来ていただけたんでね、インタビュー受けないと失礼にあたると思って、気ぃ使っちゃったよ。

――いやいや、恐縮です。まぁ、ボクはホントの編集長に「オーちゃんのインタビュー、直談判してでも取ってこい！」って言われて飛ばされてきただけなんですけど（笑）。

小川　へぇ、大統領（山口日昇）も偉くなったもんだね～。もう自分じゃ動かずに「取ってこい」のひと言とはね～。なかなかお会いできないみたいだから、よろしく言っといてよ。

――わかりました（笑）。そんなわけで、いま破壊王のお墓参りをしてきたばかりですけど、墓前にちゃんと破壊王の大好物である『プリングルス』がお供えしてありましたね（笑）。

小川　あったね～。破壊王は巡業中とか、あのプリングルスをず～と食べてたからね。

――まさに「開けたら最後、You Can't Stop!」って感じで（笑）。

小川　しかもお供えしてあったのが、ちゃんと破壊王の好きな「緑色のプリングルス」なんだよな。まさにあれを食べてたんだよ！　なんで「緑」が好きだって知ってるんだろうな？

――きっと『紙の破壊王』の小川さんインタビューを読んだファンがお供えしたんじゃないですか。

小川　そうか、いいことしたなぁ（笑）。これからもちゃんと墓前にプリングルスは絶やさないでほしいね。破壊王はあれがなきゃいられないんだから。

――そもそも今回、大晦日を前にして破壊王のお墓を訪れたのは、どういった思いからだったんですか？

小川　お墓にはずっと来たかったんだけど、やっぱりね破壊王が亡くなったっていうのは、俺にとってもいろんな人にとっても大きなことだったと思うけど、1年の最後にもう一度、破壊王のことを思い出してほしいと思ったんだよね。やっぱり、ホントに彼を偲んでくれるならいいけど、今年はそうとはとても思えない、くだらない追悼企画とかがあったじゃない。

――実現しませんでしたけど、どっかの団体のドーム大会に〝追悼興行〟という冠をつけるという話もありましたよね。

小川　言い方悪いけど、「橋本真也を本当に偲んでいるのか？」というような追悼とかあったからさ、追悼じゃなくて客寄せのためなんじゃないかっていうのがあったんで、「そうじゃないだろ」って思ってたから改めて今年を締めくくる大晦日のみんなに注目を浴びる舞台で、一般の人たちにも「こういう人がいたんだよ」ってわかってほしいし、彼を思い出してほしいと思ったんだよね。

――客寄せとは逆に、お客さんがたくさんいて、注目される舞台に破壊王をあげると。

小川　そう！　こっちは破壊王のことを知ってるお客を呼ぶんじゃなくて、彼を知らない人たちにも知ってもらうためにやりたいんだよ。

――そこが某老舗団体と違うと（笑）。

小川　某老舗団体？　あそこはもう老舗じゃないでしょう。某新団体じゃないの？

――ダハハハ！　もう老舗じゃありませんか（笑）。

小川　だってもう敵対的買収じゃなくて、友好的買収ってもんをされちゃったらしいんだから（笑）。そのネタだって、みんなもう忘れてるんじゃないかな？

――なんか、早くも風化し始めてますよね（笑）。いまのプロレス界ってそんなニュースばっかりですからね。

小川　そんな状態になっても、まだ気付かないのが選手だからね。もう猪木オーナーからユークスオーナーになって、いままでのようなことは通用しないのにさ。ホントいい加減にしろと思うよ。

――その某新団体以外でも、全日本からいろんな人が抜けちゃったりとか、『W－1』が延期になったりとか、いろんなものが壊れつつありますよね。

小川　いまは誰も基盤を作ろうとする人がいないんだよ。誰かが作った基盤の上にアレンジする人はいるかもしれないけど、ホントの土台や幹、軸から作る人がいなくなっちゃったんだよな。でも、『ハッスル』は軸作りから始めたから。

――それこそ橋本さんや小川さん、高田総統なんかが荒野を耕して、開拓するところから始めたわけですもんね。

小川　そうやって軸や土台があったからこそ、インリンやHGが花開いたんだからさ。これが某新団体だったら、インリンもHGも光ってないと思うよ。

――ハッスルポーズすら許されないリングですからね（笑）。

小川　だいたい俺のことを何度も追放してる団体だしさ。

――振り返ってみれば、そもそも『ハッスル』は、2年前の第1回『男祭り』のリングに橋本さんと小川さんが登場して、4日後の『ハッスル1』の宣伝をしたところからスタートしたんですよね。

小川　その前に記者会見でS代表とケンカするっていうのがあったけどね。あれ以来、出てこなくなっちゃったけど（笑）。ただ、まぁ『PRIDE』のリングに上がっていくっていうのは、自分でもいろいろ考えてたんだけど。ただ、普通に「出ました」だけじゃ、いままでのプロレスラーと同じような感じで、格闘技の色に飲み込まれて終わっちゃうと思ったからさ。

――だからこそ、昨年は『PRIDE・GP』という単発じゃない大会に出場したわけですよね。

小川　うん。「ハッスルのために」という意味合いでやってきたことが、実を結んできてるから。これで『ハッスル・マニア』が失敗したら、俺も出ることは考えてたかもしれないけど、この勢いできたから、もう一つ、次のステップにいくだろうって。

――いま、プロレス界で世間に打って出てるのって、『ハッスル』や小川さんだけですもんね。

小川　そう？　まぁ俺の場合、対世間という見方しかしたことないからさ。だからテレビのバラエティとかいろいろ出たりしてたんだけど、な～んか文句言われちゃうんだよね。

――プロレスを軽視して芸能活動にうつつを抜かしてるとか（笑）。

小川　そうそう。それで最近、テレビに出

るレスラーがちょっと増えてきたじゃん。

――健介・北斗夫妻とかよく出てますよね。

小川　あとは長州小力と本人が共演したりさ（笑）。そういうことに関しては、誰も文句言わないよね。なんで？

――そこが不思議ですよね。北斗晶さんがテレビに出ると「プロレスをアピールしてくれた」とか言って、プロレス大賞の特別賞受賞しちゃったり（笑）。

小川　あれはなんなんだろうね。ああいうこと、俺はもう6～7年やってるからね。みんな気付くのが遅いんだよ。俺のときはあれだけ否定してたんだから。

――だから、今回『男祭り』で吉田選手と闘うというのも、プロレスファンや格闘技ファンだけでなく、広く世間一般に『ハッスル』そしてプロレスをアピールしたいというところからきてるわけですか。

小川　少なくとも俺は格闘技ファン相手にしたことないから（キッパリ）。

――ダハハハ！　そうですよね（笑）。

小川　一度たりともない！　そこがムカつかれる理由なのかもしれないけど。俺は「ファンが考えている上をいくのがプロレスラーだ」と思ってやってるんだけど、格闘技ファンには「プロレスラーごときが」って思われちゃうんだろうな。

――「格闘技を真面目に考えてない」とか（笑）。

小川　プロレスラーである俺が『PRIDE』にどういうスタンスで出たらいいかって真面目に考えてるからこそ、『ハッスル』を持ち込んでるんだよ。どうやったら一番盛り上がるか考えて出てるのに、「なんなんだろ？」って思うよね。

――そんな小川さんが、『男祭り』で吉田秀彦選手と闘うというのは、どういう意味合いで挑むわけですか？

小川　俺が吉田とやる・やらないという意味合いじゃなくて、俺が『男祭り』に出る意味合いっていうことで考えてるから。出るからにはプロレス復興、『ハッスル』のアピールっていうことが第一だし、それでどこまでアピールできるかは開けてみないとわからないけど。いい意味で予想がつかないという部分はあるよね。

――ただ、小川さんのプロレス復興の思いはわかるんですけど、今回の闘いに「プロレス」とか「ハッスル」を持ち出すと、なにか吉田秀彦と真正面から相対することを避けているように受け取る人もいると思うんですよ。

小川　はぁ？　もう「やる」って言ってるんだから、避けるもなにもないだろって。だから、ただ「やる」というだけじゃなくて、何度も言うけど闘う意味なんだよ。だって俺は総合格闘家じゃないんだから。プロレスラーである俺が『PRIDE』に上がるなら、「プロレス復興」という意味合いがなきゃ出る必要ないんだよ。そのプロレスをアピールするのに一番注目される相手が吉田だというなら「やる」。それだけだよ。

――小川さんの師匠であるアントニオ猪木さんもそうですけど、プロレスラーというのは生き様というか人生を見せていくのが仕事だと思うんですよね。そういった意味では、今回の対戦相手、吉田選手というのは、ファンがいろいろ想像できる一番の相手だとは思うんですよ。

小川　ファンが頭の中でストーリーを膨らませながら見れるってことだろ？　それだけ考えさせられる相手だったのならよかったんじゃないかな。そういう意味では、（吉田戦に対して）あえて俺が「こう思ってます」って言うこともないと思うんだよ。俺がどう考えてるか、ファンが自由に想像してくれればいいんだからさ。プロレスって、そうやって自分の頭の中でいろいろ想像するのが楽しいわけじゃない。みんな最近、プロレスの本来の楽しみかたを忘れてるよ。

――たしかに、そういう部分はありますね。

小川　いま、ゲームするのにも、みんな先に攻略本読んでからやったりするんでしょ？　なんでそれで面白いのか俺にはわからない。

――映画も「感動する」とか「怖い」っていう情報をたっぷり仕入れてから、その「感動」なり「怖さ」をたしかめに行ってるような風潮がありますよね。

小川　おかしな時代だよな～。だからプロレスぐらいは、ファンが自分で考えて体感できるっていうものを守っていかないとね。『ハッスル』はフィクションとノンフィクションの狭間でやってるわけだから。こと今回の大晦日に関しては、フィクションを全面に出しながらも、どこまでノンフィクションでいけるのかってところもポイントだよ。

――「どこまでがフィクションでどこまでがノンフィクションなのか」というのを見極めるのも、ファンの楽しみだったりしますもんね。

12月8日、岐阜県土岐市にある破壊王・橋本真也さんのお墓参りに訪れた小川。墓前で手を合わせ、破壊王に大晦日決戦の出場を報告。そして天国から見守ってくれとお願いしたという。

小川　そうそう。『ハッスル』はフィクションだっていっても、俺と髙田総統がホントに仲が悪いのかなんてわからないわけじゃない？

——ダハハハハ、いきなり何を言い出すんですか！（笑）。

小川　インリンと俺は仲が悪いのか、HGや和泉元彌とは仲がいいのかもわからない。

——同じように吉田秀彦とどこまで仲が悪いかもわからないし。ホントは仲がいいかもしれないし（笑）。

小川　ホントに悪いのかもしれないしね。

——たぶん悪いでしょうね（笑）。それを本人が言おうが言うまいが、ファンがどう考えて、かにい感じるかが大事だと。

少なくとも俺の心の中では破壊王がセコンドについてくれると思うよ

2002年8月8日、東京ドームで開催された『LEGEND』では、マット・ガファリとのバーリ・トゥード戦に挑む小川のセコンドにつき、試合後は肩車で勝利を称えた破壊王。大晦日の吉田秀彦戦でも、小川は"心のセコンド"破壊王と共に決戦のリングへと向かう！

小川　常々、「夢を与える」「夢を売ってます」とか言う人間がさ、次なる手を考えて、そのためにやるというのは、小さなこだわりを捨てて考えていかないと。

――だから今回の小川vs吉田は巨大な"プロレス"だと思うんですよ。

小川　別に無理矢理、プロレスに結びつけなくてもいいんだよ（笑）。

――いやいや、『PRIDE・1』の高田vsヒクソン戦だって、闘いは総合格闘技でも、プロレスとしての巨大な物語があったわけじゃないですか。小川vs吉田もそれと同じで、格闘技全盛と言われる現在もそういった"大きな意味でのプロレス"を大衆やファンは求めてるんだと思いますね。

小川　求めてるというか……それが存在しないからでしょ？

――"物語"を背負えるプロレスラーが見当たらない現状もあります。そんな中で小川選手はもちろん、プロレスラーとして出場するわけですね。

小川　そんなこと改めて言うまでもないんだけどね。

――でも、周囲は"因縁の柔道王対決"といった煽り文句ばっかりじゃないですか。

小川　書くのは勝手だけどさ、俺はとうの昔にもう柔道家じゃないんだから。いまの俺はあくまでプロレスラー！　みんな考えることが安易だよね。そうすると俺は天の邪鬼かもしれないけど、すぐに否定しちゃうんだよな～。

――じゃあ、今回は柔道対決じゃなくて、"プロレスvs柔道"ですか？

小川　プロレスvs柔道っていうのも、なんか笑っちゃうよね。プロレスラーvs格闘家でいいんじゃないの？　彼は格闘家だろ。

――「いまは格闘家としてやってるんじゃないのか？」と。

小川　だって彼はもう柔道家じゃないでしょ？

――たしかに、柔道連盟からは認められてませんけど（笑）。

小川　なんか往生際悪いんじゃないかなぁ。『PRIDE』に出るのも『柔道発展のため』って言ってるみたいだけど、たぶん違うと思うよ。

――たぶん違う（笑）。

小川　ハッキリは言わないけど、たぶん違う。

――かなりハッキリ言ってる気もしますけど（笑）。それに対して小川さんは「プロレス復興のため」と。

小川　だって俺はプロレスラーだからね。やることはそれしかないじゃん。

――まぁ、柔道普及のためにハッスルやったり、『PRIDE』出たりしてるようにはまったく見えませんよね（笑）。

11・3横浜でついにブレイクしたハッスル。来年の大晦日に『ハッスル・マニア』を開催するためにも、小川は吉田戦にハッスルを持ち込むつもりだ。なにかが起こる（!?）入場シーンにも注目！

小川直也

小川　だから今回の『男祭り』だって、敵状視察のつもりだからね。来年は大晦日に『ハッスル・マニア』をやってやろうと思ってるからさ。

――『ハッスル1』以来のさいたまスーパーアリーナ・スタジアムバージョン!!

小川　いや、どこでやるかはわからないけど（笑）。来年、大晦日にやるにあたって、いまどんなお客さんがいて、どれくらい盛り上がるのかっていう想定をするためにね。

――あとは「みなさん、来年は『ハッスル・マニア』です」という宣伝ですか？

小川　そのつもりだよ。それ以外やることねえよ！

――K－1の谷川さんも『Dynamite!!』の裏番組は『ハッスル』をやられたほうが怖い」って言ってましたけどね（笑）。

小川　だからさ、『PRIDE』は『PRIDE』で人気があるんだから、来年は2部構成がいいと思うんだよね。テレビ放送だって『PRIDE』だけで6時間なんて長過ぎるじゃん。

――たしかに視聴者的な長さですよね。

小川　それなら夕方6時～9時まで『PRIDE』で、そのあと『ハッスル・マニア』をやってさ、カウントダウンもやると（笑）。

――それ、真面目にいいアイデアですね（笑）。

小川　だろ？（笑）。

――じゃあ、来年の『ハッスル・マニア』は、また小川さんが"いかりや長介ファッション"で、「後半行ってみよー！　後半出発ー！」って感じで始まると（笑）。

小川　後半じゃないよ！　まったく別のイベントだから。でも、両方観たい人は、チケット両方買えばいい。1DAYチケットみたいなの用意してね。ディズニーランドとディズニーシーみたいなもんだよ。で、大晦日は、電車も終日運転しているから、そのまま初日の出が見えるところまで電車に乗って行けばいいんだよ。

――いやぁ"完璧なプログラムですね。そして小川さんは、1部の『PRIDE』、2部の『ハッスル』と両方出場すると（笑）。

小川　オイオイオイ、なんで俺が『ハッスル』の前に『PRIDE』でなきゃいけないのか、わけがわかんないよ！

――まぁ、そうですね（笑）。

小川　「あいつもう出なくていいよ」っていうくらいにならないと、ホントはいけないんだけどね。

――とにかく、今年は来年の大晦日に『ハッスル・マニア』を開催するためにも、大いにハッスルをアピールすると。

小川　あとは最初にも言ったけど、破壊王の追悼という意味も込める。彼と手を組んで「プロレス復興」のためにやってきたわけだけど、俺の中ではまだそれは続いているからね。きっと当日も俺のセコンドについてくれるんじゃないかな。少なくとも俺の心の中では、彼がセコンドについてくれると思ってるよ。せっかく『ハッスル・マニア』っていい兆しが見えたんで、ここでもうひとつ弾けたいからね。

――派手な入場パフォーマンスとかも考えてるんですか？

小川　だから、そういうことは当日までファンが想像してくれればいいから。事前に言ったら、さっきの攻略本読んでからゲームやるのと一緒になっちゃうよ。

――では、大晦日に勝って「トルネード・ハッスル」ができることを期待してます！

小川　まぁ、破壊王じゃないけど、俺は恥ずかしがらずにハッスルするだけだから。よお～し、大晦日、いってみよう！

【05年12月8日／名古屋市内にて収録】

知りすぎた男

柔道家・古賀稔彦が語る

小川直也×吉田秀彦の真実

同級　　後輩

小川直也と吉田秀彦。二人を知るド真ん中の人物と言えば、もう古賀稔彦しかいない！　小川と同級であり吉田の先輩にあたる古賀は、吉田と柔道生活を中高ともにし、また、小川が史上最年少で優勝した世界柔道選手権、運命のバルセロナ五輪など、二人の分岐点を常に目撃している。その古賀は今回の小川vs吉田をどう分析しているのか。切れ味サイコーの古賀論を読め!!

聞き手／橋本宗洋　構成／松下ミワ　撮影／平工幸雄　試合撮影／乾晋也
designed by hisa (TwoThree)

――今回は小川選手と同い年で対戦経験があり、また吉田選手の中学・高校の先輩にあたる古賀さんから見た小川vs吉田戦をお聞きしたいと思います！
古賀　よろしくお願いします。
――さっそくですが、古賀さん。ズバリ！　小川vs吉田はどんな試合になると予想していますか？
古賀　ズバリですか。ではもう結論から先に言いましょう！　私が予想するに、おそらく今度の試合では本当の意味で"本気の小川直也"が現われると思います。
――"本気の小川直也"！　それって、いままでの小川選手は本気じゃなかったと？（笑）。
古賀　いや、これまでも真剣だったのはたしかですよ。でも小川が本当に意地を持って、心底本ッ気で闘うのはおそらく今回が初めてでしょうね。
――おぉ～！　それは柔道時代を含めての話ですか？　それともプロになってから？
古賀　柔道時代も含めてだと思います（キッパリ）。
――ということは"小川人生"で初！　吉田選手が相手となると小川選手のモチベーションってそこまで振り切れてしまうわけですか。
古賀　おそらくそうでしょう。
――では、対する吉田選手はどういう試合をすると思いますか？
古賀　吉田はいつもとそんなに変わらないと思いますよ。相手が誰であっても闘志を燃やしてくるタイプですからね。
――小川選手だろうが他の誰かだろうが、いつもの吉田選手とそんなに遜色はないと。
古賀　まあ、ここまで騒がれてる試合ですし遜色がないとまでは言えませんが、小川ほどコロッと違う感じにはならないとは思います。だからやっぱりキーになるのは小川かなと。今回はね、普通ならタップするような場面でも小川は意地で凌ぐと思いますよ。そういう場面で本当に本気の小川が出てくると思います。
――じゃあ、今回の試合は小川選手を見よ！　ということでさっそく結論が出てしまったわけですけど（笑）。しかし、小川選手の"本気"がどこまで凄いか想像がつきませんが、『ＰＲＩＤＥ』での吉田選手の負けん気の強さというのはそれに勝るとも劣らないものだと思うんですけど。そのあたりは長年一緒に練習してきた古賀さんとしてはどのようにご覧になってますか？
古賀　たしかに吉田は打たれ強いっていうのはありましたね。僕が高校3年のとき、吉田は1年だったんですけど、当時の3年生って全国でもナンバーワンのメンバーだったんですよ。
――世田谷学園は古賀さんの時代に全国制覇されてますからね。

小川vs吉田を語るにはあまりにも有名な94年全日本柔道選手権での対決。以降、吉田は約7年間柔道を続け数々の賞を授賞したが、それとは対象的に、2年後、小川はプロレスの道を歩み始めることになる。

今度の試合では本当の意味で"本気の小川直也"が現われるでしょう

古賀　そのメンバーの練習相手として、毎日ボコボコにされてたんです、吉田は。まぁ、あの頃は身体もヒョロっとしててやりやすかったんで（笑）。
――つまり、いい練習台だったと（笑）。
古賀　体型がね、横幅はあるんだけど厚みがなくて。通称"馬場ボディ"って言われてたんですけど（笑）。だから「なんか調子上がんないなぁ」っていうときは「よし、秀彦！」って感じで投げ飛ばしたりしてましたね。僕が満足したらまた他の上級生が「おい、秀彦やるぞ」ってそれの繰り返しで。いくら投げられてもまた立って闘わなくちゃいけない環境で育ってましたから、彼は。やっぱり打たれ強さ、忍耐力の強さっていうのは吉田は人一倍のものを持ってると思いますよ。
――日々の練習そのものが闘いだったという感じですね。
古賀　そして、自分が上級生になったときにはチームのポイントゲッターとしてやってきて。小さな身体で、どんな相手だろうと勝たないといけない宿命を背負ってたんですよ。そういう中で磨かれた、吉田の勝負師としての芯の強さっていうのは相当なものがあると思いますね。
――小川選手はそういう感じではなかったんですか？
古賀　そうですねぇ。明治大学時代の小川は当時監督だった原吉実先生にスパルタ指導されてましたからね。その頃の明大って、とにかく小川に期待が集中してたんですよ。だから正直"自分が強ければいいんだ"っていう環境だったんじゃないかと思います。
――結果的にも"個"として飛びぬけた存在だった印象がありますよね。
古賀　そもそも重量級でもアイツよりデカい選手は一人もいませんでしたから。自分よりデカいヤツに挑むというよりも、自分より小さい相手をどう料理しようかっていう世界だったわけです。そういうことを考えたときに、やっぱりいまでも吉田は昔と同じ魂みたいなものがあって"相手が大きいからこそやってやろう"という気持ちになれるのかなって。とにかくあいつは……まぁ、僕らもそうなんですけど、自分よりも身体のデカいヤツを見ると、無性に闘志が沸いてくるタイプだったんですよ。ですから彼の場合は、自分よりも身体がデカくて、みんなから強いと思われてる、そういうタイプと闘ったときのほうが、持っている以上の力を発揮しやすいですね。
――中学、高校時代から、吉田選手は目立つ存在だったんですか？　"こいつは後々出世するな"っていう。
古賀　いや、当時はやっぱり、身体が細かったですからね。
――"馬場ボディ"ですからね（笑）。
古賀　だから、見ていてどうしても不安になってしまうんですよ。ただ、さっきも言ったように厳しい環境で鍛えられて、じわじわと育っていってたんです。試合でも「あ、勝っちゃった。へぇ～」、「お、また勝ったよ」という感じで。見てると不安なんだけど、でも確実に力をつけていたという選手

でしたね。徐々にチームのエースになっていって。

――そういう吉田選手とは対照的に、小川選手は高校から柔道を始めて、すぐに結果を出してっていう選手ですよね。となると気持ちの面とか柔道への取り組み方、柔道家としての立場っていうものは正反対になりますよね。

古賀 やっぱりそれは環境の違いでしょうね。みんなを代表して勝たなければいけないのが吉田で、"自分しかいない"ってのを背負って闘ってきたのが小川ですから。そのあたりの違いはありますよね。ただもうひとつ小川が強いのは"自分を演出できる"ってところなんですよ。

――つまり、自分自身に暗示をかけられるということですか？

古賀 たとえば、いま小川がいるプロレスの世界では勝つこともあれば負けなきゃいけないときもあるじゃないですか。

――まあ、人類最強のヒョードルと闘ったあとに、モンスター軍No.2のインリン様と闘ったりしてますからね（笑）。

古賀 それって僕ら柔道家にしてみたら絶対できないんですよ。でも小川はそれをやりきれる、そういう役割になりきれるんですね。その場の雰囲気に同化してしまう性格を持っているんですよ。だから、今回も「俺はこの大舞台で吉田に勝って、本当の強さを見せてやるんだ」って、そういうモードになりきれるんじゃないかと。

――じゃあ、総合格闘技の試合は久しぶりだからとか、そういうことはあまり影響しませんか。

古賀 その場に立ったら、そこにふさわしい人になれちゃいますからね。

――そういえば、小川選手が最初に世界選手権で優勝したときも、補欠だったのに急きょ出番が回ってきて、それで優勝しちゃったんですよね。あのときも「どうしよう」って緊張するんじゃなく、大舞台に同化するように自分で仕向けたと。

ふたりの関係？ お互い好きでも嫌いでもないって感じじゃないですか

02年に『Dynamite!!』ホイス・グレイシー戦で総合デビューを果たした吉田。同年に吉田道場を設立し、中村和裕、瀧本誠など総合転向を目指す多くの柔道家の先陣を切った。また子どもを対象とした柔道教室『VIVA JUDO!』を開催するなど、柔道家の心も決して忘れてはいない

97年にプロレスデビューを果たした小川は『UFO』『ZERO-ONE』などを経て、その後『ハッスル』街道まっしぐら。また『PRIDE GP 2004』では準決勝でヒョードルの前に敗れはしたものの、ステファン・レコ、ジャイアント・シルバを続けて破った姿は多くのファンを魅了した

古賀 じつは僕、あのとき小川と同じ部屋に泊まってたんですよね。

――あ、そうだったんですか!?

古賀 僕は優勝候補で、アイツは補欠で行ってて。で、こっちは減量中だし緊張してて夜も眠れないんですけど、アイツは近くのレストランに行って大メシ食らってましたからね。

――ダハハハハ！

古賀 しかもお土産でおにぎりまで作ってもらってきてるんですよ（笑）。それをねえ、こっちはベッドで苦しんでるのに電気つけて、アルミホイルをバリバリって破いてムシャムシャと（笑）。

――究極のミスター・マイペース（笑）。

古賀 それもたぶんそうなんですよ。自分の世界、"小川ワールド"を作ってるんです、きっと。

――なるほど（笑）。

古賀 自分の世界が作れるんで、そうなるとプラスアルファの力が出てくるんですよね。「こうやってああやって、最後はこう勝つ」っていう考えをそのまま実行できる。

――自分の理想とするイメージに同化できるわけですね。

古賀 でも面白いのが、その反面、非常に怖がりでもあるってところなんです。

――それはどういう部分に表われるんですか？

古賀 たとえば、大事なときにお腹を壊しやすいとか（笑）。

――あ、胃腸が弱いと（笑）。

古賀 そう。つまり繊細なんですよね、本当に。さっき言ったみたいにマイペースで"小川ワールド"を作れたときは強いんですが、繊細さが出てしまうとそのパワーが半減してしまうんですよ。だから「負けたらどうしよう」って感じたときに"小川ワールド"が崩れてしまうんです。

――もしかすると、それがあのバルセロナ五輪で出たのかもしれないですね。決勝戦なんて「あの小川が!?」ってくらいあっさりと負けてしまって。

古賀 あのときはそうでしょうね。小川はメディアではもう楽勝だというムードがあったんですけど、実際はまったく地に足が着いてない状態でしたから。やっぱり、勝てると思われてるからこそ「もし負けたら」という意識が働いてしまったんじゃないですか。そういう部分で繊細なんですよね。

――代表の強化合宿なんかでも、そういう雰囲気ってありました？

古賀 小川はいつもひとり淡々と練習してましたね。

――周りがどうこうじゃなく「俺は俺で強くなってやる」というような。

古賀 まさにそういう感じ。で、それでうまくいくといいんですけど、少しでも歯車が噛み合わなくなると崩れてしまう。

――まさに振り幅が広いと言うにふさわしい状況ですね。逆に小川選手が負けたバルセロナで、吉田選手は見事に金メダルを獲得してますけど。

古賀 優勝候補ではなかった吉田が、ですよね。しかも試合前、練習していて僕をケガさせてしまった。そういう逆境の中でオール一本勝ちで優勝できたというのは、や

今回の試合は柔道時代とは正反対 小川のほうが背負っているものが大きい

っぱり気持ちの強さですよ。

――ああいう結果だったので仕方がないのかもしれませんが、バルセロナ五輪の試合が終わったあと、会見で小川選手は非常に不機嫌というか、ぶっきらぼうな受け答えをしてたんですよね。実際、試合後の小川選手の様子ってどんな感じだったんですか？

古賀　正直、試合後は僕あんまり会ってないんですよ。金メダル獲った人間は、放送局を回ったりとかでいろいろ表に出て行くじゃないですか。逆に負けた人間っていうのは、そういう場には出ませんからね。

――なるほど。では古賀さんが実際に練習したり、試合で対戦する中で感じたそれぞれの強さの質の違いみたいなものを教えていただければと思うんですが。

古賀　やっぱり吉田の場合は闘争本能の火の付き方ですよね。打たれたときに打ち返すだけの強さを持っているという面では、吉田は実戦向きだなというのはありましたね。一方の小川はどうかというと、攻撃してるときの強さはずば抜けているんですけど、反対に攻撃されると守りに入ってしまう部分はあるかもしれません。だからさっきも言いましたけど、小川の周りには自分より大きい選手がいなかったんですよ。常に有利な立場でやれてたんです。だから、試合で自分よりもデカい、力が強いっていう人間がポッと出てきたときに、「ああ、なんかいつもと違う」と一気に気持ちが反対方向にいっちゃう。

　それがオリンピックのハハレイシビリ戦だったり、ドゥイエ戦だったのかもしれないですよね。そういえば『PRIDE』でも、小川選手の試合は圧勝か完敗のどちらかなんですよ。

古賀　だから最初から「コイツ勝てる！」って呑んでかかればガンガン〝小川ワールド〟にもっていけるんですけど、ちょっとでも相手の強さを感じてしまうと「あ、ヤバい」って。

　それがヒョードル戦だったのかも。

古賀　あとはいまの小川がどう変わってるかでしょうね。僕が話してるのは、あくまで過去形、柔道時代の話なんで。

――古賀さんから見た、明治大学の先輩、後輩としてのお二人っていうのはどんな雰囲気でしたか？

古賀　嫌いでも好きでもない、って感じじゃないですか。お互いに。

――いわゆる〝先輩、後輩〟の絆みたいなものとは違うわけですね。

古賀　お互い個性がありすぎるっていうのもあるし、持ってる感覚が違いますからね。後輩が「俺はあの人と合わない」って思ってたら、先輩も「可愛くないな」ってなるじゃないですか。まあ普通は後輩が合わせるんですけど。

古賀稔彦が語る
小川直也×吉田秀彦の真実

――普通はそうですよね。

古賀　そこを合わせない吉田がいますから。

――でも、大学の運動部なんてとてつもないタテ社会だと思うんですけど……。

古賀　吉田はそれに屈しないんですよね。そこは実力の世界ですから。認めない先輩はもう、認めないっていう。もちろんね、かたちの上では言うことを聞きますけど。

　それを許されるだけの実力が吉田選手にはあったと。

古賀　でも、小川の場合は柔道界以外の人間とか、あと高校時代の友だちと付き合ってる時間のほうが長かったから、そこまでカッチリした考えはなかったかもしれませんね。やっぱり高校から初心者として柔道を始めた人間ですから。

――いわゆる〝体育界系〟っていうようにはあまり見えませんもんね。

古賀　まあでも結局は先輩、後輩の関係なんて、先輩次第ってところもありますけどね。先輩が面倒見がよければ後輩だってついてくるでしょうし。

こが・としひこ■1967年11月21日、佐賀県出身　言わずと知れたバルセロナ五輪柔道71kg級金メダリスト　弦巻中学、世田谷学園高校では吉田秀彦の先輩にあたり、87年世界選手権では無差別級の補欠として大会に帯同していた小川直也と同じ部屋に泊まった仲　00年に現役を引退し、03年には子どもの人間育成を目的とした「古賀塾」を開塾

――後輩の面倒を見るのは、たしかに小川選手の得意分野ではなさそうですね。

古賀　そもそも後輩がついてくる、こないっていうのも、あんまり気にしなくてよかった環境があったんじゃないですか。

　そういう両極端な二人が、今回『PRIDE』で闘うわけですが、やっぱり古賀さんとしては試合は〝小川次第〟になるわけですか？

古賀　そうなると思いますよ。でも、僕としても本気の小川というのは見たことがないだけに、正直楽しみですね。

――なにしろ今回は相手が後輩ですからね。

古賀　外国人の強い選手が相手だったら「負けてもしょうがない」って言い訳できる部分もあるかもしれないですけど、今度の相手はそうはいかない。大学の後輩で、94年の全日本柔道選手権で小川は一度、吉田に負けてるわけですから。ましてやいまの小川はプロレスも背負ってますからね。

――プロレスのため、『ハッスル』のためという部分はたしかに小川選手にとっては重いでしょうね。そういう意味でいったら、柔道時代とは反対で今回は吉田選手より小川選手のほうが背負うものが大きいんじゃないですか？

古賀　それは言えますね。負けたら自分以外のものも傷つくし、逆に勝てばプロレスにとっても大きなメリットがありますからね。これはかなりのプライドをかけて闘うことになると思いますよ。

――わかりました。では『kamipro』読者のみなさん、大晦日は本気の小川に注目しましょう！　というわけで、今日は本当に貴重なお話をありがとうございました！

古賀　いえ、こちらこそ！

【05年11月30日／古賀塾にて収録】

小川は結果的に期待に反することで、その逆風を
すべて受け止めながらも前に進むことで大きくなってきた

「たられば」で過去を振り返ってみる。

もしも小川直也がバルセロナ五輪で金メダルを取っていたら。もしも全日本選手権で吉田秀彦に敗れていなかったら——大晦日『PRIDE男祭り-頂-ITADAKI-』で行なわれる小川直也vs吉田秀彦戦が、ここまで強烈なドラマ性を生むことがあっただろうか。

この決戦の根底に流れる重厚な物語は、明大柔道部時代にさかのぼる二人の確執が主な発端かもしれない。しかし両者がおかれた先輩・後輩の微妙な距離感は、柔道界のみならず体育会系社会において特筆すべきことではないだろう。すべては、道衣を脱いだいまでも語りつがれる小川直也の陰——にあるような気がしてならない。

プロレスラーに転身して、いまなお小川直也につきまとう苦い過去。そして、柔道家時代からやむことのない逆風。

12日の深夜に放送された『PRIDE男祭り』特集番組で、コメンテーターが発した「(小川がプロレスをやっているのは)逃げているということですから」という最近ではすっかり聞かなくなった、きわめて前時代的なプロレス批評をぼんやり耳にしつつ、小川直也はいつだって寒風が吹きすさぶ立ち位置にいるのだということをあらためて実感した。

小川に吹いてきたその様々な逆風が、彼の格闘技人生、そして大晦日のドラマを際立たせているのではないか。

いまさらいうまでもないが、小川直也は重量級のエースとして、山下泰裕、斉藤仁が身を引いた日本柔道界を背負う存在だった。

全日本柔道選手権5連覇を含む7度の制覇、そして世界選手権3連覇。

オリンピックで勝っても、世界選手権を制さなければ認められない、という物差しが柔道界にはある。オリンピックは4年に一度の開催。実力はもちろんだが、タイミングや運の要素も大きく問われてくる(だからこそ、金メダルを獲得すればスーパースターとして扱われるわけだ)。しかし、2年に一度という、比較的照準を絞りやすく、満を持して強豪が集う世界選手権で勝てるか否かが、柔道家として真価が問われる局面であった。

真の実力測定の場は世界選手権。小川はその大舞台を史上最年少の19歳で、急な代打出場の末、無差別級を制している。補欠として観光気分で大会の舞台となった西ドイツを訪れていたという青年は、そこから世界選手権3連覇の偉業を達成することになるのだ。

こうして重量級のエースとしての地位を築いた小川だったが、ついにオリンピックの栄冠には手が届かなかった。

92年のバルセロナオリンピック。周囲の誰もが金メダル獲得を信じて疑わなかったが、周知の事実通り、決勝戦でまさかの敗北を喫する。

「完敗です。もういいっスか——?」

試合後、簡単なコメントを残し憮然と立ち去った小川に対して、マスコミはこぞってバッシングを浴びせたが、それは自然の成り行きだったともいえる。

なぜなら、無差別級で日本を背負っている人間は、日本柔道そのものを背負う宿命にあったからだ。柔道は日本伝統の国技であり、なかでも無差別級は日本の誇りである。いまでこそ中・軽量級が脚光を浴びているが、かつて絶対的に実力が問われたのは無差別級のみであったという。かつて東京オリンピックの軽量級で中谷雄英が優勝したときですら、大々的な祝勝会は行なわれなかった。その理由は、中谷の明治大学の先輩にあたる神永昭夫が、無差別級の決勝でアントン・ヘーシンクに敗れたからであり、日本柔

あらためて振りかえる
――バルセロナ五輪、全日本柔道選手権の
vs吉田戦とはなんだったのか？

小川直也にはいつだって逆風が吹いていた

文/ジャンードー・オー28号　designed by hiea (TwoThree)

道の誇りである無差別級における敗北は、それぐらい影響力を持っていた。

逆に88年ソウルオリンピックでは、全階級で獲得した金メダルの数はたったの一つ。しかし、その唯一の珠玉が斉藤仁の無差別級制覇であったため、多くの関係者は胸をなで下ろしたという。そういう時代の真っただ中に、小川直也はいた。

一方、吉田秀彦は、小川が暗い影を落としたバルセロナオリンピックの78キロ以下級に出場。戦前の予想を覆し、オール一本勝ちで金メダルを手中に収め、国民的ヒーローとして脚光を浴びた。

オリンピックで国民的ヒーローとなった吉田、かたやバッシングを浴びた小川。その両者が2年後の全日本柔道選手権の準決勝でぶつかりあった。

94年4月29日、日本武道館。全日本柔道選手権・準決勝、小川直也vs吉田秀彦――。

この一戦は「吉田が小川の大会6連覇を阻止」という観点から語られがちであるが、じつはもう一つ大きなテーマを内包していた。

それは中量級の吉田が無差別の闘いである全日本柔道選手権に挑戦する、ということだ。世間の注目は、どちらかといえば小川よりも吉田に集まっていた。

かつて古賀稔彦が全日本柔道選手権の決勝まで進んだとき、古賀の勇姿を見たさに多くの観衆が会場へと足を運んだ（なお、古賀は同大会決勝で小川直也に敗れた）。

古賀、吉田たちの全盛時代は、無差別で中量級の王者が生まれるのではないか、という期待がふくれあがっていた。

それもそのはず。重量級に劣ることのない迫力、いや、誤解を恐れずにいえば、それすら凌ぐ実力の世界だったのだから。

78キロの吉田は、その全日本柔道選手権で130キロもある大型選手を大外刈りでぶん投げた、という。

"柔よく剛を制す"吉田の快進撃に場内のボルテージは沸騰し、準決勝の小川直也戦で最高潮に達した。

このとき小川直也という存在は、観客にとって、吉田秀彦に立ちはだかる壁に過ぎなかった。吉田がその壁を越える瞬間を、武道館に詰め掛けた1万人以上の観客は待ち望んでいたのだ。

今回の企画にあたり、この大会を観戦していた、ある総合格闘家に小川vs吉田戦の感想を聞いた。

「会場の雰囲気はどうだったんですか？」

「結果的には、吉田さんが勝ってよかったんだろうなと思いましたけどね。会場の雰囲気や大会の盛り上がりを考えたら。あそこで小川さんが勝つのは当たり前で、吉田さんの勝つ姿が見たい、という空気はたしかにあったんですよね」

「小川さんが試合後に、マジかよって言ったのは、判定に対してだったんですかね」

「もちろん、そうでしょうね。小川さんが納得できなかった気持ちは絶対にあったと思います。でも――吉田さんの攻めが本当に凄かったんです」

当時の新聞や柔道雑誌でこの試合の流れを追ってみると、吉田が試合の主導権を握っていたことがわかる。体格差をものともせずに、背負い投げで小川の巨体を一瞬、浮かしもした。その鋭い眼光は小川の顔をそらすことはなかった。

しかし、試合のポイントになったのは、小川が左の支え釣り込み足で吉田を横倒しにした局面だった。国際ルールであれば「効果」を取ってもおかしくない小川の攻めだったが、全日本柔道選手権は講道館ルールで実施されている。講道館ルールに「有効」はあっても「効果」はない。6分間の本戦終了後、副審の判定は「1対1」に分かれたが、主審の左手は吉田のアグレッシブさを支持。小川との身長差13センチ、体重差44キロを吉田の闘志が覆した瞬間だった。

「小川さんがポイントを奪ったのは明らかでしたけど……あの試合は講道館ルールでしたから。終始、攻め続けた吉田さんの姿勢が主審を動かしたと思うんですよね。吉田さんの決勝は結局、僅差の判定負けだったんですけど、本当にもの凄い闘志であの大会を闘っていたんです」

あのときの会場に、当時の柔道界に、吉田さんはベビーフェイス、小川さんはヒールという構図があったんですか、という最後の質問に彼は即答した。

「吉田さんは完全にベビーフェイスでしたけど、小川さんはヒールというより、大相撲で言うところの横綱だったから。判官贔屓で憎まれ役になっていたところはありましたよね」

当時の柔道雑誌で小川直也を評する言葉を探していると、「多くの関係者や柔道ファンは小川に期待と反感という、一見相反する思いを抱き続けていた」という一文があった。端的にいえば、関係者やファンが抱く従来の柔道家像に、小川直也は応えようとしなかったのだろう。

この「期待と反感」というキーワードは、プロレス界における小川直也にも合致するかもしれない。

小川直也を見るとき、人は「いったい小川は何をやっているんだ？」「きっと小川は何かをやってくれる！」という一見相反するような気持ちを抱く。

小川直也は期待に応えることを生き甲斐にするスーパーヒーローではない。結果的に期待に反することで、その逆風をすべて受け止めながらも前に進むことで大きくなってきた。

いまの小川直也は逆風にさらされながら「ハッスル」という世界に身を置いている。

吉田秀彦が「道化」と呼ぶ世界だ。

あのバルセロナオリンピックから13年経ったいまでも変わらずに、小川はプロレスファンのシビアな目や、吉田や冒頭のコメンテーターに代表されるような蔑みの目と闘っている。本人が置かれている状況は何も変わっていないのかもしれない。

いや、変わった点を挙げるとすれば、「もういいッスか？」と憮然とした表情で風を受けきっていた柔道家時代と違って、恥じらいもなく「♪エンヤ～コラヤット♪ドッコイジャンジャンコ～ラヤ」と踊りながら受けきっているところだろうか――。

RIKIX会長

小野寺力

小川、吉田両選手の打撃技術とは?

――今日は、キックボクサーとして一世を風靡し、いまでは多くの総合格闘家に打撃指導している小野寺力さんに、小川選手と吉田選手の打撃分析をしていただきたいと思います!

小野寺　よろしくお願いします。

先ほど小野寺さんに『PRIDE』で行なわれた小川直也vs佐竹雅昭、ステファン・レコ戦の映像を見ていただきましたが、まずは小川選手の打撃に対する率直な感想をお聞かせください。

小野寺　佐竹選手との試合はほぼ打撃戦に終始しましたが、K-1で活躍した選手相手に小川選手は凄く冷静でした。大振りな打撃にならないでコンパクトにきっちりパンチを当ててますよね。しかも左ストレートは躊躇してるところがなく、思いきりがいいです。

小川選手は柔道出身らしからぬ打撃センスを持っているとは言われてます。

小野寺　ボクのジムには吉田さんやカズ(中村和裕)とか柔道家が練習に来る機会が多いんですが、柔道家が打撃を習得する際に戸惑うのが〝構え〟なんです。柔道では右利きの人は右手と右足が前で、左手と左足がうしろになるんですが、ボクシングやキックボクシングはその反対の構えになるんですよ。

――まずは構えを矯正しないといけないんですね。

小野寺　だから瀧本(誠)選手もボクシングの構えに違和感があったみたいで。吉田さんやカズなんかはウチに来る前に矯正できてたんですけど。小川選手もスタンダードな打撃を身につけているな、という印象がありますね。

逆に小川さんの打撃における弱点というか、気になる点は?

小野寺　ストレートを放ったあと打ちっ放しになっているところ、細かい連打がないこと、そして蹴りに対処できてないところです。佐竹選手との試合はもう4年前のことなので現在はどう進化しているかわからないですが……かなりのローキックを食らってますよね。吉田さんは最近、左の蹴りがうまくなってるので有効かもしれない。ただ、ローで攻めるにしても、あの左ストレートを合わされると厄介でしょうね。距離やリーチに気をつけて小川選手のストレートを封印できるかどうか。ステファン・レコ戦もそうですけど、体格を活かした小川さんの圧力は一つの武器になってますから。

レコ戦なんて突進による圧力でダウンさせた感はありますよね。

小野寺　小川選手は圧力をかけて相手を追い詰めることができる。佐竹戦も、技術的な部分では佐竹選手のほうが上でしたけど、小川選手は間合いに踏み込ませていない。距離の取り方も上手だし、ちょこちょこ出してるジャブなんかも相手にすると厄介な牽制になってるんです。

総合的に判断すると小川さんのスタンドの武器は、ストレートと、そして圧力ということになりますか?

小野寺　そうですね。多少の隙は圧力と勢いでそのまま突っ切ってしまう感じはあります。

一方、小野寺さんが指導したことがある吉田選手はどういう打撃なんでしょうか?

小野寺　吉田さんは小川選手のようにコンパクトには打てないですけど、逆に小川選手にはない連打がありますね。

――あと、多くの日本人選手がヴァンダレイにKOされてるなか、吉田さんは2戦とも判定に持ち込んでますよね。どうしてヴァンダレイの打撃にあそこまで対応できたんでしょうか?

小野寺　そこは精神力の高さだと思います。吉田さんはとにかく精神力が凄いんですよ。だから打撃のラッシュに押し切られることがなく前に出られるんです。ヴァンダレイは相手がまっすぐ下がったりでもしたら、そのチャンスを絶対に逃さない。そこを吉田さんは前に出ることでラッシュを食い止めているんです。

吉田さんの気の強さが功を奏している部分が少なからずある、と。

小野寺　吉田さんは殴られたら殴り返す姿勢があるんです。技術的なことを言えば、二度目のシウバ戦は回り位置がよくなくて、終盤にかなりローを食らってしまいました。あのときは右対右でしたけど、吉田さんの右へ回る癖が出ちゃったんです。右へ回ると相手はローを蹴りやすいんですから。

小野寺さんからすると、この試合はどういう打撃戦になると思われますか?

小野寺　小川選手は距離をとりながらジワジワゆっくり攻めてくると思うので、そこは吉田さん次第ですね。感情的になってガッと攻めるのか、しばらく様子を見るのか。吉田さんはそのときの感情で、殴られたら殴り返すっていうタイプだと思うんですよ。

吉田選手の戦術が大きなポイントになる、と。

小野寺　そうですね。吉田さんがガーッと攻めたときに、そこで小川選手がコンパクトなストレートを出されると厄介でしょう。ただ、小川さんはそこからの連打が薄いので、その一撃を外せば吉田さんにチャンスが訪れると思います。

――先ほど小川選手の圧力について言及されましたけど、リーチ差や体格差でも小川選手に分がありますよね。

小野寺　体重差もありますよね。大きい相手に対して、いきなりパンチで攻めるというのはあまり得策ではない。腕より脚のほうが長いんで、吉田さんは蹴りで牽制しながら闘うのがいいでしょう。あとポイントを挙げるとすれば、小川選手がサウスポーだということです。

いわゆる〝喧嘩四つ〟の状態になるわけですよね。

小野寺　右と左の対決になると、間合いや回り位置が重要になるんです。基本的にいい位置を確保するためには、右手の人が左に回って、左手の人が右に回る。それは相手の攻撃をもらいにくく、自分の攻撃を当てやすくするポジションになるからです。小川選手の場合は冷静にわりと良い位置をキープしてるので、打撃の局面でいえば、吉田さん次第の試合になると思います。

吉田さんがどう動くか?

【おのでら・りき】1974年7月7日、東京都出身。元キックボクサー。1992年にプロデビュー。96年5月に日本フェザー級王座を獲得。現在は主宰するRIKIXで指導者として活躍。佐藤ルミナ、長南亮、中村カズなど多くのプロ格闘家を指導している。

どうなる小川vs吉田!

打撃、道衣の有無、吉田秀彦のポイントを探る!!

©DSE

どうなる小川vs吉田! 打撃、道衣の有無…
吉田秀彦のポイントを探る!!

小説家
夢枕獏
吉田は"柔"の道を貫けるのか?

――今日は獏さんに小川直也vs吉田秀彦戦の浪漫溢れる見方をご教授願いたいと思います。まずはこのカードの率直な感想を聞かせてください!

獏　とにかく凄い、のひと言だよねえ。このカードを組むのは、本当に至難の業でしょう。

ファイトマネーだけを積めば、実現できるマッチメイクじゃないですよね。

獏　そうそう。もう『PRIDE』に出ることはないと思われた小川直也をまた引っ張り出して、そのうえ相手は小川と仲がよろしくないといわれる吉田秀彦。つまり、二つの大きなハードルを跳び越えたわけだから、それを取りまとめた主催者には大拍手ですよ。

――そんなビッグマッチのポイントになるとすれば、どこになるでしょうか?

獏　それは吉田秀彦が道衣を着てくるかどうかという問題だろうね。吉田はいままでずっと道衣を着て闘ってきたけど、今回初めて道衣を脱ぐ可能性がある。というのは、吉田が道衣を着てくれば、裸の小川が間違いなく有利になるからね。

――いまさら強調することではないですが、小川さんは柔道世界選手権を何度も制してます。

獏　それに小川が対等な状況を作るために道衣を着てくるとはまさか思えないし、いまさら道衣を着るというこだわりもないでしょう。だから真のポイントは吉田だよ。

――道衣を着用するか・しないかがキーになるわけですね。

獏　どうするんだろうねえ……。吉田がホイス・グレイシーとやったときなんかは、柔術に対して柔道を背負うという面があったけど、今回は柔道対柔道でしょう。あえて道衣を着なくても、柔道対柔道のニュアンスは残せるかもしれないけども、できれば着てほしいよね。それが吉田秀彦の道なんだからさ。

――吉田さんは柔道普及のために『PRIDE』に参戦してきた背景もありますからね。

獏　吉田には「絶対に勝ちたい」という気持ちが当然あるんだろうけど、それだけじゃないものを背負っているんだよ。そういう柔の道を歩く吉田を俺は見たいんだよねえ。不利を承知で道衣を着てきたら、俺はもうそれだけで大拍手だよ。

――着てきただけで大拍手!

獏　それだけで意義があるよ。で、途中で脱ぐようなみっともない真似だけはしてほしくない。要するに、それは分が悪いから道衣を脱ぐってことだから。不利だから脱ぐんだけど、脱いだところでその差を調整できない。脱いだほうが負けるという方式があるんですよ。

――中村カズのヴァンダレイ戦もそうでしたね。あとは……ウイリアム・ルスカの猪木戦なんかも(笑)。

獏　あれはちょっと違うけどね(笑)。あとテーマを挙げるとすれば、今回のおもしろさは、二人の仲が悪いということはギミックなんかじゃない、というところにある。そういう試合って、いままでなかったからね。髙田延彦vs田村潔司にも因縁というかたちはあったけれど、決して仲が悪いわけじゃないんだよ。単に関係がこじれていただけで、その微妙な関係が壮大なドラマを生んだわけだけど、今回はホントただ仲が悪いわけだからね(笑)。

――犬猿の勝負(笑)。

獏　思想的に何か違う、流派が違うとかじゃなくて、「こいつ気に入らねえな!」っていう関係にドラマを感じるわけよ。そこから何が生まれるかが見たいんだよねえ。感情的に癖のある二人が闘うおもしろさと、内容や結果が試合終了後の二人にどう作用して、結果的に何を生み出すのか? というところに注目すべきだよ。

――試合後の二人の表情や行動は、俄然興味が湧きますね!

獏　だから一番理想的なかたちは、二人が力尽きるまでリング上で闘ってさ、最後に抱き合うという結果なんじゃないかな。俺的にはこれで満点だよ(笑)。

――昔の青春ドラマのようですけど、ちょっと難しいでしょうね(笑)。

獏　やっぱり格闘技って、良いほうにスカされることもあれば、悪いほうにスカされることもあるから。期待通りにならないことが多い。両者にしこりが残ったまま、もやもやとした雰囲気のまま終わることはありえるなあ。

――嫌な大晦日ですね(笑)。でも、じつはその"もやもや"こそが『PRIDE』の醍醐味の一つだったりします。

獏　でもさ、小川と吉田も単純に"仲が悪い"だけだったら、試合のオファーを受けなかったと思うんだよね。やっぱどこかでリスペクトがあるから対峙できるというか。格闘技の本質はリスペクトだと思うな。

――そういう意味で言うと、この一戦ってなぜ成立したのか本当に不思議ですよね。両者にとって本当にリスキーじゃないですか?

獏　リスキーだよ〜。とくに吉田は道衣の件を含めて、小川よりリスキーだと思う。だって小川は『ハッスル』が主戦場だし、勝ち逃げもできるわけでしょう。『PRIDE』をメインリングにしている吉田がもし負けたとしたら……これはちょっと『PRIDE』の価値観も揺るぎかねないことになるなあ。

――リスキーだからこそ、以前、獏さんが言われていた"濃い瞬間"も生まれるというか。

獏　濃い試合だよねえ。そこで心から願うのは、何かしらしこりを残さないレフェリングをやってほしい! ってことだなぁ。

――あと判定にもつれ込んだりしたら、ちょっとそれは痺れますよね。

獏　そうなったら大変だよ! わりと最近の『PRIDE』の判定は納得がいくケースが多いから、おかしな判定はないと思うけど……。

――真っ当なジャッジやレフェリングが曲がって見えてしまう重苦しい雰囲気、緊張感、会場の熱狂はあるでしょうね。

獏　だからさ、こないだの戦闘竜vsズールみたいなレフェリングが起こったら大変だろうなあ。

――ダハハハ! ヘタしたら暴動が起きるんじゃないかと思いますね(笑)。

獏　あのときも難しい判断だったと思うんだよ。危険な状態なのに試合を続行させるよりは全然良かったけどね。

――ちなみに獏さんの大晦日のご予定は?

獏　テレビ観戦。『男祭り』と『Dynamite!!』を交互にね(笑)。本当は埼玉まで『男祭り』を観に行きたいんだけど……終わるのは11時過ぎでしょ? それだど小田原まで帰れないよなあ。

いや、じつは『男祭り』の開始が15時に繰り上がったんですよ。だから例年より早く終了すると思います。

獏　おぉ!! それなら全然帰れるじゃない。ちょっとそれは迷うなあ……まだチケット買えるかな?

――ギリギリ大丈夫だと思います(笑)。今日はお忙しいなかありがとうございました!

【ゆめまくら・ばく】1951年神奈川県出身。小説家。77年にデビュー以来、『陰陽師』シリーズなど多くの話題作を発表、また格闘技をテーマにした『餓狼伝』を20年にわたり執筆するなど格闘技への造詣も広く深い。ほとんどの格闘技興行を小田原から都内まで観戦に訪れる"真のマニア"だ。

05年マット界MVP候補
大晦日『PRIDE男祭り』
直前インタビュー

文句なしの05年マット界MVP候補!
中・軽量級に特化した『武士道』を牽引し
『PRIDE』日本人ファイターの頂にまで
登りつめる活躍を見せた五味隆典
大晦日『PRIDE男祭り』の桜井"マッハ"速人戦で
今年の有終の美を飾る——!!

聞き手／ジャン斉藤　撮影／菊池茂夫
designed by hisa (TwoThree)

五味隆典

「帯谷の祝勝会をやりながらでも、いいですか？」

国士舘大学・多摩キャンパスにあるレスリング部で練習を終えた五味は、現地で午後1時からインタビュー取材の約束をしていた取材陣にそう伝えてきた。帯谷とは、12・3DEEPでミルトン・ヴィエイラに快勝した帯谷信弘のこと。五味が結成した「チーム・ラスカル」の一員で後輩にあたる。

祝勝会の場所は、玉川学園にある中華料理屋で五味が行きつけの庶民的な店だ。

ところが、そこまで取材陣の車をナビしてくれるはずの五味の車は、テールランプを点してボクらを待とうともせずにバンバン先を急ぐ！　当たり前のようにはぐれてしまったけど、非常に五味隆典らしい取材の出だし。

大晦日の夜、二つの異なるリングで、中・軽量級のスターたちが揃い踏みするが、"野生児"、"神の子"、"トリック・スター"、その誰とも似つかわしくない五味の自然体。いや、PRIDEファイターとしての誇りから、自分を飾ろうとしているところも見受けられるが、まったく飾らない感じがどうしても印象に残る

やっと取材陣が店にたどり着くと、五味は中華料理をバンバン注文していた！

五味　今日はなんの話ですか？

――本題はもちろん大晦日『PRIDE男祭り』！　なんですが、それはちょっと当たり前すぎるので、とりあえず五味さんのクリスマスの過ごし方なんかを（笑）。

五味　ああ、そうなんだ……（素っ気なく）。

――（素っ気ない答えに戸惑いながら）……そ、そういえば、五味さんの大好きな矢沢（永吉）さんが出演された『情熱大陸』はご覧になりました？

五味　あ〜、木口（宣昭）先生と温泉に行ってたから見逃しちゃって。でも、このあいだBSで永ちゃんの2時間特集番組を見たんですよ。きっと『情熱大陸』と同じような内容だったと思うけど。

――あの番組で、一番気になったのは、矢沢さんのスタッフに要求するハードルの高さや、ライブ前日深夜ギリギリの状況で音響のセッティングをやり直したりする非情さというか徹底さなんです。

五味　永ちゃん凄いよね。俺の場合はやり直しがきかない分野だけどさ、前日にそう思っても。

――五味さんは何かを積み重ねていく過程のなかで、すべてをゼロに戻すような作業が苦にならないところってありますか？

五味　ゼロにするというよりは、いまの自分に必要なものを感じ取る力がありますね。"ひらめき"という感覚は、他の選手を上回っていると思うし。

――ちなみにいまの五味さんには何が必要だと思われます？

五味　いや、何が必要っていうより、いまは怪我なくリングに上がることが一番大事ですね。ライト級のトップまであと一試合だから、もうかなり落ち着いたもんですよ。

――とくに構える必要もないというか。

五味　はい。だっていまさら慌ててもダメでしょ。これから大きくスタイルを変えるのだって無理だし。

――それは相手のマッハさん（桜井"マッハ"速人）も同じなんでしょうね。そこでこの一年を振り返ってみると、『武士道』や『HERO'S』のブレイクによる"中・軽量級元年"という評価を受けていますが、五味さんにそういう実感ってありますか？

五味　まだまだ、まだまだですね。この階級のステータスをもっと上げるために、まだまだ選手はがむしゃらに頑張っている段階だと思いますよ。

――イベントを問わず、選手それぞれの個性は開花しましたけど……。

五味　（さえぎって）いや、このフィールド自体をまだまだ拡げることはできますね。『武士道』がスタートした頃よりは拡がったと思うけど。もともとボクはずっと73キロ

2004.2.15〜2005.9.25
五味隆典"成り上がり"バウトレビュー

で闘っていたけど、ヘビー級が台頭している『PRIDE』で中・軽量級がはたしておもしろいのか？　という疑問はあったじゃないですか。闘いの迫力がお客さんに伝わるのかな？　って。

——でも、音楽家の菊地成孔さんという方は、「DSEはローマ帝国と同じで、優れた拳闘士を山ほど持ってんだけど、五味の試合だけでいいやもう」という評価をされているんです。迫力でもヘビー級を上回っているという評価はたしかにありますよ。

五味　なるほど～。いや、それはホントにありがたい！　でも、俺の中には危機感がありますよ。だから（中・軽量級は）昔からのファンのあいだでは定着しているんでしょうけど、もっともっと上のステータスをつかむために必死に闘っているところはありますよね。このフィールドを確実なものにするという意味で。

——『PRIDE男祭り』では小川直也vs吉田秀彦というビッグカードも決まりましたが、フィールドを定着させるためにもインパクトで負けられないという気持ちが当然あるわけですよね。

五味　それはない（キッパリ）。

あ、ないですか。

五味　ない、ない。お二人の遺恨と、俺とマッハさんのライバル関係というのはまた違うし。もちろん国民はああいう柔道界の遺恨みたいなものに興味があるだろうけど。やっぱ『PRIDE』の選手同士で競い合ったって、なんにも意味ないじゃん。

大晦日には「俺が主役を奪ってやる！」という気持ちもないんですか？

五味　それは会場がどんな熱気になるか、お客さんがどう感じてくれるか次第です。やっぱり、お客さんは張り切っている選手や"何をやるんだろう⁉"と思わせる選手を観て興奮しますから。あの会場は異空間になりますからね。

非日常でお祭り的な空間。『PRIDE』のライブ感はちょっと異常ですよね。

五味　お客さんの「何をやってくれるんだろう？」という期待がもの凄いパワーを生んでますよ。ホントにねぇ、あれだけの人が集まって一点を見るという行為には、何かあるんですよ。

——しかも一年で一番慌ただしい大晦日に（笑）。その大晦日に試合することにはどんな思いがありますか？

五味　いや、とくにないですね。修斗時代は12月の13日か14日にNKホールでかならず試合をやってたし。自分からしたらテレビでやるか・やらないか、というぐらいの違いであって。プロになる前も大晦日は公園で練習してましたからね、雪が降る中（笑）。

年末の格闘技は伝統行事（笑）。そこで勝たないとこの一年はしっくりこないという面はありますよね？

五味　でしょうね。勝たないとクリスマスもお正月もつまらないものになってしまいますから。修斗のときはそりゃあいいクリスマスでしたねえ～。

——NKホールで勝って、いいクリスマスを過ごして（笑）。

五味　まぁ俺だけじゃなくて、ファンのみなさんがいいお正月を過ごせるようにパワーを与えたいですよね。ファンのパワーは自分のエネルギーになるし、逆にファンにも力を与えたいんです。

——ファンも期待は寄せてますけど、それもいい意味でのプレッシャーになるんですかね。

五味　ただねえ、最近はコンビニとか行きづらいんだよね。視線が気になって。

——あ、そういうプレッシャーもある（笑）。

五味　へんな格好を見せて、がっかりさせたくないしね。俺がコンビニで500円の弁当とペットボトルを2本買って、駐車場でウロウロしている姿はちょっと違うと思うんだよな～。

まだ中・軽量級は定着してない。俺の中には危機感がある。

vsルイス・アゼレ[illegible]……川尻との死闘を終えた五味は[illegible]ロスのないアゼレードに判定勝利！[illegible]れで9連勝……ヤバすぎる快進撃

[illegible]・25『武士道・其の[illegible]』■武士道ライト級GP[illegible]

vs[illegible]17『武士道・其[illegible]』■アゼレード[illegible]

vsルイス・アゼレード／5・22『武士道・其の七』■『武士道』が中・軽量級に特化した記念すべき大[illegible]めたのは五味。衝撃的な1RKO[illegible]後も大暴れ

vs[illegible]12・31『PRIDE男祭り』■強烈な[illegible]を叩き込み、ボクサーと[illegible]ェンスを打ち合いで[illegible]「大晦日、判定ダメだよ。KOじゃなきゃ」[illegible]

五味隆典

——ダハハハ！　五味さん本人ってわからないように変装したりしないんですか？

五味　帽子やフードを被ってるよ。

——五味さんの性格からすると、そういうことって煩わしそうですよね。「ああ〜、面倒くせえなあ〜」って感じで（笑）。

五味　ま、それもプロの仕事ですよ。だからって引きこもっててもしょうがないし。そういう意味では、チームの連中といたほうが都合はいいんだろうけど。

——チームといえば、ジムも新装されたそうで。

五味　はい。大晦日の大一番が終わったら、そっちにも目を向けますよ。実際、マッハさんはジムを持ちながらやってるわけだし。ジムのことも自分の力に変えながらやっていかないとね。大晦日があるから、まだそういう気持ちになってはいけないんだけど、来年は自分のコンディション作りを70パーセントの力にして、あとは勢力作りもやってかないといけないな、と。

——勢力作りというと？

五味　あ、精力じゃないよ〜！　勢いに力ね。

——何も言ってないですよ！（笑）

五味　とにかくチームをバックアップしていきたいんですよ。徒党を組むのは全然好きじゃないですけど。でも、みんなで楽しく頑張ろう！　ということで。

——同じチームの帯谷（信弘）さんも先日のDEEPでミルトン・ヴィエイラに勝利されましたね。

帯谷　いや、もう充分すぎるぐらい五味さんに力になってもらってるんで。

五味　でも、試合後の帯谷のマイクには……みんな引いてたね（笑）。

——ボソボソとやけに長かったですね（笑）。

五味　いや、じつはコイツ、試合途中で記憶が飛んじゃって。だから、ああなったんだよ。それでもう誰かが止めるしかない！　という感じになって、俺がリングに上がったんだけど（笑）。

——そういう理由があったんですか！　じゃなかったら怖いですね、すぐあとにメインのフェザー級決勝戦を控えているのに（笑）。

五味　ンフフフ！　懐かしいよねえ、試合で記憶がなくなるのも。自分と同じような道を、コイツはいま辿ってるからさ。

9・25『武士道・其の九』で行なわれたライト級トーナメント　大晦日の決勝戦に勝ち残りを決めた五味は、リング上へ須藤元気を呼び込むサプライズ！　政治的な関係を考慮すればありえない風景　五味はリング外でも"凄玉"ぶりを発揮したのだ（リングに上がった元気も凄い）

——ちなみに五味さんの記憶が最後に飛んだ試合はいつですか？

五味　俺は二十歳のときの修斗3戦目。そこでダウンしたときかな。結局、俺が勝ったんだけど、あのときは試合が終わったあと、周りから「もういいよ！」って止められるぐらいバック転したり、コーナーに登ったり、暴れるだけ暴れたんだよね。だから俺と帯谷とは真逆なんですよ。

——五味さんがアッパーなら、帯谷さんはダウナーというか（笑）。

五味　コイツはしんみり静かに語っちゃってね〜。いろんなタイプがあるってことですよ。（帯谷に向かって）お前、3ラウンドやったのは覚えてたの？

帯谷　いや、試合が終わったときにちょっと記憶が戻って。3ラウンドも途中の記憶がないです。

五味　2ラウンド終わって戻ってきた時点で、もうバテバテだったろ。1ラウンドは良くて10対9ぐらいで、そんなにジャッジが分かれるような展開じゃなかったと思うんだ。それなのにコイツ、2ラウンドのインターバルで「これで五分五分ですよね！」って言い出したから、「いや〜、ボロ負けだと思うけどなあ。もういくしかねえんだよ！」って言ったんだけど。

——2ラウンドはヤバかったですよね。ミルトンの飛びヒザを顔面にもらって、そのままチョークを極められかけて。

帯谷　ああ、ヒザをもらう直前の記憶はあるんですけど。気付いたら首取られてましたね。

五味　……あのときさ、「ああ、ここは日本なのにブラジル人にやられてるよ〜（ニヤニヤ）」って感じで眺めてたんだよねえ。

——ダハハハ！　なんてセコンドなんですか（笑）。

五味　（再び帯谷に向かって）俺、思ったんだけど、3ラウンド目のヒョードルみたいなスタイルさぁ、あれが一番いいんじゃないかと思うんだよ。そこにプラスタックルで。ただ、そればっかだとちょっと無機質な選手になっちゃうんだよね。いろんなテクニックがあるうえでそう攻めるんならいいんだけど。やっぱお客さんは技を見にきてるから。

帯谷　はい

五味　後楽園（ホール）だと迫力が伝わるから、あれでいいんだけどさ。

——五味さんって、会場の違いによっての伝わり方を昔から意識してたんですか？

五味　俺はそういうことを凄く感じてましたよ。たとえば、NK（ホール）で（佐藤）ルミナさんとやったときなんて、ヒザ十字や腕十字とかでしかお客さんは沸かないんですよ、NKは広いから。

——大会場に対するプレッシャーや恐怖感はありました？

五味　恐怖感はないけど、どんな勝ち方をしても、コツコツ殴ってるだけじゃお客さんに伝わらないってことは意識しましたね。とくに『PRIDE』のお客さんはヘビー級のハイレベルな闘いで目が肥えてるし。

——よくよく考えると、格闘技観戦に最適で手ごろな会場ってなかなかないですよね。さいたまスーパーアリーナの小さいバージョンは見やすいけど、スタジアム・バージョンの広さなんてNKの比じゃないし（笑）。

五味　まあ有明（コロシアム）かなぁ。

——見やすさとキャパでいえば横浜文体とかも。

五味　あそこは気が抜けちゃいますね。

今年の『PRIDE男祭り』の大会ポスターは、『SLAM DUNK』や『バガボンド』の作品で知られる漫画家の井上雄彦が手がけた。そのイメージモデルは五味。ポスターの主役となった五味は、大会当日の主役も奪うことができるのか？

——あ、それはなんとなくわかります。

五味 あの会場は気が集まりにくい会場なんですよね。やっぱお客さんをトランス状態にするには、あっちこっち扉が開いてるところはダメなんですよ、密閉されてないと。やっぱり一番いい会場は、後楽園ホールかなあ。

——その後楽園に戻って試合をしたいという気持ちはあります？

五味 うん。自分の子どもができたころになんか、やりたいと思いますけどね。子どもに一度は自分の闘う姿を見せておきたいですから。子どもが試合をわかってくれるのは、だいたい3歳ぐらいでしょうから、自分がヨレヨレになった頃に。実際そういうボクサーがいっぱいいますもんね。ま、それは試合を楽しみとしてやれるようになったときですよ。

——以前も言われてましたよね。「子どもに自慢できるような作品を残したい」と。

五味 うん。そのときは33歳ぐらいで、一年に一回後楽園ホールで試合をするっていう、そういう感じだったらいいな。

——33歳で子持ちだと、もうそろそろ結婚を考えないといけないですよね。

五味 いやあ、難しいだろうなあ。

——五味さんは結婚願望が強いほうなんですか？

五味 結婚？ 結婚願望はゼロだな（キッパリ）。でも、子どもに試合は見せたい（笑）。

五味 自分自身も35歳ぐらいまではチームの連中と生きていくんじゃないかという気がしてますけど いままでは自分だけのために試合をやってきて、それで『PRIDE』のタイトルマッチまで最短で辿り着いてますよね、27歳で。

——ライト級のベルトはもともとあったものではなくて、五味さんが闘い続けたことで制定する機運が高まりましたからね

五味 この2年間の9試合で格闘技人生が濃縮されてるというか。で、28～30という年齢には、強さはもちろんなんですけど、巧さも必要になってくるんです。身体をちゃんとケアしないといけないし、どれだけ長持ちするように身体使うのか？ ということも問われてきますよね。

——五味さんは以前、「そういったことに取り組んだらもっと強くなる。だって私生活がメチャクチャだから！」って言われてましたよね。

『PRIDE』の2年間は俺の格闘技人生が凝縮されている

こみ・たかのり■1978年9月22日、神奈川県出身。木口道場レスリング教室所属。元・修斗ウエルター級チャンピオン。『PRIDE』戦績9戦全勝 173cm、72.9kg

五味 そうですねえ。メンバーといれば荒れることはないんですけど（笑）。イチロー選手が言ってたんですけど、身分相応というか、自分と違う世界のことはやらないほうがいいみたいですね。もちろん好奇心は大事ですけど、背伸びして合わないと思いながら他の世界を覗くってことを、イチロー選手はやらないみたいなんですよ

——たとえば、五味さんにとってそれはどういうシチュエーションですか？

五味 たとえば？ クラブに行ったりとか（笑）。

——クラブはあまり好きじゃない。

五味 時間の無駄だと思っちゃう。それだったらやっぱりね、みんなでガンガン練習して、うまいもん食ったほうがいい。それに俺は都内が好きじゃないんですよ。人の欲望が蠢いているのを感じちゃって。あと試合前に周りのスタッフが盛り上がるのも大嫌いですからね、ちょっと静かにしてくれ、というタイプなんで。周りで「やるぞーー！」ってなってると、「やらないでくれーー！」って（笑）。

——ダハハハ！ 騒がしいクラブなんてやっぱり論外ということですね。

五味 でもさ、いまの若い連中は、そういう遊びが好きだからな～。まあ、来年ね、打ち上げはみんなでクラブに行こうかなって計画してるんですけど。

帯谷 そういうときって、意外と五味さんが後輩の立場になるんですよね（笑）。

五味 そうそう～。そういえば、元ちゃん（須藤元気）はさ、クラブに入るときは帽子を深く被るんだって。それで暗いところでだんだん帽子を上げていくんだって！ みんなに気付いてもらえるように（笑）。

——ガハハハ！ 似たようなエピソードで、吉川晃司がカフェバーで「みんな騒がないでくれ。俺は吉川晃司だ。でも、みんなは騒がないでくれ。俺はおとなしく飲みたいんだ」ってわざわざ言ったそうですけど（笑）。

五味 ほ～、最初に言っちゃうんだ。でも、考えてることは近いかもしれないね。ま、俺は不動！

——は？ 不動？

五味 うん。クラブに行ったとしても、俺はダンスせずに不動ってこと（笑）。ダンスできないで、立ち尽くしちゃう。

——DJブースに立ち尽くす五味さんを見てみたいですけど（笑）。でも、最近の格闘家ってそういうところがわりと好きじゃないですか。KIDさん（山本"KID"徳郁）とかも。

五味 ああ、KIDさんはね、もう外国の文化だから。ま、俺はチビチビグダグダ飲んでるのが一番なんですよ～。

——わかりました。今日は五味隆典のクラブ論を聞けて楽しかったです。ありがとうございました！

五味 ……え？（一瞬固まって）。本題はどこいったのよ、本題の大晦日は！

——いや、大晦日の話題は、良識派の格闘技雑誌がやってくれると思いますので、ウチはこのへんで（笑）。マッハ戦は素晴らしい試合を期待してます！

五味 え～っ!? どんな終わり方だよ！

【05年12月4日／玉川学園の中華料理屋にて収録】

賛否両論！俳優 金子賢の『男祭り』参戦!!

『PRIDE』大異変

構成／ジャン斉藤　designed by nogu(Two three)

話題性、視聴率、番組主導……一般層に届く要素が求められる〝大晦日〟。『PRIDE』に何が起きるのか？

12月6日、東京プリンスホテルで行なわれた12・31〝PRIDE男祭り―頂―ITADAKI〟記者会見で、『PRIDE』の世界観を揺るがしかねない衝撃的な発表がなされた！

俳優、金子賢の『PRIDE』参戦!!

長州力風に驚くなら「ウソだろ？　ありえない」という出来事であり、ドラゴン藤波風なら「絶対に許さん!!」と言い切ってもおかしくない。ドラゴンなら後日、前言撤回しても不思議ではないが、これは撤回されることはない事実なのである。

そもそも、金子賢とは何者なのか――？

金子賢（かねこ・けん）。1976年生まれ。183cm、73kg。俳優。96年、映画『キッズリターン』で日本アカデミー大賞新人賞を受賞。フジテレビで放映中のスポーツバラエティ『ジャンクSPORTS』に司会としてレギュラー出演中。柔術歴は3年だが、アマプロ含めていわゆる〝格闘競技〟の公式試合は初めて！　格闘競技経験がない選手の参戦は、『PRIDE』史上、初の試みとなる……。

金子賢の対戦相手は、本誌締切日の12月12日現在では発表されていない。一線級の相手が用意されているとも噂され、本格的な試合が行われる模様だが、それでも『男祭り』ではスペシャル・チャレンジマッチの〝第0試合〟として実施。あくまで〝本戦外〟の扱いになる予定だ。

そういったもろもろを鑑みても、この発表には首を傾げざるをえないところもある。

〝芸能人参戦〟という話題性だけを追求するのであれば、〝過酷な世界最高峰のリング〟を築いてきた『PRIDE』の理念に反する。ボビー・オロゴンや曙などをリングに上げ、その存在を中心軸とした『Dynamite!!』と、『PRIDE』（『男祭り』）は差別化を図ってきた以上、熱心なファンから相当な批判を浴びるのは明白だ。

話題性を追求したのではない、のであれば、下の大会から経験を積んでから参戦させるべき。『PRIDE』には、簡単に飛び越えられない高いハードルが置かれるべきなのだ。

ところが、12月9日付の一部スポーツ新聞では、「DSE内部でも『ふざけるな』という気持ち。ファンも同じだと思います」という声が挙がっている」ことを報じた。であるならば、この企画は一体どこから湧きあがってきたのであろうか……？　話題性、視聴率、番組主導……一般層に届く要素が求められる〝大晦日〟だけにさまざまな事情が絡むことはわからないでもないが……誰もが胸に抱く巨大なクエスチョン・マーク。

榊原DSE代表、そして『ジャンクSPORTS』プロデューサーにして、『PRIDE』中継のチーフプロデューサーを務めるフジテレビスポーツ局スポーツ部の清原邦夫氏の会見発言&質疑応答、P38からの金子賢インタビューも併せて読んで、このクエスチョン・マークを解く鍵を見つけてもらいたい。

「俺は俳優やった方がいいと思うね」

会見中に金子賢を密着取材した簡単なドキュメント映像が流れた。髙田道場の門を叩いた初日、金子の動きを見た髙田本部長は「俳優をやった方がいいと思うね」と格闘家転向に難色を示したが、金子は「家に帰って考え直すような気持ちで来たんじゃありません」と不退転の決意。

榊原DSE代表
会見コメント

金子選手から、『PRIDE』という戦場に男としてチャレンジしてみたいという意思表明をいただいたのが今年の2月ぐらいです。それまで本人は柔術の道場に通っていたということでしたが、そこから髙田道場に通っていただいて、約10ヵ月間トレーニングを積んできています。

私は、金子選手が一番最初に髙田道場を訪れたときの練習の様子を聞いて、「これは間違いなく途中でやめるな。ついてこれないな」と思いましたが、金子選手は一週間たっても、一ヵ月たっても、とにかく髙田道場に通い続けて、髙田さんも髙田道場の面々も驚くばかりだったそうです。

それで11月に入ってから、桜庭選手がシュートボクセに行くタイミングと時を同じくして、金子選手にシュートボクセで約3週間のトレーニングを必死にこなしてもらいました。金子選手は桜庭和志と同じ練習をすべてこなしたということで、そうとうキツかったそうです。

それはボクのなかで、『PRIDE』のリングに上がる資格があるのか、という最終的なテストだったわけですが、シュートボクセの会長であるフジマールから「金子は充分『PRIDE』のリングに上がるに相応しい選手だ。それだけの精神力も肉体もできあがっている。彼が持ってないものは経験だけだ。実績と経験を積めば、充分『PRIDE』の頂点を狙える」というお墨付きをいただきました。

今日、桜庭選手とも話したんですけど、「金子選手は、当然勝負論でトップアスリートに太刀打ちできる次元ではないんですが、『PRIDE』のリングに上がるだけのものは持ってるんじゃないですか。来場した観客や、テレビを見ている人にも伝わるであろう修練は積んできたし、そのぶん実力もついています」という話ができました。

金子選手のチャレンジ精神と、タレントを辞めてまでも『PRIDE』のリングに賭けるんだという思いに、我々としてはチャンスを提供するということに正式に決定いたしました。対戦相手に関しては調整中でありますが、当然『PRIDE』のリングですので、一線級のファイターのなかから選びたいと思います。

続いてルールに関しては、『PRIDE』のオフィシャルルールにほぼ近いもので考えております。ただし枠組みとしては『PRIDE』チャレンジマッチというかたちで、日夜『PRIDE』のリングを目指して練習している人の夢を叶えるというか、そういう人たちに勇気を与えるような闘いを、そしてひたむきな生き様を、大晦日に『PRIDE』のリングで見せてくれればと思っています。

フジテレビ清原氏
会見コメント

ボクと金子くんの付き合いというのは、「ジャンクSPORTS」という番組からはじまり、それも今年の3月で約6年になります。6年前にはじめて金子選手に会ったときには、身長は高いけれどヒョロッと痩せている印象があって、ぶっきらぼうなところと妙に人なつっこいところが同居している人柄だなと思いました。そして気付けばずいぶん長いお付き合いになっていたわけですが。じつは3年ぐらい前に金子くんは肉体改造に目覚めて、ボクはケビン山崎さんのジムを紹介したんですよ。それから金子くんは趣味の一環として柔術を始めて、格闘技の話をするようになって、時間が合いさえすれば『PRIDE』も会場に観にきてくれるようになりました。

そして今年の初めに金子くんから「折り入って相談があるので、聞いてください」ということで、二人で食事をしながら聞いたんですけど、「じつはもう役者を辞めようと思っています。格闘家になりたいんです」ということを言い出して。ボクはホントに「なんで!?」ってびっくりして。というのも彼の役者としての評価は非常に高かったですから。「格闘技を好きなのはいいけど、役者を辞める必要はないんじゃないの？」という風に、むしろそっちの方向で説得したのを覚えてますけど

でも彼自身の決意が本当に固くて、「人生で初めて、自分が、自分の意思でやりたいものが見つかったんです。だから応援してもらえないですか？」ということだったものですから、榊原社長に相談して。そこからは、先ほど榊原社長がお話しした流れのなかで今日に至るわけですけども。ボクの立場で、そこまでの金子くんの意思をなんとか応援できないかな、というのが正直な感想です。

榊原社長もおっしゃってましたけど、「ホントにできるの？」という半信半疑の目はどんなに言葉を尽くしても誰の頭にもあると思うんです。

でも、格闘技を志す純粋な気持ちは、やはり温かく迎え入れてあげたいなと思うんです。

いろんなスポーツのジャンルと仕事をしてますけど、格闘技というのはテレビで格闘技を見る視聴者のなかで、実際に格闘技経験がある方の比率がもの凄く少ないんですね。そこで格闘技全体のマーケットを拡大するためには、いろんな要素がありますけど、底辺にある競技人口の拡大が一方の意味では非常に大切なことだと思います。だからテレビで金子くんが格闘技の世界に踏み出すことが、格闘技の競技人口の拡大に繋がれば、私としても嬉しいことだと思っています。

質疑応答の一部

――今後、俳優活動のほうはどうなるんでしょうか？

金子　先のことは考えてないので、とくに今後のことは考えていません。

――榊原社長にうかがいたいんですが、今回実績のない選手を『PRIDE』に出されるということで、今後も『PRIDE』のリングに実績のない選手が上がるということはあるんでしょうか？

榊原　たしかに戦績としての実績はないですけども、ここまで柔術をベースにしっかりトレーニングを積んできてますのでね。本当にこの10ヵ月、金子選手の修行ぶりを見せていただいて、今回のスペシャル・チャレンジマッチを決断しましたので、今後も『PRIDE』はチャレンジをする場所でもありますから、我々の思いに叶う選手が現われてくれれば、金子選手に続く選手が出てくるかもしれないと思います。我々のハードルは常に高く設定させてもらってますので、逆に金子選手がどこまでやれるのか、大晦日に見ていただいたら（『PRIDE』のハードルの高さが）わかると思ってます。

――ボビーvs曙は意識されていますか？

金子　他のことはどうでもいいです。

榊原　それを意識して組んだわけじゃありませんし、取り組み方が違うと思います。1年のスパンでやってきたものを見て、出てもらうことを決めたわけなので。金子選手はタレントに戻る意識はないし、それは10ヵ月前に捨てていますので。

――俳優に未練はないんですか？

金子　休養というかたちですが、いま戻ろうとかいう気持ちでやっているわけじゃありません。未練というか、いま言われて初めて俳優業のことを思い出したくらいなので。

本誌・堀江ガンツが目撃!
ブラジル修行中の金子賢

ブラジル現地取材中に、シュートボクセでプロファイターと同じメニューをこなす金子賢を目撃！　見学できたのがミット打ちと寝技の反復練習のみだったので、シウバが誉める寝技の技術は確認できず。打撃に関してはかなり様になっていたが、蹴りはややモーションが大きく、打撃勝負になれば不安を感じる　一番驚いたのは根性！　じつは金子賢は、ある箇所を怪我していたが、その箇所を冷やしながら休まずハードな練習に参加　その根性はフジマール会長も絶賛。「デビューできる力はある」とも言う　それが『PRIDE』レベルかどうかはわからないが、みんなが思っている以上のことをやってくれるんじゃないか、という気が少しだけする

「自分がファンの立場だったら
ふざけんな、って思います」

金子賢

騒動の主役が心境を告白!

批判の覚悟、闘う決意

『PRIDE』の世界観を揺るがしかねない緊急事態に渦巻く賛否両論!　なぜこの男は『PRIDE』という過酷なリングに上がるのか?　出場会見直後の金子賢を直撃、現在の心境を赤裸々に語ってくれた!

聞き手/ジャン斉藤　撮影/平工幸雄　ブラジル写真/乾 晋也
designed by nogu (Two three)

——今回の金子さんの『PRIDE男祭り』参戦には、ファンはあっと驚くというよりも、ズバリもの凄くネガティブなイメージを持つと思うんですよ。

金子　もちろん、自分もそうだと思ってます。

——それを承知で出場するという固い決意があるわけですか？

金子　そうです。誰でも出ることができる舞台じゃないし、そんなにチャンスがあるわけでもないし。

——逆にハードルが高い舞台だからこその反発もあると思うんです　そんなに簡単なものなのか？と。

金子　はい。そういう声があることも意識してました。いまのボクが言えることは、『PRIDE』に出れる・出れないは別にしても、総合格闘技という厳しい舞台から逃げ出さないでやりとげてみたい、という思いがあるってことです。だからいま言われたように簡単に出ていいのかっていう声は当然あると思うし、それにボクが勝つのは不可能に等しいと、ほとんどの方は思うはずなんですよね。

——おそらく、多くのファンはそういう目で見ていると思いますね。

金子　それは誰よりも、ボクが一番自覚してますから。自分より強い先輩が何人もいる道場で、先輩たちに毎日「『PRIDE』に出るなんて不可能だ！」って言われながら練習してきたので。そんなボクが、何かを見せられるかとすれば、いままでやったことをいかに出せるか、ということしかないと思います。それしかないです。

——力を出し尽くす自信はありますか？

金子　果たしてそれが出せるのか、という不安が自分のなかで一番強いんですけど。こないだの桜庭（和志）選手とケン・シャムロックの試合にしても、プロの選手がパンチ一発で終わってしまいましたけど。それを考えたら、ボクなんかシャムロックの何十倍、いや、何百倍もそういうリスクがあるわけじゃないですか。だから、とりあえずいままで練習してきたことが出せるだけでもいいのかな、と。

——そのために10ヵ月前から芸能活動を休業されて、練習に専念されたわけですか？

金子　そうですね。格闘家の方たちはリングに上がるために日夜、血と汗を流しているのに、ボクが片手間で試合に出るのは……当然できるわけがないですよね。

——役者を辞めて格闘家になる。その決断をする際に悩みはありませんでした？

金子　いや、とくにないです（淡々と）。ボクはいままで、自分がやりたいことを、みなさんに迷惑をかけながらでもやってきたタイプなので。今回の決断に躊躇することは、まったくなかったです。

——今日の記者会見で流れたドキュメント映像でも「中途半端なことはしたくない」って言われてましたけど。

金子　そうですね。『ジャンクSPORTS』（フジテレビ／スポーツバラエティ番組）に関しては、月に一度の収録なので、練習に支障はないと考えてやらせていただいてるんですけども。役者の仕事は10ヵ月前から休んでます。

——環境を整えて、髙田道場に毎日、通うことになったんですね。

金子　はい。髙田道場さんで練習させていただきました。

恥ずかしくのない姿を見せるのが精一杯の恩返し

——つい最近もブラジルのシュートボクセに行かれたそうですけど。

金子　桜庭さんに付いて行かせていただきました。ブラジルで練習なんて滅多にできることじゃないし、いましかないと思って、目いっぱい練習させてもらいました。自分はもう29歳ですから、35歳で格闘技をやりたいと思ってもできるものではないですよね。そういう面で、すべてが「いましかない！」という気持ちなんで。

——たとえば、第三者の立場としていまの自分を見たら、どう思われますか？

金子　もし自分が格闘技のファンで、ある日、役者さんが突然、試合に出ると。しかもそこが"世界最高峰の舞台"だったら……「なんだよ、それ！　そんなの2秒で負けんだろ！」って思うでしょうね。

——あ〜（笑）。でも、それが当たり前の反応でしょうね。

金子　きっと「ふざけんな!!」ってなるでしょうね。だからこそ、なんとか恥ずかしくない姿を見せるのが、ご迷惑をかけたみなさんへの精一杯の恩返しだと思いたいです。

——普段の練習に真摯に打ち込むことも、その一環ではありますよね。

金子　いや、そこはやはり、自分自身でしかわからないものだから。

——声を大にしては言いにくいですよね（笑）。「これだけ頑張ってるんだ！」とかは。

金子　そうですね。たぶんファンの9割が無理だと思ってるんだろうし、ボクの参戦に賛成できない方も凄く多いと思いますけど。

——"第0試合"でスペシャル・チャレンジマッチという扱いとはいえ、いきなり『PRIDE』とはいかがなものか？　という疑問はあります。

金子　ボク自身もそう思ったりしてますけどね。もっと下の大会から出るとか。なんせ実

携帯サイト「kamipro Hand」緊急アンケート

Q 『男祭り』の金子賢参戦についてどう思いますか？

◎空中金子チョップで勝ってほしい（和泉元彦）
◎ボビーとは取り組み方が違う、と言うのなら、マッチメイクでも試合内容でも、その違いを見せてほしいです（芳賀志）
◎どうせ芸能界に戻る事が決まっている金子。対戦相手は傷付けられない!!（日テレ最高ダブルクロスフォー）
◎PRIDEがダイナマイトのことを批判していたのはなんだったのか？（谷川）
◎チケット買ってる者としてはヤジが飛ぶ雰囲気で観戦するのはイヤなので、頑張って肯定派を増やして欲しい（もち）
◎ここで一句。プライドに、無理矢理組ませる、フジテレビ（松尾陽小）
◎金子参戦で他のカードがひとつ減るのでしょう？　いきなり男祭りは反対。出場する資格もないはず（末月引っ越し済）
◎凄くイヤだが高田のフンドシが見られれば我慢する（ホイサ）
◎Dyn●m[illegible]いけや（ジェイ）
◎徹底支持します。アオリもいいが、ぜひ試合で魅せてほしい。とにかく大晦日、めっちゃ楽しませて下さい（ハレルヤ）
◎いままでプライドを見てない周りの人間たちが「もうプライドは二度と見ない」と言い出した。そう言わせたDSEの罪か（ラン）
◎金子賢ありえない。っつーか金子賢みたいな中途半端に有名な芸能人って事でK-1とは違うとファンを納得させようとしてる[illegible]DSEに腹くる。今すぐ取り消して桜庭さん（サブチャンチン）
◎金子さんは一般人のイメージ。プロの強さの神秘性がなくなる参戦だと思う。大晦日は[illegible]試合を見る日を、単純に楽しくなる試合が見たい（寅）
◎できれば出てほしくない。PRIDEではなくなってしまう（沼沢秀明）
◎本気でやる気なら、純PRIDEルールでやって欲しい。特別ルールとか有り得ない（空手屋しげもく）
◎どちらかと言えば参戦には否定的です。ただし試合を観てみないと結論は出せない（デューク）
◎プライドは色モノ無しの真剣勝負の場所なんで中途半端なことは許されない。負け覚悟で良い試合を見せてほしい（おじちゃんちん）
◎PRIDEだけは、タレントの参戦をしないと思っていただけに非常に残念だ（赤虎）
◎これでケイワンは「バラエティ」、プライドは「戦い」ってイメージが壊れる。プライド関係者は頭悪いと思う（永田亀吉）
◎まあ男祭りって事で賛成。ここまでやったからには視聴率で紅白とDyn●m[illegible]には勝たないとだめ！　古川サンもびっくりしてるだろう[illegible]（ダン二等兵）
◎やはりPRIDEは実力主義の団体なので、某大会を重視しているようなマッチメイクは必要ないと思う（HT41）
◎金子にはボビーのような注目は集まらないと思います。にもかかわらず出場させるというのは、実力が半端ないんじゃないすか？　だから賛成！（H[illegible]H）
◎とにかく観てみないと。お祭りだし、"あり"だとは思います（ルシファー）
◎PRIDEのリングは世界中の格闘家のトップしかあがれない場所だと思ってたので芸能人が出るということでとてもショックでした。でも実力を証明出来ればいいと思います。負けたら出してほしくないです（山根33）
◎真剣なのはわかるが、せめてDEEPのフューチャーファイトから始めるべきでは。大晦日に期待するのはアグレッシブな試合。その結果が判定ならヨシ（ハンマーTAKI）
◎ふざけるなと言いたい。実績もない人をいきなりプライドのリングにあげるのは良くない。実績あるのに上がれない人に失礼だ。必ずファンばなれにつながる（はってん）
◎素人でもコネがあればプライドに参加できるんだね。トップアスリートが今まで積み上げた歴史が崩れた（あかまく）
◎どちらにしても良い試合してファンのハートをつかめるかが鍵（キャプチュード）
◎曙vsボビーに対抗すべく知名度の高い芸能人を参戦させ、世間の関心を集めようとするDSEの戦略は正しい。強くても客を呼べない選手はいらない（ねーさん）
◎PRIDEがあんな事をしてはいけない（神童）
◎PRIDEでは、おちゃらけはしてほしくなかったです。勝負論にこだわってほしかった。せめて知名度のある人出せよ…誰この人？（田村派）

績も何もないですし。ただ、こんな機会は、タイミングなりなんなり、なかなか実現するものじゃないから。そういう面でボクは貪欲なん何でも挑戦したい、と思ったんです。もうやると決まった以上、いまは目標があるから、それに向かって雑音は入れないで練習に集中して。もう腹を括るしかないというところです。

――金子さんの立場からすると、もうやるしかないと？

金子　そこで恥ずかしくない試合をやりたいという、ホントそれだけですね。ただ、毎日の練習のなかでいつも先輩に打ちのめされて、「果たして俺にできるのか？」と思ったりしますけど。

――髙田道場に通う前が「一番自分に自信があった」ということですけども。

金子　そうですね。やっぱ格闘技（柔術）をやり始めたころは怖いもの知らずで。「俺でも闘える！」とまでは思ってなかったですけど、何かしらチャンスがあるんじゃないかな？っていうふうには思ってましたね。そこから練習すればするほど、自分の弱さを痛感していきましたけど。

――〝弱さを痛感する〟ことが逆にモチベーションを燃やす結果になったんですか？

金子　そうですね。弱いなら、練習するしかないですから。

――練習ではまったく特別扱いされてないんですか？

金子　全然、全然。それはやっぱり当たり前のことですよ。いま俺、二十歳の先輩に敬語を使ってますから（笑）。

――仕事を捨てて、二十歳の先輩に敬語を使って、危険なリングに上がって、それで批判を受けて（笑）。客観的に見ると、なぜそこまでして出るんだろう？　と思ってしまうんですけど。

金子　いや、それはもうやりたい、という、心だけですよね。ホントもう。

――たとえば、大晦日テレビ戦争の視聴率獲得的な投入だったり、芸能人参戦の話題性という見方もあると思うんです。

金子　ああ、そういう見方をされても全然、しょうがないと思ってます。これまで自分は芸能のお仕事をさせてもらってきたんで、そこは素直に受け止めるしかないですよね。たとえどんな言葉で取りつくろっても、そう見られても仕方ないですから。でも、ボクは純粋に試合をやりたい、という決意の参戦なんです。自分が『PRIDE』に出さしてもらえるということ自体が半信半疑だったりするので、ステージの問題というよりは、自分が練習してきたことを見せなきゃいけないという思いが強いんですけど。

――いまでも『PRIDE男祭り』に出られることが半信半疑だったりします？

金子　いや～、今日でそれはなくなったんじゃないですか（微笑）。

――さすがに（笑）。今日の記者会見はかなり緊張気味に見えたんですけど。

金子　そりゃ緊張しました。役者やってたときの記者会見は、8人ぐらいいるなかで3～4番目にしゃべるぐらいだったから。いきなりド真ん中で、一人でしゃべるのは初めてだったんです。

――いろんな不安はあると思いますけど、あらためて一番大きな不安を聞かせてください。

金子　不安は一つだけです。それは、ちゃんと試合が成立するのか？　ということなんですけど。どちらかというと、不甲斐ない試合をしてしまう確率のほうが断然高いわけですから、その確率を1パーセントでもドげるために、毎日練習するんです。

――お話を聞いていると、勝ち負けに関してのこだわりが薄いように感じますが……。

金子　いや、当然勝ちたい気持ちは……勝つために練習しているわけですから、やる以上

kamipro推薦！　金子賢が闘ってほしいファイターたち

17　ブルージャスティス
永田裕志
金子賢の真価を問う、というよりは、どうしても永田さんの査定試合という面に興味が傾いてしまう。試合の焦点がぼやけるミスマッチだが、見たいかと聞かれれば、誰もが諸手を挙げるだろう

熱　ヒクソンの宿敵
ズール親父
現在ブラジルでセミプロ相手に胸を貸しているズール親父。格闘技の何たるかを叩き込むのはピッタリな超ベテランファイターである。ズール269戦目の試合は金子賢しかいない！

狂　馬鹿馬
チャールズ・"クレイジーホース"・ベネット
金子賢の体重的にも最有力候補。あの前田吉朗をKOした打撃と、頼まれもしないのに入場パフォーマンスで5分以上も費やす空気を読めない性格。惨劇を生み出す条件は揃ってるって！

危　殺戮ピラニア
長南亮
下欄の携帯アンケートで希望対戦相手は設問されてなかったが、唯一、票が集中したのはこの男。実現すれば、長南の口癖「ブッ殺します！」がやけにリアルに聞こえることだろう

恐　死のハリー・ポッター
セルゲイ・ハリトーノフ
"マーダー・ライセンスを持つ男"の異名を持つロシア現役軍人。地上波で流すのをためらってしまう組み合わせであり、スナッフフィルムにカテゴリーされるべき内容になる恐れが……

◎これ以上格闘技界に素人が出ないでほしい。格闘技がなめられている感じがする。（[illegible]）
◎負ければ何の問題もない。負けたらDEEPやパンクラスで修業を積んでくるべし。なんだかんだで応援してます（[illegible]）
◎プライドはそんな事して欲しくなかった（あ）
◎金子賢参戦はPRIDEでなくダイナマイトの方が妥当。これでPRIDEの勝負論が崩れそう（しゃくれメット）
◎金子の参戦はよし。俺は応援したい（必死な仕事人）
◎正直ガッカリです。ハッスルならありだけどPRIDEはもっと普通の格闘家をだしてほしい（渡辺真一）
◎金子賢は大晦日ならあり。そろそろ大晦日のK-1とプライドの興行対決はやめて。正直つかれる。どちらか1月4日にしてください（[illegible]）
◎いろいろ言われてますが大晦日なんだからいいんじゃないでしょうか（PRIDE[illegible]ITADAKI）
◎金子選手以外に有名な選手がいると思うが（みっちゃん）
◎PRIDEのリングはそんな甘いもんじゃないと思う。やっぱり視聴率かな…会場に見に行く者としてはどうでもいい試合になりかねない気が（裕一）
◎見てから判断すって感じですが、ハードルは高いはず（格闘王）
◎今までちゃんと練習してるようだけど最高峰のリングに上がるのはどうなのか？　まずはDEEPとかで結果を残してからだったら良かった。でも一応期待します（真太）
◎ボビーX[illegible]よりも全然みてみたい。あとは試合内容じゃないんでしょうか（ナベ吉）
◎金子選手の参戦は賛成です。会見のインタビューを見るかぎり、その心意気を素直に讃えてあげたいし、当日は会場に足を運ぶので、暖かい拍手を送ってあげたいです（近藤みゃん）
◎正直いらない（[illegible]）
◎目標を見つけて頑張るってのは素晴らしい事だと思う。でも、ボビーも頑張ってるだろうし、別に差別化しなくてもいいんじゃないかな（大輔）
◎キッズリターンが大好きなので応援したいのですが、チャレンジからやってほしかった。逆に一言いいたいのは「まだ始まっちゃいない」ってことです（ジャニーズ）
◎プライドにはガッカリした。練習してようとやはりタレントだからだろ？　ボビーと大差ない（ジックス）
◎金子選手に対しては最初はボビーに対抗かと思いましたが覚悟を感じました！　PRIDE男祭りの試合にはお遊びはいりません！　とことん頂の戦いを見せてほしいです！（そうちん）
◎金子賢？　タレント崩れが調子こいてんじゃねえよ！　そーいうの大嫌い！　プライドはおちょくってんのかよファンを！　長南亮と通常ルールでやらせろよ！（[illegible]ヨシコちゃん）
◎所詮ボビーの二番煎じ。世界最強を決めると謳っているリングにタレント上げてどうするの？（[illegible]）
◎この事だけでプライドは最悪だ、とかは思わないし金子さんには頑張ってほしいとは思いますがやはりDEEP等で実績をあげてからプライドに上がってほしかったです（クレイジーマッハ）
◎実績がないのにありえない。プライドだけはガチンコ見せてほしかった。K-1じゃないんだから客寄せパンダはいらないしょー（じゃんすま）
◎ふざけるな（BJペンネーム）
◎シュートボクセで鍛えた位だから真剣な取り組みなので参戦には賛成です（こさしげ）
◎K-1ならあまり文句は出ないだろうけど、プライドだけにマニアからのアレルギーは避けられないでしょう。それでも出たいという彼を応援しない訳にはいかないでしょ（ズーフ）
◎けっして否定的に見てるわけではないが、[illegible]されてほしい。PRIDEはそういうリングであってほしい。そのうえで金子賢には今後も頑張ってほしい（[illegible]）
◎金子賢は2試合目をやったら評価する。大晦日はお祭りだけど本番前は止めて欲しい（なつに）
◎これっきりにしてほしい（ヒカル）
◎金子賢より寺門ジモン参戦希望！（もちろん対ヒクソン）
◎実績もない新人のデビュー戦は後楽園ホールでやって欲しい。誰が何と言おうと不公平感は否めない。縁故採用は大嫌い。いい試合なら許されるという問題ではない。本物のプロ・職人の試合を見たい。[illegible]人は見たくない（ニセ大学院生）
◎金子賢は良い意味、全力で負けて欲しい（カナ）
◎最初はPRIDEがダイナマイトみたいで違和感があったが少したった今は頑張ってほしいし夢を見させてくれると期待します（M字マニア）
◎大晦日に限っては対世間という意味で金子賢もありだと思うがPRIDEのリングに上がるのだからゆるい対戦相手ではPRIDEらしくない。おもいきって長南あたりとぶつけてほしい（ヒロオ）

はあります。でも、それ以上に、ボクがやらなきゃいけないものがあると思いますので。

――それはいままで練習してきたことや、試合を成立させることであったり。これからも継続して参戦していくおつもりなんですか？

金子　いや、それはボクが決めることじゃないです。今回、不甲斐ない試合をしてしまったら、当然、次はないでしょうし。それにたとえダメでも、納得のいく部分を自分でつくりたいんです。みんなが無理だと思ってる以上に、俺が一番そういう不安があるんで、だからこそ。

――対戦相手はまだ決まってないですが、闘ってみたい選手はいますか？

金子　とくにないです。誰でも強いと思ってるんで。榊原さんからは「第一線級の選手を当てる」と言われているんですけど、相手選手の実力があればあるほど、ボクが不甲斐ない試合をするパーセンテージが増えるだけですからね。でも、そこを、なんとかしたいんですけど。

試合が成立するかどうか。一番大きな不安はそこです

――最後にファンにメッセージをお願いします。

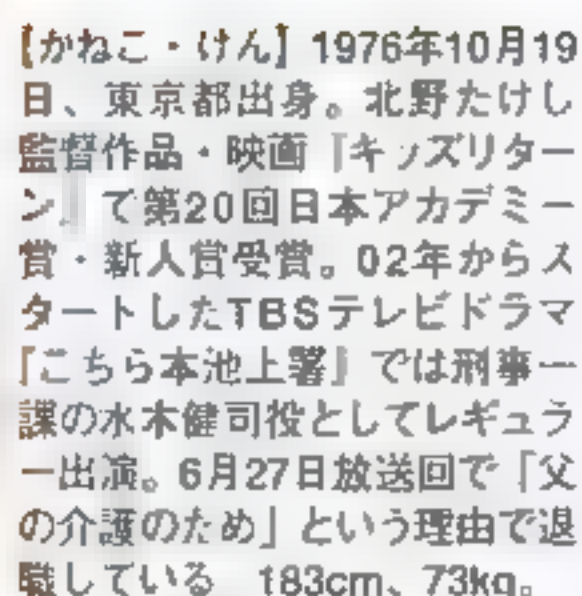
金子　そうですね。応援していただきたいなんて虫のいいことは言いません。自分が一生懸命やったところを、なんとか見ていただいて、それがうまく伝わればいいな、と思ってますね。

【05年12月6日／東京プリンスホテルにて収録】

インタビュー中、金子賢は「俺にできるのか？」という内容の言葉を何度も何度も繰り返した。謙虚かつ冷静であるということは、スペシャル・チャレンジマッチながら実績もなく『PRIDE』というリングに上がる本人にとって、当然求められる姿勢なのかもしれない。

しかし、批判を承知で、試合への恐怖心をさらけ出しながらも、あえて『PRIDE』に足を踏み入れる覚悟は、ひしひしと伝わってきた。記者会見で流された、テレビ制作側が構成したと思われる映像を見るかぎりでは、ドキュメント番組としても見応えのある内容になるだろう。しかし、だ。『PRIDE』は充分に鍛錬を重ねた格闘家ですら上がることが難しいリングなのだ。

金子賢本人に芸能活動の一環としての意識はないにしろ、ファンがこの話題を口にし、その話題の上り方に安易さを覚えてしまうことは避けられない。『PRIDE』の世界観を支持してきたファンならばなおさら、興行論としてのお祭り感覚ということだけで片づけられないモヤモヤは絶対にあるだろう。

これまで『PRIDE』は、ファンや選手の夢や希望、ハッピーエンドをことごとく打ち砕く〝圧倒的現実〟を幾度となく生み出してきた（それは決してバイオレンス、という意味だけではない）。金子賢の〝格闘家転向〟願望が揺らぐような、ドキュメント番組テイストを吹き飛ばすような、〝圧倒的現実〟が大晦日には待っているかもしれないのだ。だからこそ、〝簡単には上がれない過酷なリング〟というメッセージが強烈にリング上から発信されたときに、逆に『PRIDE』ファンは、〝金子賢参戦〟の意味を改めて発見するのかもしれない。

ただ、大晦日の大会名は『男祭り』である。金子賢が、どんな〝男〟っぷりと〝祭り〟っぷりを『PRIDE』という場で見せてくれるのか。俳優業を辞めてもいいという覚悟やこの1年間の思い。人生を賭けた〝命懸けの祭り〟に臨む、金子賢の姿を見てからすべてを判断しても遅くはないはずだ……ん～っ、ダイナマ……いや、男祭りっ!!

ブラジル・シュートボクセで練習に励む金子賢。一日3部構成の練習メニューは「いままで一番きつかった」そうだ。この努力はどのようなかたちでリングに浮き上がるのか？　そして『PRIDE』に何をもたらすのか？　試合内容によってはいま以上の批判の声が『PRIDE』、金子賢に向けられることになるが……

【かねこ・けん】1976年10月19日、東京都出身。北野たけし監督作品・映画『キッズリターン』で第20回日本アカデミー賞・新人賞受賞。02年からスタートしたTBSテレビドラマ『こちら本池上署』では刑事一課の水木健司役としてレギュラー出演。6月27日放送回で「父の介護のため」という理由で退職している。183cm、73kg。

○芸能人はズルいよね、同じ気持ちで金子より強いヤツは沢山いるはず。来年ダイナマイトとプライドで統一タイトルマッチしてほしい（鈴木タクヤ）
○トレーニングし、軽い気持ちではなさそうだが、それなら尚更一番下からチャレンジして欲しかった。プライドにはこういう事はして欲しく無かったというのが正直な気持ち。格闘家や話題より中味（[illegible]）
○支持しない。プライドは総合の最高峰のリングだから。ファンはなれの原因になる。今のK-1みたいになって欲しくない（かずふみ）
○二度とPRIDEに出ると言わないぐらいボコボコにしてほしい（ようぢ～）
○プライドも結局は芸能人か。でもK-1のボビーのほうが相手が相手なだけに注目だ。金子も相手次第だな（ヤマグチノボル）
○ダイナマイトのような遊びの匂いがしないのでいいと思う。KO負けして継続的に参戦してほしい（なるなる）
○ふざけきってるよ！　[illegible]広場で江頭とでもやってろ！（魚屋とベンジー）
○高い金払ってまでみたいのはプロの試合！　素人で金とる大会はKだけでいい！　つーかファンを馬鹿にしてんの？　チケット代返せー!!!（T[illegible]）
○金子賢参戦に関して良い印象はない。安全面においても不安があるため相手の選考が重要。素敵な戦い方ができるA大塚選手やニュートン選手が適任かと思う。視聴率以上に今までの固定ファンを失わないでほしい（はなちゃん）
○どうでもいい。K-1を批判しておいて、結局は話題が欲しいために参戦させるDSEは最低。それに乗っかってる[illegible]も最低だね（②エンドウ）
○プライドの価値が下がる。対戦相手はジャクソンあたりを（タミ）
○上の舞台を目指して必死に練習してる人は他にもいる。PRIDEチャレンジの意味が無くなる。否定意見は覚悟してると思うけど、そのぶん試合で魅せて欲しい（エメネット）
○K-1に対抗しているとしか思えないけど面白そう（[illegible]）
○あまりいい気持ちではない。一流プロ選手とは絡んで欲しくない。アマチュアルールで修業中にやればいい（サクマシン1号）
○体重的にはライト級。競技人口が最も多いこの階級ではチャレンジマッチとは言え、今や世界最高峰、オリンピックレベル以上のプライドのリングで勝利する事は、夢を掴む様な話しに思えます。（TKFJ）
○金子君に関しては、試合を見てからだと思います。格闘技ぽい事じゃなく、格闘技を見せて欲しいです（[illegible]）
○キッズリターンのテーマ曲とリングサイドに、[illegible]がいたら100点（電車で通う男）
○正直、最悪。芸能人ならたった10ヵ月の練習でリングに上がれるのかよ。誰より努力してもPRIDEからお声がかからない選手だっているのに。（ダイヤ）
○PRIDEも選手不足してきたことが具体化された。でも格闘バラエティでなく、ドキュメントになっている分、新しい切口ができて良かったのでは（遠州おろし）
○金子さんがハッスルハッスルってしたらより一般にハッスルが浸透するかも（食パン）
○金子参戦にはがっかりしました。DSEは言ってることが矛盾してますね。前からだけど。出すほうも出すほうだが出るほうも出るほうですね。場違いだと思わないんでしょうか？（さとし）
○PRIDEも終わったな（こつ）
○大晦日の祭りで、しかもチャレンジマッチという括りで恥ずかしくないレベルのガチンコができるなら支持するし応援したい（ウツキヨシオ）
○芸能人が参戦するならK-1だけでいいよ。プライドは本当の最強を決める場であって欲しい（オコノミマン）
○PRIDEはK1を笑えなくなった。大晦日の張り合いは今年でやめて欲しい（中島一郎）
○馬鹿馬鹿しい（[illegible]）
○ふざけ半分な気持ちで参戦はやめたほうがいい（ロードレーサーズ）
○出てほしくない。最強を求める場であってほしいから（あきら）
○正直DEEPとかで実績を上げてから参戦してほしかった…残念（チョク）
○試合を見ない事には言及し辛いが、あまりいい気分ではない。ムカついたのは、榊原社長が「ボビーとは姿勢が違う」などと下らない言い繕いをした事（KO）
○通常のナンバーシリーズだと下で頑張っている人に失礼だが、大晦日大会で地上波でゴールデンタイムときたら、普段格闘技を観ない人達へのアピールとして有りじゃないかと思う（ちかぴ～）
○武士道からでて実績を積み上げてからプライドにでるべき。パンクラスやシュートの選手の中でプライドに出たいのに出れない選手がかわいそうです（杉本真一）

PRIDE男祭り 直前情報

PRIDE男祭り2005 頂 -ITADAKI-

大晦日まで、いよいよ待ったなし！　今年の『PRIDE男祭り』はキーワードを"頂ーITADAKIー"と定めて、小川直也vs吉田秀彦の宿命対決を筆頭に、注目のカードがズラリと勢揃い!!

"プロレスvs柔道"宿命の一戦が決行!!
小川直也（小川道場） VS 吉田秀彦（吉田道場）

PRIDEライト級GP決勝戦
五味隆典（木口道場レスリング教室） VS 桜井"マッハ"速人（マッハ道場）

PRIDEミドル級タイトルマッチ
VS

注目の日本人対決!!
中村和裕（吉田道場） VS

人類最強に大魔神が挑む!!
VS ズール（B-TOUGH）

表の金メダリストvs裏の寝技世界一
瀧本誠（吉田道場） VS （GRABAKA）

ヘビー級対決!! 生き残るのはどっち!?
VS

PRIDEウェルター級GP決勝戦
VS

参戦決定！
美濃輪育久（フリー）　桜庭和志（高田道場）　金子賢（フリー）

締め切りの都合上、入りきらない注目カード（桜庭和志、美濃輪育久など）はあるものの、これだけでも「壮観」と言っていい。強力カードが出そろった。試合順も現在、未定だが、メインイベントは小川vs吉田戦で決定的。最終的に、誰か頭ひとつ飛び出るのか？キミも大晦日の主役を予想しよう！

PRIDE男祭り2005
頂ーITADAKIー
さいたまスーパーアリーナ
2005年12月31日（土）試合開始15:00
（13:00開場）

［チケット料金（全席指定・税込）］
VIP　150,000円（専用入場ゲート・グッズ付）
RRS　32,000円／スタンドS　19,000円／スタンドA　9,000円
［問い合わせ］
ドリームステージエンタテインメント:03-5464-1531

SKY PerfecTV! LIVE SPECIAL
PRIDE男祭り2005 頂ーITADAKIー
［生中継］
12/31（土）15:00～ / Ch.180 パーフェクト チョイス
14:00より事前カウントダウン番組（ノンスクランブル）放送
［タイムシフト＆再放送］
12/31（土）17:00 / Ch.182　※タイムシフト放送
12/31（土）23:00 / Ch.180　※直後再放送
12/31（土）25:00 / Ch.182　※同日再放送
［視聴料金］
3,150円（税込）

PRIDE大晦日スペシャル男祭り2005（仮）
［放送スケジュール］
12月31日（土）18：00～
［放送局］
フジテレビ系列　全国ネット

今回の『PRIDE男祭り2005 頂ーITADAKIー』のポスターは、『SLAM DUNK』や『バガボンド』の作者で漫画家の井上雄彦さん。イラストのモデルは五味隆典が担当！

sat（大晦日） PRIDE 男祭り 2005 -ITADAKI-

この2人の〝決闘〟を本当に実現させていいのか!?

ただならぬ闘い！

力道山vs木村政彦以来の

小川直也vs吉田秀彦を覚悟して見よ!!

ついに、本当に実現してしまう"超・因縁の闘い"小川直也vs吉田秀彦。この平成の力道山vs木村政彦とも言うべき宿命の闘いは、関係者が揃って口をつぐむほど、早くもただならぬ緊張感を放っている。ならば"観る側"が自由に語るしかない！ というわけで、この観るのが恐ろしいほどの極上の闘い模様を浅草キッドがたっぷりと語ります！

聞き手／堀江ガンツ　本文構成／松澤チョロ

浅草キッド

今年の『紅白』は構造計算書に誤りがある　その点『男祭り』は"鉄骨"だらけだから！

――さて、今年も『PRIDE男祭り』がやってまいりました！

博士　待ってました！　今年はのっけからターザン山本！ばりに「勝利宣言」させてもらうから。

――勝利宣言ですか!?

博士　やっぱり『紅白』越えっていうのが大晦日のメインテーマなわけじゃない。でも、向こう（『紅白』）が出してきた対戦カードっていったらさ。

玉袋　弱いねえ！　相手が！　弱すぎる！　『紅白』は『ご近所のチカラ』に助けてもらったほうがいいよ！

博士　そう、弱いし薄っぺらいのよ！　もっと今風に言えば、構造計算書に誤りがあるよな（笑）。その点、我々のカードは鉄骨だらけだから。それに対して相手はスカスカでさ、こりゃあ問題通りダブルーニングで、視聴者も頂（いただき）だなって思ったね！（笑）。

玉袋　しかも本来NHKは度重なる不祥事もあり、リフォームしなきゃいけないわけでしょ。一般から公募した「スキウタ」なんて無駄なことしてたけど、格闘技のほうがファンの好きな「スキウタ」カードを揃えてるんだよ！

博士　しかもウチの『男祭り』のほうは

玉袋　もうすでに、ウチの色になってるからな（笑）。

博士　鉄筋コンクリートだけじゃなくて、正真正銘の「セメント」だっていうところだよ（笑）。

――たしかにガッチガチのセメントですよね（笑）。

玉袋　もともと、プロレス、格闘技業界って土台が緩々だった業界が、いまや一番土台がしっかりしてるよ。

博士　だからさ、今回これぐらい自信持って語れることはないんじゃない？　なんなら、もう一試合、イーホームズの藤田と小嶋（進・ヒューザー社長）の試合を組んでもいいぐらいの（笑）。

玉袋　姉歯（秀次・元一級建築士）と小嶋のカベジュラ・コントラ・マスカラもありだよ（笑）。

――どっから見てもバレバレですからね（笑）。

博士　それぐらい確信持ってるから。確信を持って勝ってるっていうね。

玉袋　ホント、今回は勝っちゃうんじゃないかなぁ。

博士　なんかね、これだけ充実したカード編成だと、NHKの違法建築に住んでる人がさ、可哀想だよな。

玉袋　退去命令出したいよ、『紅白』の出場者に、出ねえほうがいいぜって。ちゃんと退去した人がいるわけだからさ。サザンオールスターズだって、みんな出ないわけだから。

――早めに動いた人たちは（笑）。

玉袋　それに気がつきそうで気がつかなかったユーミンは、それまで格闘技見ていたのに、この日のNHK参戦はないよなあって気持ち。

博士　そういう意味では今回の『男祭り』は強いね。だって、どのカードも盤石の鉄骨だらけなのに、真ん中の柱が一番太いでしょ。

――また小川vs吉田という柱、だけですからね。

玉袋　大黒柱一本だけでこんだけ凄いの建ってんだから。耐震性は万全よ！

――その柱がまずドンと来たおかげで、その反動か他のカードがまったく決まらないのが例年通りなんですけど（笑）。

玉袋　でも、この一つだけでも十分ですよ。小川vs吉田でいいのね。まあ、呼び方は吉田vs小川でも、どっちでもいいけど（笑）。

――でも、当事者サイドはそこが重要みたいですよ。どっちが前なんだっていう。

玉袋　これはハリウッドのパニック映画の『タワーリング・インフェルノ』で共演したスティーブ・マックイーンとポール・ニューマンの互いのプライドで両雄並び立たなかった関係と一緒。

11月14日、1時間遅れで始まった記者会見は早くも異常な緊張感。この後、ツーショット撮影が行なわれたが、小川と吉田は近づくこともせず、5秒もしないウチに小川が立ち去り、そのまま終了となった。二人が次に顔を合わせるのは、『男祭り』のリング上だ

博士　映画界で言うところの「ビリング」（スターの序列）ね。格闘界でも、初めてここまで問題視されてるんじゃない。どっちを先に呼ぶかっていう権利っていうのがね。

玉袋　どっちが先に紹介されるか、青コーナーか赤コーナーがどっちか？　これもマニアが考えるよりも、選手とチームが本気で譲り合わないっていう（笑）。

博士　そういった前哨戦ですら殺伐として譲らぬところが面白いからね。

玉袋　ホントおもしれえな。もう、いまからピリピリピリピリするよ。

――記者会見からピリピリしまくりですからね。

博士　この試合の、想定の範囲外なのは、関係者の取材をしてもさ、あのピリピリムードっていうのが狙いなんかじゃなくホントのセメントだっていうところが身の毛がよだつような興奮を感じるよ。なにしろ、記者会見でいつ乱闘になってもいいように外国人SPを増員したらしいけど、そんなSPより、断然、本人たちのほうが強いわけだから（笑）。

玉袋　ホントの遺恨試合になってるってのは、普通なら「SRS」とか盛り上げるための企画とか、事前の特番とかが次々作りそうなものなんだけど、あまりにも両陣営が殺伐としていて、それすら、なかなかスムースに取材できなくて、ありきたりには盛り上げられないっていうような状況だもん。

博士　そこが凄いよね。空前絶後のガチカードですよ、これは。これまでの二人の関係だけを関係者に聞いても、普通なら盛り上がれるんだけど……

小川直也vs吉田秀彦を覚悟して見よ!!

kamipro Hand アンケート

12/8～12/11収録　投票総数492票

Q1 あなたが大晦日にテレビで見たい番組はどれ?（21時台～）

局	番組	票数
NHK	紅白歌合戦	9票
日テレ	お笑いネタのGP	8票
TBS	『K-1 Dynamite!!』	69票
フジ	『PRIDE男祭り』	382票
テレ朝	ビートたけしの恐怖の大予言SP	19票
テレ東	敵か味方か・関係大清算クイズ	3票

Q2 以下の発表済みカードの中、あなたが一番楽しみなカードはどれですか?

順位	カード	票数
01	小川直也vs吉田秀彦	234票
02	五味隆典vs桜井"マッハ"速人	80票
03	山本"KID"徳郁vs須藤元気	41票
04	W・シウバvsR・アローナ	36票
05	M・クロコップvsM・ハント	35票
06	曙vsボビー・オロゴン	17票
06	所英男vs永田克彦	17票
08	近藤有己vs中村和裕	12票
09	秋山成勲vsホイス・グレイシー	7票
10	菊田早苗vs瀧本誠	5票
11	E・ヒョードルvsズール	4票
12	D・ヘンダーソンvsM・ブスタマンチ	2票
12	S・シュルトvsA・ホースト	2票
14	角田信朗vsザ・プレデター	0票

――ただ、みんなその事実を語るのをはばかってる感じですもんね。

玉袋 そうなんだよ。

――二人の関係を知ってる人はみんな口をつぐむっていうような。

玉袋 そんだけ語ることすら「やべえ」ってことだよな。

――でも、よくぞ実現しましたよね。前から見たい見たいとは思ってましたけど、馬場vs猪木しかりで実現するわけがないと思ってましたから。

博士 実現したこと自体が、超常現象スペシャルになってんだよ（笑）。だからさ、このカードは平成の「馬場vs猪木」であり、平成の「力道山vs木村」とも言えるよね。天下分け目の日本人対決っていう意味でもね。いままで、日本人対決だと何度もたとえられた「巌流島決戦」の果し合いの意味がしっくりくるでしょ。もっと大きくたとえて言えば、お互いを相容れないという意味では、「イスラエル」vs「パレスチナ」、「キリスト教徒vsイスラム教徒」ぐらいの遺恨かもしれない。お互いの原理主義の対立はシャレになってないもん。

――相容れないですよね、どちらも。

玉袋 でも猪木vs馬場の緊張感はじつは「あいつら、やりゃいいのに、やらねぇのは互いにライバルっていいながら、プロレスの繁栄を狙って裏で手を握ってたんじゃねえか」――って、飲み屋で語るオ[?]ヤジ連中の理屈がいまになればわかるんだけど、小川vs吉田って、なんのために闘うんだって話だよ。

博士 いろんな人と話してるとね、これは実現してはならないカードじゃないかって言う話になってきたんだよね。負けたほうの失なうものの大きさを想定したときの喪失感の大きさは、かってないレベルでしょ。

玉袋 勝ちの総取りだもんな。勝ちの総取り、負けの大損！

博士 そうそう。力道山vs木村戦っていうのは、その裏事情に関しては周知の事実もあるけど、その後の歩んだ人生の明暗みたいなことで言うと、大衆文化史の中では大勝ち組、大負け組になっていったわけじゃない。

玉袋 負け組って言葉じゃあ届かないほどの恐怖感があるよ。

博士 しかし、ホントに本来、どっちが強かったんだっていうのは、わからないわけでしょ、あの二人に関しては。

玉袋 でも、結果を出している人間が強いっていう世の中で言えば、小川が吉田に押されているんですよ！　それで言うとさ、やっぱブラジルで行なわれた木村vsエリオ・グレイシーっていうのもそういうことじゃん。やっぱり、その後の人生を変えたっていう意味では。で、木村が勝って、グレイシーは裏に引っくり返っちゃって。それで何十年を経て逆襲してるわけでさ、それぐらい一度負けると潜っちゃうわけよ。

博士 それが大衆監視の中で行なわれるっていう意味ではさ、力道山vs木村になるけど、逆に言えば負けたほうは裏に潜って大河ストーリーをもう一度歩みだせる可能性はあるかもしれないね。そのエリオvs木村を想定すればね。

玉袋 だけど、かかる時間が長ぇー[?]えぞ、そりゃ。

――老人になるまで復活できないかもしれないですよね（笑）。

博士 もし小川が敗れればさ、小川柔術みたいなの作って、何代にもわたって、末代まで屈辱を晴らさなきゃいけないような感じでしょ。

――そうですよね（笑）。

玉袋 だから柔道時代に吉田に負けてしまった小川っていうのは、映画の「バック・トゥ・ザ・フューチャー」でいうとさ、マーティーとビフの関係みてえになっちゃうよ。小川はあの3部作のハッピーエンドで言えばマイケル・J・フォックスのライバルのビフですよ。

博士 勝利できないと思われて勝利した男の、吉田はマイケル・J・フォックスのマーティーで、勝利しそうでできなかった男は小川直[?]也はビフではまるよ。

玉袋 そのビフの小川がPRIDEっていうタイムマシンに乗って、自分の現在、過去、未来を変えるために今回吉田と闘うんです。

博士 まあ、タイムマシンに乗らなきゃいけないほど、この因縁っていうのは昔に遡るわけだ。それは吉田が明治大学に入ったときから、この映画は始まってるかもしれないよね。そこの3年生に小川先輩がいて、柔道のエリートの新入生が入ってくるっていう、その一瞬のファーストシーンが始まらなきゃいけないほどのストーリーだもんね。これは凄[?]いよ。

――柔道時代だけ見ても、二人の歩みはまったく対極ですからね。

博士 とくにね、ちょっと見逃しがちな話になるとさ、1994年、全日本選手権で直接対決して小川が吉田に負けてるけど、そのときは2－1のスプリットで判定だったじゃない。

――僅差の判定負けですよね。

博士 そのときに小川がさ、判定を聞いて「マジかよ！」って言ったっていうほどの差だったわけでしょ。でも結果としては、小川が負けたと流布されて、今回も煽りの中で入れられるのはさ、「体重で上回る、小川が負けた」っていう形で強調されるわけじゃない。それって、もの凄い小川にとっちゃ屈辱だと思うよ。どれほどそのときの傷が大きいか。そして、内容には一切触れず、その結果しか語らないマスコミに対して不信感を持つか。しかも92年のバルセロナで金確実と言われた小川が銀、伏兵と言われた吉田が金なわけでしょ。そのメダルのトラウマのためにエンターテインメントのプロの世界へ行ったのかもしれないでしょう。その道の全日本5連覇中に（全部で7回優勝）土をつけられ、19歳史上最年少世界王者なんていう栄光の肩書きが、ある意味大学の後輩である吉田に奪われたようなものでしょう。

玉袋 だからこそ、とことん自分の信じてた道に裏切られたら、とことん対極の自分の道に行くしかやってられないよ！

博士 柔道着を脱ぎ捨てて、いち早くそんなプロの道に、今度は、また形を変えて吉田もやってきた。だけど小川がもう一度ここに戻ってきたっていうのはさ、確かにPRIDEではヒョードル戦もあったよ。だけど、この「マジかよ！」のつぶやきに落とし前をつけなきゃ気が済まないからなんだよ。

――要は小川にとってみたら、あれは「冤罪」だと思ってるってことですよね。

博士 そうそう。11年間かけて、その冤

小川vs吉田はイスラエルvsパレスチナ、キリスト教vsイスラム教ぐらいの遺恨だよ！

第56回NHK紅白歌合戦 出場歌手（カッコ内は出場回数）

紅組
- AI（初）
- aiko（4）
- 石川さゆり（28）
- 伊藤由奈（初）
- 大塚 愛（2）
- 川中美幸（18）
- 倉木麻衣（3）
- 香西かおり（13）
- 倖田來未（初）
- 小林幸子（27）
- ゴリエ（初）
- 坂本冬美（17）
- 島谷ひとみ（4）
- 鈴木亜美（3）
- 天童よしみ（10）
- DREAMS COME TRUE（10）
- 中島美嘉（4）
- 長山洋子（12）
- 夏川りみ（4）
- 浜崎あゆみ（7）
- 一青 窈（3）
- 平原綾香（2）
- 藤あや子（14）
- BoA（4）
- 松浦亜弥（5）＆DEF.DIVA（初）
- 松任谷由実 with Friends Of Love The Earth（初）
- 水森かおり（3）
- モーニング娘。（8）
- 森山良子（10）
- 渡辺美里（初）

白組
- アリス（2）
- 五木ひろし（35）
- w-inds.（4）
- m-flo（初）
- ♥Akiko Wada（29）
- 氣志團（2）
- 北島三郎（42）
- 北山たけし（初）
- グループ魂（初）
- CHEMISTRY（5）
- ゴスペラーズ（5）
- コブクロ（初）
- さだまさし（17）
- スキマスイッチ（初）
- SMAP（13）
- T.M.Revolution（3）
- D-51（初）
- Def Tech（初）
- TOKIO（12）
- 鳥羽一郎（18）
- 氷川きよし（6）
- 布施 明（21）
- 細川たかし（31）
- ポルノグラフィティ（4）
- 前川 清（15）
- 美川 憲一（22）
- 森 進一（38）
- 森山直太朗（2）
- 山川 豊（11）
- 山崎まさよし（初）
- WaT（初）

ついに発表された今年の紅白出場歌手。今回は事前に視聴者から好きな歌「スキウタ」をアンケート投票してもらい、その結果が反映すると言われていたが、発表されたのはとても反映しているとは思えないメンバー。"目玉"と呼べるサプライズも1～2ミンくらいしか見当たらず、マツケンすらいない状況。紅白ついに大敗か!?

94年に全日本柔道選手権、小川は優勝候補大本命であったが、準決勝で吉田秀彦にまさかの判定負けを喫し、六連覇の夢が絶たれた。この判定が下された直後、小川は『マジかよ……』とつぶやいたという。非常に微妙な判定だったとも言われるこの一戦。12年の時を経たいま、今度はどんな結果が下されるのか。

罪を晴らすっていうか。いま、闘う前からさ、「小川は負けた」ってワンフレーズで語られてる、小川のこのルサンチマン（私怨雪辱）っていうのは筆舌に尽くしがたいものがあると思うよ。

玉袋 「溜め」こそ、「溜め」になるものはなし！ ですよ！

――結果は知ってるけど、あの試合を実際に見て覚えてる人っていうのがどれぐらいいるのかっていう話ですからね。

玉袋 もちろん知らないですよ。結果が語られるだけ。のちに、こんな形で交わるとも思わないし。優勝確実だと思ったあのデカい小川が負けてんだから。大舞台に弱いとか、そういうイメージもつけられたじゃん。

博士 そういうことを考えるとちょっと小川に同情するね。

――振り返れば小川直也の柔道界との決別っていうのはそこから始まったのかなっていう推測すらできるという。

玉袋 それはそうでしょ。正反対の方向に行ったっていうね。自分の性格も人生も変えて、アントニオ猪木っていう「?」な部分に飛び込んだっていう。一方、吉田は、大学の監督もやったわけでしょ。その意味でも自分がその位置にいなきゃいけないところを吉田に持っていかれてる。

――両者とも、表立ってあまり語らない話ですけどね。

玉袋 これは二人とも語らないよ。ただん。こないだ「小川の顔面を踏む」っていう吉田のコメントが新聞で出てたけど、あれはよく読むと吉田が発してないんだよね。

――まあ、そこまで直接は言わないですよね。

玉袋 よく読むと関係者が言ったことになってんだよ。だからそういう形で、当日までたぶん平行線って感じで、前哨戦にはなっていかないと思うんだよ。で、試合が終われば勝ったほうが何を言ってもいいってことになる。勝ったほうが最後に好きなこと言っていい。「わかったか　これがプロレスだ！」か、「これが柔道だ！」か、どっちなんだっていうね。

博士 関係者も迂闊にしゃべれないっていうくらい、二人とも存在が大きいだけに。世紀の一戦になってるよね。

玉袋 そうだよ。みんなホントにピリピリしてるから。

博士 こう喋っていても、二人の関係については書けない話がいろいろあるからね（笑）。

玉袋 だからそこに風穴開けてほしいのよ、俺らは。

博士 まあ、書ける話として強調してあげたいのは小川のリスクの大きさだよね。

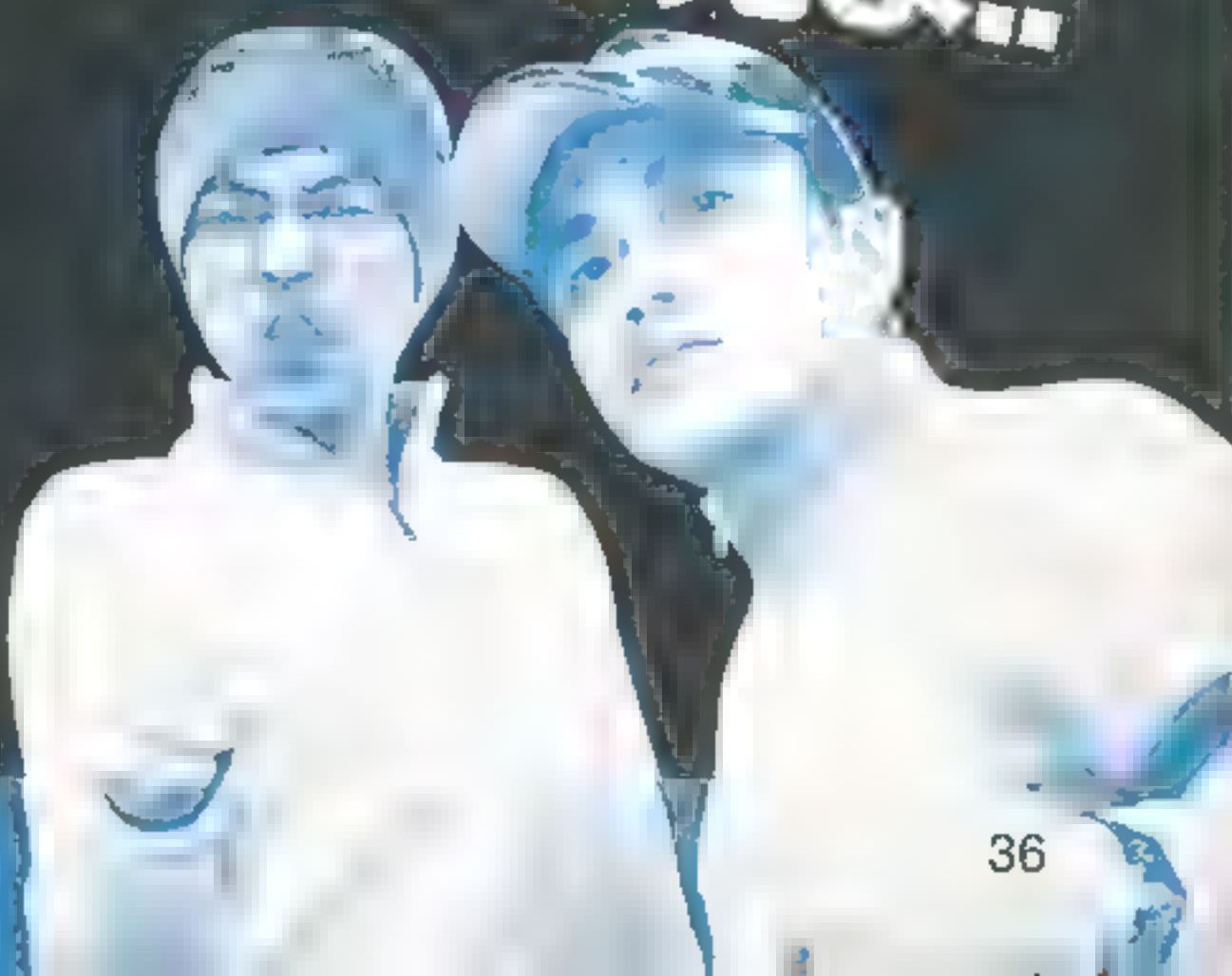
玉袋 それは小川のほうが大きいよ。だって吉田は柔道時代、勝ってるんだし、で、体格差のことを言ってもいいし。総合のキャリアでもさ、小川のほうが何戦か先にやってるからって言ってもいいわけじゃん。だから、そう考えると小川にとっては絶対勝たなきゃいけない相手なんだよね。それに負けたら失うものは倍だよ！

博士 そういうことを踏まえて、二人が闘い終えたときに歩み寄ってさ、マイクを持って何を言うのか。

玉袋 この勝者のマイクこそが、「紅白」のトリの歌を超える、この年のトリを飾る、一番の生の「歌声」だよ。

博士 まあ、どっちが勝っても、試合後、普通に握手してくれたら、やっぱり感動するけどね。

――そのときの両者の表情はどうなのかとか、凄く気になりますよね。

博士 でも、そこで握手もせずに「バーカ！」と払いのけたときのさ、この「終わりから始まる」っていう感じもたまんねえだろうな。「俺たち、これで終わったのかな～」「まだ始まってもねえよ！」って（笑）。

玉袋 リングサイドの金子賢がアップになって（笑）。

博士 観客の心に「キッズ・リターン」のテーマ流れ出す（笑）。

――でも負けたほうはすぐさまリングを去っていくような気がしますね。

博士 とくに小川が負けたらスッと帰ると思うね。

玉袋 いままで通りだよ。あっけなく「完敗です。もう、いいですか、ここで」オリンピックのときみたいに

博士 いや、ヒョードル戦のあとのようにそれでも残って、あえて「ハッスル！ハッスル！」を合唱するかも……。いや、試合終わったら、いっそサザンの年越しライブかなんか行ってほしいな小川には（笑）。

――アンコールぐらいでハッピ着て出てきてほしいですね（笑）。

玉袋 俺、それも好きなんだよ。吉田はアスリートで来るわけじゃん。そこにオーちゃんがドリフのハッピ着て、インリン様連れてさ、HG連れて出てくるわけよ。最後まで茶化すわけよ。でも、茶化しをやって出てきたり、それ煽って出てくると、負けたときに「あんなことやってりゃ、負けるに決まってるだろ」って言われたりして負けたときのリスクがデカくなるんだよ。

小川直也vs吉田秀彦を覚悟して見よ!!

11年前の"冤罪"を晴らすために小川はここに戻ってきたんだよ！

――まあ、そうですよね。

玉袋 25日の『ハッスル・ハウス』に出るまでっていうのもさ、「試合1週間前に何やってんだよ!」って話になっちゃうわけよ。

博士 猪木イズムがうまく回転したときには、こういうのがプラスに回るんだけどね。アレク（サンダー大塚。現・男盛）も、調子の良いときは、そういうのが全部プラスだからね。

――試合前にリング設営をやったりとかありましたね。

博士 そうなんだよ。でも猪木イズムっていうのはね、永久電機とかもそうだけど何かが壊れたり、あと部品が足りなくなったりすると全部歯車が狂っちゃうからね（笑）。

玉袋 いや、これはホンット、猪木イズムだよ。

博士 これは、まあやらない確率のほうが高いけど、猪木イズムがいま消えかかってる中で、だからこそ、そういうのを見たいっていう気持ちはあるね。

玉袋 そうなんだよ。そういう、プロレスっちゅうもんを復権させたいって気持ちで出てくるわけじゃん、今回だって。

――でも吉田戦が決まってからの小川選手の数少ないコメントを見ると、今回はホントにプロレスを強調してる気がしますね。

博士 そういう意味では、HGじゃなくて、橋本真也を背負って出てくるのは、グッとくるんじゃない。猪木、橋本、小川と流れる猪木イズムを伝承して出てくるってのは。

玉袋 それはたまんないね。今回、「プロレス」ってやたら言ってるんだよな。ってことは、さっきも言ったように力道山vs木村みたく、プロレスvs柔道ってことになるのか。

――そう見てほしいって感じですね。絶対に"柔道対決"と言ってくれるなっていう感じで。

博士 もちろん、PRIDE参戦は「プロレス復権」のために小川はやってるわけだからね。

――それなのにプロレスファンには全然応援されてないっていうのが、またいいというか（笑）。

玉袋 プロレスファンはコタツで小川そっちのけで、みかん～紅白～Dynamite!!～男祭り～みかん。で、小川が勝ってプロレス復権をアピールしたとしても、コタツ～みかん～オナニー1～熟睡～東城えみが出てきた初夢だよ。

――ダハハハ！ きっとそうですね（笑）。ところで、二人のギャラが一人2億5000万、5億円だって話も、あるんですよ。

博士 えええええええええ!!

玉袋 史上最高じゃない？ 辰吉vs薬師寺、超えてるよ!!

博士 試合あたりじゃ、松井秀喜も超えてるよ（笑）。

玉袋 『紅白』のみのもんたも超えてるよ（笑）。

博士 それは当たり前だろ！（笑）。でも、それだけの価値はあるね。純粋に凄いね。それだけの値打ちを格闘技に認めてもらってさ。

玉袋 それでも金じゃないし、金としたら安いくらいでしょ。

博士 ちなみにさ、こないだウチらがやってる『週刊アサ秘ジャーナル』（TBS系列）の収録のとき、『夕刊フジ』の「PRIDEの小川vs吉田、永田町の代理戦争」って記事の話になったのね。

――そうなんですか。

博士 で、小川は安倍晋三幹事長と懇意だし、一方、吉田に対して民主党が出てくれって打診が過去、実際あったんだって。もちろん、これはプロになる前ってことだから、かなり過去だけど。

――へえ～、それは初耳ですね。

博士 だから、日本の政界、永田町が小川vs吉田戦に本気で関心持ってるのは間違いない。だから日本の行く末を決める郵政民営化の選挙と同じくらいね、これは大事な試合なんだよ。

玉袋 格闘界の総選挙。日本の舵取りだよな。

博士 これまでもいろんなビッグマッチはあったけどさ、政界、永田町まで本気で関心を寄せてる試合っていうのはないじゃない？

――さすがにそれは初めてでしょうね。

博士 まあ我々としてはね、深夜放送で『アサ秘ジャーナル』と『SRS』で政治と格闘技でね、若手お笑いブームの波にも乗らず、ここ3～4年、地道に孤軍奮闘してきたことが、ようやく一つに結びついて待っていて、しかも日本の行く末を決めるところに我々が噛んでるっていうね。

玉袋 大波がいよいよ来たか、となぁ（笑）。

博士 さっきも思ったんだけどさ、今回まだ決まってないけど桜庭vs田村、あと五味vs桜井、これも同じ釜の飯の先輩後輩が闘うんだね。それって相撲にはない世界だからね。

玉袋 シビアだよな。だからアナキンとオビ＝ワンの闘いみたいなさ。同じジェダイの戦士だったのが闘わなきゃいけないっていうさ。

博士 エピソード3っぽくつまであるんだっていうね。でも、今回ばかりは、田村も桜庭戦回避することが正解なのかも。あまりに、小川vs吉田戦の意義が大きすぎるでしょ。

玉袋 場所を改めて、メインでやるべきでしょう。

博士 よく考えれば、マッハのストーリーだって、ここで勝てば、高橋尚子の復活ほどに劇的なものがあるわけじゃない。それを後輩の五味が非情にも奪い取らなきゃいけないわけじゃない。闘うことすら複雑な感情を帯びた、ホント、弱肉強食の世界になってるよ。

玉袋 そう考えると凄い宿命だよな。

――しかもDSEは当初ヒョードルvsリトドリノフのRTT宿命の先輩後輩対決まで組もうとしてたっていうんだから、恐ろしいですよね（笑）。

博士 これはね、DSEっていう会社はね、いい意味で、マッチメイクまで真剣セメントすぎるよね。でさ、いまのDSEの素晴らしさ、勢いは、一方で「ハッスル」と、一方で「PRIDE」の両極を持っていることだけど、その両極の極端な振り方は凄いね。

玉袋 だから（笑）、『地球屋』は終わったけどよ、まだ続くぜ、名古屋すげえよ!!

――榊原代表も笹原さんも名古屋出身ですからね。

玉袋 まあ、谷川さんもそうなんだけどな（笑）。だけどホント、いまは「ハッスル」の小川だもんね。「ハッスル」の小川がいて、「PRIDE」の吉田がいてさ、この幅だもんな。その真ん中に髙田さんがいるんだから。総統の髙田、統括本部長の髙田がいるからさ、これも面白い図式ですなあ。

博士 だって、もともと俺たちが言ってたNHK改革っていうのはさ、『紅白』で「マツケンサンバ」のバックにレイザーラモンHGが応援に出て、平井堅と共に

---

kamipro Hand読者が選ぶ

小川直也vs吉田秀彦 勝敗予想

12/8～12/11収録　投票総数492人
内185人は勝ち負けについて無回答

小川が勝つ	178人
吉田が勝つ	129人

▼埼玉行きます
▼名の知れた者の、リスクを背負った戦いは楽しみ
▼この人の試合を前から見たいと思っていたので実現して凄く嬉しい。展開はスタンドでいけば圧倒
▼やっぱ総合の経験からいって吉田が勝つでしょ。小川が勝ったほうが面白いとは思うけど吉田が好きなので
▼身長の差で小川が打撃でペースを握り判定勝ちだと思う
▼ふたりとも道着を着ての、柔道ベースの何でもアリが見たい。日本柔道の怖さが見たい
▼勝負に徹した吉田の一本勝ち
▼小川はハッスルで遊んでるんで、吉田の圧勝。ただし判定
▼まさに夢のカードで期待感抜群。オーちゃんが左ストレートでKOしてハッスルホームで爆発!!
▼吉田選手が勝っても負けてもどちらも面白くないので、とりあえず小川選手を応援しますが、どんな結果でも小川を応援するほうが楽しめる
▼ふたりとも鍛えて打撃戦になるとおもうけど、2Rからは組み合いになり、吉田が腕ひしぎで勝利
▼判定で吉田。おそらく甲乙つけがたい試合となる
▼柔道家同士の寝技合い、殴り合いを予想してますが、勝者は小川選手だと思います
▼パウンドでオーホ〜に（？）ここからの締めで小川の勝利
▼個人的にはまだ見たくなかった試合。どちらにも負けて欲しくない
▼吉田の戦略はある程度わかるので、小川は作戦を立てやすい。逆に吉田は小川がどう出てくるか読みにくいと思うので小川が有利
▼打撃技術向上中の吉田が殴り勝つ。オーちゃんは総合のブランクがありすぎ
▼打撃戦から流れるようなSTOホンバー（？）で小川の勝利
▼お互いに感情が入っているので、とても面白くなりそう。パンチが入った瞬間にとても激しい試合。最後は吉田が総合での経験を活かして判定勝ち
▼「まさか」の対戦決定にビビってたところ、ました。小川が勝ちます
▼私情の入った試合は楽しみ
▼やはりトキトキ感は過去最高。25年のプロレスファン歴の全てを賭けて小川を応援します

小川vs吉田には日本のフィクサーが動きかねないくらいのヤバさがあるよ！

「マツケンサンバⅡ」（「ラ・オーレ」）を歌うっていうのがあってね（笑）。そうなれば、もう「男祭り」の名前をNHKに譲ると（笑）。そこまで俺たちは各雑誌で、NHKに提案してたんだよ。

玉袋 企画まで提案してたのにさ、ちっとも乗ってこねえからさ。

博士 マツケンも平井堅も「紅白」から落としたんだよ。

玉袋 だからそれを、ヘタすりゃDSEがやるでしょ。

博士 DSEがHGを持ってるっていうことは、ここにマツケンを電撃参戦させる可能性だってあるじゃない？ あれだけ振り切れた「ハッスル」をやってるDSEはそこまで考えられるから、我々のマッチメイクにも耳を傾けるかもしれないよ。

――"男の中の男"勢ぞろいということで（笑）。

54年、昭和の巌流島と呼ばれた力道山と"柔道王"木村政彦の一戦は、力道山が張り手の連打で木村をKO。あまりにも凄惨なこの一戦、木村の急所蹴りに力道山がキレた説、引き分けの約束だったが力道山が一方的に裏切った説がある。この一戦を境に木村は時代の表舞台から姿を消し、力道山は国民的スターとして君臨。小川vs吉田の闘いもこの一戦と同じようにヤバイ。そして勝敗が人生をも左右する闘いになると思われる。

玉袋 そう、これがホントの「男祭り」よ！

博士 そうなったら去年の高田統括本部長のフンドシ太鼓を超える演出ができますよ。

玉袋 エルトン・ジョン呼んで国歌斉唱させたりな（笑）。

博士 ジョージ・マイケルでもいいしね（笑）。DSEの凄いのは、そこを考えられるようになったとこだよね。だから確実にHGは来るわけでしょう。

――それはありえますね。HGはNHK辞退を表明してますからね。

玉袋 最初から辞退だよ、そんなもん。出るわけねえじゃん。

博士 でも、あり得るかなと思ったんだけどな。NHK出てこっちも出てほうがさ、だけど逆に言えば「男祭り」はマツケンを取れるマッチメイクの可能性もあるだけに楽しみだよね。

玉袋 マツケン取ったら凄えよ。

博士 これってモノ凄い図星すぎてダメかもしれないけど、いまのDSEならそれくらい考えそうな気がして。だってさ、オープニングでマツケンが歌い出して、そこにHGが出てきてさ、高田統括本部長がフンドシになってみ。

玉袋 太鼓じゃねえかもしんない、今回。二丁目のゲイバーなんか吹っ飛ぶよ！

博士 ホントに、これぞ「男祭り」だよ。こうなったら、もう「新春かくし芸大会」なんかいらないよ（笑）。

玉袋 そりゃいらねえな。

――その絵は想像するだけで凄いですね（笑）。

玉袋 まあ考えるだろ、それぐらいは。やってもらわねえとな。

博士 そうなった場合はウチの草野（仁）さんも参戦を直訴しますから（笑）。それほどの祭りにしてくれるなら。

玉袋 でも、そういう面白いこと考えてるほうがいいよ、健康に。小川vs吉田のこと考えるとさ、もう怖くてさ。

――楽しみですけど、見るのが怖いっていうのもありますよね。

玉袋 うん、見るのが怖い！

――見るほうも覚悟が必要というか。

玉袋 メチャクチャいるよ！

博士 でも、この最大のエンターテインメントっていうポイントはそこになってきてるよね。ホントに見たくないものを見るっていうね。

玉袋 見ていいのかよ、これっていうね。

――人の人生がどうにかなっちゃうところを見るわけですからね。

玉袋 ホントそうなんだよ。

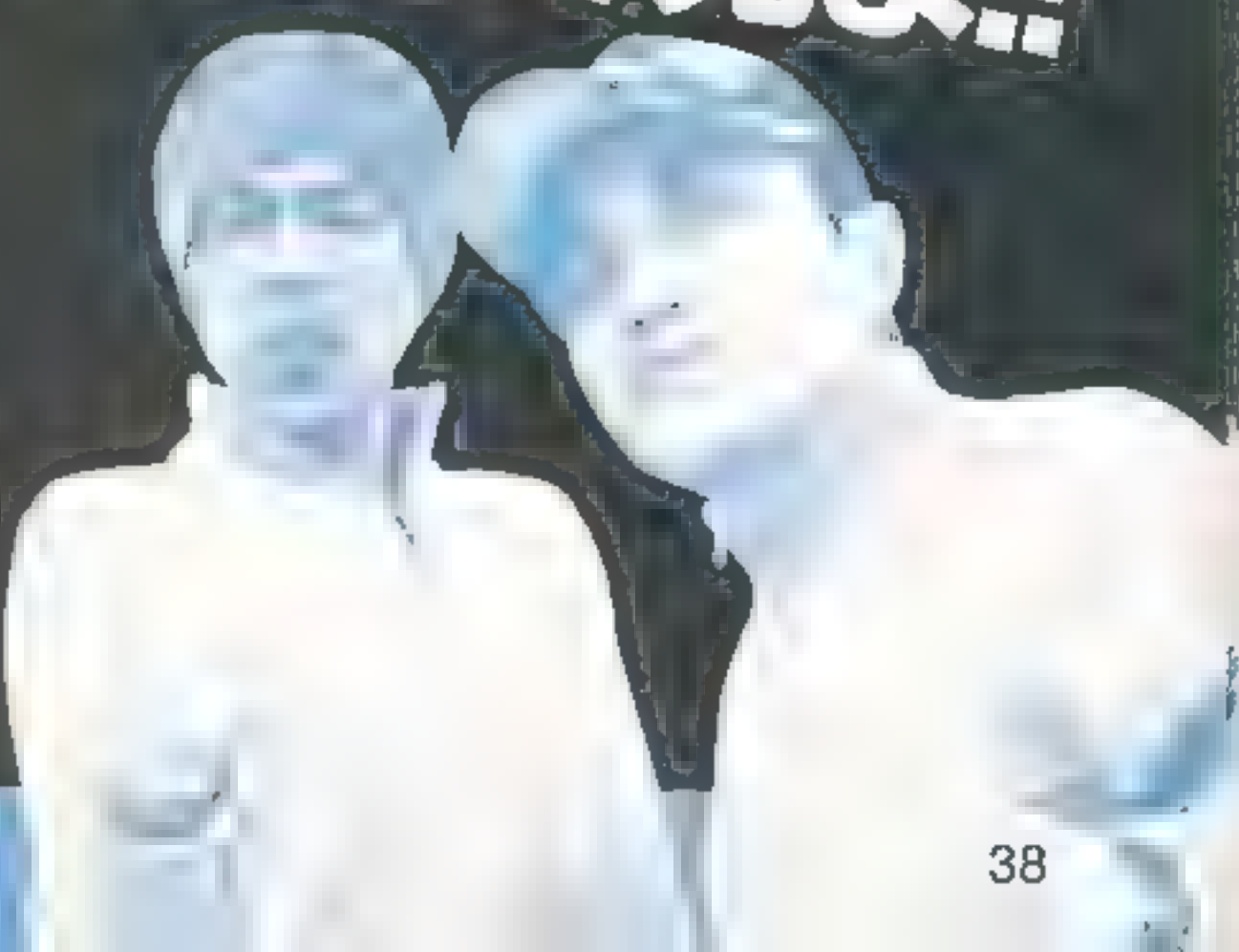
博士 だから毎年言ってるけど、除夜の鐘とゴングが似合うんだよね。「男祭り」は、小川と吉田の確執の煩悩、除夜の鐘とリングのゴングがカーンとなる感じっていうのがね、かぶってくるわけよ。

玉袋 キングコングならぬキングマツケンですよ！ 最高じゃないの？ この大晦日まで、いままで生きてきた大晦日で一番だよ、これ。

――身を清めてから見なくちゃいけないような感じですよね（笑）。

玉袋 大晦日なんかそういうもんだよ。だから早めに大掃除しろよ。今年は、年賀状ももう書いちゃえ。俺、もう書いちゃったもん。

博士 サンタは今年来日を辞退したからね。そんなことやってる場合じゃないってことで。

玉袋 来ない来ない。サンタさんも今年は「紅白」じゃなくて小川vs吉田見るって言ってるみたいだからな。

――サンタクロースまで注目してましたか（笑）。

博士 でも、ホントに気の毒だよ、NHKは。グループ魂なんか出してんだもん（笑）。そんなの構造計算ミスだよ。

玉袋 ホント、気の毒だよなあ……（しみじみと）。

博士 グループ魂には恨みはねえけどさ、出されてるほうも「男祭り」観たいんで辞退します！って言えって！（笑）。

玉袋 みのもんたなんて、歌のあいだは「男祭り」見ます！って言えってよ（笑）。NHKの人が言ってたけど、「紅白」っていうのは一年かけて作りゃいいけのにさ、そんなこといままでやってなくて、3カ月ぐらいでドタバタして作るって言ってたんだよね。そんなチープなストーリーだよ、所詮は。でも小川と吉田のストーリーを考えてごらんなさいよ。何年前から仕込んでんだって話だよ。それをやるんだからさ、違うよ、モノが。

――一年や二年の話じゃないですからね。

玉袋 どこ切ってもヤバいっていう、そんな危険な金太郎飴スペシャルないっての。

博士 だって、こっちは、吉田が明大の柔道部の道場にガラガラッと入ってさ、世田谷学園から入った吉田秀彦です！って言って、そこで小川が振り返って、あん？っていうところから始まってる

小川直也vs吉田秀彦を覚悟して見よ!!

さっさと年賀状書いて、大掃除も終えて、小川vs吉田を正座して見よ！ってことだよ

わけでしょ。

玉袋 まだ太ってる頃の小川がポテトチップ食べながらな、「あん？」って振り返ってな（笑）。

博士 「お前、強えんだってなぁ」とか言ってるところから（笑）。なんか想像しただけで、たまんないよね。

玉袋 これ小林まことさんに漫画化してほしいよ。『柔道物語』主人公の三五十五vs西野を超えちゃうよ。ホントどうしよう？　やべえ、なんかドキドキしてきたよ、俺（笑）。

――実現しないでほしいって思ったりもしますよね。

玉袋 それをやっちゃうんだもん。

――なんかここまで来ると、両者リングアウトでいいよって思いますよね（笑）。

玉袋 ホントそうだよなぁ。

博士 なんていうのかな、関係者がさ、ここは穏便にって言うようなさ。力道山vs木村を彷彿とさせるほどの、誰か日本のフィクサーが動かなきゃいけないほどのヤバさになってるでしょ。

玉袋 思い出話でもすりゃいいじゃねえか、って話なんだけど、それすらもできねえ雰囲気があるよ。

博士 3ラウンド目で判定にしようっていうところぐらいの妥協案の話が行っても不思議じゃないとこがあるじゃん。そんなことはありえないんだけど、ホント今回の試合に限っては、それでもいいと思うんだよ、俺。

――面白いのは、おそらく二人とも「アイツに負けるわけない」って思ってる感じがあるじゃないですか。

博士 だろうね。小川がオファーを受けた、一番大きい要因っていうのはさ、総合ルールで俺は勝てるっていう自信が最大だと思うよ。

玉袋 相手はヒョードルじゃないんだから。

博士 人生のリスクは小川のほうがデカいけど、小川は勝てると思ったと思う。そうじゃなきゃ受ける理由がわかんない（笑）。

――そうですよね。

玉袋 吉田は吉田で勝つと思ってるわけよ。「ああ、あのチキンの先輩だろ」って。

博士 たぶん、11年前と同じなんだろうな。先輩？　関係ないよ。体重差？　関係ないよ。俺、勝つから――。そういうような、オリンピックで金メダル獲るような人のメンタリティは常人じゃない、計り知れない。半端じゃないもんな。

玉袋 絶対勝てると思ってるよ。

博士 そうじゃなきゃシウバと殴り合いとかしないもんね。そういう意味では、二人ともカッコいいよなぁ。と言うより、二人の闘いに踏み出す勇気に感謝だなぁ。

――ちょっと見るのも怖いってなってるのに、実際、この二人は闘うわけだからね。

――でも、やっぱり裸と道衣なんですかね。

博士 そこだよね。でもね、吉田が脱いでも盛り上がるよね。そこまで本気だっていうとこでね。

玉袋 グラビアアイドルが脱ぐ脱がないの比じゃないよ！

博士 盛り上がるけど、なんか吉田が脱がなかったとしたらさ、その敗因の一つとして語られるかもしれないっていうのは残念だね。

玉袋 でも勝ったとき『柔道を守った』って言われるよ。結局、柔道界を飛び出した小川はさ、柔道界からはヒールって思われてるから。

博士 道衣の問題は大きいよなぁ。試合前から心理戦にもなってる。だって、吉田も、それがどれほど不利になるかは、すでにわかっているわけでしょ。

玉袋 ホイスにもやられてるしね、一回。

――でも、みんな忘れてると思うんですが、小川の柔道の実力って凄いですからね。それこそ直接対決の2対1の判定があったりとか、銀メダルに終わったとかそういうのがありましたけど、全日本選手権とか世界選手権のとんでもないですもんね。

玉袋 でも小川が道衣着てきたら凄い！　しかもJRA時代の！　そこに「ディープインパクト」って刺繍が入ってたりして（笑）。

――いま現在、吉田選手は着たままやると言ってるんですよね。「スポンサーがついてますから」とか冗談めかしながら。

博士 どうなんだろうね？　プロレスを背負うって言ってる小川は道衣を着るわけないと思うけど、でも、それなら、むしろ小川も着てほしいぐらいだよね。

玉袋 でも、柔道の試合だよ、こうなったら。畳のリング用意して（笑）。

――そこでまた判定2対1だったら嫌んなっちゃいますけどね（笑）。

博士 柔道家同士って言うけど、ショートボクセのコーチを入れた吉田陣営は、壮絶な打撃戦に望むんじゃない？　感情丸出しの……。

玉袋 たまんねえな。まあ、どんな形になるにせよ完全決着を望むよ。でもホント、これは覚悟して見るってことだよね。こんなの見れねえよ。

――いままでこんなの例がないですよね。力道山vs木村っていうのも我々はリアルタイムで見てないわけですし。

博士 改めて、馬場vs猪木がホントに実現しちゃったって感じだよね。

玉袋 しかもそれをガチンコでやってるってことだからね。馬場vs猪木がPRIDEルールでやるって考えたら、これまたすげえことだぜ！

博士 でもなぁ、馬場vs猪木のPRIDEルールなんか見たくねえもんな。

――ファンタジーで終わってほしいって気持ちもありますよね。

玉袋 『エイリアンvsプレデター』でおしまいで良かったんだよ。『ゴジラvsキングコング』だって東宝でやったけど、決着つけないじゃん。土俵から海へジャボンで終わりですからね（笑）。

玉袋 それでいいじゃない。でも『PRIDE』ってリングはそうしねえんだから。覚悟しとけよって話だよ。ピーター・ジャクソンの『キングコング』が本当に薄れちゃたよ！

博士 映画じゃ味わえないよ。どんなプロジェクター買ってもスペシャルリングサイドのこの甘美な喜びには敵わないね。俺、こうしてリングサイドに席がある、格闘技好きのタレントで良かったと思うもんな、ホントに。

玉袋 良かったよ、初めて『SRS』とか始まった頃はさ、藤原紀香さんって羨ましいな。仕事であんなリングサイドで見れて、選手にもインタビューできて」と遠くから思ったけどね（笑）。ここには藤原紀香さんほどの美貌はないですけども（笑）。

博士 まあ、これもひとえにマーシー（田代まさし）のおかげなんだけどね。もはや何度、感謝していることか。

玉袋 田代さん、返す返す、ありがとう！

――ダハハハハハ！　繰り返し繰り返しやってくれましたからね（笑）。

玉袋 でもホント、やる前から、この試合には参ったな。とにかく年賀状は早めに書いて、大掃除も終えて、この試合を正座して見よう！ってことだよ。

――身辺整理をして大晦日を迎えると（笑）。

玉袋 そういうこと。厳しくして、塩盛って見るぐらいの気持ちで、人の闘いを受けいれましょう。

博士 毎年、言うけど、とにかく交通事故に気をつけて、大晦日までは何があっても、絶対、生き抜くんだって気持ちをもってね……。

博士&玉袋 ではみなさん、大晦日は会場かテレビでお会いしましょう！

（12月5日／ダブルクロスにて収録）

マット界の伝書鳩
"Show"大谷泰顕が語る
2005年マット界の裏の裏

宣伝するならネタをくれ!

『PRIDE』、K-1をはじめ、マット界の舞台裏に精通しているのが、この人"Show"大谷泰顕。今回、Show氏から「『kamipro』でいろいろと紹介してもらいたいモノがあるんだけど、話聞いてくれない？」と言われたので、聞いてきましたよ。3、2、1、ヒャッ!!

聞き手&構成／松澤チョロ

——え～、今回は"Show氏"こと大谷泰顕さんのほうで、いろいろ宣伝したいモノがあるということなので「宣伝するならネタをくれ！」というわけで、バーターでマット界の裏話を聞かせていただければと思ってます！

大谷 はいは～い。そんなの片手で3分だよ。どんな話しよっか？

——そうですね、K—1関係や前田さんに関しては、ちょっと情報量が少ないもので、何かあるようでしたら……（笑）。

大谷 ふう～ん。じゃあ、前田日明の話をしようかな。

——よろしくお願いします！

大谷 5月にオランダで前田さんと（クリス・）ドールマンやピーター・アーツたちが久々に会ったとき、俺は現場にいて取材してたんだよね。そのときに映画の話になったんだけど、前田さんの好きな映画って聞いたことある？

——前田さんは読書家としては有名ですけど、映画話はあまり聞いたことないですね。どんな映画が好きなんですか？

大谷 まず「ポール・ニューマンの『暴力脱獄』は男なら絶対に一度は観てほしいね」って聞いたから観てみたんだけど、「あ、これは前田日明が好きっていうのわかるなぁ」って感じがした。それから『バリー・ニューマンの バニシング・ポイント』。これを観て、俺はアメリカに行きたいって思ったんだよ。ジャック・レモン主演の『あなただけ今晩は』もよかったし、コメディだけど、ビリー・ワイルダー監督の『アパートの鍵、貸します』もなかなか面白かったね」って言ってたよ。前田さんと意見が一致したのは『千年義士伝』。あれは絶対に泣けるよ！

——前田ファンは年末年始にでも観るように、と。では、次はK—1ネタでお願いします！

大谷 K—1ネタだったら、今年の5月に角田（信朗）さんの試合がパリであったでしょ。そのときの取材は個人的に、一生忘れられないぐらいの取材になったんだけど、角田さんって、その前に曙さんと韓国で試合したじゃない？

——曙さんのK—1初勝利となった記念すべき試合ですね。

大谷 その試合が決まる前に、角田さんに谷川さんから電話があって「面白いこと考えちゃったんですけど、……曙さんとやってもらえませんかねぇ？」って。角田さんは何日か後に「やっぱり今回は無理です」って断ったみたいなの。そしたら谷川さんが「見たいなぁ。曙と角田さんの試合。僕はあきらめられません」とか、「断っていながらも、じつはもう受けるって決めてるんじゃないですか？」って電話とかメールが来るんだって（笑）。

——さすが、谷川さんですね！（笑）。

大谷 角田さんは「もしもし詐欺」って言ってたけどね（笑）。角田さんも、そこにハマってしまうのが嫌だって思いながら、きっと自分を一番輝かせる方法を、長い付き合いの中で一番知ってるのは谷川貞治なんだっていうへんな信頼感みたいなのがあったりしてさ。そういうところがK—1らしいっていうか、谷川貞治らしいよね（笑）。で、映画の話に戻るけど、俺は去年から『24 TWENTY FOUR』にハマってさ。それは谷川さんの影響なんだよね。

——たしか、谷川さんの携帯の着メロは『24』に出てくるCTUの内線音なんですよね（笑）。

大谷 あれは俺が教えたんだよね。それはいいんだけど、いまは谷川さんと話すと、だいたいが『24』の話。格闘技の話はほとんどせずに「ジャック・バウアーはどうなった？」ばっかり。でさ、『24』ってけっこう、人がバンバン死ぬでしょ？

——ちょっと目を離すと撃たれて死んでたりしますからね（笑）。

大谷 だから、谷川さんは「石井館長があんなことになってからは、僕は人が死なないリアル『24』をやってるよぉ」って（笑）。

——ガハハハ！ 本人に会う機会があったら、『Dynamite!!』にオファーとかするんじゃないですか（笑）。

大谷 いや、いま『PRIDE』ってアメリカのFOXで放送されてるでしょ。『24』もFOXだし、榊原代表がいま頃、そのつながりでオファーしてるかもよ（笑）。

——なるほどぉ……。では、そろそろ誌面も尽きてきたので、この続きは『kamipro Hand』でお届けしますので、そちらもよろしくお願いします！

大谷 ヒャッ!? ちょっと待って！ 最後に宣伝させてもら……。

——（無視して）どうもありがとうございました！

「これは6月の「PRIDE」での瀧本戦から3日後、田村と会った際に撮った写真。左目を怪我していたため、タムちゃんは右側からしか撮らせてくれなかった」というShow氏。田村の携帯番号を知る数少ない男でもある。

「これは『週刊プレイボーイ』でボブ・サップ&サム・グレコの取材をしたときの写真。こっちが思ってる以上に、サップがホンマンを意識してたから驚いた」と語るShow氏のプロフィールは次の通り。■"しょう"おおたに・やすあき。埼玉県生まれ。某医大を中退し、両親に莫大な心労と負担をかけたのも束の間、マット界を席巻中（？）の"闘想家"（命名・車田正美）。現在は『週刊プレイボーイ』など一般誌を中心に幅広く活躍中。

お門違い!!

SADAMEの時はいつか？
桜庭和志 vs 田村潔司
FINAL GONG!!

—え〜、ここ数年、年末になると毎年のように“渦中の人”となる田村潔司さんに今日はお越しいただきました！

田村 じゃ、まずは大晦日の話から。

え！ いきなりですか!? そんなにしゃべることがあるんですか？

田村 いや、あとにされちゃうと、後半に延々と聞かれそうだから。べつにそんなにしゃべることもないんで、先に言うことはっとこうかなと思って。

—そうですか（笑）。ちなみに今日、DSEで記者会見があったのは知ってますか？

田村 知らん。

—『PRIDE男祭り』の会見で、シウバvsアローナとか、ヒョードルvsミールコとか、外国人対決のカードが発表されたんですよ。

田村 んで？

—その会見のあとにカコミ取材がありまして。……まぁ、率直に言うと「田村、出てこい！」と。

田村 あ、そう。それは誰が言ったの？

—榊原代表と高田統括本部長です

田村 （険しい顔で）そりゃ、ひどいねぇ

—「ひどい」というと？

田村 もう言ったもん勝ちっていうか。まあいいや！ ただ、向こうは向こうの考えがあるだろうけど、俺には俺の気持ちや考えがあるから。

でも、11・23『U-STYLE Axis』の試合後、田村さんは大晦日について「正式なオファーがあって、納得できるような相手だったら」って前向きな発言をしてましたよね？

田村 うん。で、実際に話はあったけれど、向こうには正式な回答という、俺の気持ちはちゃんと伝えてあるから。あとは、向こうがそれを受け入れるか、受け入れないかの話だから。

それは、どんな回答をしたんですか？

田村 そこはちょっと多くは語れないけど、こっちは答えを出しているわけだから。でも、そういう記者会見があったということは、俺の気持ちは受け入れてもらえなかったんだろうなって。だからこの件に関しては、もう深く言わない。考えたくもない。

—非常にわかりづらいんですけど。そのDSEからのオファーに対して、OKの返事をしたんですか？ それともNOだったんですか？

田村 それはもう、想像にまかせる。俺はあんまり言いたくない。ただ、俺は向こうからの提案に対して、きちんとこちら側からの提案を返しているから。それに対して向こうの返事はもらってないけど、そういう会見があったのなら、俺の提案は受け入れてないってことだよね。

じゃあ、それは田村さんから桜庭選手以外の相手にしてくれ、っていうふうに返答したということですか？

田村 そういうわけじゃない。大晦日だとか、桜庭だからとか、こだわるとこじゃないんだけど。なんか都合のいいようには使われたくないって感じがするの。それだけかな。「出てこい」言うのは簡単だけどね。

いや、「出てこい」だと言葉が強すぎますね。榊原代表は「田村さんには大いなる英断を下してほしい」とのことでした。でも本当に不思議なのは、一昨年、去年と続けてオファーがあって、今年もまたお願いされてて、それでいて、この一戦が実現しない理由ってのはどこにあるんですか？

田村 それは言わない。

—やっぱり、毎年毎年、田村は何をゴネているんだ、と見られると思うんですよ。

田村 だから、その部分だけ言われたら、“俺が決断しない”ってのが表面に出るけどさ、細かいこと言ったらこっちだって要望出してるのに、向こうが受け入れる気がないってのがあるんだから。都合のいいときだけ使われる、っていうのは嫌なんだよ。もちろんDSEにはお世話になってる気持ちはあるんだけど、一番の思いは、一選手としての自分の気持ちっていうのをあんまり曲げたくないね。

—高田さん曰く「桜庭はもうマイクを使ってアピールしてるんだから。田村選手も、気持ちはわかってるはずでしょう」と。「あとは態度を明確にしろ」と。

田村 俺はマイクを持ってとか、マスコミを通じて言わないだけで、代表者とちゃんと話をして態度は明確にしてるつもりだから。俺はそういうことはマスコミを通じてじゃなくて直接聞きたいし、直接話したい。

—この対戦がなかなか実現しないのは、やっぱり桜庭選手が相手だからですか？

7日に行なわれた記者会見後、記者に囲まれた高田本部長は「（桜庭vs田村は）今年が最終期限。4年目はもういいと思う。大英断じゃなくて、普通に出てきてほしかった」と、[illegible]。はたして田村vs桜庭はこのまま幻の一戦はなってしまうのか？

俺はもう自分の考えを伝えてるから、あとは向こうがどうするかの話

11・23 U-STYLE Axis 有明コロシアム

○滑川康仁&ルイス・アセレード [12:08 腕ひしぎ逆十字固め] 大久保一樹&松田英久×

クロスバウト（タッグマッチ）はシュートボクセのアセレードが大活躍！ ギラギラした目つきに野性的な動きは、ブラジルのネグロ・カサスと呼びたくなるほど。二島戦が見たい！

坂田亘 [10:06 逆エビ固め] 伊藤博之×

かつての「前田道場」先輩後輩対決。とにかくこのスタイルでの坂田のうまさはバツグン。“しばき合い”から急角度のノルネルソン・スープレックス、そして逆方エビにつなぎタップを奪った。

藤井軍鶏侍 [7:48 ポイントアウトTKO] 佐々木恭介×

ハッスルでは「A.H.E（当たれば百発百中エルボー）」を得意とするマメケなキャラの軍鶏侍だが、ここU-STYLEではジャーマンを武器で本来の怖さを十分に発揮。5ダウンのポイント勝ちを奪った。

田村　その話は現時点ではこれ以上言えないから。言うんだったら向こうに直接言うから。それに何度も言うけど、俺はもう向こうに答えを出してるんだからさ、それに対する答えはもう向こうに聞いてもらえればいいことであって、俺が言うことじゃないからね。

――田村選手個人の気持ちとしては、大晦日の大会に出たいとは思わないんですか？

田村　いや、大晦日は誰もが憧れる舞台だからね。出たいっちゃあ、出たいよね。

――その憧れの舞台で、ファンが田村選手に一番望んでいる相手が桜庭選手だと思うんですけど。

田村　申し分ない相手です。もったいないくらいの相手だね。

――だから闘いたくないわけじゃないんですよね？

田村　ノーコメント。

――ここでノーコメントですか（笑）。じゃあ、この雑誌が発売される21日頃は、何か動きはありそうですか？

田村　知らん。もう、俺からは話しようがないから。次行こう、次。

――じゃあ、最後にまた大晦日の話に戻るかもしれませんけど、とりあえず『U-STYLE』の話をうかがいます。先日、11月23日に『U-STYLE Axis』が開催されましたけど、これってDSE協力のもと開催された大会ですよね。そこで多くのファンが思ってるのは、「この大会を開くことが、田村vs桜庭戦を実現させる交換条件なんじゃないか？」ってことなんですよ。

田村　もう話が大晦日に戻ってるじゃん（笑）。

――いや、気のせいだと思います（笑）。

田村　まぁ、でもそういうことは勝手に思っていればいいから。もし交換条件だったら、もう話が成立してるんじゃないの？　これはもっと前の話だからね。

――でも、関係は良好ではあるんですよね？

田村　まぁいい関係でいさせてもらってる。俺も弱小ながらU-FILEの代表として、天下の『PRIDE』の代表と面と向かってお話させてもらってるということは、凄く光栄でもあるし、でもその反面、やっぱりビジネスでは一枚も二枚も上手だから、いろんな意味で緊張感はあるよ。

――まあ、そうでしょうね。

田村　ただ、『U-STYLE Axis』をDSEがやってあげたって気持ちでいるんであれば、それはお門違いですよ。凄く感謝はしてるけど、"やってやった"って気持ちでいるんだったら、それは違うって言いたいね。

――『U-STYLE Axis』と『男祭り』はまったく別の話だと。

田村　DSEのフロントの方や関わった方々には本当に感謝はしてるし、ビジネス的に全然ダメで迷惑をかけたから申し訳なくは思ってるけど、それは結果論だからね。これがもう、即売りが完売してほぼ満員になっていたとしたら、それはビジネスとして成立していたわけだから。でも成立しなかった以上は、申し訳ない気持ちはある。そういった意味で、凄く俺の中で課題が残る大会だったとは思う。

その一番の課題はなんでした？

田村　それはもちろん観客動員という部分だけど、盛り上がりとかいろんなものを含めて、会場がデカすぎた。

――まぁ、デカすぎましたよね（笑）。これまで『U-STYLE』は後楽園やディファにやってきたわけですけど、『U-STYLE Axis』として有明コロシアムでやってみたということは、大きな会場でやってみたいという気持ちがずっとあったわけですか？

田村　いや、そういうわけじゃない。課題は一つじゃなくて、会場だったり、対戦カードだったり、いろいろある。だからそういう課題は残ってる。でも、有明でやったのは今後につながるとは思ってるよ。

――僕が思うに、今回は『U-STYLE Axis』がどういったものを見せたいのか、ターゲットはどの層なのかってていうのが、まるで伝わってなかったと思うんですよね。

田村　それは、ちょっと時間がかかる作業だから難しいね。ま、『U-STYLE』は小規模であっても、これからもずっと続けていくつもりだから、10年経ったときに一つ一つ見えてくると思うから。

――やっぱり、『U-STYLE』はどういうものなのか、その魅力はどこにあるのかということを啓蒙活動していくしかないと思うんですよね。現状だと、『PRIDE』ファンからは「格闘技のニセモノじゃないの？」って思われ、プロレスファンからはプロレスとは違うもの」と見られてしまってる状態だと思うんですよ。

田村　うーん、それもそうだし、もうちょっと時間があったらな、っていう気持ちはどうしても否めない。

だからたとえば『U-STYLE Axi

今年の2月20日、田村潔司vsA・マックモトが不完全燃焼で終わったあと、桜庭がリングに登場「田村さん……

○川田利明[4:44フロントチョーク]イリューヒン・ミーシャ×
"王道"vsコマンドサンボという今大会最大の異色対決。しかし、高校レスリング団体優勝の川田がレスリング的な動きで試合を組み立て意外な名勝負に。フィニッシュへのムーブも素晴らしかった。

○フランク・シャムロック[12:56 足首固め]中村大介×
"アメリカ格闘技界のレジェンド"フランク。アンクルホールドとクルック・ヘッドシザースという船木と鈴木の得意技を出したのは、偶然かもしれないがニヤリとさせられた。最後はアンクルでタップ。

○ジェームス・トンプソン[10:01 KO]ヒカルド・モラエス×
U-STYLEより、I編集長が主張する「プロレスルールを大胆に加味したガチンコルール」で闘ったほうが面白そうな怪獣対決。その不安は的中し、なぜか柔術的な動きに終止。最後はヒザ蹴りでKO

、も後楽園ホールで、まずは"U"を理解しているファンがいっぱいいる中で開催して、メインは田村vsジョシュ、アンダーカードは田村さんと志を同じくする若い選手のみ。そうやって"U"の密度を濃くさせたほうが、たとえ採算的に赤が出たとしても、"U"というもののプロモーションとしては意味があったんじゃないかなと思ったりもしたんですけど

田村　うん、それも考えたんだよね。でも現実はそうはいかなくて。だから、俺の中にある理想を叶えるために、どう現実の壁をぶち壊そうか、乗り越えるかってので、まだやることはいっぱいあるなって。だから、それを叶える第一歩として、『U－STYLE』を調布の会場でやる予定なの

最大収容2000人の西調布格闘技アリーナから出直しますか

田村　さすがに俺はコミッショナーというかたちでの参加になると思うけど、そうやって若いヤツを育てていくことが、将来的には大きな意味を持ってくると思うし、俺にとって救われてるのは、『U－STYLE』を志す人間がまだいる、っていうことだよね。それが俺の財産。だから観客動員っていうのは別に置いといて。『U－STYLE』を志してる人間を育てたいという気持ちが大きいかな

そういった選手育成というのも大事だと思うんですけど、やっぱり『U－STYLE』にとっての大きな課題というのは、多くの人にとって、『U－STYLE』を見る機会、知る機会、興味を持つ機会が圧倒的に少ないと思うんですよ

田村　そう?

それはたとえば、これから定期的に小規模会場で『U－STYLE』興行を続けていったとしても、見に来るのはUを好きな人たちってことは変わらないと思うんですよ。だから、ボクはこの"U"の宣伝と啓蒙のために、田村さんがいろんなプロレス団体に出るのもアリだと思うんですね

田村　ふんふん。

新生UWFが人気爆発したのも、その前に新日本プロレスのリングで名前を売って、"U"のファンを増やしていった結果じゃないですか

田村　ま、それは一理あるね

——ましてや、田村さんはこれまで純プロレス団体にまったく上がったことがないわけですからね。どのリングに上がっても"異物"になるし、メチャメチャ際立ちますよ。そうやって他の団体に上がることによって、相対的に"U"を際立たせるという方法もあると思います

田村　うーん、それは考えてはなかった

田村さんが身体一つで各団体にUスタイルを見せつけに行くんですよ。新日本、全日本、NOAH、あとはビッグマウス・ラウドでもいいですけど(笑)。

田村　じゃあ、ちょっと『U－STYLE』実行委員会に聞いてみます。ま、相手あっての話もあるから、それはちょっと簡単にはいかないだろうけど

個人的なことを言わせてもらうと、ボクは『PRIDE』に出る田村さんよりも、いまは新日本やNOAHに出る田村さんのほうが見たいですから。もちろん一番見たいのは、『PRIDE』のリングで行なわれる桜庭和志戦ですけど、もうそれ以外の試合は『PRIDE』でやる必要がないと思うんですよね。なんか『PRIDE』だと田村潔司というプロレスラーのほんの一部分しか表現できないというか。いまとなっては新日本やNOAHのほうがより田村潔司の魅力が出ると思うんですよ

田村 うんうん。まぁ、興味ある・ないとか、出る・出ないとかは、いまは何も考えないけどさ 相手あっての話でもあるし
　じゃあ、ちょっと話を変えてましょうか。『U STYLE Axis』の試合自体には反省点っていうのはありますか？
田村 それはいっぱいありますよ 俺の中では（試合内容が）ちょっといまいちだったかなぁ、と まだもうちょっと頑張れたっていうか だから、その見に来てくれたファンにはちょっと失礼だったな、と
　もっといいものが見せられたってことですね 他の試合についてはどうだったんですか？
田村 他は川田さんが良かった。中村（大介）とか佐々木（恭介）とかはある部分で面白かったと思うけど、印象に残ってるのはやっぱり川田さんかな なんか職人っぽさを感じたというか、いろんな意味で対応できる選手だなって
　ええ 誰とでも名勝負やるっていう人ですからね しかも、自分のプロレススタイルを貫くのではなく、自分のスタイルを元にして、ちゃんと U STYLE に挑戦していたところが良かったですよね
田村 川田さんの試合っていうのは、ちょっと『UWF』の試合って感じる
　「UWFの試合」ですか？
田村 うん。でも、『U STYLE』はUWFをもっと進化させなきゃいけないから。
　ほぉ、田村さんの中では『UWF』の試合と『U STYLE』は別なんですか？
田村 ある意味同じなんだけど、でも昔とまったく同じだといけないから やっぱりそこは進化させないといけないでしょ ただ、言い方がちょっと難しいんだけれども違うと言えば違うし、同じと言えば同じなんだよね。

　その違いは凄く難しいですね（笑）。
田村 だから俺も長年、〝U〟をやってきたけど、最終的には成功するかどうかはわからん でも、自分の中で先が凄く見えたかなとは思う どっか殻を破ったっていうか 次が開けた 先は全然開けてる
　あの大会の中にも光明を見たと では U STYLE Axis の第2回大会っていうのは？
田村 それはわかんない（笑） ご機嫌を損ねてなくなるかもしれないし
　田村さん自身はもちろん続けていきたい気持ちはあるんですよね？
田村 U STYLE を広めたいからね。今回はDSEがやってくれたけど、広げる意味でその凄く、カードが必要だと思ったから。
　だから、例えば小川直也さんがハッスル を認知させるために PRIDE に出たり、っていう広め方もあるじゃないですか 田村さん、そういう思いは？
田村 まだないかなぁ って言うより、ちょっと難しいね いま答えたら有言不実行になっちゃうよ だから、先は見えてるんだけど、細かいことを言うとさ、また何か有言不実行になりそうで 結果が出てしゃべりたいから だから、決まってることはとにかく『U-STYLE』であり続けるってことだけ。それでまぁ、一番可能性があるのは『U-STYLE』調布かな。
　――やっぱり調布大会ですか（笑）。
田村 調布大会には可能性があるから そこからもう一度、やり直しだね で、あとはもう完璧にそういう選手を育てて、完全体にして もう、そうなったときには波に乗っちゃえばいいから
　だからもう今後は、後楽園とかやるにしても、田村さんの試合以外は、全員『U

U-STYLEは観客200人の西調布格闘技アリーナで若い選手たちと出直します!

-STYLE』純粋培養の選手とかでいいと思いますね まぁ、坂田さんくらいは鬼軍曹的にいてもいいですけど（笑）
田村 そうねえ
　あとは U STYLE に出る選手は総合格闘技との掛け持ちじゃなくて、U STYLE だけの、プロレスリングができる選手をちゃんと育ててほしいですね 総合を先に経験しちゃうと、どうしても、なんちゃって総合〟の試合になりがちなんで だからもう、ガードポジションを禁止とかにしたほうがいいと思います プロレスリングに必要ないですからね
田村 わかった、じゃあ禁止する（アノサリ）。
　またアッサリしてますね（笑） でも実際、ガードポジションは〝U〟に必要ないと思いますよ このあいだの試合を見ても、面白かった試合は田村 vs ジョシュにしても、川田 vs ミーシャにしても、いわゆる総合の動きじゃなくてレスリングなんですよね やっぱり総合格闘技とは違うプロレスリングだから面白いんだと思うんですよ
田村 うんうん しかしガンツもアツイね
　いやいや、U STYLE はをちゃんと誠面で扱うからには、くそ真面目に考えないと面白くならないじゃないですか
田村 でもさぁ、週プロとか ゴングとかだと、もう世代が違うから、記者も『UWF』とか〝U〟がどんなのか知らない人がやってるんだよね。だからなんか形だけのやっつけみたいな記事にされたりして、マスコミ側にも熱い人かいないんだよね、いま
　そうかもしれないですね
田村 そういう熱って大事だと思うんだよ そんな中で久々に川崎（浩市）さんが熱い人だと思った。

　――あ、あのブッカーKが（笑）。
田村 川崎さんは『U STYLE Axis』にも関わってくれたんだけど、あの人は元々『UWF』の営業だよね 神社長とか鈴木専務、それから前田（日明）さんとかに厳しいこと言われて育った人だから、やっぱり考え方が俺に近いのよ 情熱を持ってやっていくってことに関してね やっぱり何かをやるなら、情熱を持ってやらなきゃダメだと思うから
　なるほど では、kamipro としても、これからも情熱を持って〝U〟を追っていきますよ では、最後にもう一度聞いておきますけど、大晦日はどうなりそうですか？
田村 だからもういいっつーの、大晦日の話は！ みなさん、よいお年を！

【05年12月7日／U FILE調布の向かいにあるカスト にて収録】

　このインタビューの数日後、今年も田村潔司vs桜庭和志戦は流れてしまったという情報が入って来た 記者会見で高田本部長が「1年目はもうない」と言う通り、この一戦は今後永久に封印されてしまうのか そして田村潔司の今後は
　そんなことを考えていたら、田村潔司からメールが届いた
「『U STYLE』調布の日程が決まりました 来年2月11日（土）開始19時です 告知おねげ～します」

1969年12月17日、岡山県出身 第2次UWF Uインタ、リングスを渡り歩いた生粋のU戦士 97年には初代リングス無差別級王者に輝く、2003年には U STYLE を旗揚げ。かねてから桜庭和志戦が期待されながらも なかなか首を縦に振らない頑固者 180cm、88kg

桜庭和志 vs 田村潔司

田村vs桜庭
The Final Gong of UWF international A Fans Love

"日本が嫉妬するJAPAN OTAKU"
文/ジョシュ・バーネット

やろうがやるまいか待ちきれない!
自他とも認める"UWF大信者"のジョシュ・バーネットが桜庭vs田村戦の思いを綴った
とても外国人とは思えないジョシュの恐るべき"U"への情熱を読め!

日本の大晦日といえば、いまや恒例の"大晦日格闘技合戦"に尽きる。今年も視聴率を争うためTBSは、そのターゲットを幅広いお茶の間向けにマッチメイクするべく力を注いだ。

そして「PRIDE」はまるで"忘れ物"を取りにいくかのように"今年も"田村潔司vs桜庭和志戦、実現に全力を傾ける。されど、"今年も"赤いパンツの頑固者は「NO」と首を横に振るのか……いや、もしかすると、今年こそ彼は「YES」と首を縦に振るのかもしれない。

多くのファンたちが田村vs桜庭を待っていた。もっとも、すでに待ちくたびれていないことを祈るが、ここでまずひとつ言っておきたい。僕がこの闘いについてただ黙っているだけのそこいらのガイジンではないということを。この試合の意義、そして桜庭と田村の心の中を洞察すること、すなわちこれはUWFマニアと超人オタク……つまりは僕のための仕事なのだ!

田村潔司、桜庭和志、UWFインターナショナル。

この3つの言葉の歴史を知れば、あなたにとってこのカードはもっともっと興味を抱くものとなりうる。

新生UWF時代を走り抜け、Uインターが始まったころの田村はまだひとりのヤングボーイであった。当時、彼は[illegible]UWFの申し子である[illegible]頭角を現わしており、いち[illegible]桜庭がUインターに入門するころには、[illegible]中堅クラスのポジションを確立していた。

しかし田村は、Uインターがその後の悲しき終焉に向かうなか、高田延彦や安生洋二らが長州力や永田さんたちと繰り広げていた新日本プロレスとの対抗戦に、頑ななまでに加わらなかった。新日との対抗戦に出ることは、自分の信じた"UWF"を忘れ去ることと、そして自らがプロフェッショナル・レスラーとして後退することだと考えていたからだ。

そんな田村に残された選択肢は、メインやセミファイナルのスポットライトから外れ、第一試合で若手と試合をすることのみだった。その"若手"とは、賢明なる読者であればおわかりであろう。

田村潔司が桜庭和志と初めて交錯する瞬間が訪れるのだった。

彼らは芸術的なグラウンド・テクニックを披露して、素晴らしい"UWF"を見せてくれた。ふたりはUWF、つまりゴッチ・スタイルのレスリングというバックグラウンドを持っている。同じようにUインターの道場で、打撃、寝技、投げ技を練習してきたのだ(にもかかわらず、見事なほどにまったく異なったパーソナリティを形成しているが)。

ふたりの交わりによって浮かびあがった"U"の灯火は、未来を明るく照らし出すかと思われたが、田村はUインターを憮然として去り、新生UWF時代のボスであった前田日明率いるリングスに入団した。田村はリングスを離れるときですら、高田やほかのUインターの仲間と交わらず、自らの道を進み、理想のUWFを極めようとしていた。

桜庭もまた、自らの進むべき道を模索していた。Uインターの後期からキングダム時代にかけて、MMAのステージでスターになるべく実力をめきめきと付けていたのだ。

UFC JAPANでマーカス・コナン・ザ・シウヴェイラに勝利したとき、世界はこの偉大なプロレスラーの存在にやっと気づくようになった。その後『PRIDE』のリングで"グレイシー・ハンター"という称号を

得た桜庭は、世界中でもっとも愛されるMMAファイターとなっていく。

しかしヴァンダレイ・シウバがそのすべてを変えた。シウバが扉を開いた残酷な喧嘩スタイルによる新MMA時代。桜庭はどう猛なバイオレンス・ファイターたちに敗れ続けた。慢性的なヒザの負傷を抱えながらも、休息と回復の時間を取ることもできずに。おそらく彼は、"Show Must Go on"を感じて、エースとしての責任を務めたのだろう。

だが、その代償は高くついた。世界中でもっとも愛されたファイターは、暴力と怪我に輝きを失なった。

田村の"UWF"ロードも試練と障害に満ちていた。リングスで開催されたKOKトーナメントの王座には常に届かず、オープンウェイトの王座も彼の手からこぼれ落ちてしまった。そして田村も『PRIDE』のリングで、桜庭と同じく"暴力の王者"に打ち負かされてしまう。ミドル級GPの夜も、彼の旅は、5分6秒で歩みを終えた。吉田秀彦は彼にとって登ることのできない山として立ちはだかったのだ。

同じような過去を持ち、同じような苦しみを味わってきたふたりの男。この闘いが行なわれるのならば、それはいまこそ起こるべきだろう。ケガや年齢による支障がある前に。彼らの灯が消える前に。

ただ、この試合に懸けるふたりの、個人的なモチベーションは果たしてどのようなものなのだろうか？

これまで田村はDSEの再三にわたるオファーに対して、硬い表情を崩すことがなかった。彼には桜庭戦を受けない理由がある。彼は桜庭の先輩だった、というより、おそらくいままでも、そう思っているだろう。Uインターのリングと、そして道場でこれまで幾度となく桜庭に勝ってきた いまあえて桜庭戦を受ける理由はどこにもない

さらに、田村はU-STYLEという守るべき家族がある。U STYLEにおいて田村はもっとも重要な人間であり、彼を失えばU STYLEは崩壊する 彼とU STYLEにとって、桜庭に勝つことによって得られるかもしれないギャンブルの報酬は十分な価値があるとは言えないのだ

から桜庭にしてみたら、たとえ田村に勝ったとしても、ミドル級のトップコンテンダーへ返り咲くというわけではない。むしろ、この闘いは個人的な悪魔払いのようなものだろう。

かつて青年時代に叩かれた相手と闘って、勝つ。常に自分の上の存在であった田村を、おそらくいまでも桜庭は見上げている。田村は自分のボス（高田延彦）をKOした男であり、Uインターの危機が叫ばれていたときに、その同志を捨てるかのようにライバル団体へ移った男なのだ

我々ファンの位置から眺めると、桜庭は田村に対する深い嫌悪の感情を抱いて、おそらくそれは修復できないようにもうかがえる。もしかすると田村に対する嫌悪感こそが、彼をこの試合へと駆り立てているのか。

しかし僕にとってこれらのサイドストーリーは、UWFというケーキに乗せられた単なるオマケでしかない。たしかに彼らの歴史はこの闘いにさらなる魅力を加えるが、僕がいちばん心惹かれるのは、スリリングな闘いから生まれる芸術的な「プロ・レスリング」なのだ。フィニッシュへと導く彼らの攻撃スタイルは、試合展開をよりダイナミックなものとし、ファンの心を捉えて離さなかったのではないだろうか。

年末のイベントは、日本の全国民が注目するという意味で多くの格闘家たちにとって[illegible]な人物たちとは見えるか、そこには、Uインターにはありえなかった新MMA時代の色が落とし込まれている。つまり、ふたりの再会にバイオレンス性が生まれないという保証はないが、しかし僕はそれを美しく幻想的な現実のものとして、UWFのもっとも素晴らしかった時代の終焉として、悲しく見つめることになるだろう。

田村潔司vs桜庭和志。

きっとこの試合はUWFインターナショナルの最終章、ファイナル・ゴングとなるのだろう。ふたりのオーラがリングを包み込む。ふたりの師、高田延彦が強いまなざしでリングを見つめるなか、ふたりの道場生が向き合う。ミドルキックvsチキンウイングアームロック、いや、ダブルリスト・アームロックでもいい。先輩vs後輩、田村vs桜庭。UWFインターナショナル。

あと数行で筆を置くいま、まだ"田村vs桜庭"戦決定という報はまだ僕の耳に届いていない。"いつも通り"、赤いパンツの頑固者は「NO」と首を横に振るのか……いや、もしかしたら今年こそ彼は「YES」と首を縦に振るのかもしれない。

もし実現したら、そのとき僕がどちらを応援するかなんて聞かないでもらいたい。ただ、試合終了のゴングが鳴ったとき、ふたりの壮絶なる闘いと「最後のUインター魂」を称えて、喜びと悲しみの涙を流すのだろう。

[illegible] 03年11月23日 PRIDE・23 [illegible] PRIDE [illegible]

ふたりの師、髙田延彦が強いまなざしで リングを見つめるなか、 ふたりの道場生が向き合う。 ミドルキックvsチキンウイングアームロック、 いや、ダブルリスト・アームロックでもいい——。

JOSH BARNETT■1977年アメリカ出身、新日本プロレスリング所属。UWFのみならず日本文化をこよなく愛する"最強の電車男"。キメゼリフは「オマエはすでに死んでいる」。入場テーマはクリスタル・キングの「愛を取り戻せ！」。191 cm、125 kg

Uインターが崩壊して10年近くいまだに騒がれるのは凄いこと

にいまのPRIDEルールでは闘いたくない と常々言ってるんですが、田村さんとだけは……。

宮戸 （さえぎって）いや、それもわからない。そもそもなぜ桜庭がそういう発言をしているのかさえわからないし、それはもう彼自身の考えであって、僕には……。僕から言えることは、2人がみんなに期待されて大舞台に出るということの嬉しさだけですね。勝ち負けとかじゃなくて、実現したらそれは素晴らしいし、僕は身内だから、どっちに勝ってほしいという気持ちはまったくないです 同じ場所で生まれた人間がこうして頑張っているという画、として見守るというか。

――このカードを語ったり、見るうえでもUWFインターナショナルという団体は大きなテーマになりますよね。

宮戸 一人の頑張りが一番大きいのはたしかなんだけど、ほかにもしインター出身者がいまだに活躍しているのは、あの場所で確実に"何か"を得たことは間違いないんですよね そう考えるとUインターの数年間というのは、いろんな状況が奇跡的に揃っていたと思うんですよ

――いまだに大きな影響をマット界に残してますからね

宮戸 おそらく何か一つ欠けても成り立たなかった ただ、あのエネルギーがなんだったのか? と考えると、これが説明つかないんだよ。

――言ってみれば、魔法にかかったような

宮戸 そう。時代の魔法。だってさ、Uインターが崩壊してからもう10年近く経つんだよ それなのに、いまだ騒がれてるというのはもの凄いことだと思うよ。

――その魔法の源はなんだと思いますか?

宮戸 う〜ん。難しいけど、やっぱりプロレスの歴史の中で僕らに課せられた使命っていうのかな。それは確実にあったと思う。いまさ、"純プロレス" なんて言葉がもてはやされているけど、ハッキリ言えば、ボクがいまスネークピットで教えていることや、Uインターがやろうとしていたことが本当の"純プロレス" なんだよ!!

――昔から受け継がれてきた純粋なプロ・レスリング。

宮戸 ほかにもさ、勘違いされていることが多いんだよ。たとえば、近代レスリング史においてプロレスとアマレスはどっちが先に生まれたかといえば、プロレスのほうなんだよ! それにいまアマレスのフリースタイルで使われている技術は、キャッチ・アズ・キャッチ・キャンを安全に整備されたもので、もともとは古いプロレスのものなんだから! そういった真の プロレスという生き物の遺伝子を我々に受け継がせようという、目に見えない働きかあったような気もしますね

――何かに追い立てられていたというか

宮戸 そうそう だからそういう意味で、本当に魔法なんだよね 僕自身がいまスネークピットでやっていることはまさにその延長だと思う それは僕だけじゃないと思うよ いまだにタムちゃんと桜庭の対戦が期待されているということは、内部だけじゃなくて、外部にも魔法が及んでいたってことじゃない

――田村さんは『PRIDE』で高田さんの引退試合の相手を務めたことがありますけど、そこでもUインターがキーワードになってました

宮戸 もともと PRIDE というリングは、高田さんとヒクソンをやるために生まれた舞台だってことも含めると、やっぱりUインターと歴史的につながっている部分はあるとは思います。だからUインターの流れを追ってきたファンたちが PRIDE を見るのはよくわかる で、歴史を知らない新しいファンが自然に受け入れることもわかる。だからその意味で『PRIDE』も魔法の続きなのかもしれない

――Uインター物語の続きが『PRIDE』で展開されている、と。その魔法と呼ぶべき力は、徹底的にプロとは何か? という姿勢を叩き込む、団体システムから生まれたんじゃないかと思うのですが

宮戸 それもあるのかな いまも団体システムが残っているところはあるけど、だいぶ変わったと耳にするし いまの選手はどこかの団体の内弟子になるとか、雑用や細かい仕事もしながら厳しい練習するより、いろんな道場で手っ取り早く技術を教えてもらうことができるでしょ 会社側も選手をイチから育てるのは、やっぱりお金がかかるわけじゃない 寝る場所や食べ物なんかを提供しながら、それでいて明日逃げちゃうかもしれない、強くなる保証もない選手を育てていくのは負担がありますからね だからそれはそれでバランスが取れている

発言したことを受け、特別立会人のルー・テーズ氏がリング上から「蝶野よ、高田と対戦しろ!」と挑発発言。

11月8日 新日本とUインターの関係者が「高田vs蝶野戦」について新日本事務所で会談するも、長時間に及ぶ話し合いの末、物別れ。

11月9日 Uインターが記者会見で、新日本が「高田vs蝶野戦」実現の条件として「リスク料3000万円の支払い」と、「蝶野・挑戦者決定バトルロイヤル開催」を提示されたことを明らかにした。

12月20日 「東京スポーツ」制定プロレス大賞選考会で、高田が年間最優秀選手賞（MVP）を受賞。

1993

5月6日 日本武道館大会開催。ビッグバン・ベイダーがスーパー・ベイダーのリングネームで参戦。

8月13日 日本武道館大会で桜庭和志がデビュー。

1994

1月21日 リングス日本武道館大会。前田日明がパンクラス及びUインターに交流を呼びかける。

2月15日 Uインターが「'94プロレスリング・ワールド・トーナメント」（通称「1億円トーナメント」）の開催を発表。特別招待選手として橋本真也（新日本）、三沢光晴（全日本）、天龍源一郎（WAR）、前田日明（リングス）、船木誠勝（パンクラス）の5選手を指名、招待状を送付。だが同意は得られず、前田は団体対抗戦案を提示

2月25日 日本武道館大会開催。高田が「前田さん、ゴチャゴチャ言わんと、俺は一回戦で待ってます」と発言。また宮戸は「対抗戦で提示されたリングスのメンバーは、どこの誰かもわからない馬の骨」と挑発。

4月2日 高田がフジテレビのス[illegible]となる。

4月3日 「プロレスリング・ワールドトーナメント」開幕。大阪城ホールで開催。最終的に他団体選手の参戦はなし。なお、安生が「前田はUWFで終わった。いまやれば100パーセント以上、200パーセント勝つ自信がある」と再び挑発。

4月9日 安生のリングス及び前田に対する挑発を受け、リングスが安生と宮戸のリングス参戦を要求。これをきっかけにUインターとリングスの舌戦が応酬される。

4月20日 Uインターが脅迫及び名誉毀損で、前田日明を告訴。

4月28日 前田が[illegible]記者会見を開催[illegible]告訴を検討[illegible]

10月8日 日本武道館大会開催。鈴木健がリング上で「私どもはプロレスが最強の格闘技であることを信じております。ですからヒクソン・グレイシーなる選手と、グレイシー柔術なる格闘技に挑戦し、格闘技最強はプロレスリングである[illegible]」と、対戦要求を表明。

10月14日 大阪城ホール大会開催。山本健一（現・山本喧一）がデビュー。

11月10日 「グレイシー対戦要求」について記者会見を開催。安生が「高田さんが出るまでもない。200パーセント[illegible]」と発言。

12月7日 安生がロス郊外のヒクソン・グレイシー道場を道場破り[illegible]。安生は[illegible]と対戦[illegible]からの顔面パンチを浴びせられ、最後はスリーパーホールドで失神[illegible]込まれる。[illegible]

1995

3月2日 イスラエル大会開催。

と思うけど……。ただ、そんな中からドーンって飛び抜けた選手が生まれない現状は残念ながらあるよね

　実力の平均値は上がっているけど、傑出したスターがいないという

宮戸　それは野球界も相撲界も日本のスポーツ界はどこもたぶん同じ状況ですよ。もしかしたら、そういう古くさいシステムや、昔のようなスターは、時代が欲してないのかもしれないけど。だって日本全体がそういう状況だから。いまフリーターが凄く多いけど、働くほうもあんまり正社員になりたがらないって聞くから。会社側も結局、それでいいわけでしょ。だから要は時代の風潮なのかな

　そう考えると格闘技界の流れだけではないんですね。

古くさいシステムの中にはもの凄く大切なものが潜んでいる

宮戸　でも、タムちゃん、桜庭、それに大晦日で試合をする小川選手、吉田選手にしたって、なんだかんだいっていわゆる古いスタイルの修行をしてきた人でしょ。問答無用の下積みをクリアしてきた。そういうやり方をみんなは否定するけれども、過去の時代にスターと呼ばれた人たちは、ちゃんと下積みからやってきたんですよ。ただ昔と同じことがやりづらい時代ではあるだって、僕もスネークピットで旧式スタイルの指導をしているかといえば、なかなかできないですからね。そこは難しいですよ

　かつて宮戸さんがUインターでやっていた指導法を、いまの若い人たち相手にやったら……

宮戸　みんなすぐ辞めちゃうよ！（笑）

　ワハハハ！　その過酷な世界を田村さんや桜庭さんは通過してきたわけですよね。

宮戸　そう。僕はやっぱり「過去を振り返ってみてくれよ！」って言いたい。憧れを持たれる選手というのは、厳しく過酷な道を通った人しかいないですよ、結局。

――厳しい部分を通過してきたからこそ、思い入れを持って見られるところもあると思います。

宮戸　そういう核になるものをすべて失なったらどうなっちゃうんだろうね。たとえば、相撲がいまの格闘技界みたいに部屋制度をなくして、スポーツクラブ的になって自分の家から稽古に行くようになったら……相撲界は違うものになるでしょ。それこそもう終わりですよ

　相撲の威厳が軽くなってしまうというか。

宮戸　だから、みんながバカにして古くさいと思ってるかもしれないけど、良い悪いは別にして、そこには絶対に意味があったんですよ。プロレス界だってそう。意外と古くさいと思われているところに、もの凄く大切なものが潜んでいると思いますよ

――現時点で田村vs桜庭戦はどうなるかわかりませんが、もし実現するならば、いまのマット界にない大切なものを感じ取ってもらいたいですね。

宮戸　声を大にして言いたいね！

　わかりました。今日はありがとうございました！

【05年11月29日／スネークピットジャパンにて収録】

PRIDE・23で行なわれた高田延彦vs田村潔司戦。宮戸は田村のセコンドとして、高田延彦の引退試合、いまなお続くUインター物語を見守った。感動的な幕切れのあと、リングに並び立ったUインター勢。このような光景を再び見られる日はくるのだろうか？

みやと・ゆうこう■1963年神奈川県出身。85年、第1次UWFのリングでデビュー。同団体崩壊後は新日本プロレス参戦。第2次UWFを経て、UWFインターナショナルに参加。現在は高円寺でUWFスネークピットジャパンを主宰。ヘッドコーチとしてビル・ロビンソンを招聘し、"プロ・レスリング"を追求している
【UWFスネークピットジャパン】
東京都杉並区高円寺北2-15-1-2F　TEL 03-3337-1889

言うちゃ悪いけど今月の直言!!

大晦日はお祭りなんだから金子賢でもタッグマッチでもやったらいいんですよ!

プロレス・マスコミの"生きる伝説"

I編集長の喫茶店トークラウンド

毎回毎回、切れ味バツグンの『喫茶店トーク』。今回はもちろん大晦日格闘大戦をI編集長がブッタ斬ります! しかも、今回は"謎のプロ格者編集者"が聞き手の特別バージョン いつもとひと味違う"Iワールド"を体感せよ!

聞き手/堀江ガンツ? designed by bun-chan (Two Three

I編集長とは?

井上義啓。元「週刊ファイト」編集長。「活字プロレス」の創始者であり、その影響を受けたプロレス者の数は計り知れない。70歳になったいまも、毎日、プロレス&格闘技のことを考える哲人だ

さて、井上さん　いよいよ『PRIDE男祭り』が目前迫ってきましたけど、まず何よりに、俳優・金子賢が緊急参戦することの是否についてうかがいたいのですが。

井上　キミは俺が方々で書いたり、トークしたりしていることをちゃんと知っておって、しゃあしゃあとしらばっくれているな（笑）。

いえいえ、金子賢〝選手〟については、これっぽっちも読んだり聞いたりはしてませんから（笑）。

井上　まぁ、結論からいうとやね、おおいに賛成ですよ。『PRIDE』は勝負論、技術論でびしっと押し通さねばならないが、それは『ミドル級GP』といった『PRIDE』の本線に関したことであってね。それ以外のスペシャルマッチなどは思い切った特別ルール、付帯条件をつけての試合に持っていくべきだ、と俺はなんべんもいうとる。ましてや『男祭り』は年に一回のお祭りだからね　何も実力至上主義を振りかざして、目をいからせてやらんでもいいわけですよ。

——何度も拝聴しております（笑）。

井上　とうとうシッポを出したな、この古狸め！

井上先生ほどでは（笑）。

井上　だから小川直也vs吉田秀彦にしても、セコンドに小川のほうは和泉元彌親子と山G、吉田の側に清原（元巨人）、亀田興毅（WBA世界フライ級8位）などを配してだな。

なぜ清原と亀田（笑）

井上　そういった連中におおいに〝選挙活動〟させるわけですよ。

選挙活動ですか？

井上　そう、選挙活動みたいなもんだろう　試合当日までに両セコンド陣営に、ああだこうだと舌戦を展開させる。例えば元彌か「チキンが本気でバチバチやったら、吉田なんか3分もたないんじゃないの。やめるならいまのウチよ。ただしね、全国紙とスポーツ紙に全面広告を出して、すみません、小川さんには勝てないので出場を見合わせます、とやることとかな。

——井上さん、口調が元彌じゃなくて、インリン様になってます（笑）。でも、よくそんなこと思いつきますね

井上　ハッスルには山口のダンナ（山口日昇ハッスル大統領兼本誌編集長）がいるじゃないか。あの御仁のハチャメチャ振りには〝大阪のバカ〟なんぞ、ようついていけないからな（笑）。

よくいっておきます（笑）

井上　で、小川と吉田の話だけどやね。無論、両セコンドは大晦日当日、リングサイドに陣取る。ただし、それほど大げさには騒がない。なんせ、勝負論だからな　しかしだ、ブラウン管には、これでもかと言うぐらいに登場させるわけや。無論、試合直後はリング内に乱入させて、「この野郎めー！」となるわけ。そうやって、一触即発の乱闘ムードを作り出す、この瞬間が瞬間最高視聴率を取る唯一のチャンスですよ！

視聴率対策まで考えてましたか（笑）

井上　そりゃそうですよ、アンタ！　パスカル大先生は　人間は考える葦（あし）である　とのたまっておるからね　俺はそれをそばで聞いとったから（笑）

どんなボケですか（笑）

井上　ところで次のお題は？

——今年の大晦日決戦の一番のポイントは何かということについて。

井上　オイオイ、パスカルに教えた、この大先生をつかまえて、そんなチンプでアングラな質問をよくするねェ（笑）。さすが山口のダンナ仕込みだな（笑）。

——ターザン山本の影響もうけておりまして（笑）。

井上　アイツの八方破れには（現役時代）、さんざん泣かされたなぁ（笑）。何度、夜の夜中にアイツのヘタクソな字で書かれた記事を読んで泣かされたか（笑）

我々もまったくもって同じです（笑）。

井上　ポイントのみ列挙しよう　『Dynamite!!』の観客論、興行論を横目で見ていてはいけないってことだ　男祭り』にいかにそれを取り入れるか　無論、DSE本来の実力至上主義、勝負論をバッチリ活かした上での観客論、興行論だ。当然、谷川のダンナも『Dynamite!!』に勝負論、技術論を取り入れようとするだろうから、この両レベルのせめぎ合いとなるな。実力のパ、人気のセというやつや。どこまで自分の持ち味に相手の色を取り込んで勝負に出るかというね

7対3ぐらいに勝負論と観客論に振り分けると。

井上　そういうコト　曙vsボビー・オロゴンにしたって、1から10まで興行論じゃない。オロゴンなんか、さんざんボケておきながら、バッチリ技術論なんてやりだしかねないからねえ。人気のセと言えども、阪神の藤川球児みたいな凄いのもおるしね。

——ボビーは藤川球児クラスでしたか（笑）。『Dynamite!!』も勝負をかけてきますか？

井上　そりゃそうですよ。なんせ、バッチリ見比べられるんだからね。見てみろよ。谷川のダンナの目のつり上がっているところを（笑）

榊原代表もかなり、つり上がってますもん（笑）

井上　この俺か一番注目しているのがこのポイントや。ヒョードルvsズールにしたって、その気配が見えるしね　お祭りなんだから、少しばかり勝負論を緩めて、秀吉の醍醐の花見といきましょうというね。

なるほど（笑）

井上　しかしや。なんでミルコvsマーク・ハント、ヴァンダレイ・シウバvsヒカルド・アローナなんて、二番煎じのカードを組むのかということだよ！（ドンッ）

——あ、この2カードはお気に召しませんか（笑）。

井上　そりゃそうですよ、アンタ！　リベンジマッチはやるな、となんべんも言うとる！　リベンジマッチはトップ選手のマスターベーションに過ぎないんだよな！　マーク・ハントにしたって、じゃあ、今度ミルコに勝ったとして、それがいったいなんなんだよ！　ファンがリベンジをほしがってると思ったら大間違いや！　ウソだと思うなら、キミんところの『kamipro Hand』で「リベンジマッチを数少ないプロ格闘技の試合でやるのは是か否か」ってアンケートを取ってみたらいい。年に十何試合もやるっていうのなら、まだリベンジマッチだって許されるだろう。しかしだ、どのトップクラスも年に2、3回だ。下手すると、一回ぽっきりだ。その宝物のように貴重な試合に二番煎じを持ってこられたのでは、泣くに泣けないぜ！　ましてや、大晦日のお祭りじゃないか。もっと楽しいマッチメーク、ヘェーって驚くフレッシュなカードはいくらでも組めるだろう。

——例えばどんなカードがいいですかね？

『男祭り』にいかに観客論、興行論を入れ込むかがポイントですよ！

I・Yの考える「男祭りカード」

セルゲイ・ハリトーノフ vs 瀧本 誠

五味隆典&中村和裕 vs W・シウバ&M・ショーグン

井上 セルゲイ・ハリトーノフに滝本誠をぶつけて、打撃なしのグラップリングルールでやらせるとかね。シウバとマウリシオ・ショーグンとを組ませて、五味隆典&中村和裕組とやらせるとか、20分1本勝負でやったらいいんですよ。

『PRIDE』でタッグマッチを組みますか！（笑）。大阪の人は頭が切れるんですねぇ（笑）。

井上 そりゃそうですよ！ ターザンだって大阪出身みたいなもんだし、『週刊ファイト』の編集長なんて、俺以上に頭が切れるぜ。やっぱ、東京もんは大阪もんには勝てんな（笑）。

——山口によく伝えておきます（笑）。で、ですね。次はこれだけ大晦日が盛り上がっているというのに、その直後にある1・4東京ドームはどうなってしまうのかというお話です（笑）。

井上 寂しいねぇ（しんみりと）。1・4は来年で最後だよ。だったら、ドカーンと大きな花火を打ち上げんと。でっかい大バクチを打てというんだよ！ ブロック・レスナーと中邑真輔でおしまいって寂しすぎるのと違う？ それこそ谷川先生と榊原先生に頭を下げて「山本KIDと吉田を貸してください」と。「総合ルールにプロレスルールをいくつか加えた世紀の大一番がやりたいんです！」と。ロープエスケープあり、反則カウント2回あり、3度目は負けというね。場外カウントは20までとするとか。「須藤元気とショーグンを貸してください。プロレスマッチをやっていただきます」とか。

恐れ入りました（笑）。榊原社長のことですから、喜んで貸してくれるでしょう（笑）。

井上 OKしてくれるねぇ（笑）。オロゴンvsズールなんてカードにしたってけっこう、客入るぜ。

ところで、猪木さんはリングに上がらないそうですよ。「最後なのに、そんなすねた態度を取るべきじゃない」ってみんな言ってるみたいですが。

井上 こういうことなんだ。猪木は自分が創った団体でありながら、いつまで経ってもチンタラチンタラやってる姿に、いい加減、嫌気がさしていたんだよ。もう、どうでもいいやってね。ましてや、自分は大株主であって、直接的な権限を持っていない。現在の俺が『週刊ファイト』に対して、何一つ、差し出がましい指図ができないのと同じでねェ。

井上さんほどの大御所でも何も言えませんか（笑）。

井上 言えんねぇ（笑）。編集長は「なんでも言ってください」とことあるごとに言ってるけど、やれるものかね、そんなこと。現場の長だからこそ、あれこれ言えるんであってね。

——そんなものですか。

井上 そんなものだよ（笑）。だから猪木は、いつもひねくれたコメントしか成田会見でも口にしていない。

——あの暴走発言の数々は、それが原因だったんですか（笑）。

井上 それと、自分がオーナーなんて言われている間に、新日を潰すには忍びなかったんだ。"身売り"だと潰したことにはならないからね。

——たしかに印象はまるで違いますね。

井上 それと、自分の目の黒いあいだにリストラをやるのが嫌だったんだ。ユークスに渡してしまうと何をされようが、自分の範疇以外の話になる。猪木にはそうした考えがあった。だから1・4も気乗り薄だったし、もう手放した、よそ様のリングに自分がノコノコ出ていっていいものかどうかというね。

——しかしですよ。だからといってほったらかしというのはどうですかね。

井上 猪木の"永久電機"は完成したということだ。「近く記者会見があります」と、ある記者から聞いた（12月9日現在）。なんでもガソリンの効率を飛躍的に上げるものらしい。これを使うと、1リットルのガソリンで何倍もの走行距離が得られるとか。とすればだ、まさにどんぴしゃりの製品じゃないか。ホントかどうかは記者会見次第だけどな（笑）。

——そこが一番の問題なんですけどね（笑）。井上さんだったら、やっぱりリングに上がりますか？

井上 上がるねェ（笑）。"永久電機"も完成しまして、製品化の目安がつきました。韓国の工場で生産します。これで莫大な資金が得られますので、新日本プロレスの株が買い戻せるかもしれません。そうなると、今年で東京ドーム撤退どころか、大々的に来年も開催することになるかもしれない。元気があればなんでもできる！ この世の中、金があればなんでもできる。行くぞーッ！ 1、2、3、ダーッ！」とね。

——『井上小説』が見事に展開されましたね。感心します（笑）。

井上 いや、ホントにそうなるかもわからんよ。一寸先は闇だからねェ。

最後に何かおっしゃりたいことは？

井上 判定に持ち込まれた場合、会場のファンに、200人ほどを半券の番号で抽選してね。もちろん、大晦日の話だ。

以前から言われていた、ハッスルをさらに進化させた「観客ジャッジメント」ですね。

井上 そういうことだ。1・4でもそれをやれば、1000人ぐらいは増えると思おうが、どうだろう。メーンのレスナーvs中邑にしたって、そうすればいいんだ。どっちがスリーカウント取るかなんか、もうわかっとるんだから、せめて本当の勝者はどっちかを見ていた会場のファンに決めてもらうというやり方だよ。画期的だろ（笑）

——画期的すぎて涙がこぼれます（笑）。

井上 アタマは柔らかくしておかねばならない。ガチガチの脳細胞が、どうしてこんなに多いんだろう。よくわからんよ。小泉首相にしたって、石原都知事にしたって、ずいぶん、柔らかいアタマをしている。だからこそ、あれだけの改革をやれたんだ。石原都知事のカラス対策なんて、取り巻き連中のチエじゃない。石原さんの頭から出てきたことだ。そこへいくと、大阪は何をやってんだろう。明石海峡大橋なんて、初めから観光名所の役所（やくどころ）でしかなかった。しかもだ、それに懲りずに、今度は神戸が赤字間違いなしの神戸空港を作ろうとしている。バカさ加減もええ加減にしてほしいね。

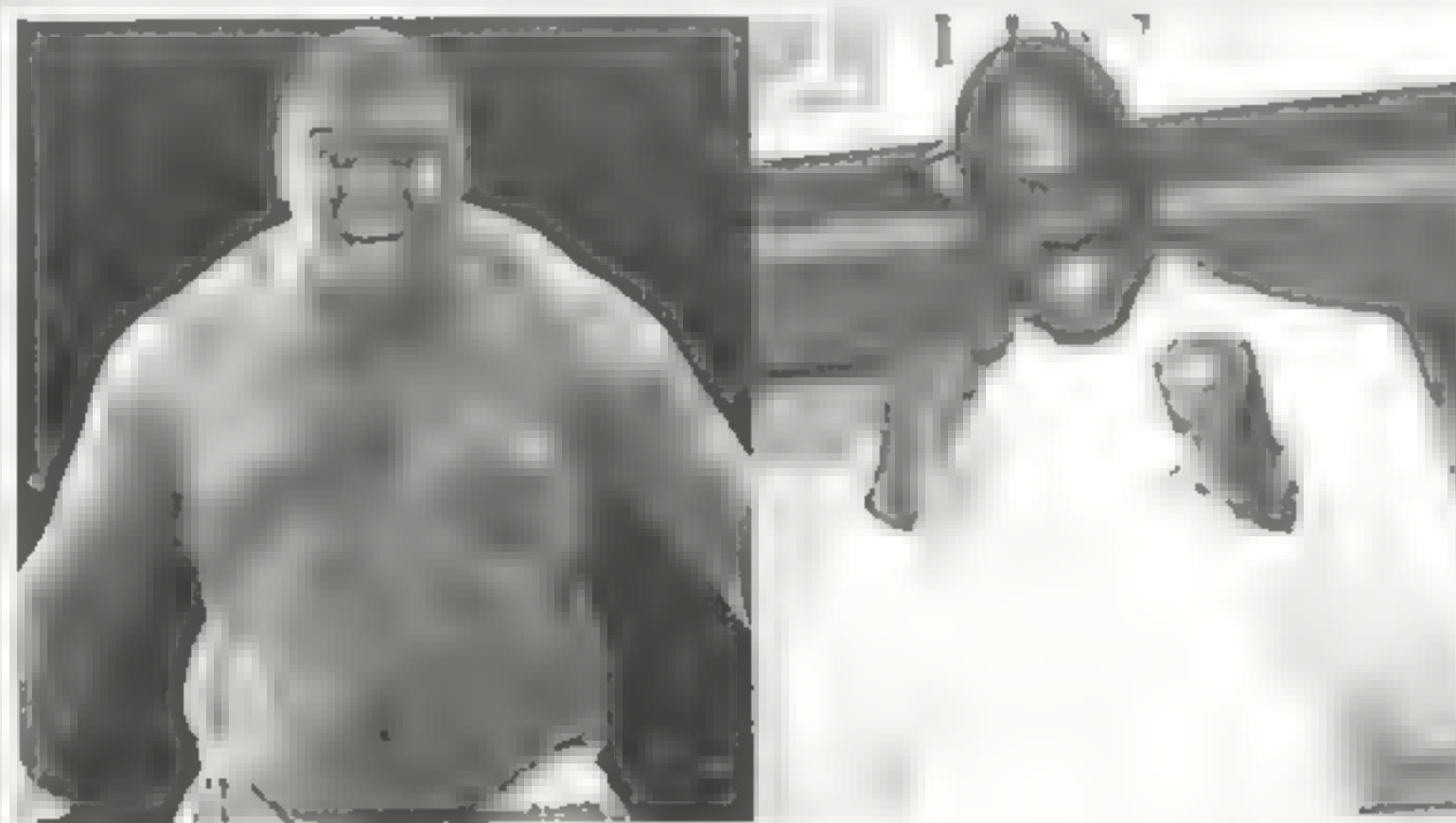
さっきまで、大阪もんは東京もんに比べてアタマがいいと言ってませんでした？

井上 大阪もんとは井上義啓以下、数百人だけ（笑）。

ありがとうございました（笑）。

【05年12月某日／I・ワールドにて収録】

I・Yの考える「1・4ドームカード」

吉田秀彦 vs 山本KID徳郁

ズール vs ボビー・オロゴン

1・4が最後のドームだというなら大バクチを打てというんだよ！

神の子KIDの“父”登場!!

最強はこの二人ぬきでは語れない!!

藤原敏男 × 山本郁榮
TOSHIO FUJIWARA × IKUEI YAMAMOTO

格闘技の“鉄人”と“神の子の父”が電撃タッグ!?

『kamipro』ではすでにおなじみの“鉄人”藤原敏男先生と、“神の子”山本KID徳郁の父・山本郁榮教授。キックボクシングとレスリングでトップに上り詰めた2人の“ちょい悪オヤジ”たちには、意外な共通点があった!?現在は指導者として活躍する“鉄人”と“神”が、現役時代・そして指導に回る現在の立場から格闘技について（お酒抜きで）たっぷり語ってくれた!!

聞き手・構成／中村カタブツ君&さささい　撮影／平工幸雄　designed by [illegible] TwoThree

――今日は格闘技界のレジェント対談ってことで、ボクらはドキドキしてます！

藤原　いや、教授（郁栄氏のこと）はね、

山本　“ＫＩＤ”徳郁選手の親でしょ？“神の子”の親たから神なんてすよ（笑）

山本　いやいやいや。僕もね、藤原先生のことは昔からテレビで見て知ってたんですよ。凄く有名だったから。

藤原　俺も“キックの神様”って言われてますから（笑）。

あ、今日は神様と神様の対談たったんですね（笑）。

山本　そう思うよ（笑）。

藤原　それでじつは昔レスリングをやってたんですよ、拓大で。

山本　あ、そうですか！

藤原　ムエタイ王者に密着された状態で勝つには、キックだけじゃなくて教授のやってるレスリングも必要だと思って。

昔オリンピックで優勝した……

山本　富山英明とかね

藤原　彼なんかとも顔見知りたったし

じゃあ、昔から微妙に接点はあったんですね。でも、巡り会うまではけっこう時間かかかりましたね

藤原　たまたまウチの後援会の会長か教授と知り合いで。

山本　ま、飲み友だちっていうか。そういうのもあって。

藤原　で、その話がポンと出て、「じゃあ、今度会おうか」ってことになって恵比寿でメシを食って。そこにはＫＩＤ選手も来て、ウチの小林（聡）なんかもみんな来て　それが教授との初めての出会いですね（笑）。

山本　やっぱり先生はもう迫力ありますよ。どんなこと言ってもスタイル変えないね。先生はいつもドンとくるから、あれが凄いと思うね。僕はやっぱり大学の教員たから、一応真面目ってことてやってるから

藤原　でも、俺と同じ（笑）。

山本　いったん学校出るとね（笑）。お酒飲んで格闘技の話すると盛り上がってねぇ

藤原　何時間ても話してられるね

山本　技術とか、精神面とか、魂とかね、そういう話が出るとね、すーっと二人で語り合って。やっぱりね、勝負に勝つか負けるかとなると、考え方とか姿勢っていうのは共通してますよ。

藤原　やっぱり真面目な二人だからさ（笑）。

山本　大好きです。そういう話になるとねー。

――では、その食事会はほとんど真面目な格闘技談義たったんてすね

山本　もちろん、真面目な食事会　そこて第一段階の話か終わったら、第二段階は大人だけでどっか飲みに行こうかって（笑）。

藤原　六本木で歌いながら（笑）。でも、そういうときでも俺たちは闘いを忘れないから。例えば、「あそこにいるあいつが突然来たらどうするか、どう動くか」を考えてるね、

山本　ワハハハハー

藤原　だから常に俺はマイクを持ったときには、グラスは離さない。

山本　真正面から来た奴には。

山本教授は“神の子”の親でしょ？だから神なんですよ（藤原）

藤原　そいつにクラスを投げて（笑）、二番手、三番手をとうかわすか、たた単に飲んへぇたと思ってたら間違いてすよ。いろんな意味が含まれているんですよ　ねぇ、教授？（笑）

山本　そうそう　その通り（笑）　僕なんかか現役の頃は道を歩いてる時、向こうから来る人間の目を見るの。そうするとやっぱり人間って殺気を感じるんだろうね　そのときに「あっ、こっち向くな」って思った瞬間スッとタックルに入る。

えー!?　タックル入れちゃうんですか!?

山本　いや、イメージだよ（笑）。それ僕、すっとやってたんてすよ　目か合ったら僕の負け。そうでしょ。「こっち向くな」と思った瞬間にパッと目を外す

藤原　そのときにはもう教授のタックルか決まってる（笑）。

山本　そうだね（笑）。

藤原　フェイントなんですよ。猫だましじゃないけど。パッとこっち向いた瞬間に下半身を攻めてるんてすよ、教授はて、俺の場合は同じ状況のまま、相手の神経か顔にいってるときにはローキックを放つ。気持ちが下にいったなってときはハイキック。

―それ、道歩いてるときの話ですよね？

藤原　そりゃそうだよ（笑）。それに、俺の場合は歩いているときに、チャリンコで後ろから来たらどうしよう、とか　横から来たらどうするかまて考えてるから昨日もそれやってた（笑）。

山本　ワハハハ！　格闘技やってる人間っていうのはそういうもんだよ。

恐ろしいですねぇ。一流格闘家は街中であっても、気持ちの中で勝手に人を倒しているわけですね（笑）。

山本　そういうもんだよ（笑）。
藤原　いや、本当　相手か複数の場合はとうするか、自分を有利な状況にとう置くかってことですよ。

―わかりますわかります。ただ、よーく話を聞いてると、山本教授はあくまでレスリングの話をされてるじゃないですか。でも、藤原先生の場合はスポーツの話じゃないというか、何かヤクザ的な感じを受けてしまって（笑）。

山本　ワハハハハハ。
藤原　ヤクザじゃないだろォ。これはあくまでキックの話。常に自分を有利な体勢にもっていくということね。
山本　やっぱりこれが競技の特性の違いですよ。

―たったそれだけの違いですかぁ!?

山本　そうそう。
藤原　だって、キックにしても何にしても最初はガンつけるかつけないかで始まっちゃうんだから。ねぇ、教授？
山本　そうそう。僕も若いときはさんざんやりましたよぉ～。国士舘だの何だのみんな来るから昔はウチの近所たったから
藤原　あの頃の国士舘っていったら荒っぽいてすからね
山本　荒っぽい、もう　たから、藤原先生の話はわかりますよ　やっぱり殴る、蹴るの闘いですから。我々はそれがないから。いかにタックルで倒してって技しかできないでしょ。

―やっぱり教授はそういうときもタックルだったんですね。

山本　いや、ケンカは殴り合いでしょ。当たり前ですよ。タックルなんていけないよ。
藤原　そういう修行は大事ですよ（笑）
山本　そうですね　僕は小学校、中学校までケンカは学校て一番たったから　みんな僕の子分。あの地区では山本が一番って言われてたの。すごく強かったの。一度、高校を守ってやったことがあるからね　たから、いま、息子も仲間を守るのでヒリヒリと伝わってきますからね。
藤原　血筋なんてすよ　そういうのか肌
山本　先生とはこんな話を酒を飲みながらね、歌いながらね、してるわけですよ。ワハハハ！
藤原　でもね、俺は逆に教授みたく小さい頃からケンカしたり、親分でってことはなかったたから。
山本　ま～ったく！　本当のこと言ってくださいよ（笑）。だいたいこういう世界でやってく人は小さいときから強かったんたって
藤原　いや、二種類あるんですよ。小さい頃から強い者と、それに憧れた3番手、4番手の男がいつかやってやろうっていうのと。俺は後者のほうなんですよ。この世界に入ったのも20歳でしょ。

―あ、だから、いまやってるんですね（笑）。

藤原　それは佐山か言ってるたけ！
山本　ワハハハハ！
藤原　俺はアルコールが入ったりしたって何したって楽しくなるほうだから。たたね、歌たけは自信かありますよ
山本　格闘技と一緒て心て歌うから　僕にもそれはありますよ　自信持って歌うからひるむなんてことは全然ない。
藤原　教授の演歌はいいですよ

藤原先生と格闘技の話をずっと語り合ってるんです（山本）

山本　僕の中高校のときは石原裕次郎、小林旭、それから赤木圭一郎なんかをずっと映画で見てたからねぇ
藤原　教授は日活アクションの人だから（笑）。
山本　あれが全盛て、そのあとは高倉健の東映任侠路線　あの頃は、女房子ともにも「あれ見とけ！」って言ったもんですよ（笑）。
藤原　そこも一緒（笑）。浅草のオールナイトなんかで見に行って、帰りは自分がヒーローになったつもりで出てくるんですよ。
山本　そうそう。そのつもりになっていまでも歌うから（笑）。
藤原　結局自分か一番たと思って、お互い歌ってる（笑）。
山本　藤原先生か歌ってるときは「うまい」って手を叩いて褒める。でも、「自分のほうがうまいよ」って今度は僕がマイクを握る（笑）。そうやって15～16曲。朝まで歌ってましたねぇ

―当然、カラオケボックスとかそういうところじゃないですよね？

藤原　カラオケボックス!?　そんなところ行って歌おうなんて、これっぽっちも思わないよ。
山本　かわいい女の子がいっぱいいるところですよ（笑）。

―とうですか？　飲みっぷりのほうはお互いに。

山本　いや、先生は凄いよ。僕はそんなに強くない。
藤原　とっちかっていうとね、酒をたしなんで味わって飲むほうだから。
山本　そう。
藤原　俺みたいにカフカフ飲まないからね　すこく品のある飲み方するんた

山本　僕は365日、お酒絶対毎日飲むの。欠かしたことない。でもね、量は少ない。

藤原　俺らが、たいたい3杯飲む所を一杯におさえてる

山本　でも、先生は強いね。

藤原　いやぁ、飲みすぎると悪酔いしますよ。こないだ、五反田で野球の衣笠選手と6時半に会って、次の日の朝6時半まで飲んでたんですよ。5～6軒回ってるからね。そのときはさすがにね　起きれなかったな（笑）

山本　だけど僕も現役辞めてコーチになるとそういう機会が増えるから。コーチになったはかりの頃は凄い飲んたねぇ　それでドンドン強くなってこれはまずいなって思って量を減らしたんですよ。だって、一応教員だから、酒臭い身体で学校行けないでしょ。それがなければ僕もねぇ

藤原　俺もたまに血液検査やるんですよ。で、数値が100くらいになって「あんた死ぬよ」って言われて、それで一週間やめて、「とれたけ下かったかな」って測ると元に戻ってるんです　そうなると、「毎日3時まで飲んだらとんなふうに変わるかな？」って思って、また飲み行って（笑）。

山本　ワハハハ！　僕はね、健康体なんですよ。血液検査も全部。だから、毎日飲むの。それに飲みすぎて頭痛くなることを思うとやめますよ。嫌ですもん。次の日の夕方までですからね、二日酔いのときは。

藤原　でも、その夕方になったらまた変わっちゃうんだよね（笑）。

山本　そうそうそう、そうなの！　夕方まで調子悪くてボーッとしてて、「もう絶対飲まない！」と思うけど、太陽か沈んで暗くなると、パッと「また行くか」って（笑）。そんなもんですよ。

藤原　それは毎回ですよね。今日はやめよう、やめようって思って　たた、あと何年生きるかわからんけど、今日一日という日は二度と戻らんから、今日出会った人と楽しみなから、中途半端はせすに常に100パーセントの力で生きるんだと。

——結局毎日飲むんですね（笑）。

藤原　そう（笑）。

山本　男っていうのはそうやって生きるんですよ（笑）。

——で、横に素敵な女性がいると、さらに120パーセントの力が出るんですね。

山本　もうね、先生はうまいですよ、女性の扱いが。

藤原　いや、それは……（苦笑）。

山本　もう盛り上げてね。女性を楽しませてね。

藤原　いや、こういう格闘技の話をしてるときって女性には理解できないでしょ。退屈でしょ。そういうときに女性を話の輪の中に入れるのは例えば、「パンチを打ってきてごらん」と　て、「そうきたら、こうやってかわすんだよ」って丁寧に教えてあげる（笑）。

山本　そうするとね、たまたま手を握ったりってことにもなるわけで。うまいでしょ（笑）。

藤原　いや、プロ的な考えでいったときに、「じゃあ素人はどうくるんだ？」って疑問が湧くでしょ？　そういうときに身振り、手振りで教えてあげながら、自分も学ぶわけ（笑）

山本　そうそうそう。それだけ（笑）。

——まあ、お互いいまや指導者ですからね、どこにいても指導は忘れられないというか（笑）。しかもお二人とも世界チャンピオンを育てた名伯楽てすから

山本　たから、息子にも言うんたけと、「殺す気になって初めて、ちょうといいんだよ」と。殴り合いっちゅうのは倒すんだから。倒すっていうのは、殺す意識かないと絶対に自分の力っちゅうのは出せないから。

藤原　そうなんですよ。

山本　ボクシングみたいにポイントで勝っていくのと違って、本当に一発で倒すか、極めるかっていうのは「相手を殺す気でやらなきゃダメだ」「スポーツじゃないんだ」って。だからね、息子は僕のことを「ヤバイ」って言うんだけど（笑）。

藤原　スポーツとこれは違うんだよねアマチュアとプロの世界かまた違うように。だから気持ちの上では、教授のはもうケンカだからね。「殺られる前に先に殺れ」っていう。相手がどれだけ強いかわからないんだから、ゴングがカーンとなったら、とりあえす相手の気持ちを委縮させちゃう。萎縮させて自分のペースに引きすり込んで倒す

山本　その通りなんですよ。そういうのがなかったら、プロの世界でね、勝っていけないですよ。

藤原　どっちみち技は後からついてくるし、技を使うのは自分の気持ちかなかったら使いきれないから。

山本　そう。そこなんですよ。ただね、「殺られる前に先に殺れ」っていうのは心で思ってるだけで、「故意にするなよ」って　たから、息子と魔裟斗がやったときに、金タマ蹴られたでしょ？

藤原　あれはとうかと思うんたよ。やられたほうはそれなりに不利な状況になるんだからね。あれで心が折れてしまう場合もあるしね、金的っていうのは。だから本当ならあの試合はあそこでストップさせて次回リターンマッチでするか。ああいうのやられたら、やられ損なんだから。あそこで続行させるのは、ちょっと難しいんだよね。

山本　そうなんですよ。

藤原　とくにトップ同士がぶつかってるんだから。

山本　本当のところはわからないけれど、僕からしたらあれはもう狙いうちですよ。素人の僕だって、金タマ蹴ろうと思えばいつだって蹴れますよ。そりゃ～もう、できますよ。魔裟斗選手だってチャンピオンだから、「スポーツじゃない」って気

昨年大晦日に行なわれた魔裟斗vsKID　敗れたが、最初にダウンを奪ったのはKIDだった。この形相！　裏には山本教授からの「殺す気でいけ！」というアトバイスかあったのである

撮影の際、仮想スパーリングをお願いすると[illegible]な緊張感が。「僕の場合はタックルにいっちゃうから（山本）」「俺はこうやってヒシにいくんだよ（藤原）」と、ぶっそうな意見交換も行なわれた。鉄人と神の一戦、もしくはタッグ結成[illegible]は見てみたい

持ちは持ってますよ。もちろん息子も持ってるけど、あいつはまだK－1始めて1年経ってなかったから。あれが2回目だからねぇ。だからそんなこと考えないじゃない？　あれもらって吐きそうになったっちゅうから。

藤原　金的はまともに入ると、ホントやる気なくなっちゃうから。俺も何回もあるよ。

山本　それで、2R動けないからやられたの。そういう中でも、あいつは凄い試合を見せたからね。だから、評価されたでしょ？

でも入れられたのを見てて、「この野郎！」ってのはありませんでした？

山本　僕、リングサイドにいたからね、父親として魔裟斗のところに行って、「男か急所狙ってね。お前ね、ホント汚い」って怒ってやったの。

藤原　俺は絶対、やられたらやり返してるけど。やられたら、倍にして返すほうだから

山本　いや、それくらいの気持ちは絶対持たなきゃダメなの。でも、徳郁は経験積んでないから。まだわかってないからキックホクシンクを　だからそういうところまでわかってなかったなぁ。でもあれだけ冷静に打ち合いができるっていうのはね、凄いですよ。できないよ、普通は

とうですか？　藤原敏男先生から見てKID選手は

藤原　何よりもまず度胸がいいね。魔裟斗君とは5kg、10kgって体重差があるのに身体一つでぶつかっていく。逃げずに正面からぶつかっていく。どっちかっていったらインファイトするタイプでしょ。はっきり言って、日本の総合選手の中じゃ〝革命児〟。小よく大を制すじゃないけど、ぶつかっていく気持ちが一番気持ちいいですよ。

山本　先生にそう言って貰えるのが一番嬉しいねぇ（笑）。

ホント意気投合してますね（笑）。

山本　せっかく知り合えたわけですから、今後ともお付き合いしたいと思ってますね。

藤原　こちらこそ。

そうなると来年の『藤原祭り』にもぜひお二人がタッグを組んでいただけると面白くなりそうですね。

山本　もちろん！　じつは今年の『藤原祭り』も最初は先生対徳郁って話もあったんですよ　でも、さすがに年末の試合を控えてるんで今回はご遠慮させていただいたんですね。ただね、僕も先生を盛り立てていこうというメンバーの一員ですから（笑）。

藤原　ありがとうございます。でもねぇ、佐山とか藤原組長とかは大衆の面前でね、俺をイジめて喜んでるだけなんですよ、みんな（笑）

山本　ワハハハハ！　ますます面白そうですね

ぜひとも、山本教授には来年出ていただけると嬉しいです（笑）。

藤原　あのさ、来年あるかなんてわかんないよ　たって去年は終わったあと4、5ヵ月あちこち病院通いしたでしょ。で、今年は佐山かね、「1年くらい動けないようにしてやる」って言ってるからねぇ

山本　ワハハハ！　佐山さんっていうのは僕の同期で山口出身の奴がレスリングを教えたんですよ。

藤原　木口先生とも知り合いだから。

山本　そう　彼も、僕と同期ですね。

藤原　KID選手の結婚式で木口先生か歌ったでしょ? あのときに「今度佐山と3人でカラオケ行こうよ」って言ってましたよ。「今度歌おうって佐山に言っといて!」って（笑）

——佐山さんと山本教授はお知りあいなんですか?

山本　いや、たまに会場で会ったりするだけ。それ以上の付き合いはないねぇ。

藤原　付き合わないほうがいいと思うなぁ（苦笑）。あいつは人前では俺のことを先輩って言うんだけどね、後ろに回っちゃあ、俺を蹴落としてるようにも見えるからねぇ（笑）

山本　そんな人なんですか（笑）。総合格闘技を作ったのが佐山さんと木口さんですよね。最初は。そこからコツコツやりながら作っていって、それを一つ一つまとめた感じですよね。でもね、本当に40年前にこういうの（総合格闘技）があったらね、僕絶対やってたねぇ

藤原　あの当時は総合なんてほとんとなかったから　ま、あったにしたって、日本の格闘技雑誌に載るようなものなんてないしね。

山本　たから、僕は格闘技は見るはっかりだった。中学は水泳で、高校はバスケットで、レスリングは大学で始めたの。

藤原　え、大学て始めたんてすか?

山本　そうです。大学からやり始めてインターハイでも国体でも全部勝ちましたから、3年て　て、4年て全日本取ったんたから　たった下積み4年たから　カハハハハ

——バスケからレスリング、そしてオリンピックってジャンボ鶴田みたいですね（笑）。

山本　そうそうそう（笑）。日体大入ってまずボクシング見て、レスリング見て、柔道見て、ホクシンクも柔道も弱いからレスリングに入ってね。強いところに行かないと日本一になれないから　僕はもう、最短で全日本取って、最短でオリンピック出たねぇ（笑）

藤原　やっぱり、あえて強さを求めるんてすよ

藤原先生も鬼の黒崎道場に行ったわけですからね。

藤原　俺はそんなこと知らなくて入ったんたからね（笑）　卓球とテニスをやってた人間が間違って入っちゃったんだから、20歳のときに（笑）。

なのに、お二人とも世界を制したと。もしかしてこれは天才対談だったんですね（笑）。

40年前に総合格闘技があったら僕は絶対やってたね(山本)

外国人選手初のラジャダムナンスタジアム王者となった藤原敏男。1日8時間以上という練習量もさることながら、レスリングを取り入れるなとの工夫も欠かさなかった

山本　そうですよ。そう思うよ（笑）。

藤原　ても、俺もね、他のシム行ってたら、おそらく、いまはないと思うね　あそこで黒崎先生に出会ったたっていうのは大きいよ　やっぱり自分か強さを求めるのであれば、教える先生が凄くなきゃね　やっぱり自分も求道精神が強いし。教授もそうだと思う

山本　そうですよ。じゃなかったら一番強かったレスリンク部を選はなかったから　弱いところて一番になっても井の中の蛙でしょう。

藤原　そんな教授の性格を見抜いて、指導してくれた人も素晴らしいですね。

山本　でも、昔の指導者ちゅうのは、細かいところ教えないの。バカーンってぶん殴って終わり。

藤原　ウチもそうたった　「ローキックとうやるんですか?」「ハカ野郎、やるのはお前だ!」って（笑）。

山本　同し、同じ　昔の指導者はそうたったの。竹刀でパンパンやられるの。

藤原　木刀持ってね　「この野郎」っていま俺なんて優しいですよ。笑いを入れながら、褒めて褒めて褒めて

山本　僕なんかも褒めるね　僕のやり方は、記憶に残させるの　例えは、教えてると、ある瞬間に選手はいい動きすることがあるんですよ。そしたら、そこで止めて、「いまの良かった」って言って、それを反復練習させる　そうすると、そういういいものしか身につかないの。だから、徳郁か雑誌かなんかで「俺はいいものしか教えられてないから、いいことしかできない」って言うでしょ。あれは僕か教えたから!（笑）

藤原　さすが神（笑）。

山本　ワハハハ!　もうこうなったら自分て言うけとね、僕、チャンピオン作る名人って言われてたの。あるときの大会なんかうちの大学の選手か10階級中、9階級て優勝したからね（笑）　ただ一つ残念なのは僕らの頃はトレーニンクにしても、技にしても自分で作っていったんですよ

藤原　あの時代はそうですよね。さっきも言ったけど、教えてくれないから(苦笑)。

山本　たから、タックルてもね、絶対切れないちゅう技を考えて。

藤原　オリジナル技をみんな持ってた、強い人間は

山本　そう。グラウンドもスタンドも全部オリジナル　藤原先生もそうでしょ?

藤原　たから、キックにレスリンクを取

ALL JAPAN KICKBOXING 2005

藤原祭り

2005.12.5／東京・後楽園ホール

藤原敏男、藤原喜明vs(10分14秒ノーコンテスト)
初代タイガーマスク、鈴木みのる

12月5日、後楽園ホールで開催された全日本キック『藤原祭り』第6試合において、藤原敏男&藤原喜明組と初代タイガーマスク&鈴木みのる組による、60分1本勝負が行なわれた。この日の藤原敏男は[illegible]着用、[illegible]も[illegible]タイガー仕様で登場。試合前には特別ゲストの高山善廣から花束が手渡された。会場には山本教授も来場し、藤原敏男の奮闘に笑顔を見せていた。
"総合ルール"で行なわれたこの一戦は、ダブルの攻撃はもちろん(?)、頭突き、酒が投入される波乱の展開に。さらには藤原組長の取り出したケーキが藤原敏男の顔に誤爆。総合"格闘技"ルールではなく"なんでもあり"の総合ルール、もしくは"なんでもそろっている総合デパート"的な様相を示した闘いは、最後に藤原敏男を3人でフォール。和田レフェリーからノーコンテスト裁定が下されると、4人はよってたかってレフェリーを痛めつけた上で握手をかわし、互いの健闘を称えあった。
この日の大会では、藤原敏男の愛弟子である前田尚紀がTURBOを相手に激闘を展開。3R終了ギリギリにダウンを奪って勝利。メインでは小林聡がムエタイ迎撃。KOで『一番面白れえのはキックボクシングなんだよ!!』とマイク。見事に大会をシメた。

挑発を受けたときは「選手生命を終わりにしろ」って言ったよ（藤原）

り入れたわけですよ　結局、自分の良さを知って、誰にも真似できないものを自分で作ったんですよ。でも、いまの連中は俺の格好は真似するけど、ここ一番の……。そういったことも全部教えてるんだけど、できないですね

山本　僕も教えてましたよ　でも、できない。びっくりするだけ。

藤原　いまの選手は、考えればもっともっと、教えられたもの以外に自分の良さなり、個性のあるものを絶対できるはずだと思うんですよね

山本　でも、やらないよなぁ

なんだか天才の嘆き対談になってきてしまいました（笑）て、最後にですね、やっぱり年末のKID vs須藤戦についてもお聞きしたいですね

山本　このあと、徳郁にも会って言うんだけど、須藤元気を倒す方法っていうのはあるんですよ　ここでは言えないけど

藤原　たぶん今回はね、一発で決まると思いますね

山本　あのね、相手が勝てるのは一つだけ　バックブローだけなの。

藤原　須藤君は決め技はあんまり持ってないんだよ

山本　だから、やり方はあるんで、楽しみにしててくださいよ（笑）。申し訳ないけど、これぐらいしか話せない。

――わかりました。山本教授はKIDさんの試合を見てて熱くなるんですか？

山本　なりますよォ！

そのとき、お酒は飲まれるんですか？

山本　いや、僕は試合見てるときには飲みませんよ。

そうなんですか？　でも、以前、KIDさんを取材したときに「親父が一番、ヤバイ　前に試合の控室に来て　今日は殺っちまえ！　って言うんだけど、その息が酒臭い」って言ってたんですけど（笑）

写真右/ふじわら・としお、1948年生まれ。現藤原スポーツジム主宰。20歳から始めたキックボクシングで外国人初のラジャ王者に輝いた。キックの神様であり鉄人。　写真左/やまもと・いくえい。1945年生まれ。日本体育大学教授。大学から始めたレスリングでミュンヘン五輪出場を果たす。女子レスリングの第一人者である山本美憂、聖子、そして山本"KID"徳郁を子に持つ"神の子の父"。

相手を消せばその選手とはもう試合しなくて済みますから（山本）

山本　ああ！　ありましたねぇ（笑）。でも、あのときは相手の選手が試合前の記者会見で徳郁を馬鹿にしたから、こっちも力が入っちゃってね。「プロのタックルを教えてやる」とか、どうのこうのって言うから　徳郁は相手のことを絶対にケナさないから怒ってね　だったら、もう相手を消せば、その選手とはもう試合しなくて済むんで、だから「殺れよ」って（笑）て、メッタ打ち　あれもハンパじゃない

藤原　それはありますね　俺も、小林がそういう挑発を受けたときに「二度と立ち向かってこないように選手生命終わりにしろ、壊せ」って言った。

はぁ（苦笑）

山本　そりゃそうでしょ　そうすれば、あとやんなくて済むんだから

藤原　ねぇ、壊しちゃえばいいんだから、そんな簡単なことないよ。

山本　そうそう。

――そこらへんでも指導法は一緒なんですねぇ（苦笑）。

山本　同じだ（笑）

藤原　俺もね、選手生命終わらせたヤツが二人いるから

山本　ガハハハ！

藤原　だって、そういうのがあとに残らなくて一番いいんだから（笑）。

山本　それがプロの試合だからね（笑）

ええ、お二人とも普通に怖いというか、なんだか最後は恐怖対談になってしまいました（笑）　藤原先生、山本教授、今日はどうもありがとうございます！

山本　いやぁ、僕はこういう話だったら何時間でも話しますよォ！　こちらこそありがとうございました！

【11月28日・藤原ジム近くの喫茶店にて収録】

『男祭り』出場を控えた男たちが集結!

格闘情熱大陸
BRAZIL
現地徹底取材大特集

バーリ・トゥード発祥の地ブラジルについに「kamipro」が上陸!『男祭り』を前に、大晦日の主役たちが集結しているこの総合格闘技の震源地で、シュートボクセ、ブラジリアン・トップチーム、ファス・バーリ・トゥードという3大ジムを回り徹底取材を行なった。決戦前の熱き胸騒ぎをサンバのリズムで読め!

構成／堀江ガンツ　撮影／乾晋也　designed by

★BOXE

Parana Curitiba

日本ではその獰猛なファイトスタイルから“悪魔の巣窟”と謳われたりもするシュートボクセだが、実際に訪れてみると、フジマール代表とヴァンダレイ・シウバが先頭に立ち、じつに規律正しくトレーニングが行なわれていることに驚く。もともとジムがあるクリチーバという街は、計画的に開発された街で治安もよく、その町並みの美しさはブラジル1とも呼ばれるところ。そんなクリチーバの街同様、シュートボクセも整備された練習環境の中、強くなるプログラムがしっかりと形成されている。それこそが、シュートボクセ勢の強さの秘密なのだ

CHUTE★

Sakuraba

桜庭和志

格闘情熱大陸 BRAZIL

再生への武者修行

…o reproduction.

Kazushi S

ブラジル南部の都市、クリチーバ郊外にあるバーリ・トゥード&ムエタイ道場「シュートボクセ・アカデミー」。かつての宿敵ヴァンダレイ・シウバ、「PRIDE GP 2005」王者マウリシオ・ショーグンがいるこのジムに、桜庭和志は11月中旬から12月上旬まで、今年二度目となる集中特訓に訪れていた。

前回、8月末から10月上旬に訪れた際は、高田道場の後輩・高橋渉を帯同しての練習であったが、今回は急遽、俳優の金子賢が加わったものの、実質的には単身での"武者修行"。フジマール会長に借りた車を自分で運転してジムに通い、身の回りのことはすべて自分で行なう。『PRIDE』が誇るスーパースターが、ここでは本当にいち留学生として、シュートボクセ流の闘いをマスターすべく、練習に明け暮れている。

11月25日、我々が取材に訪れたその日も、桜庭は一般生徒に混じって、道場の片隅で練習の準備をしていた。さっそく挨拶に行くと「僕は練習しに来てるだけなんで、取材はいいです。周りのみんなを取材してあげてください」と。事前に高田道場から聞いていた通り、軽くインタビューNGの返事。田村潔司戦が取りざたされながら決定していない現状では語りようがない、また本誌92号で語っていたように「面倒ください」ということだろう。

その代わり、日本では「練習は見せるものじゃない」という考えから、ほとんど練習を公開したことのないサクが、「僕はここで練習させてもらってる身なんで、フジマールさんがOKなら」と、シュートボクセでの練習風景をたっぷりと見せてくれた。

現地でサクは午前中と夜、それぞれ1時間〜2時間半、2回に分けてシュートボクセで練習。その他に午後、プールに行ったりと一日みっちりと練習漬けの日々を送っていた。その練習内容もハード。シュートボクセのヘッドコーチであるハファエル・コルデイロ氏がみっちりと付きっきりで、ミット持ちをやり、打撃練習でサクのスタミナの限界を引き出していく。それに対し、ふらふらになりながらも叫び声をあげながら食らいついていくサク。どんなトップファイターもこうしたボロボロになるまでの練習を耐え抜いて、『PRIDE』のリングに上がっているという、当たり前のことながら忘れがちな事実を改めて思い知らされる光景だった。

シュートボクセに来てからのサクをフジマール会長は「どんどん良くなってきている」と評価する。以前のサクは試合中、打撃を出したときにガードがガラ空きになってしまう癖があり、"敵"であったときはそこが狙い目だったとフジマール会長は正直に教えてくれた。事実、サクはシウバとの3度目の対戦で、ローキックを放った瞬間、シウバのフックをアゴにもらいKO負けしている。

宿敵だったからこそ知っているサクの強さと弱点。フジマール会長はそれらシュートボクセが見つけ出したサクの弱点を矯正し、打撃戦に対応できる桜庭和志のニューモデルを作り上げようとしている。それがいつ完成するのかはまだわからない。しかし、多くのファンが望む桜庭和志の"再生"に向かい、着実に前へ進んでいることだけは確かだ。

12日現在、『PRIDE男祭り』での桜庭和志の対戦相手は決まっていない。どうやら期待された田村潔司とのSADAMEの一戦は、3度目の正直を期した今年も残念ながら流れてしまったようだ。

そうなると代わりの対戦相手選びに苦慮しそうだが、これを書いている現在、超実力派ストライカーの名前も浮上しているようだ。これが事実であるならば、"モデルチェンジの途中"で闘うには、あまりにもキツい相手に思えるが、サクの再生がどこまで進んでいるかを測るにはもってこいの相手とも言える。

いずれにせよ、今年もサクは大晦日のリングでその生き様を見せてくれることだろう。

rlei Silva

ヴァンダレイ・シウバ

いたが、それでもシウバは傍らでファファエラちゃんを遊ばせながら、黙々とトレーニングメニューを消化していた。"絶対王者"とまで呼ばれるシウバの強さは、こうした日々の弛まぬ努力の結晶なのだと、いまさらながら思い知らされた格好だ。

　そして1時間に渡るの密度の濃いフィジカル・トレーニングが終了。シウバは疲れた表情も見せずに、我々のインタビューに快く応じてくれた。

——今日はご自宅に招いていただいたわけですが、想像以上に素晴らしい家ですね！

シウバ　アリガトウ（ニッコリ）。

——この家はいつ建てられたんですか？

シウバ　この家は建て売りを買ったんだけど、1年前からリフォームをしているんだ。より陽が当たるようにしたり、トレーニングルームをつけたりね。あとは、いまプールも作ってるんだ。明日は日曜日だから娘の友だちがたくさん遊びにくるんだよ（嬉しそうに）。

——やっぱり、この家を買った決め手は見晴らしのよさですか？

シウバ　そうだね。景色がいいし、街中と違ってこのあたりは静かだからね。

——お城の高い所に住む王様や将軍様同様、やっぱり王者は高い所に住みたいものなんですかね？（笑）。

シウバ　俺はここの景色が好きで高台に家を買ったんだけど、将軍と同じ趣味だったとは知らなかったよ（笑）。

——ちなみにミルコ・クロコップの家も街を一望できる高台にあるんですよ。

シウバ　まぁ、彼のことだから街は俺のものぐらいに思ってるのかもしれないな（笑）。

——で、ヴァンダレイさんはいまでこそこういった家を建てられるほど成功していますけど、娘さんが生まれた頃っていうのはかなり生活が厳しかったらしいですね？

シウバ　そうだな。俺は娘が生まれた30日後にデビューしたんだよ。そのとき、俺は親父のバーで仕事をしていて、週30ドルという生活だった。

——わずか30ドルですか！

シウバ　だから試合前でも仕事は休めなかったし、当時は勉強もしていたしね。

　勉強というのはどんな勉強なんですか？

シウバ　俺は大学に行きたかったから、そのための学校に通っていたんだよ。

——学生でもあったわけですか。それじゃ、メチャクチャハードな生活だったんですね。

シウバ　かなりハードだったね。

——こんにちの成功を予感したのはいつ頃からなんですか？

シウバ　5年ぐらい前からファイターに専念できるようになったんで、その頃かな。最初に『PRIDE』に出たあと、俺は初めて自分の車を買えたんだ。もちろん中古車だけどね（笑）。

　そこから、いまの成功を勝ち取ったのは、やはり誰よりも勝ちたい気持ちが強かったからなんでしょうか。

シウバ　自分はこの5年間『PRIDE』でファイトしてきたけど、俺が『PRIDE』で活躍するというのは俺だけの夢じゃなくて、みんなの夢なんだよ。でも、叶えられるかはわからなかったけど、とにかく必死で頑張ってきたのは確かだよ。

——この『PRIDE』というイベントと、バーリ・トゥードというジャンルを大きくしたのは、間違いなくシウバ選手の力が大きかったと思いますからね。

シウバ　俺が初めて出場した『PRIDE・7』の時から、『PRIDE』は世界一の舞台だったけど、確かにそれ以降、『PRIDE』はどんどん大きくなっていった。そしてミスター・サカキバラが社長になってから、さらにその勢いは増したように感じる。だから俺も立ち止まれないんだよ。

——シウバ選手の凄いところは、チャンピオンになってからもそこで決して安住せず、誰よりもハードにトレーニングして、ハードな闘いを続けてきたことだと思うんですよ。その原動力はなんだったんですか？

シウバ　俺が立ち止まらないのは、負けたくないから。それだけだよ。

　それはやはり負けたり、面白くない試合をしてしまったら、これまで築いてきたものが壊れてしまうのではないかという恐れからですか？

シウバ　チャンピオンになってもそこで立ち止まってしまったら、あとは落ちるだけなんだ。チャンピオンというのは、なるよりも、そこに居続けることが難しいんだよ。チャンピオンになった瞬間から、すべてのファイターが俺の首を狙ってくるわけだからね。でも、俺はたとえ負けてもそれだけ

俺が『PRIDE』で活躍するというのは、俺だけの夢でなくみんなの夢でもあるんだよ

これがクリチバ郊外の高台にそびえ立つシウバの豪邸。1階の右部分がトレーニングルームになっており、左の1階ガラス張りのところはプール兼スパになるという。なお、この日は前妻との間に生まれた娘ファファエラちゃんが遊びに来ており、練習中以外、シウバから笑みが絶えなかった

シウバが『PRIDE』レギュラー参戦するまで、毎日働き詰めだったという父が経営するバーにシウバファミリーが集結。右の2人が両親だ　写真提供：booker K

で築いてきたものが崩れるとは思わない。負けて「俺はもうダメなんだ」と諦めたときに崩れると思うんだ。それまでは、俺はたとえ負けたとしても「次は絶対に勝ってやる」と、よりハードにトレーニングをするようになる。事実、俺は8月以降、練習量が格段に増えているからね。

――じゃあ、この間の敗戦というのは、いまはポジティブに考えていますか?

シウバ　そうだね。ファイターというのは闘うか闘いを辞めるか、それだけなんだ。俺は闘いを辞めるつもりはない。身体がボロボロになるまでやるつもりだから、負けたことでますます闘志が増しているよ。

――改めて8月にシウバ選手に勝ったアローナをどう評価していますか?

シウバ　アローナはいいファイターだと思ってるよ。でも、あのときの俺はやりたいことができなかった。自分で固くなってしまい俺らしくない闘いをしてしまったのが最大の敗因だ。

――アローナに負けたのではなく、自分に負けたと。

シウバ　それを証明するためには、次の闘いで100パーセントの自分を見せなければならないと思ってるよ。だからこそ、このいるハファエロ（フィジカル・トレーニングのコーチ）に来てもらって、俺の力を引き出してもらっているんだ。

――ところがアローナは「ヴァンダレイは相手を怖がらせるのが上手いだけで、本当は怖くない。だから、俺には2度と勝てない」と言ってるんですよ。そういった発言についてどう思いますか?

シウバ　俺があいつに勝てないかどうかは12月31日になったらわかることだよ。俺は別に口であいつと勝負したくない、答えはリング上で出すだけだ。

――では、（このインタビューをした11月26日の時点では）まだ発表されてませんが、大晦日はシウバvsアローナのリマッチが実現すると考えてよろしいわけですか?

シウバ　俺は別にアローナじゃなくても、大晦日に相応しいスペシャルな相手なら誰とでもやるつもりでいたんだけど、10月の『PRIDE』の前にミスター・サカキバラから「アローナとリマッチをしてほしい」というオファーをもらったんで、すぐにOKの返事をしたよ。いまは発表を待っているところさ。

――そうなんですか。なにかアローナがケガをして今回の試合を断るんじゃないかという噂が出てるみたいですけど、それはシウバ選手の耳にも入ってますか?

シウバ　ノー、聞いてないね。それが本当ならすぐブラジル中で噂が広まるだろうから、たぶんそれは間違いだよ。

――では、もしこれが本当だったら「アローナは逃げた」と思いますか?

シウバ　あいつは逃げないだろう。アローナは「自分が絶対に勝つ」と思ってるだろうし、PRIDEのベルトを奪うチャンスをみすみす逃すようなヤツじゃないだろうからね。それでも、もしなんらかの理由でアローナと闘えないなら、俺はミルコ・クロコップと闘いたいよ。

――ミルコ戦ですか！　それはまたなぜ?

シウバ　12月31日は『PRIDE』の、いや格闘技界の最高峰の舞台だからね。その最高の舞台で最高の相手と闘いたいんだ。ファンだって、俺とクロコップが闘えば、きっとエキサイトしてくれるに違いない。

――でも、シウバ選手は去年の大晦日、ヘビー級のマーク・ハントと急なオファーで闘って凄い試合をしながらも結果は不本意なもの（2－1の微妙な判定負け）に終わってしまいましたよね。それでも再びヘビー級のトップファイターと闘おうと思うのはなぜなんですか?

シウバ　去年のマーク・ハント戦は結果こそ「判定負け」となってしまったけど、周りの人間は俺の勝ちだと言ってくれてるし、俺自身も負けたとは思っていない。だからクロコップじゃなくてハントとの再戦だっていいよ。ファンの夢を叶えるのが俺たちの仕事だからね。とくに『男祭り』っていうのは、年に一度の夢の舞台なのだから、ファンが見たいと言うなら誰でも闘うよ。

――いやぁ、プロの鏡ですね。たしかにヴァンダレイ・シウバvsミルコ・クロコップの決着戦はメチュクチャ見たいですよ。

シウバ　ミルコは103キロぐらいだろう? 俺も体重を増やせば97キロぐらいにはなるから、それほど気にしてはいないよ。俺はミルコだけじゃなく、ヘビー級チャンピオン、ヒョードルともいつかは闘わなければならない運命にあると思っているからね。来年あたりもしかしたらチャンピオン同士

Wanderlei Silva
The reason that is an absolute king.

大晦日は1年に一度の夢の舞台なのだから アローナではなくミルコと闘ってもよかった

シュートボクセのジムでの練習でもシウバの存在感はズバ抜けていた。最初の準備運動から声を出しリーダーシップを取り、みんながクタクタで練習を終えたあとも、涼しい顔をして居残りミット打ちを行うスタミナには驚かされた。さらに取材日にはサクとの寝技練習が実現！ 残念ながらスパーリングではなく技の反復練習だったが、2人が一緒に練習する……この上なく新鮮だ！

サクラバVSタムラはぜひ実現してほしいけど試合になれば勝つのはサクラバだと思うよ

の闘いなんかもあるんじゃないか。ファンの欲求とはつきないものだからね（笑）。

シウバ選手が大晦日にあえて強敵と闘うというのは、『PRIDE男祭り』と同日開催される『Dynamite!!』に視聴率的にも勝たせたいという思いがあったりもするんですか？

シウバ もちろんそれは考えているよ。俺は『PRIDE』こそ最高の闘いを見せている舞台だと自信を持って言えるから、日本の人々にもっと『PRIDE』を見てもらいたい。それに今年はたぶん『PRIDE』のほうが視聴率を取るんじゃないかと思ってるよ。今年は例年以上に素晴らしい対戦カードが並ぶと聞いているしね。

小川vs吉田という超ビッグカードがすでに決定していますし、桜庭選手と田村選手の試合も実現するかもしれませんしね。

シウバ サクラバとタムラの試合はぜひ実現してほしいよ。2人ともいい選手で、日本のアイドルだから、ファンにとっては本当に楽しみな試合なんじゃないかな。ただ、試合になればサクラバが勝つと思うよ。やっぱり『PRIDE』での場数が違うし、バーリ・トゥードのテクニックをサクラバのほうがたくさん持っているからね。

桜庭選手はシュートボクセに2度目の修行に来ていますけど、状態はどうですか？

シウバ サクラバは頭のいい選手だから、どんどんシュートボクセの闘い方を自分のものにしていっているよ。

——一番上達したのはやはり打撃ですか？

シウバ そうだな。もともとサクラバのローキックは強烈だったんだけど、こっちに来てからはパンチもどんどん強くなっているよ。それからディフェンスがよくなっているね。

——今日もハードなトレーニングをしていましたよね？

シウバ コーチが本当にハードな練習をさせているからね。やっぱりシュートボクセとしても、せっかくサクラバがわざわざブラジルまで来てくれているのだから、少しでも多く力になりたいと思っているんだ。だから自然と練習もハードになるよな。

——でも、ヴァンダレイ選手と桜庭選手はかつては最大のライバル、宿敵だったわけですよね。そういう選手と一緒に練習するというのは、どんな気持ちなんですか？

シウバ サクラバと闘っていたころから、俺は別に彼を憎んでいたわけじゃなくて、尊敬していたからね。だから全然悪い感情はないし、彼みたいな素晴らしいファイターがシュートボクセの練習に参加してくれて嬉しいよ。

では、桜庭選手がシュートボクセに来たことは、桜庭選手だけでなく、シュートボクセにとっても良かったと思いますか？

シウバ 凄くよかったと思うよ。サクラバは俺たちが知らない技術をたくさん知っているし、逆に今度、俺が日本に行った時は高田道場で練習させてもらいたいと思ってるんだ。こうして日本とブラジルの技術交流をすることによって、お互いがレベルアップするというのは、凄くいいことだと思うよ。

——今日はシウバ選手と桜庭選手がパート

来年、PRIDEの立ち技最強トーナメントが本当にあるなら、ぜひ俺も出場してみたいね

ナー同士となって寝技の練習をするという、ファン驚愕のシーンが見られましたけど、こういった練習はよく一緒にやってるんですか？

シウバ　サクラバと実際に肌を合わせて練習するのはじつは今日が初めてだったんだよ。

あ、初めてだったんですか！

シウバ　いままでは練習時間が合わなかったり、同じ時間に練習していても別々の練習をしたりしていたから、なかなかサクラバと肌を合わせることはなかったんだけど、彼の寝技のテクニックは本当に素晴らしいから、いい練習になったよ。

いやぁ、今日初めてとはメチャクチャ貴重なものを見てしまったわけですね（笑）。これからはもっと一緒に練習していきたいと思いますか？

シウバ　そう思っているよ。ケン（金子賢）とも一緒に練習したいしね

いま、金子賢さんの名前が出ましたけど、ヴァンダレイ選手から見て、金子賢さんはどう思いますか？

シウバ　彼は寝技の上達が凄く早いんだ。もし、大晦日に『PRIDE』のリングで闘うなら、みんなをビックリさせるかもしれないよ

ホントに一生懸命練習してますよね。

シウバ　毎日、練習後は氷が手放せないくらいにハードにやってるよ（笑）体中が痛いはずなのに休まず練習についてきてるから、根性あるよな。

金子賢さんは本業はファイターではなくて俳優なので、ホントにあんなにみんなと同じメニューでガッチリやってるとは正直言って思いませんでしたよ

シウバ　ここは俳優だろうがチャンピオンだろうが新人だろうが関係ないからね　コーチがその選手に合ったメニューでハードにやってくれるので、ケンもファイターに変身して日本に帰れるんじゃないかな。

では、今年最後のインタビューになると思うので、ちょっと早いですが、来年の目標を聞かせてください

シウバ　来年の目的は練習をして試合をして勝つ、それだけだよ。いつでも変わらないさ

来年はPRIDE無差別級GPの開催も噂されてますけど、もしオファーが来たら出場したい気持ちはありますか？

シウバ　ヘビー級になるか無差別級になるかはわからないけど、できれば出場したい気持ちはあるよ。俺の新たな挑戦になるんじゃないかな

それから来年の秋に、PRIDEが立ち技の最強トーナメントを開くというプランもあるようですけど、それは耳に入ってますか？

シウバ　正確な話としてではないけれど、自分の耳にも入ってはいるよ　もし開催するなら自分も参加させてほしい　俺はもともとムエタイのファイターだから、立ち技だけでも自信があるからね。

ムエタイの試合をやるとしたら何年ぶりになるんですか？

シウバ　少なくとも5年以上やってないけど、俺は毎日ムエタイの練習は欠かしていないから、違和感はないよ

じゃあ、来年はファンにとって楽しみが多いですね

シウバ　『PRIDE』はどんどん良くなってきているし、来年はさらに飛躍の年になるんじゃないかと思っているよ

では、最後に大晦日に向けて意気込みをお願いします

シウバ　ファンのみなさん、いつも応援ありがとう。いいクリスマスといい新年を迎えられることを祈っています。俺は大晦日のためにハードなトレーニングを積んでいるので、ぜひいい試合を見せたい。8月はガッカリさせてしまったけれど、大晦日は必ず勝つので、応援よろしくお願いします。ガンバリマス！

【05年11月26日／ブラジル・クリチーバ
ヴァンダレイ・シウバ邸にて収録】

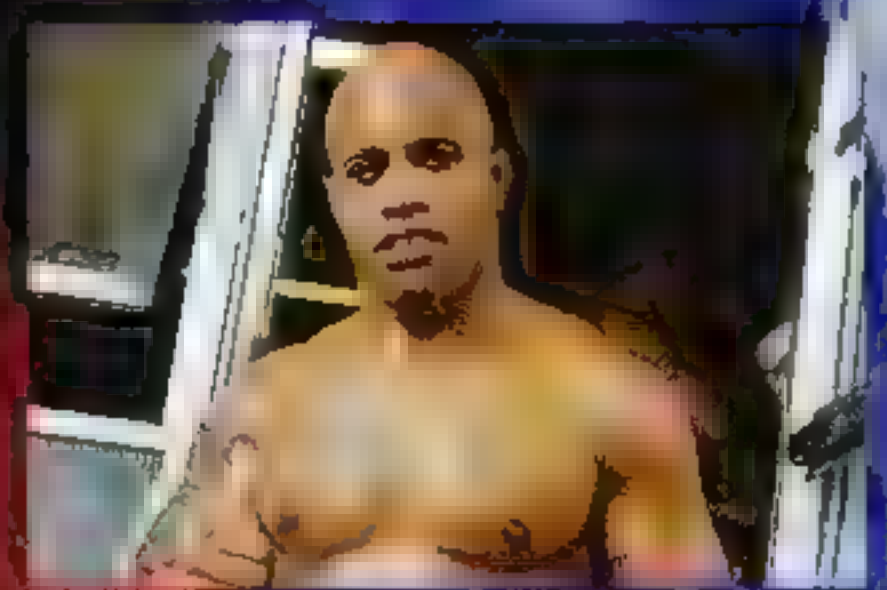
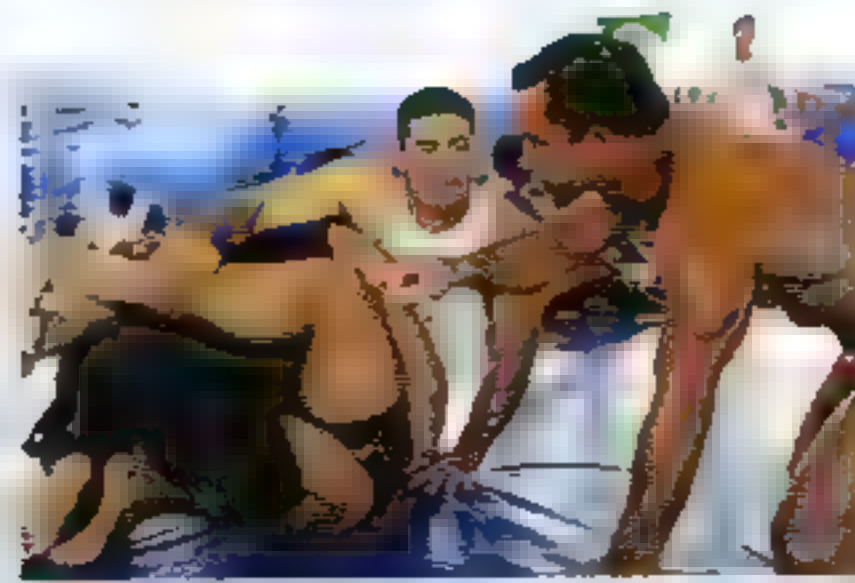
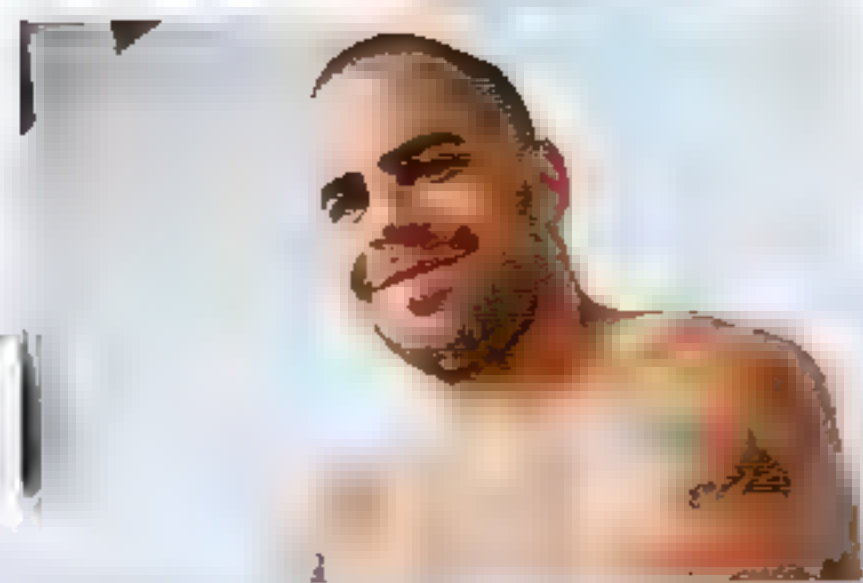
Wanderlei Silva

Wanderlei Silva
The reason that is an absolute king.

PRIDE・GP2005王者 ショーグンの誕生パーティ開催！

LIAN
P TEAM

Rio de Janeiro

ノゲイラ兄弟、アローナ、ブスタマンチら強豪が多数所属する名門ブラジリアン・トップチームは、リオ・デ・ジャネイロ南部のイパネマ地区にある。貧富の差が激しいブラジルでは、場所によって治安の善し悪しがかなり違うが、このイパネマ地区は治安の良さで知られる地域。練習場もAABBというブラジル銀行が保有する施設の中にあり、まさにエリート集団という趣だ。ここを取り仕切るのがご存知マリオ・スペーヒー。彼の卓越したマネジメント能力によって、いまプロへの道が最も開けるチームとなったBTTに、多くの才能が続々と集まって来ている。

BRAZIL
TO

Arona

ヒカルド・アローナ

ブラジル格闘技界のためにも 俺はヴァンダレイを 引退に追い込む!!

南米ブラジル、密林の奥地に野生児アローナは実在した! 12・31『PRIDE男祭り』でヴァンダレイ・シウバと因縁の決着戦を行なうヒカルド・アローナを自宅で直撃。ブラジルの大自然に囲まれて生活する彼のトレーニングは我々の想像を遥かに超えるものだった。"野生"に戻った、アローナの真の姿を見よ!

生児の咆哮

The wild boy's roar

Ricard

野

リオ・デ・ジャネイロから車で約1時間半　グアナバラ湾を挟んで対岸にある街ニテロイ

ラテン・アメリカ最長といわれる長い橋がかかるこの街は、車のほかに船での行き来も可能で、その環境と交通の便の良さから、リオで働くビジネスマンのベッドタウンともなっている

ベッドタウンと言っても、そこは前を見れば美しいビーチが広がり、後ろを見れば熱帯雨林の木々が生い茂る山が連なる高級リゾート地のようなところ。犯罪が多発するリオと違い、静かでゆったりとした時間が流れるこの街は、リオで働く裕福な人たちが住むところのようだ

この街で生まれ育ち、そしていま、その裕福な人々のひとりとして、ここの居を構えているのがブラジリアン・トップチームのヒカルド・アローナだ。先の『PRIDEミドル級GP』で桜庭和志を血の海に沈め、準決勝では〝絶対王者〟ヴァンダレイ・シウバをも下し一躍ミドル級のトップファイターと称されるようになった彼は、以前、その強さの秘密を「俺にはブラジルの大自然という〝友人〟がついているからだ。〝彼〟が俺を強くさせてくれる」と語ってくれた。

なんでも自宅の周辺には大自然が広がっており、アローナはそこで野山を駆け巡り、岩や木に登り、自然の中で瞑想することで、自分を〝野生の虎〟へと変貌させていったのだという。

そんな話を聞いていたので、今回のブラジル取材ではぜひ、そのアローナの自宅とその周辺にある大自然の中でのトレーニングを見せてもらいたいと思っていた。そのことを現地到着後、ブラジリアン・トップチームのトレーニング場に来ていたアローナ本人に伝えると、快くOKの返事。そして早速、その翌日アローナの自宅へとうかがうこととなった

船でニテロイまで行き、そこから車を20分ほど走らせると、海沿いの高級住宅地が広がる。そこにアローナの家はあった。ビーチまで徒歩1分の好立地。立派な門をくぐり中に入ると、2匹の犬と共にアローナが出迎えてくれ、そのひとり暮らしをするには、あまりにも大きすぎるように感じる豪邸に我々を招き入れてくれた

――アローナ選手、今日は自宅にお招きいただき、ありがとうございます！　それにしても、素晴らしい環境にある家ですね。

アローナ　ありがとう。ここは静かだし、大自然に囲まれているので、俺自身すごく気に入っているんだ。ビーチにも歩いてすぐにいけるし、目の前は大西洋。海の先にはアフリカ大陸があって、冬にはクジラ、アザラシ、ペンギンまで見られるんだぜ。

――ペンギンまで！　大都会リオから1時間の距離とは思えない自然の王国なんですね。

アローナ　俺はもともとこの街の外れで生まれ育ったんだけど、いま住んでいるこのあたりが海にも近くて一番環境がいいので、ずっと住みたいと思っていたんだよ。でも、このあたりは国立公園にも指定されているから、新しく家を建てたりするのが難しいんだ。かといってなかなか売りに出される家もなかったんだけど、4年前に運良くこの家を手に入れることができたんだよ。

4年前というと、23歳ぐらいで、もうこの大きな家を買ったんですか？

アローナ　そうだね。ちょうどその頃『アブダビ』で優勝したし、『PRIDE』にも参戦し始めたんで、思い切って買うことにしたんだよ。

――リオ・デ・ジャネイロからはちょっと離れていますけど、ブラジリアン・トップチームの練習場へはここから通っているんですか？

アローナ　そうだよ。通常は週3～4回トップチームの練習に参加して、あとは自宅でやったり、ボクシングジムやウェイト・トレーニングジムに行ったりしている。でも、試合前はトップチームでガッチリ練習がしたいから、リオにアパートを借りてそこから通うようにしているよ。

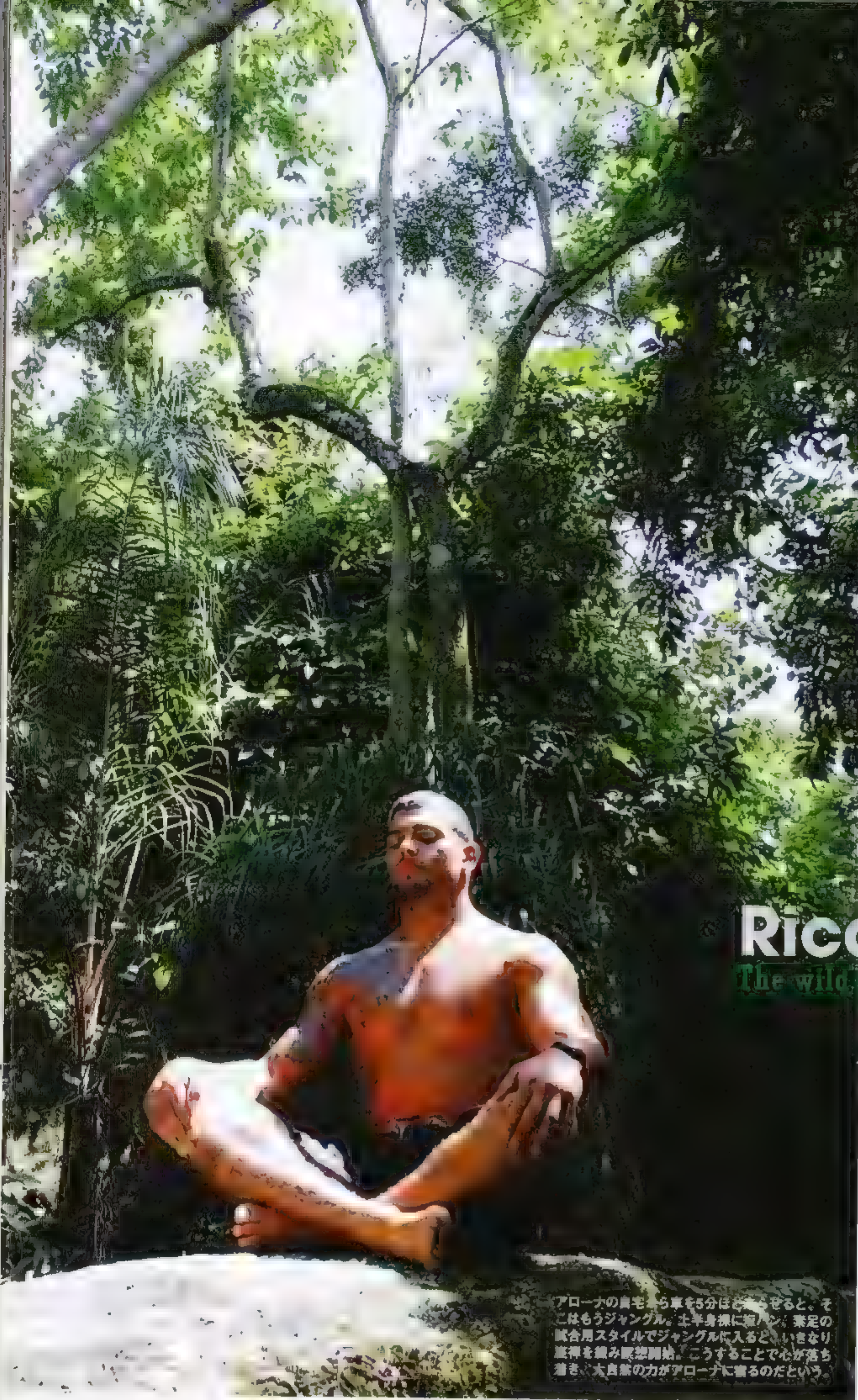
――今日のトレーニングは僕らの取材のために休んでくれたんですか？

アローナ　いや、今日の練習は午後からの予定なんだ。朝からちょっと整体に行く予定になってたからな。

――整体？　どこか調子が悪いところでもあるんですか？

アローナ　じつは、いま全身がガタガタなんだ。

大きな家に一人暮らしのアローナ（正確に言うと、住み込みのメイド＝黒人男性がいる）だが、3年前に知り合った恋人のマリアーナさん（19）が毎日のように来ているので新婚家庭のよう。それでも20畳近いリビングをトレーニングルームに改造してしまうところは、やはりアローナの家だ

なぜ俺がこんなにハードな練習をするのか　すべては大晦日にPRIDE王者になるためだ！

——全身って、大丈夫なんですか？

アローナ　まあ、この調子の悪さはトレーニングのやりすぎってのが原因だからな。たぶん、いまオレの身体はブレイクを求めて、「休んでくれ！」って訴えてるんだろう。背中なんかとくにコチコチに硬くなってる。

——それはちょっと休んだほうがいいですよ（笑）。では、一カ月後の大事な試合に出られないってわけじゃないんですよね？

アローナ　それは問題ない。だいたい、なんで俺がこんなにハードな練習をしてるか教えてやろうか？　すべては大晦日のためなんだぜ。自分から試合がダメになるような練習をするほど、俺は馬鹿じゃないからな。

——そうですよね。……で、気になる『PRIDE男祭り』での対戦相手なんですが……。

アローナ　それは、もちろんヴァンダレイ・シウバだ！

——もう決定したんですか？

アローナ　まだ正式決定ではないが（その後、正式決定）俺はヴァンダレイが相手だって聞いている。ヤツが逃げない限り、これで決定だろう。俺はもう戦闘モードに入ってるよ。

——この試合はPRIDEミドル級タイトルマッチになりそうなんですか？

アローナ　当然だ！

——では、ついにアローナさんの望みが叶う日がやってくるというわけですね！

アローナ　その通り。だいたいチャンピオンの実力はとっくの昔に備わっていたんだ。ヴァンダレイに勝つ自信だって誰よりもあるのに、なかなか試合が組まれなかったからな。

——じつは、ここリオ・デ・ジャネイロに来る前に、シュートボクセがあるクリチーバに行ってきたんですけど、向こうでは「アローナはケガをしていて、大晦日までに回復が間に合わない」っていう噂が流れてたんですよ。もっと悪い言い方をすると、「アローナはケガを理由に試合を辞退するんじゃないか」って。

アローナ　（不機嫌そうな表情で）確かに俺は足をケガしていて完治していない状態だよ。コンディションだって100パーセントにはほど遠い。それでも、俺はヤツと試合するために必死にトレーニングしているのに、どうしてそういうふざけた発想が出てくるのか、到底理解できないよ。

——まあ、周囲の人間が噂していただけで、シウバ自身は「アローナは必ず出てくるだろう」と言ってましたけどね。

アローナ　ヤツだってもう覚悟ができてるんだろう。俺もケガはしているが、あんなに過酷なGPを闘い抜いたあとだから、ヴァンダレイだってきっと万全ではないはずさ。それでも俺たちは闘わなきゃならないんだ。

——8月のミドル級GP決勝戦のあとも練習はずっと続けてたんですか？

アローナ　さすがのオレも足をケガしていたので少し休まざるを得なかった。いま治療しているところなんだけど、正直言ってまだ痛むよ。

——その足のケガは、8月のシウバ戦でローキックで蹴られたときのものですか？

アローナ　いや、俺が蹴ったときだよ。ヤツが俺の蹴りをカットしたときに、当たりどころが悪かったんだ。

——ということは準決勝のシウバ戦からすでにケガをしながら闘っていたということ

Ricardo Arona
The wild boy's roar.

アローナの自宅から車を5分ほど走らせると、そこはもうジャングル。上半身裸に短パン、素足の試合用スタイルでジャングルに入ると、いきなり座禅を組み瞑想開始。こうすることで心が落ち着き、大自然の力がアローナに宿るのだという。

ですか。

アローナ　そうなんだ。あんまりこんなことは言いたくはないが、いまだに強くジャンプしたりできないし、パンチを出すときの踏み込みも甘いからな。でも、試合当日までにはなんとかするよ。

——次の試合と言えば、前回のシウバ戦はGP特別ルールで1R10分、2R5分の2R制でしたけど、次の試合は3R制になります。試合時間が変わることで作戦や準備も変わってきますか？

アローナ　ノー。ヴァンダレイはスタミナがあるし、前回の反省を踏まえてよりアグレッシブに来るだろうから、同じような展開というわけにはいかないだろうが、俺自身はいつもと同じように完璧に仕上げることだけを考えているよ。

——前回の闘いでは、ヴァンダレイに打撃のラッシュをさせないで"完封"しましたけど、打撃の練習というのももちろんやっているんですか？

アローナ　ああ、打撃もみっちり練習してるぜ。コーチは二人いて、ここにいるトニコさんと、あとニコライさんだ。

——トニコさんというのは、BTTの打撃コーチなんですか？

アローナ　そう。1週間に2、3回、ここで彼のコーチを受けている。それからニコライさんのムエタイ・アカデミーにも週2～3回のペースで通っているよ。

——じゃあ、トップチームとムエタイのジム両方に通ってるわけですね。

アローナ　あと、もうひとつ俺の大事なトレーニング場所がある。もちろん、ここブラジルの大自然の中だ！

——大自然特訓！　それはどんなトレーニングをしているんですか？

アローナ　俺の家のすぐ後ろには絶壁の岩山があるだろう？　そして歩いて10分でそこはジャングルだ。だから山やジャングルの中を走ったり、木に登ったり、海で泳いだりといったところだな。

——そういったトレーニングはどんな効果があるんですか？

アローナ　すべてにおいて効果があるよ。たとえばロッククライミングだったら、腕力や握力、脚力はもちろん、バランス感覚や注意力も養える。命綱なんてつけないから、ちょっとした油断が大ケガや"死"につながりかねない。それはまさに俺たちの試合と一緒だろう　それから自然の中で動き回ることで、五感が研ぎ澄まされ、野生動物と同じような状態になる。事実、俺はジャングルの中では自分が虎になったつもりでいるからね。

——虎になったつもりでいますか！（笑）。

アローナ　そう、その野生の虎になった状態をリング上でも出せるようにするんだ。格闘技の技術や体力はジムの中でも高めることはできるけど、こういった人間が本来持つ、"野生の本能"は大自然の中に身を置かないと得られないものだと思うからね。

——なんか"撮影用"じゃない、"リアル・ヒクソン・グレイシー"って感じですね（笑）。ヒクソンも試合前になると"山ごもり"をするって知ってますか？

アローナ　それは知らなかったが、いいことなんじゃないか。大自然の中に身を置くと、それだけで自分にエネルギーが宿るのがわかるんだよ。とくにこのあたりはスペシャルな場所だ。このインタビューが終わったら、君たちにもこのブラジルの大自然を体感してもらうよ。

——非常に楽しみです！（笑）。このインタビュー記事は『男祭り』の10日前ぐらいに発売になるので、そこで「アローナの大自然トレーニング」が掲載されたら、ヴァンダレイ戦への期待や幻想がさらに高まりますよ！

アローナ　それは楽しみだな。日本のファンにぜひ、俺の真の姿を紹介してくれ！

——わかりました。日本では8月にシウバを倒したことで、アローナ選手の評価と認知度が一気に高まりましたけど、ブラジルでの反応はどうだったんですか？

アローナ　どこへ行っても「ヴァンダレイに勝っておめでとう！」そして「ありがとう」と言われるよ。じつはブラジル国内ではヴァンダレイはあまり好かれていないからな。

——そうなんですか!?　それはまた意外ですね　チャンピオンであり、しかもあれだけ激しい試合を続けているのに。

アローナ　ヤツが好かれない理由は簡単なんだけどな。要は他の選手や試合をリスペクトしていない、それだけだ。だからヤツの周りにいる連中はヴァンダレイのことが好きかもしれないけど、その他のブラジル人は彼を応援しようとはしない。だからみんな、俺に「おめでとう！」「本当によかった。ありがとう！」と握手を求めてくるんだ。

——へえ、日本じゃそんなイメージはないんですけどねぇ。昔は"ブラジルの悪魔"とかいわれてましたけど、いまは『PRIDE』を代表する人気選手ですから。

アローナ　でも、ブラジルでは違う。それはハッキリしているよ。

——要は長くチャンピオンに君臨したことによって、天狗になってるということなんですか？

アローナ　それ以前の問題だ。あいつは対

密林の中では五感が研ぎ澄まされ野生動物と同じ状態になる。虎になることができるんだ

Ricard Arona

The wild boy's roar.

絶壁の岩にたどり着くと　命綱もつけずに迷わずフリークライミングで登り始めるアローナ　岩のくぼみやツタを頼りにてっぺんにたどり着くと、ケガを心配する我々をよそに、今度は木の枝にぶら下がって隣の岩へ飛び移ってしまった！　ブラジル・ニテロイの密林

俺はこの国で総合格闘技の地位を高めたい そのためにシウバを倒さねばならないんだ！

戦相手の心を傷つけたり、人格を否定したりする暴言を平気で吐くからな。日本の人たちはヴァンダレイが何をしゃべっているか意味をわかる人は少ないと思うが、ポルトガル語がわかる人が聞いたら、耳を塞ぎたくなるようなことを言ってるんだ。

――それはリング上でですか？ それともリング外で？

アローナ どっちもだな。インタビューやセコンドについたとき、直接人が傷つくようなことを平気で口にする。俺だけじゃなくて、BTTの他のメンバーを始め、シュートボクセの連中と対戦した多くの人間が言われている。こんなに言ってもあんまり想像ついてなさそうだから、オレが一番ひどかった話をしてやろうか。

お願いします（笑）。

アローナ たとえば、俺の家族を中傷したり「この売女の息子の口を黙らしてやる！」っていうようなとんでもない言葉を、試合中、セコンドが何回も繰り返して言うんだ。ブラジルでその試合をテレビ放送したら、そんな声が聞こえるわけだぜ。日本人はポルトガル語で「売女の息子」って言われてもわからないと思うが、ブラジルではとても放送に耐えられない最低の言葉だ。本当にヤツは教育も礼儀もない。本来ならヴァンダレイは『PRIDE』のチャンピオンとして、テレビのインタビューなどで、この競技がいかに素晴らしいかを語り、国民にアピールしなければいけない立場なのに、ヤツがブラジルのテレビからお呼びがかからないのは、まともなことを話さないからだって言われてるんだ。

うーん、試合中はエキサイトしてしまうっていうのもあるんでしょうけど……

アローナ そんなことは言い訳にすぎない。試合では本気で殴り合っても、普通はリングを降りたらみんな尊敬し合ってるんだ。ヒョードルだって、ランデルマンだって、みんな尊敬できる紳士だ。それからクイントン・ジャクソン。彼は傍若無人に振る舞うようなキャラクターに見られがちだが、素顔は誰からも愛されるナイスガイだよ。

――ファイターって一見、暴力的に見られがちですけど、実際は本当に紳士という人が多いですよね。

アローナ そう思ってくれると嬉しいよ。『PRIDE』にはそういった人格的にも素晴らしいファイターがたくさんいるんだ。それなのに、この競技の顔、チャンピオンであるヴァンダレイやその周囲の連中がそんな態度だから、いつまで経ってもブラジルでは格闘技が偏見のまなざしで見られるんだ。俺たちや他の国のファイターたちは、みんなスポーツマンらしく礼儀をもって闘ってるのに、ヤツらのような一部の人間のせいで悪い印象がついてしまう。俺はそれが残念でならないよ。また、そういうヤツがいるから、若い選手にスポンサーがつきにくいっていう現状もあるからな。

――いつだったか、シュートボクセのムリーロ・ニンジャ選手とBTTのマリオ・スペーヒー選手が試合したときだったと思うんですけど、この試合のときにもちょっとしたイザコザがあったんですよね？

アローナ ああ。あれはシュートボクセの連中が、俺たちのリーダーであり多くの人に尊敬されるゼ・マリオ（スペーヒー）に対して、試合中、20分に渡り暴言を浴びせ続けたんだ それがあまりにも悔しくて、ミノタウロ（ノゲイラ）は涙を流したんだぜ。ああいう不誠実な態度は絶対に許せない！

だからこそ、ヴァンダレイに負けるわけにはいかないと。

アローナ そう。シュートボクセは誰であっても倒さなきゃいけない。何回でもな！ そして大晦日のタイトルマッチでは俺が勝って、ヴァンダレイはブラジルではこのスポーツを代表する一番の人間ではない！ それをはっきり証明したいんだ。

――では、もしシウバを倒したらアローナ選手はどんなチャンピオンになりたいと思います？

アローナ やっぱり、俺はこの国でバーリ・トゥードという競技の地位を高めるような存在でありたいよ。バーリ・トゥードがみんなに尊敬されるようなスポーツであってほしいからな。

――ではバーリ・トゥードがもっと尊敬されるようになるには、何が必要だと思いますか？

アローナ まずはファイターのイメージ改善だ。インタビューに出てもちゃんと話せない、記事にできないことばかり話すチャンピオンっていうのは悪影響だ。みんなに「このスポーツはこんなにポジティブなんだ」ってことを広めることが大事だと思うよ。日本では俺たちをサッカーのトッププレイヤーのように扱い、尊敬してくれる。俺はそれを誇りに思っている。だからこそ、なんとかここブラジルでも、ファイターたちの地位を少しでも日本でのそれに近づけたいんだ。

――では、大晦日はブラジルでのファイターの地位向上のためにも、ヴァンダレイを倒すと。

アローナ ただ倒すだけじゃない。俺はヤツを引退に追い込むぐらいの気持ちで闘うよ。それがこの競技のためになるんだからな！

【05年11月30日（現地時間）／ブラジル・ニテロイ ヒカルド・アローナ邸にて収録】

Ricard Arona
The wild boy's roar.

山を登り、密林を抜けると突然、目の前に海が広がった！ するとアローナはまたしても迷わず海の中へ[illegible]！「大自然のすべてが自分にとってトレーニング場」というアローナの言葉に嘘はなかった！

stamante

PRIDEウェルター級
初代王者はこの
"進化する39歳"か!?

ムリーロ・ブスタマンチ

格闘情熱大陸 BRAZIL

匠の鍛練

[illegible]ining

12・31『男祭り』でダン・ヘンダーソンとウェルター級GP決勝を争うブスタマンチ。39歳という今大会出場選手中最年長ながら、その練習量の多さは、今回のブラジル取材の中でもトップクラスだ。40歳を前にしてまだ進化を続ける匠がウェルター級初代王座を奪う!

――連日かなりハードに練習しているみたいですが、一日にどれくらい練習しているんですか?

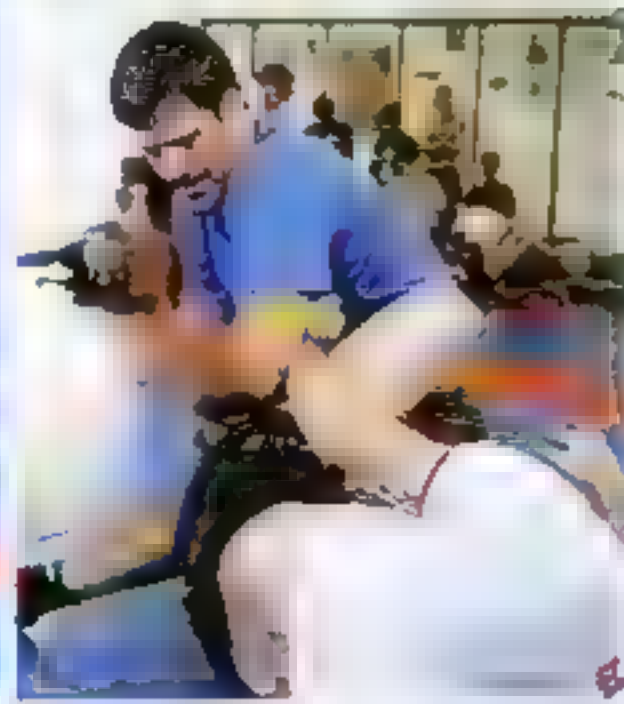
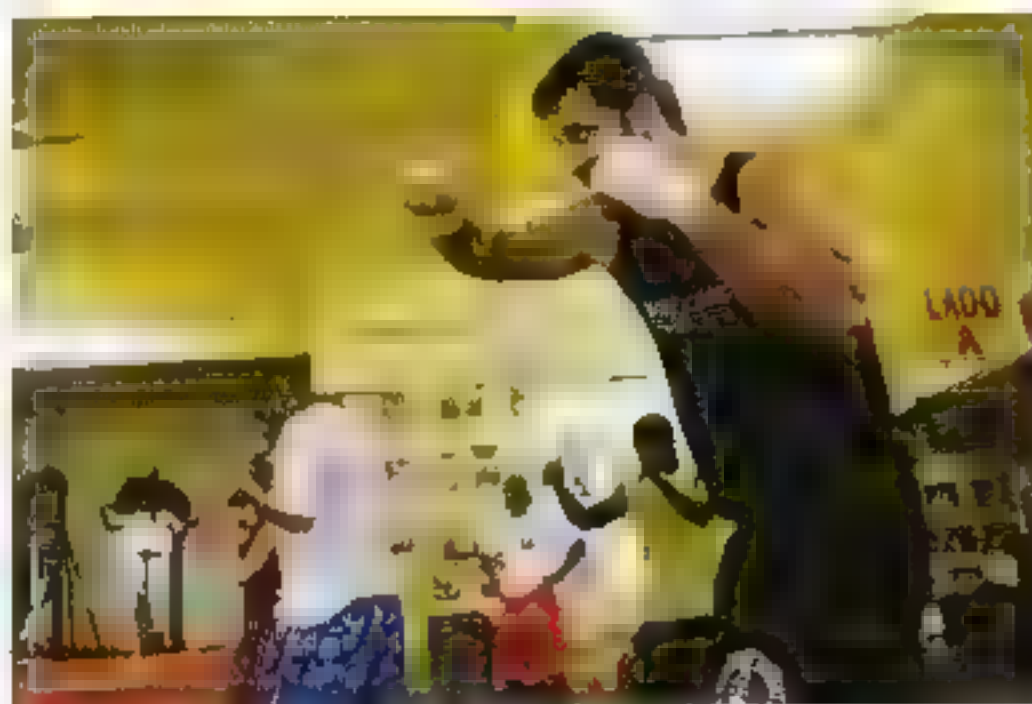
ムリーロ 平均して4、5時間。多いときで6時間ぐらいだね。内容は日によってメニューを変えているんだ。昨日は柔術、今日はレスリング、夜は週3回ボクシングジムに通っているよ。

――その中で、大晦日のダン・ヘンダーソン戦に向けて、一番力を入れているのはなんですか?

ムリーロ すべてだよ。私の最も得意とする動きは柔術だけど、寝技に持ち込むためのテイクダウンも練習しているし、ボクシングにも力を入れている。もちろんグラウンドになったら、上になっても下になっても極められるように練習しているよ。

――今年の[illegible]月にホジェリオ・ノゲイラがダン・ヘンダーソンに[illegible]してますけど、ブラジリアン・トップチームとしてはダン・ヘンダーソン対策はすでに完成していたりするわけですか?

ムリーロ もちろん対策はすでに考えているよ。ただ、闘い方というのは一つではなく、状況に応じていろいろあるんだ。だから、まずはいろんな状況を想定して戦術を練っているところさ。

Murilo Bs

昼間はブラジリアン・トップチームで柔術やレスリング、夜になるとファベーラの丘の上にある知る人ぞ知るボクシングジム「ノーブレ・アルト」でボクシングの練習を行なっていたブスタマンチ。40歳前とは思えぬ練習量だ。なお「ノーブレ・アルト」については、次号で詳しく掲載します

ヘンダーソンの“技”で最も警戒しているのは右ストレートではなくバッティングだよ

——ムリーロさんは2年前（2003年11月19日）にヘンダーソンにKO負けしてますけど、そのときは、予期していないシチュエーションが現われてしまったわけですか？

ムリーロ　いや、あのときの敗因は何度も言うけどバッティングだよ。彼の頭が当たり、めまいを起こしているところにパンチを食ってストップされた。今回の試合でも一番心配しているのは、じつは彼の頭なんだ。彼の闘い方の特徴は、とにかく試合中に頭をぶつけてくる。実際、前回もゴーノ（郷野聡寛）に頭をぶつけているからね。

——ヘンダーソンが頭をぶつけてくるのは故意だということですか？

ムリーロ　それはわからない。ただ、彼は私だけでなく、ミノタウロと闘ったときも、ホジェリオのときも頭をぶつけるという反則を犯してしまったことは確かだよ。

——なるほど。じゃあ、逆に言うと、そういうルールのギリギリのところというか、レフェリーにわからないように反則のバッティングをするのが、彼の戦略というか、裏のテクニックなのかもしれないですね。

ムリーロ　かもしれない。ただ、それは倫理に反する行為だよ。私は前回のヘンダーソン戦で、彼のバッティングによって目まで傷つけられ、試合後には目の手術までしたんだ。だから、今度の試合では彼のバッティングだけは食うわけにいかない

——ヘンダーソンの“技”で一番警戒しているのは、パンチでもレスリングテクニックでもなく、バッティングだと。

ムリーロ　その通り。彼の右ストレートはとても強く警戒しなければならないが、その右腕よりも彼の頭をもっと心配しなくてはならないんだ。

——ではへんな話、反則であるバッティングを想定し、対応できるようする練習なんかもしているんですか？

ムリーロ　ボクシングの練習でもレスリングの練習でも、常にその危険性は頭に入れてやっているよ。してはいけないはずの攻撃に対して、準備をしなければいけないというのはおかしな話だけどね。

——まぁ、そこまで入念に準備しているということなんでしょうね。

ムリーロ　さっきも言った通り、試合では何が起こってもおかしくない。だから試合の準備というのはキリがないんだ。でも、私には多くの経験があるから、どんな状況になってもその経験と技術を信じて闘うだけだよ。

——大晦日にヘンダーソンを破ってウェルター級のチャンピオンになったら、しばらくはこの83キロ以下という階級で闘っていくつもりですか？

ムリーロ　相手にもよるね。タイトルマッチじゃなければ、べつに93キロ以下で闘ってもいいと思っている。私は誰とでも闘うから、『PRIDE』が選んだ選手と闘うだけだよ。

——そういえば、ムリーロさんはかつてグラップリングルールとはいえ、“巨鯨”トム・エリクソンと40分間闘った男ですもんね（笑）。83キロ以下の階級だと、誰が一番のライバルになると思いますか？

ムリーロ　それはやっぱりダン・ヘンダーソンだよ。それだけにしっかりとした準備が必要なんだ。

——身体の調子はどうですか？

ムリーロ　よくなっているよ。確かに若いときより少しは体力が衰えただろうけど、そのぶん知識や技術は上がっているし、力の使い方がわかっているからね。

——BTTのトップ選手でもしかしたらムリーロさんが一番ケガが少ないんじゃないですか？

ムリーロ　そんなことはない（笑）。いまは大丈夫だけど、これだけスポーツを続けていたらもう身体はボロボロだよ。それはどんなスポーツでも一緒でしょう。マラソンの選手はヒザが傷んでいるし、バレーボールの選手は手首やヒジを痛めている。そして自分たちファイターはすべてが傷んでいるんだ（笑）。

——しかも長く現役を続けているわけですもんね。

ムリーロ　でも、いまのほうが若い頃より規則正しい生活を送っているし、自分の痛みとかケガをもっと大事にケアしているので、身体の調子自体は決して悪くないよ。

——でも、いまトップチームは大きな試合を控えた選手がたくさんいて大変ですね。

ムリーロ　いや、最高だよ（笑）。

——最高ですか（笑）。

ムリーロ　我々は格闘技という自分が好きなことを思いっきりできるんだからね。私はこの自分の仕事を愛している。そして、いつも闘うことを夢見ている。私が眠れないのは、試合がないときだよ（笑）。

【05年11月29日／ブラジル、リオ・デ・ジャネイロ「GULAGULA」にて収録】

ALE TODO

Rio de Janeiro

格闘情熱大陸 BRAZIL

中村カズが武者修行を行なっているファス・バーリ・トゥードは、アンドレ・ペデネイラスが経営する柔術道場ノヴァ・ウニオン内にある。柔術はペデネイラスとシャオリン、VTはペドロ・ヒーゾ、レスリングはホベルト・レイタウンといった感じで、異なる技術をトップクラスから同時に学べることがここの自慢だ。しかし、建物は引っ越し間近の年期が入ったもので、道場を一歩出ると決して治安がいいとは言えない町並み。そんな環境ゆえに、ファスVTにはいい意味でのハングリー精神が溢れている。

RAUS VA

Nakamura

じつはすでにミドル級日本最強!?
童顔の実力者が地球の裏側で胆力をためる!!

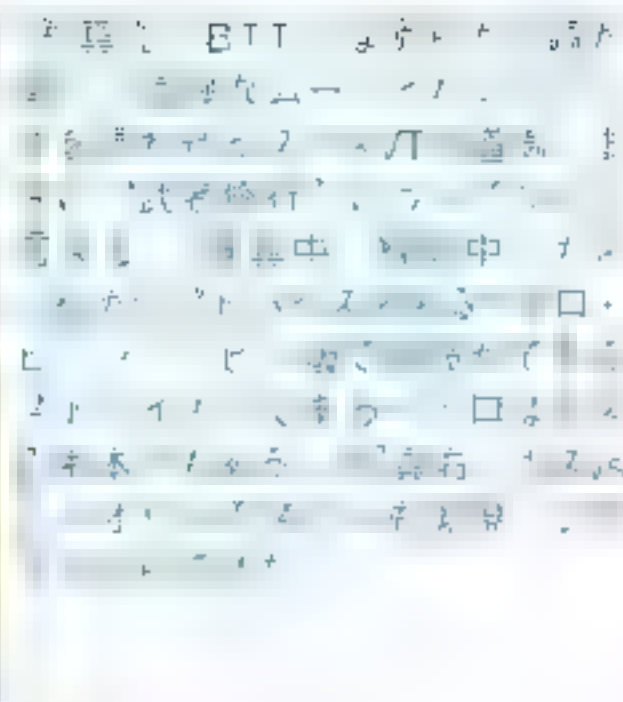
中村和裕

BRAZIL

ブラジル潜伏記

Brazil concealment record

カズがまたいつの間にかブラジルに来ていた。大々的に報道されることは少ないが、すでに今年3度目のブラジル修行。今年はランデルマン、ボブチャンチンを下すなど着実に力をつけ、気がつけばミドル級日本人最強説も囁かれ始めたが、その強さがまだファンに伝わりきっていないこともまた事実。大晦日の近藤有己戦では、いままで見えにくかった本当の強さがついに爆発するか!?

Kazuhiro N

「建物の中に入るまでは気を抜かないでください」

ファス・バーリ・トゥード前に停めたタクシーから降りようとしたとき、現地の通訳兼ガイドさんが我々にそう伝えた。

タクシーから道場の入口まではほんの十数メートル程度。たったそのくらいの距離でも、ここでは気を抜けば襲われたり、荷物をひったくられたりする危険性があるのだそうだ。ファス・バーリ・トゥードがあるここボタフォーゴ地区は美しいビーチがあることで有名だが、同時に決して治安が良くないことでも知られている。

急な階段を登り、建物の2階に道場はあった。壁に色あせた写真や古い新聞記事が飾られているその建物は、すでに築100年を数える年期の入ったもので、近代的なシュートボクセやブラジリアン・トップチームとはだいぶ趣を異にする。

練習が始まる前、道場主のアンドレ・ペデネイラスが道場生全員を座らせて、何やら熱い口調で演説をしている。通訳さんに話している内容を聞いてみると、「道場の状態は苦しい。だからこそもっと厳しい練習を積んで、試合で結果を出すしかない」ということを繰り返し繰り返し、言って聞かせているとのことだった。

ブラジルのほとんどの格闘家が夢見るのは、日本で活躍することだ。しかし、若い選手が日本の大きなプロモーションに出場しようとしたら、どうしてもBTTやシュートボクセ、グレイシー・バッハなど、日本と関係性の強いジムに所属していたほうが有利。だからこそ、ここの選手たちは己の実力で結果を出すしかない。

中村カズは日本から遠く離れ、そんなハングリーな環境に身を置き、技術と体力、そして胆力をあげるべく、武者修行に励んでいた——。

ブラジルで修行したかったけど、BTTやシュートボクセはやっぱり行けないですよね

——よくブラジルまで来ましたね。ロス経由ですか?

中村 いや、ニューヨーク経由です。さらに遠回りの(笑)。リオまで27時間かかりましたね。

——キツいっすよね〜。俺もブラジルに練習に来るのはいいんだけど、行き帰りの飛行機がつらいんで。今回はお願いしてお願いしてビジネスクラスにしてもらったんですよ(笑)。

中村 あ、『PRIDE』トップファイターの一人であるカズ選手でも、エコノミーに乗ってましたか(笑)。

中村 俺なんてまだ知名度ないですからね。でも、さすがにキツいんで、なんとかお願いしてビジネスにしてもらいました(笑)。

——ブラジルは今回で何回目になるんですか?

中村 3回目ですね。最初に来たのが、(ミドル級GP)開幕戦前の3月で、次がシウバとやる前だから、5月くらいですね。

——今回はいつから来てるんでしたっけ?

中村 日本を11月2日に出て、こっちに3日に着いたんですよ。だから、もう1カ月近くいますね。

——じゃあ、3回目ということもあって、ブラジルにはもう慣れましたか?

中村 最初はちょっと怖かったけど、いまは普通にそこらへんを歩いてるんで、慣れましたね。逆に最近はちょっとブラジルに染まりすぎかなって(笑)。

——それはどんなところですか?

中村 時間にルーズになったとか(笑)。こっちにいると1時間ぐらい遅れるのが当たり前になりますからね。

——ブラジリアン・タイムに染まってきてると。ホントにこっちの人の感覚は凄いですよね。クリチーバではシュートボクセのフジマール会長が普通に2時間遅れでホテルまで迎えに来てくれましたから(笑)。

中村 俺なんて今回、空港着いて4時間待ちましたよ!

——ダハハハ! もちろん迎えを呼ぼうにもポルトガル語は?

中村 わかんないです。わかったら、苦労しないですよ(笑)。

——で、そもそもなんでファス・バーリトゥードに来ようと思ったんですか?

中村 最初は、ただブラジルで修行したいなと思って、紹介してもらったんですよ。それにBTTとかシュートボクセにはやっぱり行けないじゃないですか。

——同じ階級で闘う可能性のある選手がいっぱいいますもんね。

中村 だからシュートボクセとかホントは行ってみたいですけど、シウバやショーグンがいるんで、やっぱり無理ですよね。それにここなら、ペドロ・ヒーゾっていうヘビー級のブラジル最強の一人がいますからね。いまは彼が俺の先生ですよ。

——ペドロ・ヒーゾは6月のハリトーノフ戦こそブランクもあって本領発揮できませんでしたけど、本来は立ち技も寝技も凄い

選手ですからね。

中村　スパーリング見たら、ビビりますよ。しかもいまは「なんとか来年の『PRIDE・GP』に出たい」って気合入ってるから、余計凄い。

さっきの練習を見た限り、他の選手も軒並みレベルが高いですよね

中村　みんな『PRIDE』には出てなくても修斗とか、他の大会で第一線でやってる選手だから、強いっすよ。

今日も、カズvsシャオリン（ビトー・ヒベイロ）なんていう、日本のファンが見たらビックリするようなスパーリングが行なわれていたり

中村　シャオリンも強いですよね。

なんかブラジルの人たちは「五味に勝てるのはシャオリンだ」ってみんな言いますよね。

中村　でも、かわいそうですよね。（シャオリンは）メチャクチャ強いのに日本に来れるツテがないから。ここ自体が、ブレーンがあんまり強くないですからね

チャンスをつかむのって、そのへんの政治力が絡むから難しいですよね。

中村　だから、みんなBTTに行っちゃうんですよ

中村選手が「ブラジルに行こう」と思ったのは、技術的なものなんですか　それとも「自分を厳しい環境に置きたい」というものなんですか？

中村　どっちもありましたよね　まぁ、厳しいところにいて、胆力つけたいというのもありましたし、技術も凄い上がるんで

――やっぱり、VTの細かい技術とかはブラジルが進んでいると思いました？

中村　そうですね。あと、なんか周りが凄い親身だし、俺のために時間割いて、みんなで代わる代わるスパーリングしてくれたりね。

極真の百人組手じゃないですけど、中村選手だけに、みんなが代わる代わるスパーやってましたよね。あれはやっぱり特別練習？

中村　そうです『PRIDE』用にやってくれてるんですよ　キツいけど、凄く身になりますよね

今回ブラジルに来るテーマはなんだったんですか？

中村　基本的なレベルアップもあったし、やっぱり大晦日に試合があるんで　結果はもちろんですけど、他にも日本人対決があるんで、負けらんないなと

勝つことはもちろん、試合内容でも他に負けないように

中村　面白い試合しないとテレビに映らない可能性もありますからね（笑）。だからもう最初からガンガン行きますよ

『PRIDE』で日本人対決っていうのは初めてですよね？

中村　初めてですね。K－1で一回、堀選手とやったくらいですから。

日本人だとやりにくいとかはありませんか？

中村　それは、正直ないですね　いつも会って話すわけじゃないんで。でも、（近藤は）凄くいい選手ですね。それは昔から思ってて。俺が総合格闘技やる前からパンクラスのチャンピオンだった人ですからね。でも、いい試合して勝つっていう意識が同じなら、面白い試合になるんじゃないですか

――やっぱり、警戒するのは打撃ですか？

中村　打撃もそうですけど、ディフェンス力が高いと思うんですよね。一本取られないし　寝かされてもしっかり凌いで立ち上がったりね。

そうなると、立ち上がり"際"の打撃とかも重要になってくるんじゃないですか？

中村　そうですね。そういうので、やっぱり意識刈り取るのが一番いいかなと思うんで

――さっきもやってましたもんね　立ち上がる瞬間の打撃

中村　こっちの練習は実戦と同じですからね　だからそういうのも実戦に身を置いて身についてるんじゃないかと。だいたい、俺ってもともと、考えてできるタイプじゃないんで。ねじ込んで、ねじ込んでそれが試合で出るっていう感じなんで　ただ正直、まだビデオも何も見てないんですよ。生で何回か見たイメージでやってますけどね。

Kazuhiro Nakamura

Brazil concealment record.

まぁ、『男祭り』なんで、細かいこと考えず、へんに勝ちにこだわったりしないで、ガンガンやって「あの二人の試合が面白かったな」っていう感じがいいですね。

ちなみに、今回は道衣は？（笑）。

中村　アハハハハ！　道衣は着ません（笑）。みんなに「もう着るなっ！」って言われてるんで

――「もう脱ぐな」じゃなくて？（笑）。

中村　アハハハ！「着たら脱ぐな、脱ぐなら着るな」って感じで。ボブチャンチン戦の前も脱ぎ方を注意されましたからね。「花道で脱げ」って。でも、シウバ戦であんなふうに負けて、ちょっと知名度上がった部分もありますからね（笑）

――たしかに中村選手って、ボブチャンチンとかランデルマンとか、あのとんでもないクラスに勝っているわりには……。

中村　知名度がない（苦笑）　まぁ、判定勝ちですから、しょうがないですけど。

――だから近藤戦っていうのはチャンスかもしれないですよ。いままで外人相手ではなかなかわかりづらかった中村選手の強さが明確になるというか、いろんな人と闘ってる近藤選手をモノサシにして「カズってこんなに強かったのか」ってなるかもしれないし。

中村　でも、"モノサシ"っていったら、俺はボブチャンチンに勝っていて、近藤選手は負けてるわけですからね

――その強さっていうのが、日本人同士の直接対決になったら、より明確になるんじゃないかと思うんですよ。中村選手の強さって、ボブチャンチンやランデルマンの強いところを出させない強さだったりするじゃないですか。

中村　それはあるかもしれませんね。

言葉もわからないのに、みんな本当に親身になってくれるんですよ

それは闘い方としてあると思うんで。あとは、こういう日本人対決で結果が出たときに、改めて「ああ、あの戦法はホントは強かったんだ」というのが出るんじゃないかなと（笑）。

中村　いや、違うんですよ！　基本的に俺はちゃんと一本狙っているんですよ！　一本狙って、お金払っている人に、いい試合見せようと思うんですけど、なんて言うんですかね、疲れちゃうんですよね（笑）。

——疲れちゃいますか（笑）。

中村　いつも一本取るために必死なんですけど、結果が伴わないんですよ。

だからファンのあいだでも「よく考えてみたら、ミドル級日本最強はカズじゃないか」っていう声も出てきてるんですけど、あとはインパクトある形で結果を残すしかないですよね。

中村　それは自分でも自覚していますね。ちゃんと形に残さないと、世間に届かないということもわかっているし。ただ、振り返るのはまだ早いですけど、今年はいい経験できたんでね。一年間楽しかったですよ。あ、まだ終わってないんですけど（笑）

——もう大晦日、勝ったつもりでいるんじゃないですか!?（笑）。

中村　違う、違う。勝ったつもりじゃ、こんなとこまで来ないですよ（笑）。ホント、日本語が恋しかった。やっぱり言葉が通じないのは、正直キツイですね。

——英語すら通じないんですもんね。

中村　そうですね。英語は俺もわかんないですけど（笑）、やっぱコミュニケーション取りたいじゃないですか。俺みたいな日本からやってきた人間に対して、みんなホントに親身になってくれるというか、一緒にやろうみたいな感じで言ってくれるんで。

そこが日本と一番違うというか？

中村　日本は練習場行っても、自分で練習して自分で帰るって感じなんで。先生が別にいるわけじゃないし。吉田（秀彦）さんは師匠ですけど現役ファイターでもあるんで、声はかけてくれますけど、練習メニューは「任せる」みたいな感じなんで。だから昔の高校の頃とか思い出しましたよ。先生がいて厳しく妥協なく指導してもらって。

——アンドレ・ペデネイラス先生は凄く情熱的そうな人ですよね。

中村　ペデネイラスさんより、ペドロのほうが凄いですね。普段は優しいけど、練習中はメチャクチャ怖いですから。足とかにできてるアザはみんなペドロに蹴られた跡ですからね。

——ペドロさんはオランダにも行ってたんで、ブラジル式とチャクリキ式が混ざって余計凄くなっちゃったんでしょうね（笑）。ブラジルはこれからも来る予定ですか？

中村　そうですね。でも、今回みたいな5週間は長いな（苦笑）。3週間でいい。本もけっこう持ってきたんですよけど、とっくに全部読んじゃったから。

——じゃ、練習が終わったら、かなり孤独を噛みしめていると（笑）。

中村　練習が終わったら、一人で帰って、知人に電話したり。完全にホームシックですよ（笑）。まぁ、それも修行のうちですからね。

——そういったものすべてを大晦日に爆発させられるよう期待してますよ。

中村　ありがとうございます。

——じゃあ、『男祭り』に向けて最後に一言。

中村　がんばりま～す！（ピースサイン）。

【05年11月29日（現地時間）／ブラジル、リオ・デ・ジャネイロ ファス・バーリ・トゥードにて収録】

足関十段の目に涙!

DEEP初代フェザー級王座を今成正和が制す!

文／橋本宗洋　撮影／平久幸雄
designed by maiko (TwoThree)

【12月2日／後楽園ホール】
DEEP22 IMPACT
フェザー級初代王者決定トーナメント

○今成正和 vs 前田吉朗×
（3R 1分21秒 アンクルホールド）

最後は前田が三角絞めを狙ったところを足関で切り返す劇的な幕切れ！　裏街道を歩いてきた今成が、ついにチャンピオンベルトを腰に巻いた！

今年の『PRIDE男祭り』における大きな柱になっている日本人対決であるが、12・2DEEPフェザー級トーナメント決勝は、その醍醐味を、足先に堪能させてくれるものであった。片やパンクラスの軽量級エースにして破格の打撃を持つ前田吉朗。対するは〝足関十段〟今成正和という絶対に負けられない、負けたくないお互いの意地があり、観客側にとっては〝いったいどっちが強いのか!?〟というシンプルにして究極の興味をそそる一戦である。

準決勝は今成がマイク・ブラウンにアンクルで一本勝ち。前田はムアンファーレック・ギャットヴィチアンをグラウンド打撃でKOしてみせた。正直、元ムエタイ&ボクシング王者とスタンドで打ち合う前田の姿を見たかったという気持ちもあるが、それだけ今成戦に集中していたということだろう。前田にとって、トーナメント優勝は今成に勝つことと不可分だったのだ。

決勝戦。スタンドで間合いをうかがう両者に漂う〝電圧の高さ〟がただごとじゃない。前田は打撃を狙い、今成はもぐりこんで足関を仕掛けんとする。一方が動いた次の瞬間には、勝負が決していているかもしれないのだ。〝まばたきさえ許されない〟という表現は、この試合に限っては比喩でもなんでもなかった。

前田の打撃をかいくぐって今成が引き込み、それをクリアした前田がパウンドを浴びせつつ立ち上がるという展開が続く。二人とも、余計なことはまったくしなかった。相手の攻撃は食らわない。自分の持ち味を出し切る。そのことだけに100パーセント集中。それはつまり、我々が見たいものだけを見せてくれたということでもある。

ただ、試合後半には〝もうちょっとなんとかしろよ〟というムードが客席の一部から発生したのも確かだ。前田のパンチが放たれた瞬間に仰向けとなり、寝技に誘い込む今成に業を煮やしたのだろう。今成はやるべきことをやっているだけなのだが、それが〝逃げ〟に見えてしまう。

このムードに敏感に反応したのは、前田のほうだった。今成の誘いに乗るようにグラウンド戦に挑み、パウンドを連打する。その結果が、一本負けであった。ペースを乱したほうが負ける。勝負の鉄則である。

だが、あの場面でペースを自ら乱した前田は正しかった。より正確に言うなら、美しかった。あそこで前田が〝踏み込む〟ことをしなければ、この試合はドローに終わった前回の対戦と同じ〝噛み合わない緊張感〟だけが残るものになっていたはず。それに〝劇的決着〟をもたらしたのは、前田の美しきミステイクの賜物なのだ。もちろん、最後まで己のスタイルを貫き、判定では不利になることを承知で〝極め〟だけを狙い続けた今成もまた正しく、その果てに流した涙は美しかった。

興行規模は大晦日より数段小さく、フェザー級という階級は一般ファンにはまだ認知されていない。だが、今成と前田の闘いを見たいまなら、こう断言できる。

こっちの〝ITADAKI〟も相当に高い。

次回大会予告
2・5 DEEP23 IMPACT
DEEPミドル級タイトルマッチ
桜井隆多vs長南亮決定!!

フェザー級トーナメントの成功でその存在意義を再び増したDEEP。次は桜井vs長南のタイトルマッチという、『PRIDE武士道』クラスのカードを早くも発表！　またしても後楽園が燃える!

大晦日テレビ戦争にサスケも出陣!?
6(Dynamite!!)、8(男祭り)もいいけど
10(超常現象SP)もお忘れなく!

ザ・グレート・サスケ

みちのくプロレス会長／岩手県議会議員／UFO研究家

韮澤潤一郎

超常現象研究家／たま出版社長

マット界一のUFO研究家が"大御所"と初遭遇!!

"UFO最強タッグ"結成!

この号が書店に並ぶ頃には、さすがに「Dynamite!!」や「男祭り」のカードも出揃い、大晦日はどっちを見[illegible]「kamipro」読者も[illegible]。しかし、大晦日には、もう一つのバトルが[illegible]ことを忘れちゃいないか？ そう、テレビ朝日系年末特番「[illegible]超常現象SP」（21:00～[illegible]）。今年は「2012年地球大異変!? ビートたけし[illegible]恐怖の大予言」と題して行なわれるこの番組。その主役とも言える存在が大槻教授との白熱バトルで知られる韮澤さんである。昨年に引き続き「kamipro」登場となる韮澤さんと、プロレス界一のUFO研究家[illegible]ザ・グレート・サスケのUFO話オンリーのドリーム対談が実現!!

聞き手／堀江ガンツ　構成／松澤チョロ　(designed by shindo(TwoThree))

DEEP

文／橋本宗洋　撮影／平久幸雄
designed by matsu (TwoThree)

今回は法政大学の学園祭でUFOについての講演を済ませたばかりのサスケさんと、毎年大晦日に放送される『TVタックル』で熱いUFOバトルを繰り広げていらっしゃる韮澤さんとの夢の対談を実現させにやってまいりました!

韮澤　ああっ、今日は（11月22日）UFOの講演をしたの!?

サスケ　はい！　私もUFOが大好きなもので、御社の出版のものはだいたい拝見させていただいております（深々と頭を下げる）

韮澤　ああ、そうなんですか。それは恐縮です（笑）

サスケ　やっぱり一番は「第三の選択」ですよね!

韮澤　それはまた古いですねぇ（笑）

サスケ　あの本がきっかけで「たま出版」さんの本は一通り買わせていただきました

韮澤　いやぁ、それはありがとうございます（ニッコリ）

サスケ　今日は本当に嬉しいなあ

今日はUFO研究家同士、思う存分に語ってください!

サスケ　いやいやいや、研究家たなんて。私はいち読者ですから

韮澤　でも、やっぱりね、サスケさんも公職に就かれたんたから忙しいでしょ?

サスケ　いやいやいや、そんなことないですよ

なんと言っても、サスケさんは政治の場でしっかりUFO問題を論議したいという、兼ねてからの悲願であったその第一歩を踏み出されたわけですからね【注1】

韮澤　サスケさんがここに来る前にね、ちょうど岩手県の議事録を読んでたところなんですよ

サスケ　ありがとうございます!

韮澤　あれを読んだら、なかなかしっかり組み立てて質問されてるから関心しておりました

サスケ　とんでもないです!

まだまだUFO問題はタブー。ヘタに口にしたら大変な目に遭う

サスケさん、あれはやはり狙ってたんでしょうか?

サスケ　いやいや、本当に全然狙ってなかったんですよ

韮澤　ちょうどその前に国会の参議院総務委員会でUFO論議が行なわれて、ちょっとタイムリーになりましたからね【注2】

サスケ　逆にあの国会の論議があって、「あ、先にやられた・・・」って思ったんですよね

本当は俺がやらなきゃいけないところを、と（笑）

サスケ　それで慌てて私もやったという形になりましたけど

韮澤　なんていうか、麻生総務大臣も当たらず障らずみたいな発言でうまく逃げてましたよね

サスケ　しかし、むしろ質問した山根隆治先生よりも、麻生大臣のほうがUFO問題について、よく知ってるような答弁でしたね

韮澤　麻生さんは答弁の中で、私の母はUFOを見たと興奮していたことがあった」と言っちゃってるからね（笑）

タハハハ!　そんなことか国会で論議されてるんですか!

サスケ　いやでも、あれは素晴らしい答弁でしたよね

韮澤　（声をひそめて）ここだけの話ですけどね、あの質疑があった少し前にあるUFO情報が流れましてね　大物政治家がちょっと動いたことがあったんですよ。その流れで山根さんあたりがプッシュされたんじゃないかなと思うんだよねぇ。

それは何か違う力が働いたんじゃないかということですか?

サスケ　おそらくそうでしょうね　あの議事録を見てると山根隆治先生ご本人はそんなにUFO問題をわかってらっしゃらないようなしゃべり方でしたもんね

韮澤　まあ、UFOも深く広いんでね。議員さんも一朝一夕でなかなか、ものを言えないと思いますよ

サスケ　むしろ誰かに言わされたみたいな感はありましたよね。やけに唐突でしたからね

韮澤　じつは政府の中ではUFO情報ってけっこうたくさんあるんてすよ。でも、やはり日米安保条約でそういった情報関係はカッチリ抑えられてますからね。あんまり表面の動きはないんですよ

サスケ　まあ、あの議会はいずれ歴史的な出来事にはなりますよね。初めて公の場で議論されて議事録にも載ったわけですから

いままでは、やはりUFO問題はタブーだったわけですよね?

韮澤　いや、まだまだタブーですけど。ヘタに口にしようもんなら大変な目に遭うからね

そのタブーを口にしてしまったサスケさんは大変な目には遭ってないんですか?

サスケ　私は逆に今日の学祭も含めてもっとたくさんの場でUFOについて発言したいと思ってるんですよ　むしろそれが自分の身を守る方法だと思います

韮澤　今日の学祭ではいったいどんな話をされたんですか?

サスケ　今日はですね、ケネス・アーノルド事件【注3】とロズウェル事件【注4】、あとフィリップ・ジェイ・コーソー【注5】をちょっと。その要約をみなさんにお伝えしようというのが最大の目玉だったんですけど

韮澤　それは非常に啓蒙的ですね　昔はUFO情報が頻繁に流れた時代があったんですけど、いまはそういうこともないから若い人たちは、ほとんど知らないでしょう

サスケ　そうなんです。UFOについての知識がぽっかり抜け落ちてる状況なので、講演でも最初はみんな

この対談前、サスケは法政大学学園祭で「未確認飛行物体の実態」という講演会を開催。学園祭といえば、かつてはプロレスラーのトークイベントが花盛りであったが、最近までの数も激減状態。そんな中、登場した我らがサスケはプロレス話は一切なし。専門分野のUFO話オンリーで約2時間しゃべりっぱなし。この講演会は、最初の挨拶以外、全編にわたり教室の電気を消し、自らパソコンで編集した様々なUFO映像&資料をもとに、ひたすら解説を入れていくという画期的なスタイル。これまでの研究結果を惜しみもなく披露したサスケは受講者をビビーッとたじろがせていた

私は逆にたくさんの場で語ることが身を守る方法だと思ってます

笑ってたんですよね。でも最後のほうは真剣な顔つきになってましたから　あれはよかったてすねぇ

韮澤　いいですねぇ。どんどんサスケさんに頑張ってもらってUFOの実態を伝えてもらいたいてすね

　今日はいわゆるタレントとかレスラーによる学園祭のトークショーというよりも、すっかり講義になってましたもんね（笑）。

韮澤　いいことですよ。UFOについてはアカデミズムはまず認めてないわけだから公の場では教えないんですよ。だからそういう政治レベルまで持っていくことは凄くいいことたと思いますよ

サスケ　おかげさまで私の地元の岩手ではテレビ局がけっこう積極的に報道してるんですよ。一ヵ月ぐらい前ですかね、岩手の大船渡という場所でピカピカ光る物体があったという報道があったんです。先にTBSの『ブロードキャスター』でチラッと放送してたんですけど、その後、ローカルニュースでもやってました。

韮澤　あったあった！

サスケ　結果的にはあれは金星だったんですけとも、たたニュースはマジメにやってくれてますよね。

　でも、サスケさんの住んでる東北というのはUFOの目撃情報がかなり多いと聞きますよね。

サスケ　多いですねぇ。

韮澤　昔は秋田空港の遭遇事件も凄かったですもんね

サスケ　有名な「秋田空港管制塔事件」というのがありました

韮澤　あれは凄いですよね。

　あの……、どのように凄いんでしょうか？（笑）。

サスケ　説明しますと、ある管制官かですね、UFOを目撃したという報道か流れたんです　その事実は管制塔の交信記録にも全部残ってますし、当時のローカルニュースでも流れてたんですよ。ところがですよ、後日もう一回取材に行ったらその管制官かUFOを目撃したという事実を全否定しちゃったんですよね。あの変わりようはね、どこかから圧力があって口止めされたに違いないんですよ。

韮澤　ヒドい話だよね。実際にね、管制官か「ひょっとするとUFOじゃないの？」っていう声を録音したの、私持ってますよ。もう本人はビックリしてるの。残念ながら映像はないんだけどね。

サスケ　インタビューに応えた管制官は最初は一生懸命「UFOだった！」って言ってんのに、後日「え？　そんなこと知りませんよ」って手のひらを返したような態度になっちゃったんですよね。その変わりようがね、やっぱりなんらかの圧力があるのかなと思いますよね。

　UFO問題ってそういう話が多いですよね。

韮澤　あの～、日航のジャンボ……

サスケ　（急に立ち上がって）待ってました！　お話しましょう！　日航アラスカ上空UFO遭遇事件【注6】

韮澤　あれ、今年になってABCか特番やるって言ってて、わざわざ機長に電話がかかってきてるっていう話ですからね

サスケ　はいはい、寺内機長ですねー

韮澤　一応、私か彼を紹介してあげたんですよ。しかし本人が出演を断りましてね。

サスケ　それはまたどうしてですか？

韮澤　ご本人はいま管理会社で仕事されてるんですけども、国際法上、パイロットはUFOの目撃情報は公表できないことになってるんですよ。だから日航としても法律を破るわけにはいきませんからストップせざるを得なかったんでしょう。

　えっ？　世界にはそんな法律があるんですか？

韮澤　あるんですよ　たから話てきないんです。日航も安全性の疑惑が出るとマズいということでシャットアウトしたんでしょうね。

サスケ　先ほど講演でディスクロージャープロジェクト【注7】のひとつとして、ジョン・カラハン【注8】のインタビュー映像を少し流したんですけども、そこで彼が言うには日航ジャンボ機かUFOと遭遇したあとにユナイテッドの機体もUFOと遭遇したという話をしているんですよね。しかもユナイテッド機はそのまま着陸まで追いかけられたっていう話なんですよ。

韮澤　（ニヤニヤ）。

サスケ　たから本当はちゃんと裏は取れてるはずなんですよ、この日航事件は！

韮澤　サスケさん、私の『ニラサワさん』【注9】っていう本はご存知ですか？

サスケ　じつはその本だけはまだ拝読してないんですよ。

韮澤　その本に、いまの事件の詳細か全部出てますよ

サスケ　おおおおおおお！（立ち上かって拍手）

韮澤　（カバンから『ニラサワさん』を取り出して）これ、内容は非常にハードですよ。私、カラハンの証言と日航の寺内機長の最後のインタヒューを収録したテープを持ってるんですけど、その抄訳が本に出ています。これはねホワイトハウスで大問題になった物件て、11PM【注10】で流そうという話にもなってたんだけど、オンエアの直前にストップかかかったんたよね

サスケ　それはどっからストップがかかったんですか？

韮澤　まぁ、直接は日航自体か寺内機長の動きを封じたんですよね。でもその前にそれを封じたのが国際的な航空組織　てね、面白い話かあるの。このUFOはワインを積んでたんですよ。

　UFOの中にワインがあったんですか！（笑）。

韮澤　そう。しかもフランスのワイン　たから宇宙人もね、お酒に興味があったんですよね。

　ダハハハハ！

韮澤　まぁ、これは私の邪推ですけど（笑）。あとね、このときのインタビューをずっと追ってみると、途中から寺内機長自身、UFOのパイロットと心の交流か起きてきてるのがわかるんですよ。さらに興味深いのがね、そのとき来たUFOのパイロットは宇宙人の中でも異端であるということなんです。

サスケ　異端というのは具体的にいうと？

韮澤　UFOのパイロットというのはね、基本的に地球に接近できないようになってるんですよね。しかしインタヒューを聞く限りでは、そのパイロットは規則を破って地球に来たよという話をしてるんですよ。

サスケ　そうなんですか！

韮澤　せっかくなんでね、これ読んでくださいよ（『ニラサワさん』をサスケに渡す）。プレゼントします。

サスケ　うわ～、ありがとうございます！　……あの～、よろしければサインをいただけないかと。

韮澤　はいはい

サスケ　すみません！　いや～、嬉しいなあ（早速、ペラペラとめくり読み始める）。

文／橋本宗洋　撮影／平久幸雄
designed by matsui (TwoThree)

韮澤　けっこう面白い本ですよ。これはアブダクション系の詳細なレポートも掲載されてるんですけどね。あのね、アブダクションというのは具体的に言うと誘拐されて身体検査されることなんだけど、あれはどうもね、宇宙人の挨拶みたいなんですよね。

——宇宙人の挨拶ー（笑）。

韮澤　具合が悪いところがあれは治してくれることもあるんですよ。

サスケ　ガンみたいな腫瘍も治しちゃうんですよね

韮澤　そうそう。地球人にとってはアブダクションは被害みたいな印象なんですけど、実態はコミュニケーションを目的に行なわれているわけです。アブダクションを受けた人はけっこう多いんですよ。世界で一億人ぐらいいるんじゃないですか？

——い、一億!?　そんなにいるもんなんですか？

韮澤　ただ人にしゃべれないんですよね、体験者は　まあ、UFOの話をすると変人を見るような目で見られるから話さないんでしょう。

UFOの話をするたけで、日本ではちょっと変わった人扱いされますからねぇ。その点、サスケさんも議会では相当変人扱いされてるんじゃないですか？

サスケ　これはね、面白いエピソードがあるんですよ。私がUFO問題に関して質問したときに、やっぱりドッと議場が沸くわけですよ。「あはは！」みたいな。でも会議が終わったあとにある先輩議員が近づいてきてこう言うんです。「俺も見たんだよ、UFO」って（笑）。だからやっぱりみんな心に思ってるんだけど言えないんでしょうね。

韮澤　みんなが口にしなくなったのは、要は当局のひとつの策略なんでしょうね。これは遡るとブルックリン研究所【注11】のレポートから端を発してるんですよ。1960年付近はUFOの目撃情報というのは多かったんですよ。これにはアメリカ政府も困りましてね。どうしようかということで米軍のシンクタンクとかいろんなところでUFOを研究し始めたんですよ。そうすると、どうも現在の段階では大衆に情報を出すのはマズいと、要は隠蔽するという結論を出したんですよね。そして、それがいまだに続いているわけです。だから国会でいくら取り上げても、ある一線からなかなか入れない。情報そのものにアクセスできないですからね。じゃあ、どうしたらいいかっていうのが一つの大きなテーマかなと思ってるんですけども。

プロレスの雑誌なのに、ここまで専門的な話をしてもいいの?

J[illegible]CHIRO NIRASAWA

——では、宇宙人の本物が大衆の目の前に現われるぐらいのことがない限り、事は進展しないということですか。

韮澤　でも最近はね、宇宙から圧力がかかってきてるんですよ。

う、宇宙からの圧力!?

韮澤　……これは年末の『TVタックル』のテーマなんで、ちょっとまだ言えませんけどね（笑）。

やっぱり今年もやるわけですね（笑）

韮澤　やるやる（笑）。

——この時期になぜインタビューしたかというと、大晦日といえば超常現象バトルですからね。普通はうちみたいな専門誌たと　PRIDE　Dynamite!!　一色になるんですけど、やっぱり10チャンネルの『TVタックル』の闘いも見逃せませんから（笑）。

韮澤　本当はサスケさんも出ていただきたいんですよねぇ。

サスケ　いや〜、ぜひ出たいですよ！　TVタックル系と言えばいろんな映像出てきますけど、私が凄い気になるのはいわゆる宇宙人の中でもグレイタイプ【注12】のヤツですね。やたら頭でっかちのグレイが出てくるんですけど、そいつを座らせたら急に顔色か悪くなってクタノと　なって泡吹いて死んじゃうシーンがあったじゃないですか？

韮澤　ああ、あったあった！

サスケ　あのグレイがですね、私はもしかしたら本物の宇宙人じゃないかと思うんですよ　意外と　たって、アフダクシ ョンケースの事件もけっこうグレイが多いですよね。

韮澤　映像的には非常に優れているんだけど、でもこの問題は非常に難しいんだよねぇ。結論を言うと、若干マインドコントロールによって情報操作に利用されている可能性があるんですよ、そのグレイは。私はそのグレイというのはおそらく宇宙人が使っているバイオロボットではないかなと思うんですよね。

サスケ　ああ、私もその説は支持してます。

韮澤　そもそもグレイタイプという宇宙人種がいるということ自体がよくわからないんだよね。だからその情報操作の一環としてですね、宇宙人は地球人と違うんだと分けようとする動きがあるんですけどね。

——え!?　それはどういうことなんでしょうか？

韮澤　実際、宇宙人の大半は人間タイプなんですよ。ディスクロージャーの中に証言があるんですけど、たいたいアメリカの情報当局がつかんでいる宇宙人の数は57種類あると。

宇宙人の数は57種類もあるんですか!?

韮澤　（真顔で）そう。そのうち大半はね、街を歩いてても誰も気付かないだろうということなんです。

サスケ　まさに住民票持っててもおかしくないということですね【注13】。

韮澤　そうそう　でね、こっから私の持論ですけど、我々は宇宙から移住して住むようになった宇宙人の子孫であると思ってるんですよ。つまり我々は宇宙人の子孫だということですよね。

サスケ　なるほど！

韮澤　しかし、UFOがそのへんに飛んできて、そこから出てきたのが人間とまったく同じ姿だとなると、これは大変な騒ぎになりますよね。どういう人たちなのか、何しに来てるのかという関心が必ず出てくるわけです。ところが、こういう関心の出方はよくないんですよ　たからそれ防ぐために宇宙人にグレイタイプを作って、人間とはかけ離れた存在にしようとしてるんですよね。そうやって少し距離を置こうと。だからいま私たちはあんまり胸騒ぎしないで済んでるんです　単に怖いとか気味が悪いとかいう感情があるたけで。これはねCIAの戦略だと思うんですよ。なのでグレイタイプに関してはおそらく情報操作が半分以上だと思います。……しかし、この取材はプロレスの雑誌なのに、ここまで専門的な話をしてもいいの？

全然大丈夫です！　サスケさんにも以前、UFOのことだけを語ってもらったインタビューもありましたから（笑）。

韮澤　ああ、そうですか。それは安心しました（笑）。

サスケ　大丈夫です。『kamipro』的にはノー問題です。で、話を戻しますけど、たしかに人間タイプということですと、例のロズウェル事件で回収された宇宙人の遺体も限りなく人間に近い顔をしてたという説がありましたよね
韮澤　当時はそういう情報か流れたんですよね。その後はいろいろ説が変わってきてるんですけどね。
サスケ　まさにそこも情報操作ですよねー
韮澤　これかまた巧妙でしてね　私もいろいろ追いかけてるんですけど、やっぱり巧妙なエセ情報が混ざってくるんですよ。大事なポイントでそういう穴がポッと出てくる。それはやっぱりなんらかの意志のもとに流れている情報なんですよね。その嗅ぎ分けはね、40年ぐらい研究している私からするとだいたい臭いでわかるけどもね。
サスケ　さすがです（笑）。まあそれについてはMJ－12文書【注14】が有名ですよね、全部ウソじゃないかと思わせる文面なんですけど。
韮澤　でもちょっと真実も混じってるんだよね。
サスケ　そうそう。先日、矢追純一さん【注15】とお会いしたんですけど、話を聞くとやっぱりMJ－12は本当だったという裏付けになる情報が出てきてるらしいんですよ。
韮澤　そういう組織があったことは間違いないということですよね。メンバーの名前とかは若干違うかもしれないんですし、それが現在どうなってるかはわからないですけどね。
――すみません！　〝エム・ジェイトゥエレブ〟というのはいったい？
サスケ　ご説明しましょう！　これは「マジェスティック・トゥエルブ」って言うんですけど、要は宇宙人問題を専門的に扱う12人の組織を作ったということなんですよ　それをしっかりやってくれよ的な文書が当時の大統領から渡されたんです。
――ほぉ！。
韮澤　ただ最初に出てきたその文書というのは、単にそういう引き継ぎ的な文書だったんですけど、でも最近出てきたのは違いましてね　MJ12の本質に触れる文書か出てきたっていう最新情報があるんです　で、そこには1947年のロズウェル事件も臭わせてる部分があって、やっぱり本当だったんだという見解になったんです。でもよくよく見てみるとトルーマン大統領のサインがコピーしたものだったというのがわかったんですね。そうなると、やっぱりUFOが全部ウソじゃんってみんな思うわけてすよね　それかまさに狙いなんですけど。
――要は、MJ－12という組織の存在がバレないように情報操作をするような文書がたびたび出てきているというわけですね。
韮澤　その第一文書は一応ウチで出版したんですよ。ところがその後に第二文書というのが出ましてね。それから今度は国内から第三文書というのが出てきたんですよ。これはもうそれこそ隠蔽しちゃったんだけど、もうね、第二文書あたりからサスケさんが話したようなしっかりした内容じゃなくなってくるんですよ。
サスケ　ちょっとだけ、説明すると、地下の秘密施設に米軍とグレイとが共同で使っていた広大な基地かあったと。しかし、どういうわけかそこで内乱が勃発しましてグレイをいっぱい殺しちゃったということなんですよ。遺体がたくさんあったとかね。でもこれ私は本当も混じってるんじゃないかと思ったんですよ。
韮澤　そうそうそう。そういうことがありえますからね　50～60年前にUFOが大量に地球に飛んできてたときの話ですけど、宇宙人も下に街があって人が住んでるとなればね、もうそれは着陸して中に入りますよ。いまは当時から60年経ってるんですよ　たから彼らか地球に住み着いてるのは当然であって、それが我々にいろんな影響を及ぼしているのは当然たと思いますね　まあ、それを公開すると収拾つかなくなるっていうのもわかるんですけども。
しかし去年公開された映画『宇宙戦争』みたいに、宇宙人たちは侵略とかそういうのは考えなかったんでしょうか？
韮澤　いや、きっと侵略させたかったんだよねぇ。
――「させたかった」というのはどういう意味なんでしょうか？
韮澤　……ごめんなさい。こっから先は雑誌もテレビも無理な話なんですよ
サスケ（すかさず）では私が代弁しましょう！
――お！　サスケさんのほうから代弁していただけると（笑）。
サスケ　たぶん韮澤さんがおっしゃりたいことはですね、軍需産業に関わることだと思うんですよね。要は米ソの対立抗争がなくなってしまった状態でどのように軍需産業を成り立たせるかを考えたときに、思い浮かんだのが異星人をヒールにしようということだったんですよ。対エイリアンウォーズという構造を仕立てて軍需産業を活発化させようという狙いがあるというのが、ズバリ、韮澤さんがおっしゃりたいことではないかと、
韮澤　その通り！（キッパリ）。
――ダハハハ！　言っちゃって大丈夫なんですか？
サスケ　まあ、誌面に載せられない情報も私にはいくつかあるんですけどね。まあ、これぐらいは大丈夫でしょう！　で、こっからはオフレコになるんですけど、韮澤さんに、私が持っている情報をいくつか……（と言って、誌面ではとても載せられないUFO話を披露）。
韮澤　ああ、それたったら信憑性あるかもしれない。それは特ダネとしてちょっと追っかけてほしいですね。
サスケ　いまの話、『kamipro』とはいえ、絶対、オノレコたよ
大丈夫です、ホクも命か惜しいですから（笑）。
韮澤　しゃあ、私のほうも誌面には載せられないオフレコ話をしましょう！
サスケ　おお！　教えてください!!
韮澤　じつはですね……（この後、誌面を飾れない、とっておきのオフレコ話をいくつか披露）
サスケ　いや～、いまの話は絶対載せられないですね、うん！　ダメだよ、いくら『kamipro』とはいえ、これもオフレコだから!!
――よ～く　わかっております（笑）。では、そろそろ載せられるようなお話をお願いしますー
韮澤　そうですね（笑）。ちょっと話は戻るけど、先ほどサスケさんが代弁してくれたのは、まさしくその通りなんですよ。宇宙開発をリードした一番の功労者であるフォン・ブラウン【注16】も警告してたという事実があるんですけどもね。第二次大

もう全然大丈夫ですから。『kamipro』的にはノー問題です!

THE GREATE SASUKE

文／橋本宗洋　撮影／平久幸雄

戦か終わった当時、アメリカの軍需産業はね、もう縮小されるべきだったんですよ。しかしね、アメリカは経済を維持するために大量の軍事物資を消化したかったんです 結局、その後にベトナム戦争やイラクとの抗争で兵器を投入してどんどん消耗して経済を維持してたんだけども。これはやっぱりアメリカがどうしても否定できない部分で、フォン・ブラウンが警告したのは「闘う相手がいなくなれば最後は宇宙人を敵にするという可能性がある」ということなんですよね

サスケ　イラクが終わったら今度はとこと戦争するんだっていう話になりますからね

韮澤　テロ部隊を標的にしても限界があるんですよ。本当にいろいろやってるけども、宇宙人も地球側も危ない路線をキリキリ情報操作しているわけなんですよね。だから本心を言うと、やっぱり宇宙人を仮想の敵として演出したい。ところがですよ、UFO作って着陸させるなり攻撃させるなりしたいんだけど、そうはさせないぞという宇宙人側の動きもあるんですよね、これか

宇宙人との駆け引きという話になるんですね

韮澤　そういった動きがね、じつは今年の夏以降あったわけですよ。それか今年の大晦日の『TVタックル』の主要テーマなんですけどね

サスケ　いや〜、じつにいいテーマですね　これは見ないと

すみません。僕もちょっとお二人におうかがいしたい話があるんですけど

サスケ　なんでしょう?

学園祭のサスケさんの話でもあったんですけど、アポロ計画の話を……

サスケ　（遮って）アポロ計画もいろいろあるんですよね、韮澤さん

韮澤　ありますね

サスケ　まずこれはたま出版さんの『第 の選択』に書いてあることとか元になるんですけども　内容的にあれはサイエンスフィクションというジャンルなので"フィクション"なんだけど、私はあれは限りなくノンフィクションに近いフィクションだと思ってるんですよ。つまりアポロ11号の1969年の人類初の月面着陸っていうのはあれはちょっと違うんじゃないかと。最近よく言われているように、あれはスタジオ撮影の映像であると

それは聞いたことがあります

サスケ　しかし、かといって月に行ってないわけじゃなくって、月にはとっくの昔に行ってると。しかも当時、冷戦構造にあった米ソか共同して行ったたという説があるんですけどね。そのへんの説を私は支持してますね　とにかく月には先住民かいる、つまり宇宙人がいるということです。それで、月を中継点にして宇宙人は地球を見に来てるんじゃないかと。これが私の持論です。いかがでしょうか?

韮澤　その話の極めつけはね、この本に書いてあるんですよ

サスケ　ガハハハハハ!　だから『ニラサワさん』の帯に書いてある通りなんですよね!　「だから人類は月へ行くことができなくなったんですよ」と。まったくその通り!

それに月の裏側には宇宙人の基地があるというのもよく言われる話ですもんね

月の裏側に宇宙人の基地かあるんですか!?

サスケ　月の裏側って見えないてすからね。月は自転してないから

韮澤　月は公転と自転か一緒なんですよ　たから地球からは常に片側しか見えないの

サスケ　だから、月の裏側はきっと突拍子もないことになってると思いますよ。高い建物かあったりね

では、アホロの事実はとうなるんですか?

サスケ　たしかにアポロも月へは行ったんだけど、何かしらとんでもないことかあったんで「あ、やべえ」と思って引き返してきたんですよね　それが真相だと思うんですよ

韮澤　私はね、ソヒエトか崩壊する同時期にモスクワにいたんですけども、ソビエトの科学アカデミーのUFO研究部局の責任者からUFOに関するロシアの文書をスーツケースいっぱいにもらったんです。それを、ある日本の政府関係者とアメリカの情報機関の人に渡してくれって言われたんです。それがスーツケースが壊れるぐらい大量の資料でもその中にはアポロがどうなったのかっていう資料が入ってましてね　それを読んで私はアポロの真相を知ったんですよ　それによるとアポロ11号か月面に着陸したときに、途中からUFOにつけられてたということなんですよね。これも有名な話なんですけど

有名な話なんですか?（笑）

韮澤　有名です。それでアポロが月に近ついたら下にUFOが並んで待ってたと。そういう文書がちゃんとあるんです。見たら、そこに宇宙人か立ってお出迎えしてたんですよね　しかも彼らは生命維持装置なし!

サスケ　生身ですか!

韮澤　これはね、いろんな問題か含まれるわけです。月に着陸したときにアームストロング【注17】は「管制塔から外に出るな」という命令を受けているんですよ。危ない場には軍人しか出せないと。でも、その命令に逆らってアームストロングが管制塔から出ちゃうんですよね　て、オルドリンという飛行士もその様子をずっと撮影しながら一緒に降りたわけてす　残念なから、月面に降りて宇宙人とどういうコミュニケーションかあったかっていうことまではなかったけとも、結局そのためにアームストロングは宇宙開発のメンバーから除外されちゃうわけ。さらに一緒に降りたオルトリンは頭かおかしくなっちゃって。それで結局世間の反応としては「なんだ?」ってことになるわけなんですよね

月に降りて歩くシーンがテレビでもたびたび放送されますけど、あの映像は日本で撮ったんしゃないかっていう話もありますよね?

韮澤　たしかにあの映像は地球上のどこかで撮ってるんですよ。着陸シーンのところでガスが噴出してい

【注釈】

【注1】05年6月28日の岩手県議会で、ザ・グレート・サスケ議員は「未確認飛行物体（UFO）について、県内で目撃情報が相次いでいるが、県はどう認識しているのか」と [illegible]

【注2】05年[illegible]日、[illegible]務委員会で国会史上初のUFO論議が[illegible]。民主党の山根隆治議員がUFO問題を取り上げ、「国土の防衛上の観点から先々は情報収集すべきでは」といった質問[illegible]なわれている。

【注3】1947年6月24日、実業家でベテランパイロットのケネス・アーノルド氏が自家用機でワシントン州カスケード山脈のレイニア山を探索している最中にUFOを目撃した事件。アーノルド氏はその飛行物体の飛び方について「コーヒーカップの受け皿を水切り[illegible]」[illegible]たが、記者たちは「UFOがコー[illegible]」[illegible]のタイプのUFOを「フライング・ソーサー」（空飛ぶ円盤）と呼ぶようになった。

【注4】1947年7月8日、ニューメキシコ州ロズウェルの新聞[illegible]発表した。このニュースは瞬く間に世界に広がり人々を震撼させた[illegible]はりロズウェルに墜落したのはUFOであり、その近くには宇宙人の死体もあったと記されている。

【注5】[illegible]『Aviation Week and Space Technology』の元編集長。1966年より[illegible]さまざまなUFO事件の真相を解明した人物として有名で、UFO界のシャーロックホームズ[illegible]

る場面があるじゃないですか。あれは絶対ありえないですよ。

は〜、謎は深まるばかりですねぇ

サスケ　結局、アポロ計画うんぬんって騒がれてましたけど、月に行けないんじゃなくて、月にはとっくに行ってたんだと。往復もできたんですよ　でも、あの映像はニセモノだよっていうのがポイントなんですよね

韮澤　一般に公開されてる月の月面映像っていうのは、もう穴だらけでおかしい部分がたくさんあるんですよ　それはスタジオで撮影してるからやっぱり違和感があるんですよね

サスケ　あとは2分の1のスローをかけてるとかね。重力なんてないのにモノか普通に落ちたりとかね

ダハハハハ

韮澤　でも、いまからそれを覆そうとしても歴史の事実が残っているから、いまさらやっても仕方がないというか。だからUFO問題はあまりにもテーマが大きすぎて公開できないし、そういうこともあってアメリカ政府もNASAもノーコメントですよ　たから実際にいろんな事件は起きてるのにノータッチなの

それがいま頃になってボロボロと情報か漏れてきてるということですよね

サスケ　先ほど話したオルドリン飛行士が精神に異常をきたしたという話ですけど、アポロの歴代の飛行士って彼だけじゃなくてみんなおかしくなって帰ってきてるんですよね　もしくは逆に凄く気持ちが一皮むけて牧師さんになったりとかしてる人もいますし。

韮澤　多いですよ。日本でもテレ朝のアナウンサーで宇宙飛行士になってロシアの宇宙船に乗った人がいたじゃないですか。彼は地球に帰ってきてから久米宏さんなんかとよく対談したりしてましたけど、彼も一般の生活できてないですよ。マスコミにいた人間なのにね

サスケ　やっぱりとんでもないものを見ちゃったんでしょうね

韮澤　いまは農業をやってるみたい。でもUFOがらみの発言もしてますよ。してるけれども宇宙体験というか地球自体を遠くから客観的に見ると、要するに自分の意識をね シャバ世界から宇宙の次元に置くわけですよ。そうするとやっぱり聖人君子みたいになっちゃうんだな。悟りの世界に入っちゃうっていう。

サスケさんも今日の講義の冒頭でそういう内容の話をされてましたよね

サスケ　言いましたね。ちなみに私はUFOを2回見たことがあるんです　でもUFOなんて明らかに地球上のものではないんでね、ああいうの見るとやっぱり人生観変わるんですよ。

UFOを見たと言いますが正しくはあなたが見たんじゃないんです

韮澤　サスケさん、あなたUFOを見たとおっしゃいましたけども、正しく言えばそれはあなたが見たんじゃないんです

サスケ　というと？

韮澤　それは向こうが姿を見せてくれたってことなんですよ

サスケ　そうだったんですか！

韮澤　普通はUFOは可視光線に出ないように飛んでるんですよ。しかし、アブダクションなんかもそうですけど、ターゲットにした人間には姿を見せるんですよ　たから見た人はだいたいチェックされてるんですよね　たからたぶん見たけしゃ済まないと思いますよ

サスケ　もしかしたら私の身体にはすでに何か埋め込まれてるかもしれませんね

韮澤　なんらかの影響は必ずあるはずです

たしか韮澤さんは10代の頃にUFO最初に見たんですよね？

韮澤　そう、小学校3年のときですね。それから50回ぐらいは少なくとも見てます

サスケ　うわー、やっぱ凄いわ

それはかなり選ばれてる人間っていう証ですよね

韮澤　でも、私は大学時代にUFOの研究を始めたんですけども、そのときは親父に勘当されたんですよね

そりゃ、法政大学にまで入ってUFOの研究をしてたわけですからね（笑）

韮澤　しかし、親父はもう5年ほど前に亡くなったんですけども、臨終の直前に私に告白したことかあるんですよ　昔、両親は群馬県に住んでて終戦の直前には中島飛行場というところでジェット機を作ってた

対談の途中「そういえばサスケさん、インターネットで見つけたUFOのモノ凄い映像がありますよ」と、社長室に移動しパソコンを立ち上げると、そこには鮮明に空中を飛び回るUFOの姿が！「これは凄いですねぇ」と、さすがのサスケも驚きの表情

【注6】1986年11月17日、日航ジャンボ特別貨物便1628便がアラスカ上空で巨大なUFOに遭遇した事件。事件が起きた日、JAL寺内機長はFAA（米国連邦航空局、全米の管制センターを管轄している政府機関）の[illegible]デリー事務官とJAL本社にUFO目撃事件の詳細を伝えたが、報告を受けた両者は沈黙。その後、寺内機長をはじめ目撃者全員が業務上の理由でマスコミから遠ざけられ、事実上、取材不可能となってしまった。

【注7】政府が隠しているUFO情報を少しずつ表面化することで大衆をUFO問題に慣れさせようとする計画。「高度な技術を持った宇宙人がたびたび地球に来ている」[illegible]に伝えるよう[illegible]ショックを少なくしようという作戦。このディスクロージャープロジェクトは2001年5月9日に実施され、初日には[illegible]20人以上の軍人、情報部、政府、科学者などの要人が集結[illegible]

【注8】[illegible]米国連邦航空局[illegible]

【注9】2003年12月15日に出版された本で、韮澤さん自身がUFO事件の真相に深く答えている。[illegible]抜粋して[illegible]いない宇宙人の写真と住民票まで掲載されている（袋とじ）。

【注10】日本テレビ系列で1965年11月8日から1990年3月30日まで放送された深夜番組。大橋巨泉、愛川欽也、藤本義一らが司会を担当し、社会問題から深夜ならではのアダルトな内容を放送。番組開始当初はバニーガールのアシスタントが番組を盛り上げた。

【注11】所在地はアメリカで、アル[illegible]研究所と共同で空気を遮断するプラズマバルブの開発などを行ない成功を収めている。

【注12】灰色の肌に大きな黒目をした、世界中で最も多く目撃されているエイリアン。

【注13】韮澤さんは「TVタックル」で「火星人の住民票を持っている」

んですけども、そのときに遭遇してるんですよね、ＵＦＯに。で、その出来事を私に伝えるのに非常に不思議な言い方するんですよね「お前が受胎したときに、俺はＵＦＯを見たよ」と。

「生まれたとき」じゃなくて、「受胎したとき」なんですね

韮澤　そうなんです。その遭遇の場面も凄いんですよ　関東平野の田んぼのところに親父が立ってたら円盤のでっかいヤツが近づいてきたと言うんです。それで「じつはそんなことがあったから、お前がＵＦＯ研究するのは無理はない」と　死ぬ直前にすべて許してもらったんですよね。だからね、ひょっとすると私は宇宙人かもしれないよ（笑）

サスケ　そうかもしれませんよね

でも、日本でも40年以上前っていうのはいわゆるマザーシップ型ＵＦＯ【注18】の目撃というのが多かったですよね。だから私のひと世代上の人っていうのはみんな目撃してますよ

韮澤　ロズウェル事件から10年間ぐらいね。その後はね、宇宙人のタイプが若干変わってきたね

サスケ　そう！　年代によって変わるんですよね、宇宙人も

韮澤　宇宙人側の言い分もずいぶん変わりましたよね

サスケ　だから、最近アブダクションが行なわれてるってことも聞かれないじゃないですか

韮澤　沈静化してますよね

サスケ　あとキャトルミューティレーション【注19】も減ったし。年代によって変わるんですよ。最近はブツブツですよね？

韮澤　空に５００機ものＵＦＯが浮いてるんですよ。去年の10月でしたかね、私の友人が撮った写真もありますけど、それに関してはもっと重大な問題があるんですけど、（急に小声になり）こっから先は『ＴＶタックル』で言いますんで（笑）。

サスケ　ガハハハ！　素晴らしい！

大晦日はサスケさんも参戦した

大槻教授も立場上、否定するけど、基本的には好きなんです（笑）

にらさわ・じゅんいちろう■1945年新潟県出身。法政大学文学部卒業。小学生のときにＵＦＯを目撃して以来、長きに渡り内外フィールドワークを伴なった研究をもとに雑誌やＴＶで活躍中。たま出版社長として数多くのＵＦＯ関連の書籍を発行している。現在モバイルのＥＺチャンネルで「ニラサワ星人」を配信中！

サイン入り本をプレゼントされ、ご機嫌のサスケ。ある意味、ＵＦＯ最強タッグとも言える、この二人の共演が見られる日は来るのか？　大晦日は「Dynamite!!」も「PRIDE男祭り」もいいけど、「ＴＶタックル超常現象ＳＰ」もお忘れなく！　たま出版HPはコチラ→ http://tamabook.com

ざ・ぐれーと・さすけ■1969年岩手県出身。新日本プロレス学校を経て、ユニバーサル・プロレスへ入団。その後、メキシコ武者修行を経験した後、1992年、みちのくプロレスを創設。現在は会長を務めながら、岩手県議会議員としても活躍中。その一方でプロレス界では他の追随を許さないＵＦＯ研究家としても有名

私も出してもらえるなら、ぜひフォローさせていただきたいなと

ほうがいいんじゃないですか？

サスケ　私はいち読者だけど、ぜひ韮澤さんの側でフォローしたいね、肯定派としては。まあでも肯定派はもう揺るぎないものを持ってるから大丈夫なんですけどね。だって否定派の大槻教授もたまにＵＦＯの存在を認めてるじゃないですか

韮澤　いや、あの人も「火の玉研究」なんてのをやってた人間ですから基本的には好きなんですよ

ダハハハハ

韮澤　立場上は否定するんだけどね。だって肯定しちゃったらメシ食えなくなっちゃうもん

サスケ　このあいだの奈良県の飛行機とのニアミス飛行隊事件【注20】も大槻教授は認めたんですよ「これはプラズマじゃない。しょうがないなあ」って言っちゃって（笑）。

要は、逆方面の研究家でもあるということなんですよね。否定を前提にした研究家というか

韮澤　ただ一般大衆の見方というか、学会の立場からすれば否定するしかないからね。変に妥協すると大変なんですよ。あの人も立場上かわいそうなんですよね

サスケ　現代科学の崩壊になっちゃいますもんね

韮澤　でも大槻さんはしゃべるのが仕事だから、なかなか手強いんだよ。いつも俺、負けた形になってるからね（苦笑）。

そういうところでうまく番組が終わっちゃうんですよね（笑）

サスケ　私は出させてもらったら絶対フォローさせていただきたいなと常々思ってたんですよ。

サスケマネージャー　31日って、いまからじゃ交渉できませんかね？

韮澤　いや、あの番組はね、もう半年前から全部決まってるの　出演者から設定から

サスケ　じゃあ、やはりテレビの向こうから応援するしかないですね

韮澤　私もサスケさんに応援していただけると思うと心強いですよ

サスケ　わかりました！　では大晦日の放送を楽しみにしてますんで、今後ともいろいろ教えてください！

というわけで、「kamipro」読者も「6」と「8」だけじゃなく、「10」も忘れずに！　というわけで、今日はありがとうございました！

韮澤　はいはい。あの、最後にサスケさんと記念写真撮りたいんだけど

サスケ　（恐縮して）こ、こちらこそお願いします！

【11月22日／都内・たま出版にて収録】

と主張。ＵＦＯ否定派の大槻教授[illegible]にその提示を要求されたが、「見せ[illegible]火星人の住民票と[illegible]地球で作られた[illegible]で書かれた住民票だから、判別がつくはずがない」と述べている。

【注14】ロズウェル事件をきっかけに、当時のトルーマン大統領はＮＳＡ（国家安全保障局）をつくり、ＵＦＯ問題を専門に協議する12人の組織「ＭＪ－12」を設置。ＭＪ－12文書は、ここで協議したＵＦＯ問題の内容などが記されている極秘文書で、次期大統領アイゼンハワー氏に引き継がれている。

【注15】元日本テレビディレクター。超常現象を扱った番組を担当し、[illegible]と呼ばれるようになった。

【注16】ソ連及びアメリカでのロケット技術開発者のひとり。[illegible]初の人工衛星の打ち上げに成功した人物。

【注17】アメリカ航空宇宙局の飛行士。1969年[illegible]月19日、アポロ11号の船長として世界で初めて月面に降り立った人物。

【注18】葉巻型母船。[illegible]の飛行用に使われていると言われる。

【注19】動物の死体の一部がきれいに切り取られ、しかも血液がなくなる[illegible]奇妙な怪事件の[illegible]。[illegible]田の[illegible]名でもある。

【注20】2005年10月23日、奈良県天理市上空で日航旅客機とＵＦＯとのニアミス事件が起きている。ちなみに天理市はＵＦＯの目撃情報が多いことで有名。

今回の取材には[illegible]氏と、ファッションアドバイザーの星明美さんが同行。詳しくは→http://www.miraclebeauty.net/

新日本、身売り！『W-1』延期!! 全日本に風雲急!?

恥ずかしながら プロレスは帰って これるのか？

06年マット界の行方を探る―!!

まるで積年の膿を出すかのように相次いだ、プロレス界の地盤沈下現象！ 大晦日格闘技戦争の陰に隠れてしまっているが、危機が危機として捉えられていない現状は、赤信号すら点らなくなってしまったともいえる。いったいプロレスはどうなるのか、どこに向かおうとしてるのか。06年プロレス界の行方を探るべく、新日本の"ホワイトナイト"となったユークスの谷口社長、そしてプロレスマスコミ第一人者の"あの男"に話を聞いた。

構成／ジャン斉藤 design by さおとめの事務所

"ホワイトナイト"が語る救済買収の真意、今後の展望

「私は口を出しませんが、新日本はファンが望む方向を向くべきです」

ここ最近、業界では新日本プロレス倒産の"Xデー"がいつかいつかと囁かれていたが、11月17日の緊急会見で発表されたのは、ゲームソフト会社ユークスによる新日本救済買収！　新日本、ぎりぎりセーフでユークスの子会社として生まれ変わることになった。ユークスといえばWWEのゲームソフトや日本ツアーをスポンサードしたことでおなじみ。RADICAL時代の本誌に登場したこともある代表取締役・谷口社長に買収の真意をうかがうため直撃！　――え？　Kamiproは新日本から取材拒否されてなかったのかって？　緊急事態だから細かいことには黙ってるオラー！　久々の新日本取材なので蝶野風に張り切って

聞き手◎ジャン斉藤、坂井ノブ、ささき

"現"新日本プロレスオーナーが本誌初登場！

谷口行規（ユークス代表取締役）

――谷口社長には以前、ユークスさんがスポンサードしたWWE日本ツアーを主なテーマにインタビューさせていただいたことがありますが、今回は"新日本プロレスのオーナー"としていろいろお聞かせください！

谷口　よろしくお願いします。

――そうはいってもKamiproは新日本プロレスから取材拒否の真っ最中なんですけど（笑）。

谷口　ええ、そうなんですか？　知らなかった（笑）。

――新日本とそういう状況下で、オーナーの方からお話を聞いていいものか……という問題はあります（笑）。

谷口　まあ、いいんじゃないですか（笑）。でも、なんでそういうことになったの？

――ええ、思い当たる節はたくさんあるんですけど（笑）、先日は後藤（達俊）選手の顔写真の横に"謀"の文字を載っけたとかで。それから水面下および表だったところでトラブルが続いてましてね。

谷口　団体間の抗争と似たような感じですね、それ（笑）。ゲーム業界はあんまりそういうことはないんですけど。

――比較的、新しい業界だから"しきたり"や"因習"があまりないんでしょうね。

谷口　柔軟に対応してますよね。一度揉めても仲直りしたりするし。

――そこは新日本プロレスのお家芸だったりするんですけど（笑）。

なぜ新日本を買収したのか？

――まずはいろんな媒体から聞かれていると思うんですけど、筆頭株主の猪木さんから株を買われた最大の理由をうかがわせてください。

谷口　10月の中頃だったと思うんですけど、新日本プロレスから「株を好ましくない相手に買われてしまうかもしれない。できればユークスさんに買ってほしい」という打診を受けたんですよ。初めに聞いたときは「それは無理だろう」と思いましたけど。

――なぜ無理だと思われたんですか？

谷口　新日本の経営状態については、あまり芳しくないという情報を雑誌などで目にしてましたから。

――新日本危機説は何度となく噂かれていましたね。

谷口　でも、サイモン（・ケリー）社長をはじめいろんな人から「こういうふうに新日本プロレスを再生していきたい」という話を聞いてるうちに、「これは可能性があるんじゃないかな」という気持ちができたんですよ。あと、ウチが新日本と提携していたデジタル・コンテンツがこれからという時期だったんですよね。だからここで新日本を買われちゃうと、先行投資が全部"破算"になりかねない。

――デジタル・コンテンツというのは、ゲームや携帯サイト、DVDですか。

谷口　そうですね。いままでは新日本の様々なライセンスがいろんなところに散らばっていたんですが、デジタルコンテンツの分野は一括してウチがやりましょうという契約を結んでいたんです。とくにハイビジョン映像については、まさに展開を模索しているところだったんです。

――ユークスさんにはビジネス面の事情があったということですが、新日本からは切羽詰った相談を受けたんですか？

谷口　まあ新日本プロレスさんに気を遣ってもらった部分もあるんでしょうけどね。ヘタするとウチの契約も解約になりかねないということで。

――ユークスさんの救済買収発表がある1ヵ月ぐらい前から、猪木さんが株を売ろうとしているという噂が業界で流れていたんです。一説によれば、10～15億円で売りに出していると。そういったお話は耳に入ってきませんでした？

谷口　いや、全然聞いてなかったですね。いきなり「どうにかならないか？」って新日本プロレスさんから言われて。急な話でこっちは驚いたぐらいで（笑）。

――救済買収会見自体も異様な雰囲気で、しかも物々しい感じを受けたんですけど。

谷口　どこから情報が流れるかわからないので、少しでも早くやっておくべきだろうということで。やっぱりウチは上場しているので、リサーチ絡みのへんな動きがあると困りますからね。木曜日に決めて、翌週の月曜日に発表という流れでしたけど、一部の人間を除いて情報を完璧にシャットアウトしてましたから。当日に「いまから東京ドームホテルに向かえ！」って指示されて、会見場で事実を知ったウチの人間もいたと聞いてます（笑）。

――会見場に行ったら自分の会社が新日本を買収していた（笑）。

谷口　それであの会見の終了後、会社に戻って、今回の件を全社員に報告したんですよ。テレビ会議を通してですけど。

――社員の反応はどういうものがありましたか？

谷口　みんな言葉が出ないという感じでしたね。記者会見に勝る質疑応答が繰り返されましたけど（笑）。社内説明はノーコメントで片付けられない。真摯に答えるのが非常に難しかったですね。

――反対の声はありませんでした？

営業　いや、もう結論は出ていますので、そこはみんな理解してくれました。プロレスゲームで生きてきたんだから、ウチのためになるということで、なんだかんだ言って、新日本プロレスは国内で一番大きい団体ですからね。

――記者会見でも、救済買収に関する突っ込んだ質問が多かったですよね。

谷口　はい。たじたじでした（笑）。

――そのひとつにサイモン社長の説明に対して「非上場の新日本プロレスが敵対的買収をされることはありえない」と。

谷口　〝敵対的買収〟という言葉が正確かどうかはわからないんですが……新日本プロレス経営陣が好ましいと思ってない相手に買われそうになった、ということですよね。

――後日、猪木事務所のHPに猪木さんの名前で「敵対的買収という言い方はおかしい」という声明文がアップされて、ボンヤリながら騒動の全体像が見えたんですが。

谷口　〝敵対的買収〟という言葉がそぐわないにしろ、どうしても新日本プロレスさんのことを思って、慎重にことを進めていかなければならない話なんですよ。だからオープンにできない部分ではありますね。

――そこで気になったのは、猪木事務所の色が強いと思われたサイモン社長の決断なんです。そのまま〝好ましくない相手〟に新日本を委ねてもおかしくないのに。

谷口　サイモン社長は新日本プロレスのことを凄く真面目に考えているんです。猪木さんは新日本を救ってくれるのであれば、どこでも……という考え方だったと思いますけど。

――「うまくいくんだったら、なんだっていいじゃねえか！」という（笑）。

谷口　で、最終的に猪木さんが「ユークスさんにやってもらいたい」ということで話が付いたみたいですけど。

――今回のことで猪木さんとは直接会われたりしたわけですよね？

谷口　いや、会ってないですね。

マッチメイク権の行方

――会見でもおっしゃってましたが、新日本を子会社化したとはいえ方針には直接タッチされない真意とは？

谷口　ウチのやるべきことはこれから先、新日本プロレスを立て直していく責任を負うことなんですけども。ゲームを作る会社とプロレスの興行会社というのは業務内容に大きな隔たりがありますし、そのボーダーをなくしてどうこうとは考えてないですね。

――他誌のインタビューでは「マッチメイクに口を出さない」ということも言われてましたよね。

谷口　そうですね。マッチメイクがきちんとできる体制を作るということには責任があると思うんですが、直接マッチメイクするつもりはないです。

――新日本の選手が「インディーぶっ潰す！」とか吠えているニュースを読むと、ユークスさんが統括して見事に進めてくれないかあ、なんて

今回の買収騒動で新日本と猪木事務所のあいだには微妙な亀裂が生じている。現IWGPチャンピオンのブロック・レスナーは猪木事務所の色が強く、来年の1・4東京ドーム大会のメインでレスナーに挑戦する藤田和之も同事務所所属。藤田は大一番を前に大晦日出撃も噂されており、なにやらひと波乱の予感も……とか言ってるうちに、藤田ドーム欠場！

衝撃の舞台裏……!?　ユークスの救済買収劇!

11月14日に行なわれた緊急合同記者会見で、ユークスが新日本プロレスの株を51.5％所有したことを発表。ユークスの谷口社長は「昨今、話題になっているような敵対的買収を阻止した結果の買収です」と説明。サイモン社長は、大まかな経緯として今年9月、ある会社が敵対的買収に乗り出していたことを報告。「自力では阻止できなかったため、ユークスさんに力を貸していただきました」と続けた。質疑応答の中で、谷口社長は株式をアントンから購入したこと、現経営陣のあずかり知らぬところ（！）で株の売買がなされようとしたことで、ユークスが救済買収したと説明。いったいどんな暗闘があったんだ……!?

直接マッチメイクするのではなく、環境を整えてあげることが我々の役目です

思っちゃうんですけど（笑）。

谷口　いやぁ～（笑）。そこらへんはファンの要望に応じてという感じですよね。現状が低迷していることは否めないので、少しでもお客さんに楽しんでもらえる、人気が戻ってくるような方策を打ち出してほしいとは思ってますし、その手助けはしていきます。そういう環境を整えるのが我々の役割かなと思いますので。

──良い意味でのプレッシャーをかける作業ですね。

谷口　そうです、そうです。「そこはこうしたほうがいいんじゃないか」とか。

──以前、本誌に掲載された谷口社長インタビューで、「K-1みたいな格闘技とWWEみたいなプロレスのどっちかに振り切るしかない。真ん中の位置が一番中途半端でよくない」ということを言われてました。そのどちらかに新日本プロレスが振り切っていく可能性はありますか？

谷口　やっぱり新日本プロレス自体が、長い歴史があって固定ファンもたくさんいるので、その人たちを裏切るようなことはしちゃいけないし、そのファンが望んでいる方向に進むべきだとは思うんですね。それと、ボクは小さい頃に猪木vs藤波を観て育った世代ですけど、いまの子どもたちってプロレスを観る機会がないじゃないですか。

──テレビ中継は深夜だから、プロレスに触れる機会は限られていますよね。

谷口　だから子どもたちがプロレスに接することができる方策を模索していきたいです。

──かつては新日本のブランドだったドーム興行の撤退はどのように捉えていらっしゃるんですか？　ユークスさんが新日本プロレスを買収する前の発表になりますが、東京ドームの開催は来年の1月4日で一旦止める、ということですけども。

谷口　これからいろいろ検討していかないといけないとは思ってますね。実際（東京ドーム大会は）数字的にはあまりよくないことはたしかで、いまの経営陣が「もうやめよう」って決めたのであれば、ウチができることは「それでもやってくれ」っていうより「採算が合うようにスポンサーをつれてこようか」とか、そういうバックアップだと思うんです。ちょっと現時点では、これからの方策ための情報収集をしている段階なので、ハッキリとしたことは言えないですが……逆にかならず年3回やらないといけないというようなものでもないですし、必要があっての東京ドームだと思うんですよ。だから東京ドームが必要なときには東京ドームでやらなきゃいけないと思うんです。ただ、いまは違うように思えますが。

両日ドーム興行連続開催記録をギネスブックに申請したものの、観客数減少の影響で来年の1月4日でラストドームになることを発表。客席数は、たまアリのスタジアムバージョンとそれほど変わらず、空間的にもプロレス興行には不向き」というファンや関係者の声も多いだけに、ドームにこだわらない新戦略は絶対に必要だ。

──最近はルーティンでやっているところはありましたよね。あと、外部の人間である長州さんが現場監督を務めている内部システムについてはどう思われますか？

谷口　現状で現場監督の適性がある人間が内部にいないということであれば、それは必然的なことだと考えてます。その件に関しても、ユークスで、というよりはサイモン社長が中心となっていくことになるでしょう。まだ買収して間もないので、新日本プロレスの内情を一生懸命把握しようとしてる段階ですから、いまはなんとも言えないのが正直なところです。

──たぶん内情を開けてみて驚くようなことがたくさんあるんじゃないかなって（笑）。

谷口　ハハハハ。

──で、プロレス専門誌の方々は、猪木さんが身を引いたことで新日本は良くなるんじゃないかって口を揃えて言ってるんですけど。ボクはそれよりも、ユークスさんの子会社になることで経営が透明になることが大きなポイントになると思っているんです。

谷口　たしかに、「ちょっと、え!?」って思うようなことは出てくると思うんですよ。そこはウチが軌道修正していかないと、どうしようもないですよね。

──経営の軌道修正という点では、いままで何人もの方が改革に手をつけるも念願叶わず退いている歴史が新日本にはあります。前社長の草間さんもその一人ですが、谷口社長は草間さんが新日本の内幕を綴った「知りすぎた『私』」を読まれたそうですね。

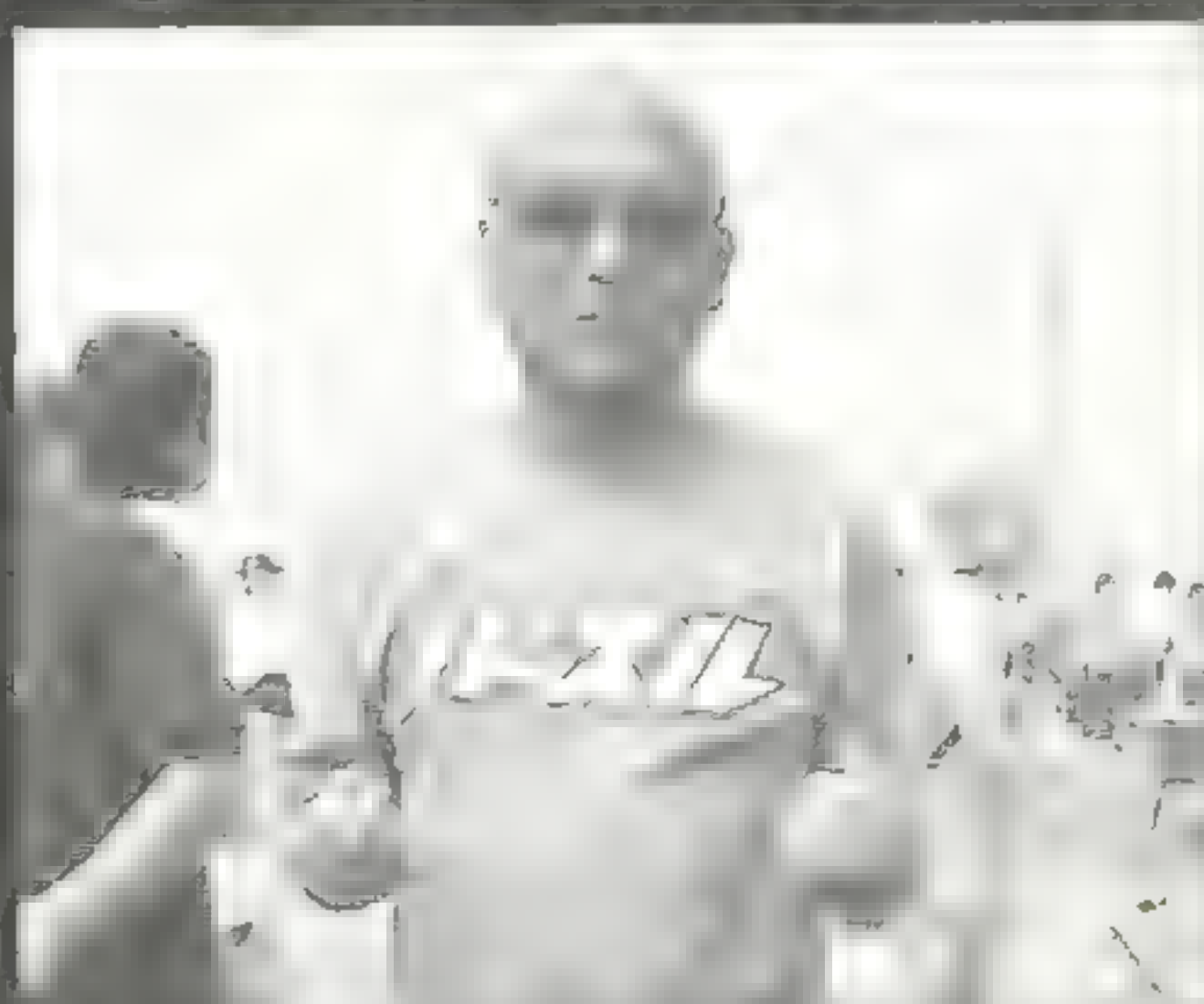
谷口　いちおうサラサラッと（笑）。

──その草間さんと新日本のあいだで裁判が行なわれています（別囲み参照）。

谷口　そういう話を聞いていますが、その件に関してはまだタッチしてないんですよ。これから関わる必要が出てくる可能性はありますし、草間さんの件に関しても、実際はどうだったのかということを明らかにしないといけません。いずれ明らかになるということで、そのへんは（笑）。

──わかりました（笑）。では、話題を変えて、他の団体との関係についてお聞かせください。

谷口　基本的にはみなさんと仲良くやっていきたいです。今度「レッス

ショック!!　本誌が草間裁判資料に！
「内容には自信を持っている」（ページ担当・談）

草間政一・新日本プロレス前社長が新日本プロレス、猪木寛至氏他を相手にした民事訴訟の第二審が11月21日、東京地方裁判所で行なわれた。社長解任・契約不履行等による和解金、損害賠償金を請求した草間氏に対し、被告である新日本の代理人弁護士は、草間氏が社長解任後に「マスコミに対する暴露的な、守秘義務違反、信用を毀損する行為が行なわれた」として、原告の訴えを無効と主張。証拠物件として草間氏の著書『知りすぎた「私」』のほか、草間氏が出演した一般週刊誌や夕刊紙、そして本誌を提出！　本誌インタビューの「（ロス道場の）維持費として月々300万円を送金していた」などの記述が守秘義務違反、「ジャングル・ファイトで誰が儲かっているのかっていうことなんです」「それはね、[illegible]マイウ」などの記述が、信用毀損にあたると主張しているという。なお、同企画担当のジャン斉藤は「内容には自信を持っているが、[illegible]マイウを日本に呼んで白黒付けるべきでしょう。ついでにジャングル・ファイトで森林保護の記念樹を本当に植えたのかどうかもぜひぜひ聞いてほしい」と、責任はどこ吹く風で訴訟の行方に興味津々。

ルキングダム」というプロレスゲームが発売されるんですけど、NOAHさんやいろんな団体の選手が登場するじゃないですか。なので、イベントをやるとき他団体をフィーチャーしてるはずなのに、逆に新日本プロレスをクローズアップしてしまう、ということがないようにしていきたいですよね。
――他団体に救済買収の事情説明というか、しっかりコミュニケーションを取ることが必要になってくるわけですね。
谷口　そうですね。「ユークスはプロレス業界と共にあるので、業界に恩返しするつもりでやっていきます」ということを訴え続けるしかないですよね。
――極端な願望をいえば、ユークスさんに全プロレス団体を買ってほしいぐらいなんですけどね（笑）。
谷口　ハハハハ。まぁ、新日本やウチにとってもいままで友好だったところと関係が悪くなるのは、あまり好ましいことではないですから。あといままで微妙な関係だったところと、できれば仲良くなれるようにしたいですけど。
――基本は全方位外交で。それでアントン政権下では、総合格闘技への参戦が頻繁に行なわれてましたけど、そのへんについてどういったお考えがありますか？
谷口　あってもいいものだとは思います。ファンはいろんな試合が見たいわけであって、たとえばプロレスラーが総合格闘技でどれくらい強いんだろう？　という興味は絶対にあると思うんですよ。
――そういう意味ではファンのニーズを大切にしたい基本姿勢がある。ところで、谷口社長は、メガネスーパーが出資したSWSというプロレス団体をご存じですか？
谷口　それは聞いたことがある程度ですね。
――潤沢な資金援助を惜しまなかったのに、なぜかマスコミから「金権プロレス！」と大バッシングを浴びたことがあったんです（笑）。でも、今回のユークスさんの買収はファンやマスコミのリアクションがいいんですよね。
谷口　ファンやマスコミの反応は想像がつかなかったですね。どちらかというと、ウチの株価が暴落したらどうしようっていう不安のほうが（笑）。
――株価のほうは安定されてますよね。
谷口　上がるか下がるか、五分五分だなと思ってたんですが、まあこれから徐々にプラスに向いてくれればな、と思いますけど。

ビジネスと使命感

――新日本に大きな影響力を持つテレビ朝日さんとの関係はどうお考えですか？
谷口　やっぱり、テレビ朝日さんの協力なしに新日本プロレスの復活は険しいと思っています。そこはいろいろ協力していただきながら、という感じですね。
――過去の試合映像に関しては、新日本プロレスというよりテレビ朝日に権利があるんですか？
谷口　そうです。あとブロードバンドで見たいときに試合が見れるということを、できればウチがやりたかったことなんです。今回こういうかたちになったので、ウチが主導になってプロレスファンの目に触れるチャンスを増やすことは大切ですよね。
――WWE関連のインタビューで社長が以前に言われていたのは、WWEで儲けるというよりは、WWEを日本に引き込むことに使命感を燃やしてらっしゃるということでした。今回の買収もプロレスを人目に触れさせるというような、よりスケールの大きいモチベーションがあるわけですね。
谷口　今回のことをひと言で言えば、ウチはプロレスゲームをつくってきた会社だから、プロレスファンが2倍になれば会社の売り上げも2倍になるわけです。だからそれに尽きますよね。
――うまく直結できるわけですね。先ほどは直接手は下さないっておっしゃってましたけど、今後のやりがいや、一つの団体を自由にできる楽しさってありますか？
谷口　う～ん。それよりも目の前にある問題のほうが先にきちゃいますけどね。
――谷口社長は猪木さんの時代の新日本プロレスを見てらっしゃったということですけども、いまになって「俺は新日本プロレスを持っているんだ」という感慨深い気持ちもないですか？
谷口　いや～、それは新日本の経営が良くなって、かつての人気が戻ってきたときに実感したいですよね。そこをきっちりしないと、選手はリング上で暴れられないでしょう。だから土台の部分をユークスが手掛けるということですよね。選手が安心してリングで力を発揮できる環境を、我々が与えられるかどうか。ウチがマッチメイクに手を出すとかよりも、フロントの態勢を完璧にする。そういう環境を作っていきたいですね。
――わかりました。新日本の救世主を越えて、ユークスさんがプロレス界の旗振り役を担ってくれることを期待しております！
【05年11月28日／ユークスにて収録】

マスコミの重鎮が語るプロレスの過去・現在・未来

「いま思えば、ミスター高橋本を黙殺したことが大失敗だった」

携帯サイト『kamipro HAND』のコラムで「バイバイキ～ン！」というフレーズを連発使用し、業界中を震撼させた『週刊ゴング』前編集長、ＧＫこと金澤克彦氏が誌面にも登場！ 11月30日付で『ゴング』をバイバイキーンと離れ、フリーとなった金澤氏に今後のプロレス界の行方、週刊専門誌からしか見えない現状を激しく語っていただいた。収録場所は本誌編集部。鬼畜編集長・山口日昇がスーパーウルトラダイナミック長期不在のため「開かずの間」と化している社長室。バイキンマン金澤が手に持つのは山口の名刺です。

聞き手／ジャン斉藤、さささい

〝元GK〟が本誌初登場！

金澤克彦

（『週刊ゴング』前編集長）

――今日は〝プロレスマスコミの権威〟である金澤さんに、現在プロレスはどうなっているのか、そしてどこに向かおうとしているのか？ というテーマで語っていただきたいのですが……まさか金澤さんがkamiproに登場することになるとは思いもしませんでした！

金澤 今日のインタビューはkamiproへの恩返しなんですよ。〝kamiproなくしてGKはなし〟というかさ（笑）。

――ああ、GK（ゴング金澤の意）というニックネームはじつは本誌発ですよね（笑）。

金澤 そうなんですよ。その恩返し。

――でも、金澤さんは11月30日付で『ゴング』を離れたわけですから、もう〝GK〟を名乗れないですよね。

金澤 言わば〝元GK〟です（笑）。ボクが連載することになった「kami-pro HAND」のコラムでも、勝手に〝元GK〟って付けられているからね（笑）。でも、「W-1」プロデューサー就任って勝手に騒がれるよりはいいけど。

――そんな憶測が業界で囁かれていますが、それは根も葉もない話なんですか？

金澤 まったくありませんよ（笑）。

――そうでしたか（笑）。で、『ゴング』を辞められたことについては、「kami-pro HAND」のコラムで真実を明かしていくそうですが。金澤さんがフリーになられた裏側には、プロレスの衰退も少なからず影響しているのではないか、と。

金澤 ほうほう。

――たとえば、いまでも新日本プロレスが盟主の座にどっしり構えて黄金時代を保っていたら、金澤さんは『ゴング』の編集長としてバリバリお仕事されていたと思うんです。

金澤 それはそうかもしれない。要するにプロレスがごく普通にメジャーだった時代には、編集長はそんなに大きな役割じゃなかったんだよね。名前としての編集長がいればいいんであって、プロレスが好きな連中が集まって、ある程度自分たちの趣味にお金がついてくるというかたちで仕事をしていれば、会社は安泰だったわけ。でもそういう時代がずっと続くわけはなくて、2002年頃からもう決定的に状況は厳しくなったわけだけど。

――それは低迷の呼び水になる出来事があったんですか？

金澤 まず武藤敬司が新日本プロレスを辞めたことですね。あのときは小島（聡）とケンドー・カシンとスタッフたちが新日本を抜けて、スキャンダルな話題としてけっこう本は売れたんだけど、ただ、長期的展望に立つと、プロレス界にとってマイナスすぎる事件だったなと。

金澤 うん。それと、その直前の01年年末にミスター高橋さんの本が出たことも大きかったと思う。

――プロレスの内幕を暴いた暴露本『流血の魔術 最強の演技』（講談社刊）ですね。

金澤 あの本は10万部売れたんだけど、それは専門誌の数を多少なりとも上回る数字ですよね。ということは、ほとんどのプロレスマニアは高橋さんの本に目を通したであろうと。そこからファンのプロレス離れ、とくに新日本離れが現象として起きたんじゃないかな。その時期以降、雑誌の売り上げがガクッと落ちて、そのまま安定して緩やかな波があるという状況が続いたから。

——そういえば、盛況だった新日本のドーム興行も徐々にかげりを見せていたころですよね。

金澤　結局ね、昔は新日本のドーム興行が雑誌の大きな売り上げに直結してたんですよ。でも、新日本の勢いが弱まってからは、ドーム特集号が普段の平均値と変わらないような数字しか出せなくて。ドームで本が売れないという現実を突きつけられたんだよね。本さえ売れてれば、精神的にキツくなることはなかったんだけど……。

——精神的にキツかった……誌面を読む限り、金澤さんがとても落ち込んでいるふうには見えなかったんですけど（笑）。

金澤　さすがに本が売れなくて、話題性も乏しいと……。90年代の新日本プロレスは半年先まで方向性が決まっていて、1月の東京ドームの時点で、すでに5月の東京ドームのカードがほぼできあがっていたんですよ。だから我々は先々を見ながら、新日本プロレスの方向性とともにダイナミックな本を作っていくことができたんだよね。

——団体とマスコミの歯車がピッタリ噛み合っていたってことですね。先ほどミスター高橋本の話が出ましたが、あの本に対してプロレス業界は黙殺のスタンスを取りましたよね。それが良策だという認識は当然あったわけですか？

金澤　いや、いま思えば、黙殺したのは大失敗でしたね（キッパリ）。

——大失敗でしたか!!

金澤　うん、なぜ闘わなかったのかなって。自分が編集長をやってきたなかで唯一の後悔がそこです。

——でも、「週プロ」に比べると、「ゴング」はまだ高橋さんの本に対峙しようという姿勢が少なからずありましたよね。

金澤　あのときは会社の上層部、つまり竹内（宏介、日本スポーツ出版・前社長）さんから「おそらく一般誌から取材がくると思うけど、こういう本は力道山時代から何冊も出ているものだから、所詮いちレフェリーが語ったところでプロレスの本質が揺らぐことはないと思う。それは俺の信念でもあって、金澤くんにもそういう答え方をしてもらいたいんだ」と言われたんです。ボクは竹内さんの考えに同感だと思ったんだよね。

——プロレス業界内で消化するぶんにはもっともな考え方ですよね。ただ、予想以上に業界外から反響があったじゃないですか？

金澤　それで、その件で「SPA!」の取材を受けたんだけども。

——たしか「週プロ」の佐藤編集長（当時）も同じ企画で取材を受けられて。

金澤　で、ボクは高橋さんの本を読んでなくて、「SPA!」の電話取材に「読んでないものは答えられません」って言ったわけよ。一方、競合誌のほうの答えは「会社として黙殺しろということなので、答えられません」という内容のもので（笑）。

——素直というか、なんというか（笑）。

金澤　ボクもそれを読んでアイタタター！と思いました（笑）。その後、高橋さんの本が話題になっても、「こんなものは痛くも痒くもない」だとか、テレ朝の「朝まで生プロレス」に出たときに「ショーだとか八百長だとかいう言葉に怯える必要はない」という言葉を伝えてきたけども。所詮、あのとき正面切って闘えなかったことが自分の失敗でしたね。

——でも、今年の正月増刊号から「ゴング」の報道姿勢が変わってきたじゃないですか。高橋本出版後、プロレス週刊誌で初めて"ミスター高橋"という文字が紙面に躍って、ターザン山本！さんや吉田（豪）さんが大々的に登場したり。

プロレス週刊誌の売り上げに大貢献していた新日本ドーム興行。しかし、ここ最近はさんさんたる客入りで、前回の10・13ドームは事実上、史上最低の入り。レスナー、藤田、蝶野のなんの脈絡もない3WAYマッチがメインに据えられるなど、大仕掛けが必要とされるドームという磁場に狂ってしまった感があった。

恥ずかしながら……
帰ってこれず!!
まさかの『W−1』延期！

ショック！「W−1」実行委員会が「WRESTLE−1 GRAND PRIX 2005〜決勝戦〜」（12月10日・横浜アリーナ）の開催を2006年に延期することを発表した（開催日程は未定）。[illegible]プロデューサーは延期の理由として「実行委員会の重要な役割を果たしてきた全日本プロレスさんのフロント陣の交代をはじめ、交渉を続けてきたそれぞれの団体が開催当初の状況とは大きく変化しており、実行委員会としてはとても"最高峰の舞台"をお見せできる状況ではなくなってしまった」と説明。準決勝＆決勝戦でボブ・サップvsグレート・ムタ、鈴木みのるvsジャマールを予定していたが、ジャマールのWWE入りが決定しただけにさらなる組み合わせ変更もありえそう。「恥ずかしながらプロレスが帰ってまいりました」というコピーでスタートした「W−1」だが、恥ずかしながら帰ってくる日はいつになるのか？

恥ずかしながら
プロレスは帰ってこれるのか？
'06年マット界の行方を探る!!

買収に至るまで新日本内部のぶつかり合いはあったと思うし、深刻な問題にも直面している

金澤　ああ、そこは開き直りですよね。

――開き直り！（笑）。

金澤　自分なりに一生懸命あがいていたけど、数字に結びついていかないという現状があって。結局、『ゴング』の読者として残ってくれた人たちには答えを出せたかもしれないけど、新しい広がりもなければ、ファンを取り戻すこともできなかったわけです。そこはやはり開き直りでしょう。

――"開き直り"というテーマなら、山本さんはもってこいのキャラですけど（笑）。

金澤　フフフ。ターザン山本！という『ゴング』的には異質の人間を登場させて、竹内宏介さんと並ぶプロレスマスコミの大御所の毒の部分もぜひ出していただきたいと思ったし。吉田豪さんという、レスラーから見れば非常に煙たい存在にも出ていただこうじゃないか、ということで。すべてボクの責任でやったことなんですよ。

なぜ長州が現場監督なのか？

――そういう非常手段の一つとして、誌面の核となるプロレス団体を変えようという意志はあったんですか？　たとえば、新日本よりNOAHをメインに据えようとか。

金澤　たしかに、いまプロレスの伝統を守ったうえで象徴になっているのはNOAHさんですよね。これはどこの団体もつけいる隙がない。十二分にプロレスを満喫できる世界だと思うんです。ただ、そこで一つだけ雑誌側のスタンスでものを言うならば、NOAHさんは圧倒的なライブ感が売りの世界。もともと（ジャイアント）馬場さんの世界から進化してきた団体なので、"見ればわかる！"という楽しさだとボクは思うんですよ。

――つまり、活字としての二次加工ではNOAHの世界観を伝えにくいという側面があるってことですか？

金澤　そうですね。NOAHはライブやテレビでダイレクトに見るのが一番楽しめるんですよ。その点、新日本プロレスの場合は、いつもスキャンダルが起こる。そのスキャンダルを加工して転がせるという意味で、誌面において新日本は恰好の素材なんですね。

――その新日本はユークスに救済買収されることになりましたが、新日本は新たに生まれ変わることができると思いますか？

金澤　今回の買収劇に関して言えば、一番理想的だったのは、新日本プロレスがしっかり経営されている状況下で猪木さんが身を引くことだったと思うんです。一般的に考えたらユークスが新日本を買収したことは、野球でソフトバンクがホークスのオーナーになったように、強力な親会社がついたという理想形なんだけど、それに至るまでに、新日本の内部のぶつかり合いは激しくあったと思うし、いろいろ深刻な問題にも直面してると思いますよ。

――新日本側と猪木事務所の関係がスムーズにいってない現状もありますよね。

金澤　いままでは、どちらが主導権を握るのか決まってなかった。その曖昧さがよくなかったんでしょうね。その曖昧さのせいで、責任の所在がなくなるわけだから。要するに人のせいにしてしまった状況があったわけですよね。

――今回の買収劇でとりあえず一つの答えが出たとすれば、もう猪木さんのせいにはできない、ということだと思うんです。で、猪木さんは猪木さんで永久電機を自力で成功させるしかない（笑）。

金澤　だからサイモンさんは社長に就任後、内部の実情を知ったときにガクぜんとしたと思うんだよね。で、何をすればいいのか……と考えたときに、外部の長州力をあてにするしかなかった。つまり自分が現場に介入できないのであれば、長州力に現場をやってもらおうと。これ、最終手段ですよ。

――それはサイモン社長の意向を反映させてくれる人間が内部にいなかった、ということですか？

金澤　もうそれ以前の問題だったと思うんだよね。現場に介入するというのは大変なことだし、まして新日本プロレスはあれだけ勝手な人たちが集まってるんだから（笑）。

――たしかに我の強い人間の集まりですよね。

金澤　それだけの人材がいるという証でもあるんだけどね。一癖も二癖もある。実績もあれば名前もある。そんな人がいっぱいいるわけですよ。そんな団体を仕切れるのは長州力しかいない、というのはむしろ普通の発想かもしれないよね。

――奇策と思われて、じつはまっとうな判断だったと。

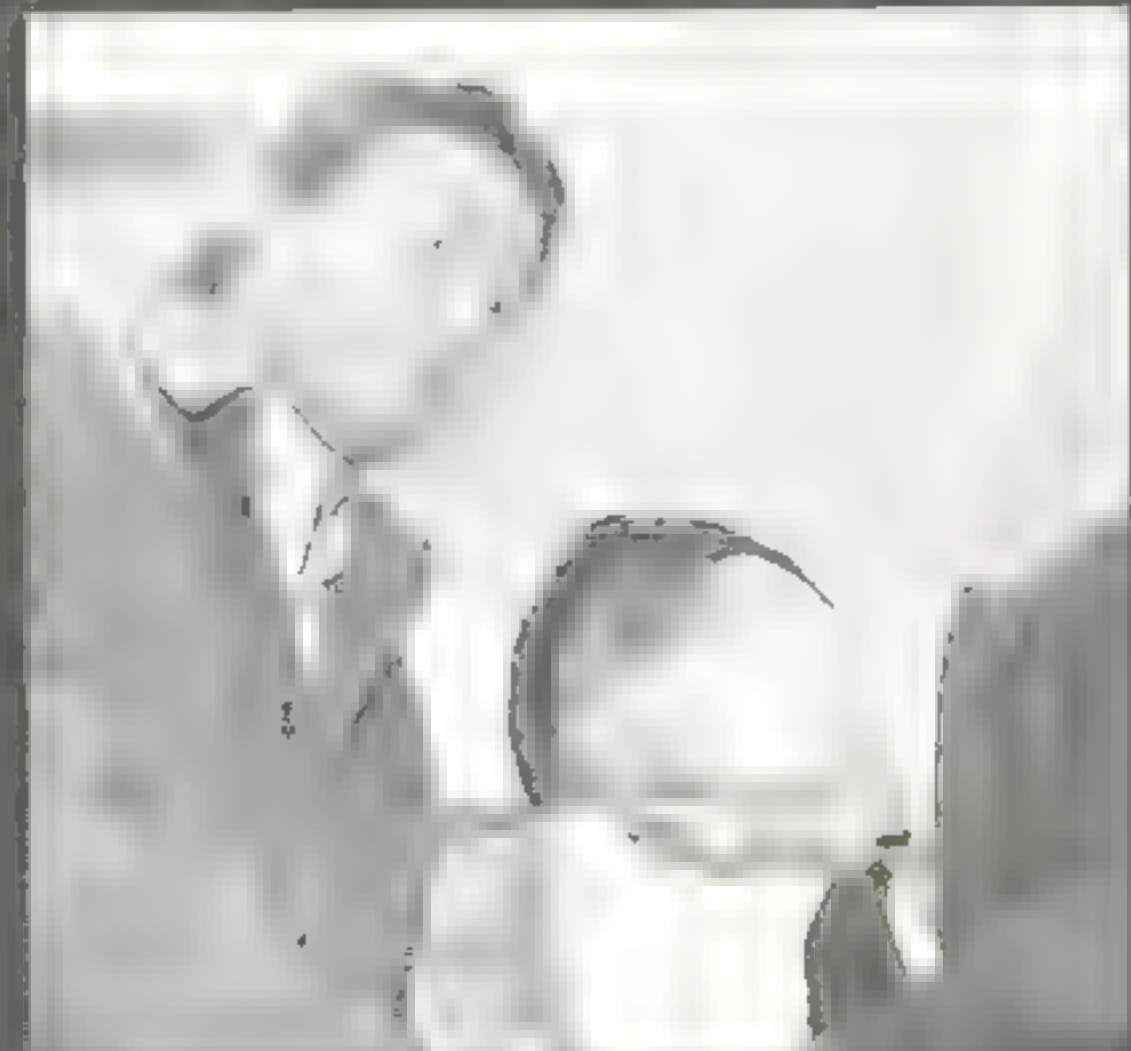
金澤　ただ、長州体制でやりたくないという選手もいるだろうからね。一波乱二波乱はあるかもしれないでしょう。でも、選手が新日本を離れてどうするか？　って周りを見渡したときに、新しい団体を旗揚げするということはまずありえない。既成団体に活路を求めるとすれば、NOAHさんはそういうスキャンダルに絡むということは一切ないわけだから、ライバルがあるとすれば、全日本と「ハッスル」しかないんだよね。

「W-1」の挫折、その影響

――第二次「W-1」が成功していれば、そういうフリー選手の受け皿になりえましたよね。それに「W-1」はいろんな団体やプロモーションの運命共同体的な側面もあったから、この挫折はプロレス業界にとって大きな痛手じゃないですか？

金澤　いや、そうは思わないなあ。NOAHさんの場合、切羽詰った選手派遣ではなかったしね。要するに秋山準がポンと出て、すばらしい仕事をした。さすがNOAHだな、やっぱり秋山準は凄いなという評価をあげた。

――NOAHのプロモーションになりましたよね。では、「W-1」の

元・全日本社員が "王道"キングスロード設立!! 旗揚げ戦に天龍が参戦!

全日本プロレスを退社した元取締役の青木謙治氏と高橋英樹氏が設立したキングスロードの旗揚げ戦（06年1月15日、東京・後楽園ホール）に天龍源一郎が参戦！（写真は天龍と青木氏）。キングスロードの事務所はかつて全日本プロレスが六本木に構えていた旧事務所から目と鼻の先。事務所の電話番号も旧全日本事務所のもの！　旗揚げ戦には、フロント陣と同じく全日本を離脱した宮本和志も参戦。また、全日本プロレスの練習生だった高西翔太の入団も発表。事務所名といい場所といい参戦選手といい、全日本プロレス色を非常に強い。武藤敬司率いる新生・全日本のオポジション？　という位置づけは否定できないが……

延期はマット界にとってあまり影響はなかった、と考えるわけですね。

金澤　だって話題にならなかったじゃないですか。

——いや、開催前はどこも"プロレス界の救世主"として大々的に扱ってましたよ。

金澤　ああ、そう言われたら少し愛着が出てきたなあ～　なんせ「W-1」入りって書かれちゃった自分としては。期待に応えなきゃなぁ（笑）。

恥ずかしながら　プロレスは帰ってこれるのか？

06年マット界の行方を探る──!!

「高田延彦の狙いは新日本プロレスを再建すること」と指摘した元GK。ファイティング・オペラの世界観は、来年もプロレス界の動きを左右することは必至だろう。

——ぜひぜひお願いします（笑）。

金澤　そうだね。「W-1」は一つ一つの試合を取り上げてみれば、非常にレベルが高かった。とくに二回目はね。ただそのおもしろさがリングサイドにしか伝わってなかった、というのが正直な印象ですけど。

——「W-1」の方向性やカラーという部分はどう思われますか？

金澤　当たり前のように言われているけど、トーナメントという方法論があまりふさわしくなかったですよね。プロレスのトーナメントというのは連続性が求められるから、やはり1～2週間のワンシリーズ内で完結しないとダメ。単発として見るぶんにはおもしろいけど、一カ月も間が空いているからつながっていかない。こういう事態を長州力は「出来事」と称したんだけどね。

——長州さんがかつての『PRIDE』をそう評しましたね。『PRIDE』は隔月開催だから、どうしても"点"で終わって"線"につながらない。物語にならないということの比喩として。

金澤　それ以降『PRIDE』は連続性が出てきたわけだけど。「W-1」はなにしろ期間が開きすぎたでしょ。その間にプロレス界がいろいろ変わっちゃうんですよ。どこかの団体が潰れたっておかしくないし、現に新日本が買収されたじゃないですか。

「W-1」に協力していた全日本プロレスの内部もガラリと変わって。とくに全日本の幹部だった渡辺さんが退団したことは大きな話題になってますけど。

金澤　渡辺さんと武藤さんは新日本時代からの付き合いで、仕事を超えた関係だったんだけど。渡辺さんがすべてマッチメイクの面やブッキングの部分を任されてたんだよね。曙の武藤部屋入りという一つの流れも渡辺さんがつくったものだし。そのアイデアの豊富さで、全日本プロレスをミニWWE化させてパッケージプロレスを確立させたのは、間違いなく渡辺さんと武藤敬司の共同作品なんです。だから渡辺さんが抜けたことによって、それが維持できるのかな？　という心配はありますよね。

——その渡辺さんは「W-1」のブレーンでもあったんですよね。

金澤　「W-1」の中心になっていたのは渡辺さんだからね。谷川さんは上井さんに「W-1」を任せたかったんだろうけど、二人のプロレス観はかなり違うと思うんですよ（笑）。谷川さんはおそらく全日本のようなプロレスが好きだと思う。

——でも、上井さんってじつはプロレスの好き嫌いはないですよね。

金澤　うん。上井さんはけっこうなんでも食べますよ。ルチャやジュニアが大好きだし、UWFも好きだし。ただ、上井さんの考えのなかには、前田日明の指向がかなり落とし込まれているからね。かといって、前田日明もわりと柔軟だったりするんですよ。「W-1」を観戦したときなんかも「AJスタイルズはいい選手だ」ってちゃんと言うし、そういう柔軟な見方もできる人だから。

——そんな上井さんや前田さんが、"顔面を蹴らすプロレス"に執拗にこだわる理由を挙げるとしたら、「ハッスル」が視界に入っているからですか？

金澤　それはある。「ハッスル・マニア」が大成功して、結果的にそうなってきましたよね。ちょうど「ハッスル・マニア」があった直後にNOAHさんの武道館大会がありましたけど、そこに上井さんや北斗[illegible]が来てたんですよ。で、二人とも同じことを言っていた。「『ハッスル』があれだけ認められたら、それはそれでしょうがないし、文句は言えない。ファイティング・オペラと謳ってるんだからそれは認めざるをえないけど、プロレス界がそれだけになったらまずい。本道のプロレスをいまできるのはNOAHさんですよね」と。

元GK、高田と小川を語る

——本道のプロレスがないと「ハッスル」の世界がキワだたないのはよくわかります。金澤さんはその「ハッスル」をどのように捉えているんでしょうか？

金澤　「ハッスル」が考えていること

ジャマールWWE入り、バーナード離脱！　どうなる武藤・全日本!?

パッケージで楽しませる大会内容が大好評、客入りも絶好調の全日本プロレスに何かが起こっている……!?　相次ぐ社員の退職、"王道プロレス"を掲げるキングスロードの旗揚げ、そしていまや欠かせなくなった常連外国人選手たちの離脱が勃発。WWE入りするジャマールの発展的離脱はともかく、ジャイアント・バーナードが最強タッグ最終戦の翌日、新日本に乱入する"荒業"を敢行！（新日本HPいわく「日本一大きいプロレス団体である新日本プロレスに戦いを挑むため」だそうです）。一部報道によれば、主力外国人たちの大量脱退もありえるという……。どうなる全日本!?　いまこそ危機脱出の閃光魔術を

新 卓球少女(ル)松下ミワの
ハガキ愛ランド

いよいよ大晦日バトル直前!! 『PRIDE』&『Dynamite!!』(& 紅白)のカード発表に一喜一憂の今日この頃ですが、ここで一句。ヨネさんは 8時に寝ると 言ってたよ。はいっ! というわけで今月も張り切っていきましょう! 3、2、1、時間だ! 時間だ! う～、コマーシャル!!

冬でも半そでです!!(嘘)

kami-pro93号へのお便り紹介

ハッスル・マニア行きました! 最初から最後まで約4時間笑いっぱなしでした。あとで『kami-pro』を読み返してみて楽しさを思い出しました～。

【神奈川県・大内和彦さん・会社員・31歳】

➡あの熱狂ぶりは本当に凄かった 会場にはマッスル松野、猫ひろし、それに『kami-pro』のコラムを書いていただいてるレイザーラモン出渕さん(RG)なんかもいたんですけど、会場に行ったみなさん、見つけられました～?

ハッスル特集全部面白かったんですけど、やっぱりHGのインタビューは"代表"という感じでよかったです。私は教師をしているのですが、前にプレゼント当選したハッスルステッカー100枚は、全部生徒に配りました!

【東京都・津田裕章さん・教師・36歳】

➡「子どもに見せたくない芸能人タレント」No.1のHGですか、教師という立場にも関わらずHGを支持する津田先生の姿勢には非常に重みを感じます 校長先生に注意されても、ぜひその思いを貫いてください!

和泉元彌さんのインタビューはとても感慨深く思いました。冗談だと思っていましたが、インタビューも真剣そのもので考えさせられる内容が多かったように思います。それと宗家のお姉さんも格闘技に興味があると知って、ちょっとビックリ。節子さんはいったいどういう教育をされてきたのか、二児の母として非常に興味があります。

【島根県・さっちゃんママさん・母親・35歳】

➡私は母親じゃないですけど、セッチーの教育方針にはとっても興味があります しかし、クフルノキンクという失態を二度と繰り返させなかったのは、本当に素晴らしい教育をしていたからではないかと思いました

ダニー・ホッジがダントツです。伝説は何となく知っていたが、インタビューの内容は凄い! かっこいいなあ。こういうジイ様は(憧)。

【三重県・モスラさん・小売業・32歳】

➡恐るべき73歳! 現在61歳の草野仁さんもホノ…ン的にウカウカしてられません!

菊地成孔さんと博士の対談が面白かった。とくに前田の話は最高。五味論のところは大衆の動きが見える感じがした。

【東京都・佐藤望さん・会社員・44歳】

➡全1万7000文字以上の珠玉の8ページ!! 読んでただけて脳みそおなかいっぱい わなか脳みそもいっぱい

ジョシュ・バーネットインタビューが一番よかったです。理由は、僕の師匠でもある「宮戸優光」という名前が出てきていたからです。僕としてはそれだけでいいです。

【東京都・桑本薫平さん・中学生・12歳】

➡宮戸優光さんが師匠ということは、桑本さんはもしやUWFスネークピットジャパンの会員? 今号はその師匠の渾身インタビューが載ってるぞ!! しかと読め!

"CXの火薬庫"佐藤大輔、吠える! のインタビューが面白かった 去年も今年もPRIDE派だけど、これを読んでますます「PRIDE男祭り」への期待値up!!

【神奈川県・江森悠樹さん・学生・20歳】

➡大晦日、小川vs吉田、曙vsホビーとともに気になるのはやっぱり PRIDE vs Dynamite"あと、白組ノコ

ズール親子インタビューが面白かった。豪快&しんみりなズール親父に惹かれました。プラス笑顔がステキ!

【岐阜県・上田孝志さん・会社員・32歳】

➡ズール親子の来日の日、私が成田会見に行ったときズール親父はタンクトップでした。そしてインタビュー時、やっぱりその日もタンクトップ1枚でした(両日寒空)

月刊!語録で振り返るマット界が面白かった。このコーナー大好きっ! これからもずっと続けてください!

【石川県・浅井清治さん・会社員・33歳】

➡マット界はまさに名言の宝庫 もうマイク&カメラを向けられたら言ったもん勝ちな世界なのだ。モンスター、モンスター、ヤ～ホ～、ヤ ホ～ あ、これも名言?

ターザン鶴見とターザン山本!の対談が面白かった。プロレスの再演とはいままで気付かなかった発想ですね。毎回銃殺されるサスケも面白いかもしれません。

【兵庫県・春名義行さん・会社員・39歳】

➡この企画にはターザン山本!さん自身が大喜び。対談では"ウソロングスタイル"について力説されてましたが、私はそれが一番面白かったです

93号の表紙はなんでインリン様じゃないんだー!! いたってノーマルな37歳男性の叫びでした。

【大阪府・山内義久さん・無宿・37歳】

➡セイ、セイ、セイ。ちょっと待ってください～。なんで私じゃダメなんですかぁ。ってあの独特の声がいまにも聞こえてきそうです。しかし、あのシャンパンは確実に飲みたくない

そりゃもう「藤原敏男伝説」が一番だ!! 先日、藤原祭りの問い合わせで藤原ジムの電話に留守電を残しておいたら、見知らぬケータイから電話が。出たら、藤原会長ご本人だったのでめちゃくちゃビビりました!!

【東京都・米光ゆかりさん・お針子・35歳】

93号・面白かった記事ランキング

順位	記事
1位	ダニー・ホッジ インタビュー
2位	[illegible]
3位	マッスル特集
4位	[illegible]
5位	韓国格闘技界特集

今回トップを飾ったのは"ダニー・ホッジインタビュー"。[illegible](11・3)ハッスル・マニア[illegible]プロレスラ[illegible]"HGインタビューがランクイン ランキングからも「(腰を振りながら またまたハッスルしますよ～」というHGの姿勢がモロわかり。キリキリ5位に食い込んだ韓国特集は、現地ライターの貴重な証言が利いたのか? というわけで、93号の人気投票はこんな感じでした～。ちなみに所英男vs小野寺愛ちゃんの対談は6位でした。おしい!!

マット界・斬り斬り川柳

先月号でマット界にまつわる川柳を募集しましたが。集まること集まること。ここでその優秀作品を一挙ご紹介します。さあ、平成の詩人たちよ、詩を詠め!!

※川柳とは:五・七・五の音を持つ日本語の詩。季語や切れの制限もなく、最近の風潮としては字余りもOK!

大賞

オイオイオイ! 本当なのかよ 新日本

(神奈川県・野村直人さん・会社員・37歳)

➡大変なことが起こっている様子がよくわかる詩ですね 100点!! (何かプレゼントを差し上げます)

格闘家 リング降りれば [illegible]

(神奈川県・野村直人さん・会社員・37歳)

➡格闘家が見たら、きっと喜ぶでしょう! バンザイ!

[illegible]

(栃木県・阿部かすみさん・学生・14歳)

➡興奮してますね その様子が詩によく表われてますよ

kami-proに 毎号載ってる 所くん

(大阪府・難波男さん・RGマニア・23歳)

➡それを知ってるのは、kami-proを毎号買ってる証拠 ありがとう!

[illegible] 高田の[illegible]見て [illegible]めくくる

(北海道・葉柴和範さん・会社員・28歳)

➡年の暮れをPRIDEとともに過ごす覚悟が見てとれますね!

[illegible]

(広島県・寺戸和之さん・会社員・41歳)

➡この川柳には寺戸さんの真っ直ぐな性格がにじみ出ています

[illegible] ハッスル～ フォオオオ～

(北海道・高橋祐樹さん・自営業・30歳)

➡川柳の型をまったく無視した大胆な作品ですね

僕がもし 続けていれば レスリング

(滋賀県・高橋利治さん・大学生・22歳)

➡多くの人[illegible]ですね こういう気持ちは誰しも経験があるでしょう

、ネットが 頭を[illegible]れば エトワーズ

(石川県・浅井清治さん・会社員・33歳)

➡金歯で見分けよう!

【東京都・マヤガレットさん】

【千葉県・藤崎実さん】

【大阪府・白河甚平さん】

編集部の皆様、五味選手のサイン入りTシャツの読者プレゼント、本当にありがとうございました。ずっと大切に宝物にします！　最後に質問ですが、今回のサイン入りTシャツは実際に五味選手が着用してからサインしたTシャツなのでしょうか？

【兵庫県・田丸仁志さん】

➡あのTシャツは正真正銘、五味選手が着たあとにサインしてもらった代物です。しかし、Tシャツ欲しさに15枚応募ハガキを送ってくる姿勢が凄い　イコール15冊「kamipro」を買ったということだ!!　下々の諸君も見習うべし！

➡なんたる無防備さ　もの凄い実績を持ちながら、私生活のほうがもっと凄いというのは、これはもう完敗宣言するしかない!!

最近、27歳の年上の女性に恋をしました。ぜひ相談にのってください！（切実）。

【大阪府・難波男さん・RGマニア・23歳】

➡詳細を送ってみてください。

今月の衝撃情報

【情報提供者：森上屋のりさん】

オープン以来人気のカラオケ

12月・前日は24h営業

【東京都・ナンシーベイさん】

【埼玉県・稲葉配さん】

kamipro内部事情

アイちゃんが、好きだー！

思わず振り向いてしまうような事件勃発!!

ワ（編集部では通称アイちゃん）は「私のこと

走行中「アイちゃん好き」運転士が奇声、乗客騒ぐ

東京メトロ東西線の運転士が走行中、

月1日

初公開！
オレが真下だ!!

スクープ！ ザ・目撃!!

●この前、三軒茶屋の駅の近くをウロウロしていたら、なんと！　蝶野正洋さんを発見してしまいました！　かなりの深夜だったにも関わらず、やはり蝶野さんはサングラスをかけていました。ファンの幻想を崩さないそのプロ精神に、僕は甚く感動しました。【東京都・東川さん】

➡現場に入ると台本はいっさい見ないとウワサの藤岡琢也さん

●先日、自由が丘で僕がコンタクトのチラシ配りしてる時、駅の正面口に藤井軍鶏侍さんがいました。僕はすかさず「この前U－STYLE行きました！　しょぼなのジャーマン凄かったっす！」と言って握手しました！　心良く「ありがとうございます！」と言ってくれました！　どうやら女の人と待ち合わせしてたらしく、その女性が来るとすぐに駅の方へ行ってしまいました。【東京都・原姉貴はゴッチ式さん】

➡藤井軍鶏侍さんの目撃情報は　これで2つめ！　これからも藤井軍鶏侍さんを見かけたら　どんどん投稿してください

●12・2　DEEP　の会場でユン・ドンシク選手を見ました　ユン選手はセミファイナルの滑川（康仁）vsリ・ジョンホの試合を観終わると、メイン（フェザー級王座決定戦）を観ずにさっさと会場を後にしていました。【埼玉県・KEEPさん】

おハガキ募集!!

どんどんおハガキください！ ケータイからでもOK!!

めて殺しなど、どんなことでも結構！　お便り、お待ちしています！

こんな情報お待ちしています！

●ザ・目撃!!
●おもしろ写真投稿
●選手に対する意見、試合の感想
●マット界・斬り斬り（キリキリ）川柳

以上、すべてのお便り・イラストのあて先＆メールアドレスは
hagaki@kamipro.com
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6 パレ・ジュノ2F
（株）ダブルクロス kamipro編集部
「アイちゃんが好き」係まで
携帯サイト「kami-pro Hand」からの投稿もできます。

チョロプレ

ユリオカ超特QさんのCD

ハゲだっていいじゃない人間だもの

のCDを、なぜかチ　口氏からプレゼント　そんな太っ腹なチョロさんは、12／5全日本プロレス大田区大会の会場で、またも斎藤　さんを目撃したそうです

マット界の掲示板

kamipro

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

はみ出し情報局

新日本勢も多数参戦するぞ、コラッ!!

「リキプロ新春興行」

★日時　1月5日(木)試合開始18:30　★会場　東京・後楽園ホール

★主要対戦カート

五団体バトルロイヤル

石井智宏&高岩竜一(ZERO1・MAX) vs 獣神サンダー・ライガー(新日本)&エル・サムライ(新日本)

金村キンタロー(アパッチ) & BADBOY非道 vs 邪道(新日本) & 外道(新日本)

越中詩郎 vs 後藤洋央紀(新日本)

関本大介(大日本) vs 黒田哲広(アパッチ)

崔領二(ZERO1・MAX) & 佐々木義人(ZERO1・MAX) vs 山本尚史(新日本) & 長尾浩志(新日本)

★問　リキプロ事務所　03-3754-6340

★HP　http://www.rikipro.com/

"王道"キングスロード旗揚げ!!

「キングスロード旗揚げ戦」

何かが起こる! BML年内最終興行に注目!!

BIG MOUTH LOUD

BIG MOUTH ILLUSION II

★12月29日(木)試合開始18:30

★会場　東京・後楽園ホール

★主要対戦カート

メインイベント

柴田勝頼 vs X(「大物です」by上井さん)

村上和成 vs エンセン井上

[X Division Match]

AJスタイルズ vs ビーティ・ウィリアムス

テレビ中継　スポーツアイESPN

マスコットガールの… 前田日明、そして船木誠勝の動向からも目が離せない!

★問　BIG MOUTH LOUD 03-3888-3375 / BIG MOUTH 03-3560-8177

★HP　http://www.bigmouthishikawa.com/bbs/index.html

プロレスの新たなる実験場「マッスル9」に子川直也参戦!!

…しかない! 3、2、1

「マッスル9～プロレスは空の彼方に～」

★日時　1月17日(火)試合開始19:00　★会場　東京・北沢タウンホール

★出場予定選手

マッスル坂井、アントーニオ本多、藤岡典一(メカネ)、鶴見亜門、"茅ヶ崎の●走王"子川直也 ほか

▼大会の行方が気になる人はマッスル坂井日記をチェックしとけ

http://www.ddtpro.com/cgi-bin/sakai/diary.cgi

★問　DDTブック　03-5360-6653

★HP　http://www.ddttec.com/muscle/index.html

1・8大阪大会、TARUが三冠挑戦権を強奪!!

12月8日、全日本… フォトセッション… 村上… 坂本…

全日本プロレス　新春シャイニングシリーズ　主要カート

★日時　1月2日(月)試合開始12:00　★会場

武藤敬司&諏訪間幸平 vs 太陽ケア&ティ…

小島聡&AKIRA&石森太二 vs TARU&近藤修司&"Brother"YASSHI

賞金100万円争奪! ヘビー級バトルロイヤル

★日時　1月3日(火)試合開始12:00　★会場　東京・…

武藤敬司&嵐 vs 小島聡&佐々木健介

NOSAWA論外&MAZADA vs ババ・レイ&ディーボン

【杉浦一生デビュー戦・30分1本勝負】フルート一生 vs 諏訪間幸平

賞金50万円争奪! ジュニアヘビー級バトルロイヤル

★日時　1月8日(日)試合開始16:00　★会場　大阪・大阪府立体育館

三大タイトルマッチ

【三冠ヘビー級選手権試合】[王者]小島聡 vs TARU[挑戦者]

【アジアタッグ選手権試合】[王者組]佐々木健介&中嶋勝彦 vs 嵐&カズ・ハヤシ[挑戦者組]

【世界ジュニアヘビー級選手権試合】[王者]近藤修司 vs AKIRA[挑戦者]

※曙の参戦が決定!!

★問　全日本プロレスリング 03-3288-0610　★HP　http://oudou.b2p.jp/

大谷vs大森、川田vs耕平が実現! さらにミルク・シロコップの参戦も決定!!

ZERO1・MAX 2005年打ち上げ試合"ZERO1 LAND"

★日時　12月23日(金・祝)試合開始18:30　★会場　東京・後楽園ホール

★主要対戦カート

【ダブルメインイベント】大谷晋二郎 vs 大森隆男　佐藤耕平 vs 川田利明

【NWAインターナショナルライトタッグ選手権】

日高郁人&藤田ミノル vs Gamma&菅原拓也

【クリスマススペシャルタッグマッチ】

高岩竜一&鈴木鼓太郎(NOAH)&リッキー・マルビン(NOAH) vs 石森太二(dragondoor)&飯伏幸太(DDT)&浪口修

【Anywhereフォールマッチ※反則カウントなし】田中将斗&佐々木義人 vs NOZAWA&MAZADA

【Revenge 15分3本勝負】

亀吉(青い正義)&ランジェリー武藤 vs ミルク・シロコップ(シロアチア)&Bic Mouse

★問　ZERO1・MAX 03-5730-3966　★HP　http://www.zero-one-max.com/

団体INDEX（50音順及びアルファベット順）

■アパッチプロレス軍
03-5385-8285
〒164-0001 東京都中野区中野3 17-1 コーポフロンティア301
http://www.cbox100.com/

■猪木事務所
03-5789-5656
〒108 0071 東京都港区白銀台5-18-9ビサイド白金5F
http://www.inok-ism.com

■大阪プロレス
06 6636-6672
〒556-0002 大阪府浪速区恵美須東3-4-36 フェスティバルゲート2F
http://www.osaka-prowres.com

■我闘姑娘 03-3524-1071
〒104-0061
東京都中央区銀座4-14 17 渡辺ビル4F JNT事務局内
http://www.gtkn.com/

■キングスロード
03-3403-7344
〒106-0032 東京都港区東六本木7-5-11-605

■キングダム・エルガイツ
0423 31-2797
〒206-0025 東京都多摩区永山1-17-10
http://homepage3.nifty.com/z-zone-kingdom/

■新日本プロレス
03 5468 3111
〒150-0011 東京都目黒区青葉台4丁目4番5号 渋谷スノーサムヒルチンク8F
http://www.njpw.co.jp

■シュートボクシング(SB)協会
03-3843-1212
〒111-0033 東京都台東区花川戸2-2-8 ワコー花川戸ハイツ
http://www.shootboxing.co.jp

■拳圏会館 075-352-3109
〒600-8216 京都市下京区東塩小路町600-38-101
http://www.seiken-do.com/

■仙台ガールズ・プロレスリング
022-785-7755
〒984-0065 宮城県仙台市若林区土樋236愛宕橋マンションファラオ E-08
http://plaza.rakuten.co.jp/sendaigirls/

■全日本プロレス
03-3288-0610
〒102-0073 東京都千代田区九段北1-5-10 九段有楽ビル6F http://oudou.co.jp

■大日本プロレス
045-321-1598
〒220-0073 神奈川県横浜市西区岡野1-13-5横浜西口サンエースビル7F
http://www.bjw.co.jp

■髙田道場 03-5749-5030
〒142-0062 東京都品川区小山3丁目6-6 ワールドパレス武蔵小山1F&B1
http://www.takada-dojo.com

■ドリームステージエンターテインメント(PRIDE)
03-5464-1531
〒107-0061 東京都港区北青山3-12-9 花茂ビル3F
http://www.so-net.ne.jp/pride

■バトラーツ
0489-63-0005
〒343-0807 埼玉県越谷市赤山町6-13-43
http://www.battlarts...

■パンクラス
03-5792-0815
〒106-0047 東京都港区南麻布4-2-25
http://www.pancrase.co.jp/

■ビッグマウス・ラウド
03-3888-3375
〒120-0024 東京都足立区千住関屋町20-16-703
http://www.bigmouthshikawa.com/

■プロレスリング・ノア
03-3527-5311
〒135-0063 東京都江東区有明1-3 25
http://www.noah.co.jp

■みちのくプロレス
022-785-7755
〒984-0065 宮城県仙台市若林区土樋236愛宕橋マンションファラオ E 08
http://www.michipro.net

■DDT 03-5360-6653
〒106-0022 東京都新宿区新宿1-23-6 グローイン新宿御苑702
http://www.ddtpro.com

■DEEP事務局
052-339-0303
〒460 0071 愛知県名古屋市中区松原1 2 23 第3栄ビル2F
http://www.deep2001.com/

■dragondoor
03-5683 5022
〒136-0074 東京都江東区東砂6-13 2

■DRAGON GATE
078-333-9797
〒650-0012 兵庫県中央区北長狭通7-1-4 サンクチュアリビル
HP:http://www.gaora.co.jp/dragongate/

■FEG(K-1事務局)
03-3796-2977
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2 18-22 S&T神宮前ビル3F
http://www.k-1.co.jp/

■GIRLS DOOR
03－5338－4044
東京都新宿区西新宿7-2-6 西新宿K 1ビル6F
株式会社EWF

■G-SHOOTO
03-5380-3295
〒165-0026
東京都中野区新井1-3-6 セントラルパレス中野202

■GCM COMUNICATION
03-3538-5801
〒104-0061 東京都中央区銀座1-14-10 松楠ビル9F
http://www.gcm.net/

■IWAジャパン
03-3352-3366
〒160-0004 東京都新宿区新宿2-15-13 第2中江ビル402
http://www.iwajapan.jp/

■JDスター 03-5524-2339
〒107-0052 東京都港区銀座1-8-21 第21中央ビル9F
http://www.jdstar.co.jp

■JWP 03-5849-2341
〒121-0052 東京都足立区六木3-6-4
http://www.jwp-produce.com/

■KAIENTAI DOJO
043-214-6960
〒260-0001 千葉県千葉市中央区都町3-4-17
http://www.k-dojo.co.jp/

■LLPW 03-5228-4331
〒112-0014 東京都文京区関口1-24-6 朝日関口マンション1001号

■NEO 044-422-8344
〒211-0011 神奈川県川崎市中原区下沼部1892-102
http://www.neoladies.com/

■RIKIPRO
03-3754-6340
〒146-0085 東京都大田区久が原3-31-1 RIKIPRO道場内
http://www.rikipro.com/

■SMACK GIRL実行委員会
03-3331-7426
〒167-0053 東京都杉並区西荻南3-7-7 西荻日伸ハイツ403
http://www.smackgirl.com/

■U-FILE CAMP
044-932-0282
〒214-0014 神奈川県川崎市多摩区登戸1568
http://www.u-filecamp.com/

■UFO 0467 82-2034
〒253-0053 神奈川県茅ヶ崎市東海岸北3-7-25-2F
株式会社エフ企画内

■U.K.R 044-833-7042
〒213-0027 神奈川県川崎市高津区野川2193-11
http://www.hiromitsu-kanehara.com/

■U.W.F.スネークピットジャパン 03 3337-1889
〒166-0002 東京都杉並区高円寺北2-15 1 2F
http://www.uwf-snakepit.com

■WWS 0270-24-8991
〒372 0812 群馬県伊勢崎市連取町1669-2 グリーン・シティ・マンション103号

■ZERO1-MAX
03-5730-3966
〒105-0014 東京都港区芝2-8-13-2F(株)ファースト オン ステージ
http://www.zero-one-max.com/

■ZST 03-5388 0707
〒106-0023 東京都渋谷区代々木2-23-1 ニューステイトメナー833号室
http://www.zst.jp

パーソナルトレーナーになりたい人に朗報!! ボディーデザイナー養成塾が第二期生募集開始!!

PRIDEエグゼクティブ・ルールディレクター島田裕二氏が主宰するボディーデザイナー養成塾が、第二期生を募集している。2006年4月から1年間、夜間に開講される同塾では、PRIDEで世界最高峰の格闘家を手がけるノウハウを基に、ボディーデザイナー（スポーツトレーナー）になるための講義、実技研修などが行なわれる。現在、下記の日程で実技体験もできる説明会を開催中!!

「ボディーデザイナー養成塾」入塾説明会

★日時 1／15(日)・1／22(日)
2／5(日)・2／19(日)
各11:00～12:00 ※定員(20名)に達し次第、受付終了
★場所 東京都千代田区西神田1-3-13山田ビル1F
（同塾実技室内）
★参加費 無料
★問 BCG 03-3560-7911 ★HP http://www.bcgizm.com

ボディーデザイナー養成塾 第一期生たち

「曙・武藤部屋入門スペシャル」が 12月22日、DVDで発売!

2005年中盤の武藤センニノカンで大活躍したのが第64代横綱“曙”だ。他にも破壊王追悼試合から小島vs武藤の三冠戦、武藤部屋 vs 健介ファミリー、さらには曙の巡業の様子まで完全密着！ これは見るしかないでこわす!!

全日本プロレス コンプリートファイル2005 2ndステージ “曙・武藤部屋入門”スペシャル

★収録内容 武藤敬司率いる全日本プロレスの2005年中盤戦の名場面、名勝負集をダイジェスト進行で完全網羅！ DVD特典では、7月に急逝した橋本真也さんを追悼した特別試合や、全日本マットに初上陸を果たした曙の巡業模様の完全密着映像等を収録!!

★特典映像
7・15後楽園ホール“橋本真也追悼試合” 武藤敬司 & 小島聡 vs 佐々木健介 & 嵐／7・26代々木第2体育館“サマーアクション・シリーズ最終戦”RO&D十蝶野正洋 vs ブードゥ・マーダーズ 三冠ヘビー級選手権 小島聡 vs 武藤敬司／曙・全日本場所巡業日記／9・23後楽園ホール“武藤部屋 vs 健介ファミリー” 武藤敬司 & 曙 & カズ・ハヤシ vs 佐々木健介 & 本間朋晃 & 中嶋勝彦をノーカット収録

★販売価格 6,300円（税込）本編：約71分 特典：約110分 ★問 株式会社ユークス 045-451-5217

花くまゆうさく先生の描き下ろしカバーイラストの“殺人本”発売!!

本誌でもお馴染みの花くまゆうさく先生描き下ろしのカバーイラスト＆４コマ漫画収録の“殺し”（not！編集長）本が12月５日発売となった。この本は大好評の殺人王シリーズの第５弾で、実在する海外のカリスマ殺人鬼たちを“猛毒イラスト”とともに紹介した内容となっている。今回は「実践編」と題して、殺人鬼別の“殺し方”を詳細に解説。また「完全毒殺マニュアル」では毒殺について実例に基づき徹底解説されている。他にも「歴代最凶殺人鬼は誰だ!? 殺人王WORLD MAD MAX～世界最凶鬼畜決定戦～」という格闘技ファンも気になる（？）物騒話のオンパレード。こちらの本を太陽出版さんのご好意により３名様にプレゼント！ 送り先はP154参照。一応、注意しておきますが、危険ですので決して真似をしないで下さい……

殺人王 実践編～鬼畜たちの残虐レッスン～。

★著者 目黒殺人鬼博物館 ★発売 太陽出版 ★発行 21世紀BOX ★定価 1,470円(税込)
★問 太陽出版 03-3814-0471 ★HP http://www.taiyoshuppan.net/

雑誌「kamipro」のリニューアルにともない、携帯サイト「紙プロHand」も12月１日より「kamipro Hand」としてリニューアル！ 携帯サイトNo1の情報量はそのままに、内容はさらに見やすくパワーアップ！ 写真は今月更新のWドラゴン（？）イラスト待画。12月中はターザン山本！の着ボイス他、ハッスルあちち・大谷晋二郎サイン入りTシャツなど豪華プレゼントが当たるリニューアルキャンペーンを実施中！ 12月の「kamiメロ」はジョシュ・バーネットのテーマ「愛をとりもどせ！」、HG＆あちちのテーマ「GOLD FINGER」、藤原組長のテーマ「ワルキューレの騎行」の３曲です!!

i-mode	i Menu	メニューリスト	スポーツ	格闘技／大相撲
EZweb	トップメニュー	カテゴリで探す	スポーツ	格闘技
vodafone	メインメニュー	メニューリスト	スポーツ	格闘技

kamipro calendar

12 December

21 WED.
大日本■神奈川・横浜文化体育館（19:00）
みちのく■東京・後楽園ホール（18:30）
PWCプロ■東京・新木場1stRING（19:30）

23 FRI.
ZERO1・MAX■東京・後楽園ホール（18:30）
DRAGON GATE■埼玉・川越ペペホール（18:30）
K-DOJO■千葉・BlueField（15:00&18:30）
大阪プロレス■大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
M's Style■東京・後楽園ホール（12:00）
RR■大阪・よみうり文化ホール（15:00）

24 SAT.
ハッスル・ハウス■東京・後楽園ホール（19:00）
NOAH■東京・ディファ有明（18:00）
DRAGON GATE■埼玉・川越ペペホール（18:30）
大阪プロレス■大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
666■東京・新木場1stRING（18:30）

25 SUN.
ハッスル・ハウス■東京・後楽園ホール（12:00）
新日本■東京・後楽園ホール（18:30）
DRAGON GATE■埼玉・川越ペペホール（13:00）
大阪プロレス■大阪・デルフィンアリーナ（13:00）
JWP■東京・JWP道場（13:00）
WMF■埼玉・越谷スフィア（14:00）
静岡プロレス■静岡・静岡市民文化会館（13:30）
NEO■東京・板橋グリーンホール（13:00&17:00）
JD■東京・新木場1stRING（12:30）

26 MON.
DRAGON GATE■東京・後楽園ホール（18:30）
ターザン後藤一派■東京・キネマ倶楽部（19:00）

27 TUE.
DRAGON GATE■東京・後楽園ホール（18:30）

28 WED.
DDT■東京・後楽園ホール（19:00）

29 THU.
ビックマウス・ラウド■東京・後楽園ホール（18:30）
D-PROJECT■東京・新木場1stRING（18:30）

31 SAT.
PRIDE男祭り■埼玉・さいたまスーパーアリーナ（15:00）
Dynamite!!■大阪・大阪ドーム（16:00）
ゆく汗くる汗■東京・新木場1stRING（22:30）
ブラディー&ファング引退興行■東京・新宿FACE（13:00）
GIRLS DOOR■東京・新宿FACE（23:00）
大阪プロレス■大阪・デルフィンアリーナ（14:00）

1 Happy New Year!!

1 SUN.
大阪プロレス■大阪・デルフィンアリーナ（14:00）

2 MON.
全日本■東京・後楽園ホール（12:00）
大日本■東京・後楽園ホール（18:30）
大阪プロレス■大阪・デルフィンアリーナ（14:00）

3 TUE.
全日本■東京・後楽園ホール（12:00）
K-DOJO■千葉・BlueField（18:30）
IWAジャパン■東京・新宿FACE（19:00）
ONLY ONE■東京・後楽園ホール（18:30）

4 WED.
新日本■東京・東京ドーム（18:00）
DDT■東京・新木場1stRING（18:00）
ユニオン■東京・新木場1stRING（13:00）
全日本キック■東京・後楽園ホール（18:30）

5 THU.
全日本■茨城・水戸市民体育館（18:30）
リキプロ■東京・後楽園ホール（18:30）

6 FRI.
全日本■千葉・千葉ポートアリーナ（18:30）
K-DOJO■東京・後楽園ホール（18:30）
THE WOMAN■東京・新木場1stRING（19:00）

7 SAT.
全日本■三重・四日市オーストラリア記念館（18:30）
JWP■東京・板橋グリーンホール（18:30）

8 SUN.
NOAH■東京・ディファ有明（17:00）
全日本■大阪・大阪府立体育館（16:00）
華☆激■福岡・さざんぴあ博多
LLPW■東京・後楽園ホール（12:30）
NEO■福井・福井市体育館（14:00）

9 MON.
NOAH■静岡・ツインメッセ静岡（17:00）
DDT■大阪・アゼリア大正（13:00）
NEO■東京・後楽園ホール（12:00）
OVERHEAT■東京・新木場1stRING（18:00）
J-NETWORK■東京・後楽園ホール（17:00）

11 WED.
NOAH■東京・後楽園ホール（18:30）

13 FRI.
NOAH■愛知・豊橋市総合体育館（18:00）

14 SAT.
みちのく■岩手・矢巾町民体育館（18:30）

15 SUN.
NOAH■福岡・博多スターレーン（17:00）
キングスロード■東京・後楽園ホール（12:30）
みちのく■宮城・Zepp Sendai（15:00）
M's Style■東京・新宿FACE（18:00）
NJKF■東京・後楽園ホール（17:00）

16 MON.
NOAH■福岡・大牟田市民体育館（18:30）
UFC■米国・ラスベガス

17 TUE.
NOAH■大分・大分イベントホール（18:30）
マッスル9■東京・北沢タウンホール（19:00）

18 WED.
NOAH■長崎・佐世保市体育文化館（18:30）

※主催者側の都合により、時間等変更する場合がございます。あらかじめご了承下さい

おせちもいいけど、コラムもね!!　年末年始も『kamipro』三昧!!

イラスト　師岡とおる

出渕誠の

レイザーラモン

英知自慰

第3回　RGが見た！ 11.3ハッスル・マニア（自腹）観戦記！

イラスト　出渕誠

うも〜！　レイザーラモン出渕ことRGで〜す。今回はHGがプロレスデビューをかざったハッスル・マニアの感想をお届けしま〜す。

横浜アリーナ……過去、数々の名勝負や、全女のオールスター戦かあり、02・9・23には後藤真希卒コン兼第二期タンポポ、第一期プッチモニラストコンサートでの飯田香織の名言「たんぽぽがいっぱいだよ〜」が生まれた場所……その入り口横の階段で、ときおり小雨がちらつく中、開場を待っていた。

そんなとき、ワイドショーが僕を発見した。カメラを向けられた僕はとっさに大声で「どうも〜！　HGの相方、RGで〜す〜」と叫んだ。するとファンが「おぉ〜RGだ〜」とさわぎ、報道陣にとり囲まれ、「RG！　RG！」と観客がコールを始めた。こんな僕に声援を……。これも今日のHGへの期待ゆえのおこぼれか。目頭が熱くなった……。

そのときファンが「おぉ〜　猫ひろしがいるぞ〜！」と叫んだ。その瞬間、僕をとり囲んでいた観客は潮が引くように、猫さんのもとへ走っていった！　取り残されたRG。やはり、現実はこうかと実感。そう、僕はチケットを自腹で買って見に来た、いちプロレスファンなんだ。

試合開始。草間GMが客をいじりすぎてウケが減ったのは悔やまれた……。ジミー・ヤン好き！　健想のニードロップ！猫さん、また出てる！　いや〜興奮した。

そしてメイン！　相方やれるのか？　の心配は杞憂に。ウケるとこは爆笑！　技決めたら大歓声！　そしてドロップキック！　おまえ、ギブアップ住谷（学プロ時のリングネーム）だろ？　動きは全然衰えてない。

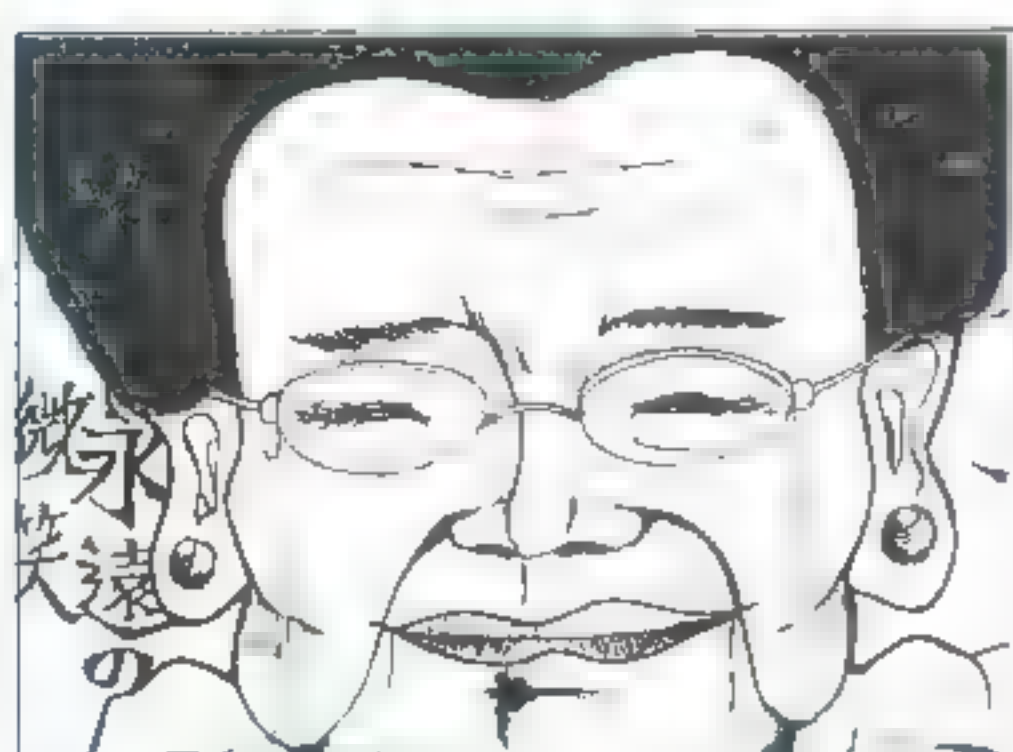
試合後の高田総統とのマイク合戦はザ・ロックかストーンコールドかというくらい会場を味方につけてた。「フォー！」が「what?」に「バッチコーイ！」が「stone cold said so!!」状態だよ。「遠いとこに行ってしも〜たなぁ」というのが正直な感想。

試合後、バックステージへ行き、HGの会見に乱入→笑い無し……。だが、スタッフやレスラー、取材陣も大会大成功の余韻に浸っていた。HGは記念撮影攻めで、声をかけれそうもない。そそくさと出口へ。

帰りもワイドショーにコメントを求められるが赤フンになってフォフォフォフォ〜！　で締める。コメントなんて一言では言い切れない。プロレスファン、相方、学生プロレスの同級生として思いがよぎる。過去に力道山、馬場、猪木、ホーガンやショーン・マイケルズ、サブゥー、そしてサスケや松永……偉大な選手によるプロレス的「ハッピーエンディング」の主役の一人になったんだから。

次の日、HGは「試合で口が切れて、口内炎ができて、メシが食えない！」とこぼしていた。昨日、横アリを沸かせたスターが隣で口内炎を気にしてる……。

「チョコラBBが口内炎に効くらしいで」と僕。「ありがとう〜コンビニで買うわ〜」とHG。そのコンビニではHGが一面になった各スポーツ新聞が並んでいた。

……って〜編集長っぽい終わり方してみました。僕もがんばりま〜す。

Izubuchi Makoto◎出渕誠（レイザーラモン）
吉本興業のお笑いコンビ「レイザーラモン」の、トレンド大賞を受賞したり、流行語大賞トップテンに選ばれたりと絶好調のHGじゃない方

第3回

極め系選手に幸あれ

12月22日は、シネセゾン渋谷で「トラック野郎　望郷一番星「太陽を盗んだ男」「東京ゾンビ」をオールナイトでやります

花くまゆうさく

リングの汁

こないだの「ハッスル・マニア」面白かったね。初めて「ハッスル」にお金払う気になってPPV買いました。でも普通のプロレスの試合は、3～5分以内にしたほうがいいと思うな。

そんでDEEP！　やったー！　足関十段（今成正和）最高ー!!　組み合わせ発表されたとき、まずマイク・ブラウンとだったから不安だったけど、見事に足関炸裂！　凄え!!　そして決勝も前田（吉朗）から一本、それも足関という最高のハッピーエンド!!　この結末に心の底から喜ぶ同志は、全国にたくさんいると思う、やったねーホントうれしい。コンバットレスリングのセンセーショナルな登場からトリコになったけど、そろそろいままでの道ノリをDVDにしてほしいよね。技術DVDでもいいけど。よろしくクエストさん。

十段につづけと近藤（有己）戦の矢野（卓実）さんにも期待したが、足関取れそうで惜しかったなぁ　引き分けたけど、矢野さんの株上がった気がするんでよかったかな。この流れで大みそかは、須藤元気一本勝ちを願ってます。所（英男）選手も、キッチリ一本取ってくれるでしょう、たぶん。極め系選手に幸あれ!!

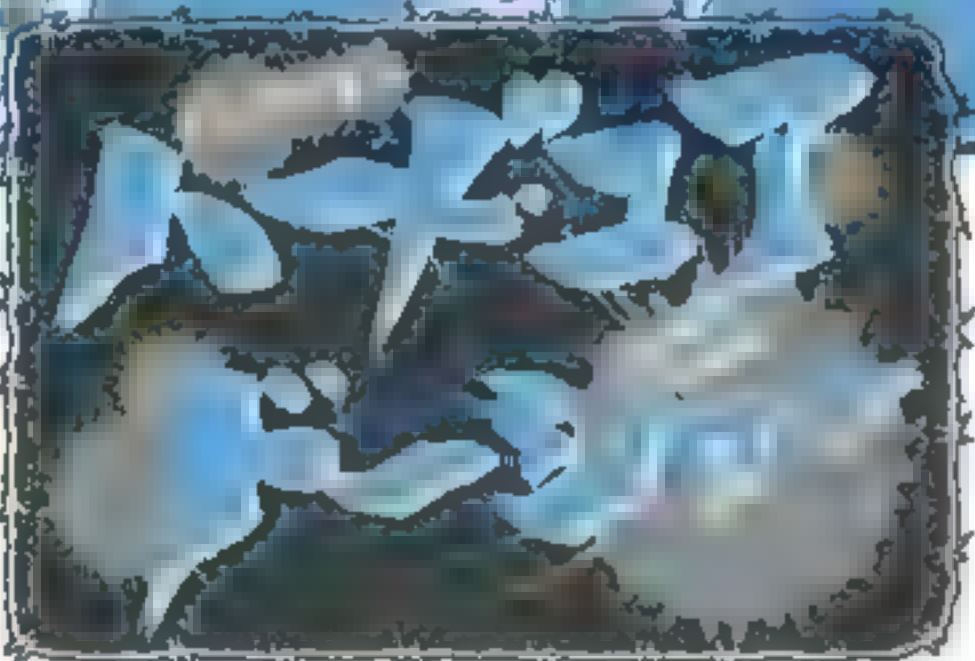
来年、修斗、名古屋の日沖（発）vs戸井田（カツヤ）戦は、極め系同士で好カードだね。ヒクソンのブドーチャレンジ来年もあるとしたら、十段だしてほしいな絶対。個人的には、エディ・ブラボーと十段の遭遇が一番見たい、もちろんクラップリングでね。そういえば、もうひとりの足関十段・花井（岳文）選手はエディ・ブラボーと遭遇したみたいですね。スパー見たいなぁ～。という具合に、僕の頭の中は極め系グラップリングしかないです、

そして、いよいよ「東京ゾンビ」公開、昭和の正月には　トラック野郎　があって、ステキでしたが、いまはないので今回の正月は　東京ゾンビ　がその役目を果したいです。中学生気質が体内に残っている人なら、グっとくると思いますんでぜひどうぞよろしく。

格闘技雑誌的なネタでいうと、映画の中であれだけ柔術やったのは浅野忠信さん 哀川翔さんの二人だけだと思う。ましてスクリーンの中でテラヒーバ披露した俳優は、世界中で哀川翔さんただひとりでしょう。そのうちセガールがやるでしょうけど

Hanakuma Yusaku
金子さんには、がんばってもらいたい　心配たけと

永遠の中学生映画

第3回

キ●●イ イズ バック!!
“クレイジーモンキー” 葛西

Inazuma K
SPIRIT CATCHER最高！と、年末の忙しさからコズミックなハウスで宇宙に逃避中

03年、大日本の伊東竜二が金村キンタローをやぶり、デスマッチチャンピオンになった時、闘いたい相手として、まず真っ先に挙げたのが「葛西純」の名前。

かつて大日本マットで、松永弘光、本間明晃、山川竜司、WX、CZW勢と組んだり、対戦したりして壮絶なデスマッチを繰りひろげた葛西

そんな葛西は、当時はZERO ONE所属。大日本を辞めた経緯もあり、すぐ伊東との対戦実現とはいかなかった　だか伊東にとっては、入団もほぼ同期、先にデスマッチで狂い咲いていた葛西との対戦は必ずや実現したかった相手。

そんな葛西が、今年2月にZERO・1MAX退団。アパッチプロレス軍所属として、大日本に帰ってきた。この〝クレイジーモンキー〟の復帰が大日本のデスマッチ戦線をさらに加熱させたのは、ご存知の通り。

たとえば、沼澤邪気との一戦は、究極のカミソリボードで背中をザックザクにしてしまう狂乱ファイト。その沼澤とのキ●●イブラザーズは、パンツいっちょでハードデスマッチをこなす狂猿ぶりで、会場内の大キ●●イコール誘発！　まったく放送禁止まっしぐらな男である。

そんな葛西が、伊東のデスマッチチャンピオンのタイトル奪取に動き出した矢先……突然に「腸の病気で入院、手術を行なう」というショッキングニュースが飛び込んできた

そこで病気と闘う葛西をバックアップすべく、アパッチプロレス軍が音頭をとり、大日本プロレス、KAIENTAI-DOJO、DDT、ZERO1・MAX、NEOが団体の枠を越えて協力、特別興行「MONKEY MAGIC」が千葉・ブルーフィールドにて緊急開催された。沼澤vs新宿鮫、レフリーDJニラの注目（？）カードや、日高、TAJIRIらが出品するスペシャルオークションも実施。

メインは、金村キンタロー、黒田哲広、田中将人の元FMW勢と、マンモス佐々木、佐々木貴、佐々木義人の佐々木軍団によるデスマッチ先輩後輩対決か実現

リング下2面に有刺鉄線バリケードマットを設置したこのデスマッチは、想像以上にハイスパートな展開に。昼に後楽園で試合をしたばかりのZERO1・MAX勢だが疲れを見せることなく大奮闘！　先日の松永戦で、「ミスター有刺鉄線と呼ばれるようになる！」と宣言した義人もつぎのレベルを体感したことだろう。

白熱バトルを制したのはボス金村。試合後、参加全選手がリング上がり、金村が（葛西の病状に関し）マイクを握る。

「検査の結果、悪性ではなかった」「病院を抜け出すので自宅で療養中」との報告に、会場から温かい拍手。「家で寝てるあいつのためにも、最後は踊って締めますか－」。ここで金村のテーマが流れるかと思いきや、聞こえてきたのは葛西のテーマ！花道にはスーツ姿の葛西が登場－

「ストップ・ザ・ミュージック！　オレッチのための試合があるって聞いて、あの韓国人がまたウソいってるのかと思って来てみたら、ホントにやってんじゃねーか！」と元気に葛西節を放つと、協力してくれた全選手に感謝を述へ、来春の復帰を目指すことを発表 最後は全員のフリフラダンス&シエーッ！

ともかくめでたい。葛西の元気な表情から、復帰が遠くなさそうな気配はビンビン。バッチリ体調を戻して、再び会場に大キ●●イコールを巻き起こしちゃってください！

試合後、葛西純を中心にバックステージに集合した参加選手たちの感動ショット

椎名基樹のサムライユニ味

―イエローカードってなんだ?

２００５年もいよいよ終わりを迎え、振り返ってみれば、運動もせず、それほど仕事もせず、ネットでＮＨＫこと『梨元放送協会』の下品極まりない、しかし素晴らしいトークに聞き入ったことや、もう何度も読んだマンガ（ＧＡＮＴＳ等）をめくったことしか思い出せない中、大晦日のカードも発表され「年末は暴力！」という、猪木の無意識の悪意によるイタズラで成り立ったとしか思えない新しい日本の風物詩が盛り上がってまいりました。抱腹絶倒あり驚天動地あり興味津々ありの『ＰＲＩＤＥ』、Ｋ－１両陣営にファンのみなさまもヒートアップしていると思いますが、ここでお耳（お目々かな？）を拝借して、タイムリーな話題ではありませんが、前回の『ＰＲＩＤＥ』で浮かんだ疑問と前々から思っていたプロレスの疑問について書かせていただきます

前回の『ＰＲＩＤＥ・30』で思ったことは「イエローカードってなんだ？」ってことであります。じつはこれは前々から思っていたのでありますが、まあ細かいことはいいかと思い、書かなかったのですが、セルゲイ・ハリトーノフvsファブリシオ・ヴェウドゥムでいろいろ疑問が浮かび今回書いてみたしだいであります。

『ＰＲＩＤＥ』でイエローカードが出されるもっとも特徴的な場面は「グラウンドで下の者が膠着を誘発した場合、下の者だけにイエローカードが出る」というヤツです。これはわりと最近採用されたルールたと思います このルールを初めて知ったとき、なるほどユニークなルールだと思いました このルールは、アグレッシブないわゆる「ＰＲＩＤＥ」スタイルを確立する手助けになったと思います。個人的に、このルールが納得しやすかったのは、クロスガードは禁止というサンボのルールと重なるからです。状況として一番考えられるのは、寝技か不得手な打撃の選手がタックルで倒され下になり、クロスガードを取ってなんとか相手を固めてブレイクを待つという戦術をさせないルールだといえると思います。サンボ同様しっかり寝技、『ＰＲＩＤＥ』ルールならパウンドも含めたグラウンド状態での競い合いをせよというワケです。クロスガードをし続けるのは、確かに膠着を誘発していると思います。

ハリトーノフvsファブリシオでも下になったファブリシオにイエローカードが出ました しかし、ファブリシオはクロスガードを取ったワケではなく、それどころか、相手のハリトーノフはスタンド状態の、いわゆる猪木・アリ状態でした。この場合、膠着を誘発したのはファブリシオとは言い難いと思います。むしろ有利な上のポジションをもらって攻撃を仕掛けなかったのは、ハリトーノフだといえます。ミルコがよく猪木・アリ状態で上になると「立て」と相手に命しますか、本当はそんなこと命じられる筋合いはないよなと前々から思っていました。

たが確かに猪木・アリ状態かダラダラ続いたら退屈です しかし、筆者か歴代の総合の試合で一番好きなのは、桜庭vsホイラーです この試合も永遠に猪木・アリ状態か続く試合でした しかし、退屈などということはなく、むしろその膠着状態か最高の緊張感を生み出していました 試合はまた観ていないのですか、先日の『ＤＥＥＰ』で行われた、今成正和vs前田吉朗も猪木・アリ状態で膠着し、しかし凄い緊張感で盛り上がったといいます いまや総合格闘技たとかＭＭＡたとか甘っちょろい名前になってしまいましたか、猪木・アリ状態での膠着は、バーリ・トゥードとかノーホールズ・バードと呼はれた時代に、元来あった異種格闘技の緊張状態かあります また、スタンドの打撃は相手に寝られてしまったら、意味かないというのも間違いのない事実です。だからもしハリトーノフvsファブリシオも、上の者かスタンドを要求すれは、相手か立ってくれるということをハリトーノフか利用しなければ、緊張感があった試合になったかもしれません。

しかし、これは総合格闘技の永遠のテーマで、猪木・アリ状態の膠着で必す緊張感か生まれるかはわかりません。今成の寝技に付き合って足を取られてしまった、前田もちょっとかわいそうだとも思います

それにしても、猪木・アリ状態で下の者だけイエローカードというのはやっぱり変だと思います ヒョードルやシウバのように、立って強く、グラウンドで上になったらもっと強ければ、まったく問題ないわけで、やっぱ上になった人が行ってくんなきゃ面白くありません

前置きが長くなってしまいましたか、この問題を踏まえて、『ＰＲＩＤＥ』のイエローカードってなんだ？」と思うのです。イエローカードをもらうと、どういう措置になるのか、よくわかりません。ファイトマネーが減るとかなんとか聞いたことがありますが、それはまったくルールとは次元の違う話で、拘束力がないし、観ているほうには伝わりません 「何々選手のファイトマネーはいくらですが、ただいまのイエローカードによりいくらになりました」なんてやってくれたらそりゃ面白いですが。イエローカードというものを出すなら、当然試合の減点法に使わなければおかしい。しかも、『ＰＲＩＤＥ』は３ラウンドをマストシステムで採点しているというのだが、１ラウンドと２ラウンド＆３ラウンドの試合時間が違うのに、同価値で採点しているのでしょうか？ 判定の時、ジャッジの採点を読み上げるわけでもなく、非常にあやふやな印象をうけます。だから、イエローカードも謎の紙切れにしか見えません。ルールを明文化するこで、試合が点取りゲームになる弊害があるのかもしれませんが、いずれＰＲＩＤＥ」はそういう部分をクリアーにしなければならないと思います。

まあ、判定というのは難しくて、単純に採点を発表すればそれで解決というワケでなく、Ｋ－１で武蔵と対戦したロシア人が試合後「武蔵に勝つにはＫＯかダウンを奪わなければ勝てないとわかっていた」と平気で言うのには笑ってしまいましたが

最後に疑問をもう一つ 新日本の西村選手 ヨガキミックでよく座禅を組んで瞑想のポーズをしていますが、両手の指の形、変じゃありませんか？ 普通、仏様は親指と薬指をくっつけていると思うのですか、西村選手の場合は親指と人差し指。これは日本では「銭」のサインですよ！

昨年の大晦日は、「PRIDE男祭り」では高田統括本部長がふんどし一丁での太鼓の乱れ打ちを披露 一方の「Dynamite!!」はメイン終了後、アントンの「ダーッ!」で締め括られた はたして今年の高田本部長の隠し芸（?）は何か? そしてアントンはとこへ?

Motoki Shiina
大晦日の予定は、いまのところ未定です。でも普通に小川vs吉田は見たいです

金ちゃんのどこまでやるの？

第2回　来年こそ須藤元気君を見習いたい！

Hiromitsu Kanehara
本音炸裂コラムほぼ毎日更新中!
金原弘光オフィシャルHP
http://www.hiromitsu-kanehara.com/

イラスト　中川画伯

まずはみなさん、先月はコラムを休んでしまい申し訳ありませんでした。11・5『HERO'S』韓国大会でやったハリッド・ディファウスト戦の判定があまりにも頭に来たんで、コラムを書けるような状態じゃなかったんだよね。怒りにまかせて書いたら、コラムが罵詈雑言だらけになりそうだったからさ（笑）。それで無理言ってお休みさせていただいたんで、読者の皆さんと編集部には、この場を借りてお詫びさせていただきます。

でもさぁ、いまだに思い出すだけで腹立つんだよねぇ。あまりにも悪いことが続くからさ、何かあるんじゃないかと思って、帰ってきてから墓参りとかいっぱい行ってきたよ。何か自分ではどうしようもないものが憑いてるんじゃないかとか思ってね（笑）。

だからいまさ、須藤元気君に凄く興味があるんだよ。なぜかって言うと、一年ぐらい前に元気君の試合を見たら、セコンドに催眠術の先生がついてたんだよね。テレビにもよく出てる有名な先生なんだけど、その人が元気君のセコンドについてたからビックリしたんだよ。それ以来、須藤元気君に凄い興味もって、俺は雑誌送ってもらっても、他の人のインタビューとか読まないんだけど、「須藤元気インタビュー」だけは読むようになったんだよね。そしたらさ「すべては〝無〟なんです」とか、精神世界のことなんかを語ってるんだよね。それ読んで俺も精神的にキツい時期が続いてるから、「俺も悔い改めなきゃな」とか思ったり。あとは「紙に書いたことは実現するんです」とか言ってるから、俺も書いてみたりしたんだよね。まぁ、俺の場合は一向に実現しないんだけどね（苦笑）。

やっぱり俺もさ、一時、精神的にあまりにも参っちゃって試合になるとナーバスになりすぎるから、須藤元気君に頼んで催眠術の先生を紹介してもらおうと思ったんだよ。それで今年の春ぐらいにTKの道場開きのときに元気君と会ったから、「須藤君、催眠術の先生についてもらってるよね？あの人オレにも紹介してよ」ってお願いしたんだよ。そしたら「僕はあの先生はもう卒業したんで、僕からは紹介できません」とかアッサリ言われちゃってさ、頼みの綱がブチッと切れちゃったんだよ（笑）。

やっぱりさ、スポーツ選手ってケガしたりスランプになったりすると、精神世界のものに頼ったりするじゃない。結構そういうのって大切だと思うんだよね。元気君なんてある意味、悟りを開いてるじゃない。だから、俺はまだそこまで行ってないなと思って。それから彼は「すべては〝学び〟なんです」とか言ってるじゃん。それ読んで「あ、いま俺は苦しい思いして学ばなきゃいけない時期なんだ」と思って、辛いことも受け止めようと、いまは発想の転換をしているところですよ（笑）。

前世がよっぽど悪かったのか、その前世の悪事をいま悔い改めてるんだよ。そうでも思わないとやってられないよ。

俺も今年はいいことなかったけど、来年こそ須藤元気君を見習って、彼のように生きて行けたらいいよね。でも、紙に書いたことはなかなか実現しないなぁ～（笑）。

では、読者のみなさんも、よいお年を！

11・5『HERO'S』前も紙に「絶対に1R一本勝ち」と書いて挑んだ金ちゃん。腕十字が完全に極り現実化したかに思われたが、寸前で逃げられ判定負け…… なかなか上手くいかないものです

ブッカーKの ぶっかけ! 格闘裏情報

第3回

ヴァンダレイのゴリラなお父さんと、肝っ玉母さん

Booker K◎本名、川崎浩市。シュートボクセをはじめ世界各地の強豪外人を招致する敏腕ブッカー。

今回は、私がブッキングしているヴァンダレイ・シウバのエピソードを書きましょう。とはいっても、ヴァンダレイのすべてをコラム一回分ではとても書き切れません！　なので、今回は『PRIDE』に登場する以前の生活や、彼の家族のことを中心にしたいと思います。

ご存知の読者もいるかと思いますが、幼い頃のヴァンダレイは肥満児だったんです。でも、13歳のときにシュートボクセの看板を見かけて、格闘技を始めてからは、みるみるうちに身体が絞れていきました。

ヴァンダレイは学校を卒業してから、昼はトレーニング、夜は彼のお父さんの経営しているバーを手伝っていました。お父さんは真面目な働き者で、昼はバスの運転手、夜は自宅に隣接している小さなバーを営んでいたんです。お父さんはヴァンダレイをさらにゴツクくした顔で、ヴァンダレイはお父さん似なんです（笑）。

ヴァンダレイが練習とバーの手伝いの日々を経て、プロデビューしたのは16歳のときでした。本当は試合出場する予定はなく、先輩と一緒にバス10時間近く揺られて会場に行ったら、欠員が出てしまって急きょ闘うことに。当時のヴァンダレイはまだ80キロちょっとの細身。しかし、100キロ以上あった相手を頭蓋骨陥没に追い込み再起不能に……!!　デビュー戦から大物の片鱗を見せつけたのでした。

しかし、そのままファイターに専念するかと思いきや、20歳のときにブラジルの軍隊へ入隊することになったようです。ブラジルでは、一家を支える長男は兵役免除され、次男は入隊しないといけない、という話を聞いたことがあります（ヴァンダレイは次男坊。彼には妹がいます）。兵役に就いたのは一年程度。『PRIDE』に初出場したのは23歳の頃ですから、軍を離れて間もなかったということですね。

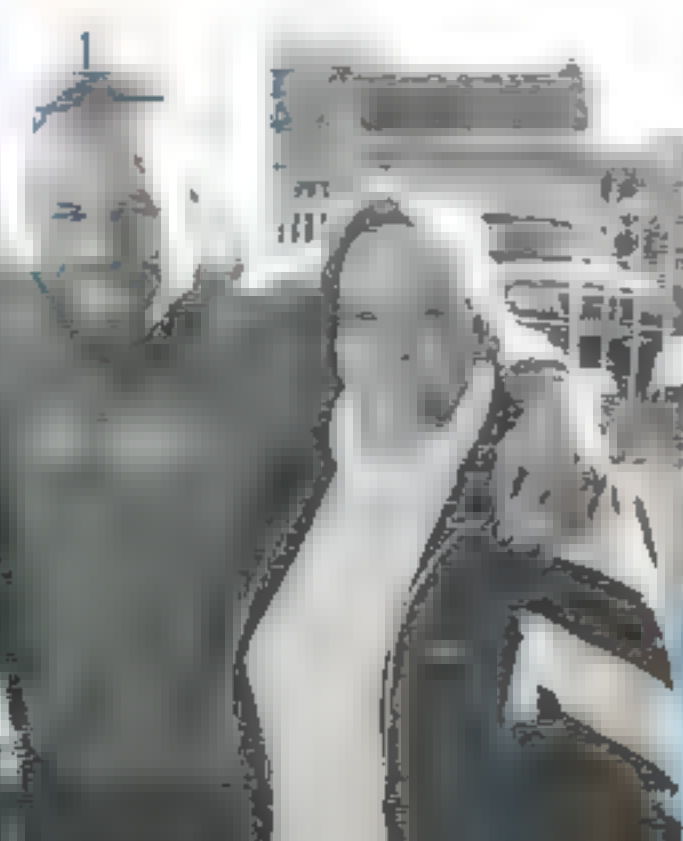
こうして再びリングに戻ったわけですが、当時のヴァンダレイの生活は、決して裕福ではありませんでした。また彼が実家住まいしているとき、シウバ一家の自宅兼バーに招待されたことがありますが、それはもういたってシンプルな家で。ヴァンダレイの部屋はわずか4畳半程度でほぼ寝るだけのスペース（桜庭選手から贈呈されたサクベルトが飾ってありました）。『PRIDE』で活躍してからからは引っ越して、いまやシュラスコ焼き場やプールが付いた豪邸に住んでいます。4畳半ファイターだったヴァンダレイのサクセス・ストーリーは、非常に感慨深いものがありますね……。

そうそう！　忘れていけないのは、お母さんの存在です。ボクと一緒に自宅を訪れたテレビ局の取材陣が「ヴァンダレイはモテましたか？」と昔のことを軽く聞いたら、自信を持って「ハンサムだからね！」……いやぁ～、冗談ではなく真顔で言われたので突っ込みは入れられませんでしたね（笑）。隣で話を聞いていたヴァンダレイはガハハハハ！と笑ってましたが、真面目な性格と顔つきは父親に、自分を信じることができる性格は、母親に似たんだなと思わせる瞬間でした。

掟ポルシェの

萌え萌え女々苑

イラスト ゴロ ちゃん

第3回
今回は熟々女々苑 ミミ萩原への道の巻

新宿・眠らない街。行きつけの変態パーティーでは、ゴルドーによく似たアングロサクソンが「俺のキンタマをつぶれるほど握ってくれないか？」とすれ違う女性全員に声をかけている。当然「クソして寝ろ！」と吐き捨てるように言われる。かなり満足げだ。東京っていい街だなぁ、と左とん平も歌っていたが、このミッドナイトの異文化交流にあの歌を思い出し、なんたか心が温まった。変態パーティーは俺、ポル・サイトーにとってのハートの温度をぬるくする心のカフェオレ、生き馬の目をサミングでくり抜くライフ・イン・トーキョーには欠かせないものベスト3のうちのひとつだ（あとの二つはキックボードと肥後すいきとかなんかそんなの）。

チンコの皮の伸ばしっこ＆キンタマ万力締めショー主体のパーティーを抜け出し、コンビニで買ったマスクにラッシュを2瓶染みこませ、耳からかけて効率よくガン吸いしほろ酔い気分。誰もが有機溶剤の吸い過ぎで四六時中おなかが減った気がするのがいまどきトーキョースタイル。こんな朝（深夜3時。チョー朝。ていうか夜）ボーイズは、男おばさんが仲睦まじく飯盛りしてる新宿2丁目の定食屋「クイン」でブレックファストと決まっている。口からラッシュくさい息を排気して、面白半分で仮死状態になりながら朝食の定番・おにぎり定食を注文。中身についてはママ（というニックネームのおじさん）がチョイスしてくれる。好みの男性客には紀州南香梅、あるいはキングサーモンのはらす焼きをインクルード。ちょっと綺麗な女性客にはその辺に生えてる雑草を塩でもんだものを素足で握って出してくれる。どちらもおいしいと評判。気が置けないセレクトショップだ。

クインはおにぎりの味だけではなくインテリアも素晴らしい。便所にはってあるポスターはＬＬＰＷの興行告知。2丁目の定食屋の内装としてこれほどエクセレントなチョイスもない。ＬＬの会場に一度でも行ったことのある者なら客層の約25％程度を占める出勤前のニューハーフ軍団の酒焼け応援ボイスにビビッたことがあるだろう。ガールズ、かと思ったらそれはボーイズ。いや、正確にはブルーボーイス。彼女たちに明日への活力を与えるのがＬＬＰＷの熟女レスラーとニューハーフのやさしい関係に心のカフェオレをおかわりしつつ店を出た。日曜のトーキョーシティはすっかり太陽が昇りギラついていた。

帰宅し仮眠をとり数時間後、再び野獣都市・新宿に舞い戻る。新宿ＦＡＣＥでついにあのセクシー・パンサーことミミ萩原か復活するというので、取材申請を出しておいたからだ。試合開始の13時に合わせて出掛けようと思ったものの、家でベリーズ工房『ギャグ１００回分愛してください』のＰＶを再生してしまったため、つい振り付けのコピーをしてしまい遅くなった。この曲はいい。良すぎる。21世紀に出た中で最高の曲。嗣永桃子はジーニアス（セッドじゃないほうの）だ。

13時半頃シレッと到着したものの、どっから会場に入っていいのかさえわからない。新宿リキッドルーム跡地にあるということだけは知っていたのでエレベーターで7Fにあがる。が、ドアが開いた途端そこには村山大値レフェリーが。しまった、ここは会場ではなくその下の楽屋フロアだ。どうしたらいいかわからずまごこしていると目の前にいた村山レフェリーが「おはようございます」というのでうっかり「おはようございます」とおはよう返し。行きがかり上なんとなくそのまま悠然と楽屋から侵入したことはその日の興行の主催者であるジャガー＆デビルには内緒た（正直に言うと目ん玉くり抜かれる可能性大）。

会場フロア入りし、ミミ萩原登場を待つポル・サイトー＆松澤チョロ（午後イチからすっごい酒臭い上に呂律が全然回ってないアナーキーな職務態度）。ほどなくして照明が落とされ、我々ｋａｍｉｐｒｏボーイズたちが見つめるリングに、ついに彼女は降り立った……ミミた、ミミ萩原だ！　サイパンから帰ってきた直後の長州力よりも更に日焼けした健康的な肢体を震わせ、歌とダンスで観客を魅了する。これが21世紀型ミミ・スペシャルなのか……ボーイスは目の前で繰り広げられる光景に感動していた　マイクを持って何かを話すミミ。

「（エレベーターガールのような名調子で）みなさま、お元気でしょうか。ミミ萩原改め『聖矢』です。リングに上がるとついロープの感触を確かめちゃって、うずうずしますね」……いつの間にか名前さえ変わっていたが、彼女は帰ってきた。

というわけでこの続きはこのスペースでは書ききれないため次号、ミミ萩原インタビューを新年ミミ・スペシャルとしてお届けします！　待て次号!!

12月4日、シャガー＆デビルの女帝興行の休憩明けに登場したジャガーの同期のミミ萩原　久々にリングに上がると、マライア・キャリーと同じく7オクターブの持ち主というミミ改め聖矢が熱唱。美声を披露したあとは、ダンサー二人を従え、華麗にダンシング！　その後は駆けつけたシャガーと抱き合い昔話に花を咲かせた　聖矢とイケメンのパートナー星十の活動状況が気になるという方はコチラのアドレスまで・　http://www.iam-oceans.net/

いろいろありながら、なんとか成功したミミ萩原改め聖矢取材。現在は広島を中心に活躍中の聖矢。アイドル時代から女子プロ入りの真相、さらに過酷なイジメ話やレズ疑惑まで掟ポルシェが直撃！　1ヵ月待てコラッ!!

Okite Porsche　掟ポルシェ（おきて・ぽるしぇ）
12・22（木・祝前日・深夜）＠代官山ＵＮＩＴ（03－3464－1012）でロマンポルシェ。ライブやります。来年1・7＆8は岡山＆福山で掟ポルシェ申し訳Jr.としてＤＪ。その他諸々の出演情報などは掟ポルシェＢＬＯＧを［参照下さい！
［http://blog excite co jp/porsche］

世界に羽ばたく夫婦コラム

チーム鈴木の明るい未来

KENZO HIROKO

ハッスル・マニアで大きなインパクトを与えた鈴木健想&浩子のスーパースター夫婦 メキシコ〜ドイツと遠征を続けて世界中で大暴れしてます! 今月も元気にいってみよう!!

健想 いやいや、それにしてもこのところのスケジュールは鬼だね、マジで（笑）。

浩子 そうかな？

健想 「そうかな？」って!! 前回のハッスルで日本に帰国して、タンパに戻って一日でメキシコ行って、戻ったら次の日からヨーロッパ。で、また3日後にはメキシコに戻る 俺はこの1、2ヵ月で自宅に1週間いないよ

浩子 トーリー（・ウィルソン）にも「『WWEの選手は忙しいから会えなくなる』って、あんたたちのほうがタンパにいないじゃん!」って突っ込まれたよ（笑）。

健想 あんたたちってそれ、俺だけだから! ヒロは家にいられるからいいけど。普通にWWEのハードさを超えるスケジュール組んでくるもんな、マジで

健想 最高だった。基本的に目的は二つ。浅井（嘉浩）さんに会って話が聞きたかった。浅井さんは日本とメキシコをはじめ、WCWやWWEでアメリカでも活躍してきた先輩だから、いまの俺についてアドバイスがほしかった。もう一つにはルチャの勉強。自分のプロレス力の底上げが当面の目標だから、メキシコのルチャもやっておきたかった

浩子 で、収穫は？

健想 相当あったよ 浅井さんの闘龍門のジムに道場生と一緒に寝泊まりしたんだけど、みんな凄いハングリーだった。自分の特徴をきちんと把握して最大限にアピールするってことを叩き込まれてるから、例えば俺か雑誌の取材なんかをしてても「健想さんいいっすか？」って、どんどん入ってくる。俺は完全に呼ばれるのを指くわえて見てるタイプだったから そういう姿勢に押されてこっちも練習に熱が入っちゃったよ（笑）。いい経験だった。

浩子 試合も良かったらしいね。

健想 沸いたんだよ（笑）。嬉しかったね それがまた目の肥えてるメキシコのファンにウケたっていうのもさらに嬉しかった。もちろんWWEの頃を覚えてるファンがいてくれたからではあると思うけど。でも凄い沸いたんだよ。「こんなでかい日本人いるんだぁ」って口あんぐりの客や、あまりのヒールっぷりに本気でキレてる客とかさ。ずっと自信喪失してたから、大げさに聞こえるかもしれないけど「俺はまだやっていける」って思えた。

浩子 しかし、行く前には「メキシコ行ったら飯食えなくなるぞ」「トイレは絶対に紙が盗まれてないよ!」とかって散々仲間に脅かされて……そのわりには「本場のメキシコ料理はうまい!」ってご機嫌だったね（笑）

浩子 最初は良かったのよ…… もともとメキシコ料理大好きだったからうまくてさ。しかし最後の最後でやっぱり下痢に見舞われた……。きつかった……。ヨーロッパから帰ってくるまで続いちゃって

浩子 っていうか、ヨーロッパから帰ったら、3日でまたメキシコ出発たから（笑）

健想 確かに……。しかしトイレは凄かったよ 紙どころか便座ごと盗まれてた

浩子 私はトーリーたちから連絡もらって健はちょうとメキシコて聞いたのよね

健想 ラティーノの中にいて、なんか偶然エディさんのことを考えてた 浅井さんとも話してたんだ

浩子 エディは日本を経験してるから、私たちにも凄く気を使ってくれたよね

健想 WWEは1週間に4試合あるから、2年間毎日会ってるようなもんだった。それでもエディは挨拶するたびに毎回「ケンゾー、大丈夫か？ なんかあったら言うんだよ」って言ってくれてた。

浩子 同じタンパ在住だったし、奥さんも知ってたしね。それに健は日本公演でもエディと試合して。空港で言われたあの一言は心に残るね。

健想 日本を発つ際に空港でエディか俺を呼んで「ケンゾー。ここはお前のホームだよ。お前がどんなにアメリカにいても、どこで生活しても、ここがお前のホーム。昨日のあの歓声を忘れちゃいけないよ。大切にするんだよ」って。

浩子 最後にあのかわいい笑顔でね……

健想 レイ（・ミステリオ）とエディはルーツを凄く大切にしてて、俺もよくそういう話を聞いたんだ 「子どもには絶対に日本語を教えるんだよ」とかさ。そういう言葉か、いまこうして海外で動いてる自分にも凄く影響してるんだ。いろいろ教えてもらったんだよな。信じられないよ。

浩子 エディのあの笑顔はレスラーたちもみんな大好きだったもんね

健想 彼に出会えたことを大切に、これから頑張らないといけないよな……

健想 あの伝統の〝キャッチ〟を体験できたのは嬉しかった。時代の流れで、変わってしまったこともあるけど、その流れはいまだに残ってた。アメリカのプロレスとは対極、日本の古き良き時代に近い感じだった

浩子 沸かせられて良かったね。最初は私か、アメリカと同じようにファンを煽ったらシーンとしちゃってね（笑）

健想 「ケ・ン・ゾー ケ・ン・ゾ!」って煽ると「応援なんてしないよ!」って余計黙っちゃうんだよな

浩子 アメリカだったら嫌なときは「ブゥ〜ッ!」って言ってくれるじゃない？ ヨーロッパは黙るのよね。そういうところ、日本に近いかもしれない

健想 最初に選手全員かリンクに並ぶのにも驚いた。目の前に対戦相手が立ってるし、どうしていいのかドギマギしたよ（笑）。

浩子 正直むかつくわね

健想 おおっといきなり出た（笑）。

浩子 反響ありまくりよ! アメリカでまで凄い反響よ!

健想 いいじゃん!

浩子 負けちゃって!

健想 ……。

浩子 だけどそれでもやっぱり、あれは健想効果よ! 和泉元彌効果じゃない（笑）。マスコミじゃ「和泉元彌は真摯な姿勢で取り組んだ」って。どうなのよ、それ？ 「勝てないから」ってあれだけ軍団を連れてきて「真摯な姿勢」はないでしょ!

健想 じゃあ、再戦する？

浩子 私がね お母さんでもお姉ちゃんでも誰でも結構。でも今度は正々堂々と1対1よ。やってやんなきゃわかんない!

健想 ハッスルで大暴れ？

浩子 これで黙ってられないでしょ？ 任せといて。秘策アリよ。ダテに世界10カ国以上で忍者パウダー撒いてないわよ!

日本在住のメキシコ人3人組がアメリカンプロレスのウワサを追いかける

アメプロ☆ウワサル〜ン

vol.3

日本在住のメキシコ人3人組がアメリカンプロレスを語る連載トライアングル座談会連載です！　今月は日本が生んだスーパースターTAJIRIがWWEを退団！　その真相に迫りたいと思います

ホセ
口は悪いがプロレス魂を持つ熱い男 広い情報網を持ち、行動力もある

ミケル
プロレス業界内■と太いパイプがあるクールな男。最新情報をいちはやく握る。

ハンチョ
他の二人の情報に「へぇ〜」とか「はぁ〜」とか言ってることか多い

イラスト　エロコエロオ

ハンチョ　まず、なんといっても衝撃か大きかったのはTAJIRIがWWEを退団した件ですね。

ホセ　wwe.comが「12日のRAWで最後」って報じたんだけど、それかなぜか削除されちゃったみたいなんだよ。これはあくまで憶測だけど、本人としてはクリスチャンみたいに、静かに去りたいという希望があったのかもしれないけど。

ミケル　クビというわけじゃなくて自主退団なんですね。

ホセ　もちろん！　実力は高く評価されてたから。契約更新はしたらしいけど、年齢とともに疲労とかケガに対する回復力が落ちてて、サーキットが「しんどい」ということは言ってたみたいだね。お子さんも2人目が生まれて家のことも心配という部分もあるだろうし　先月、エディ・ゲレロがサーキット中に突然亡くなったことで健康面とかでも考える部分もあったんじゃないのかなと思うんだ。

ハンチョ　エディの急逝はホントに驚きましたよ。悲しいですね……。

ホセ　ホテルで突然亡くなってしまったんだよな。警察の検視があったんだけど、心臓疾患の影響による自然死たと正式に発表された。ドラックの乱用て生死の境をさまよったことはDVD作品にもなってるけど、あれは過去のことたから

ハンチョ　エディは子どもと奥さんを遺して逝ってしまいましたけど、今回の件は家庭を持っている人、とくに子どもがいる人は絶対こたえると思いますよ。

ミケル　育児はホントに大変たからね。

ホセ　実感こもってるなぁ（笑）。

ミケル　いや、最近うちも子どもが生まれたんで、その気持ちはよくわかる。ましてや長期サーキットに出るプロレスラーの家はもっと大変た　男として、人間として、TAJIRIの決断は正しいと思うから。

ホセ　そうたな。しっかり話し合った上での円満退団たから　砂をかけて辞めていくわけじゃないんだけど、他団体には上がれない90日間のプロテクト期間は設けられるみたいたな　その間に帰国に向けて準備をするのかもしれない。本人は正月を日本で迎えられるのは7年ぶりたと喜んでたみたいたよ

ハンチョ　じゃあ、次にリングでTAJIRIの姿を見られるのは、早くても来年春ごろですかね。

ホセ　アメリカだったらTNAという選択肢もあるんたろうけと、アメリカではトップの団体でやったわけだからな。日本の団体が視野に入ってるかもしれないよ

ハンチョ　鈴木健想も帰国してハッスルであれだけ大きな注目を浴びたわけだから、WWEであれだけ活躍したTAJIRIを各団体も放ってはおかないでしょう。そういえばTAJIRIとFUNAKIの日本でのトークショーが12月23日に予定されてますけど、あれはキャンセルですか？

ミケル　いや、これが出ることになったんだよ。通常、WWEを退団することになった選手が公式なイベントでトークショーをやったりすることはないんだけどね。

ホセ　異例中の異例だよ。TAJIRI本人も辞める話し合いのときに、このトークショーの話をしたら「最後の仕事をやってきてくれよ」ってことになったらしい。粋なはからいだよな。本人も楽しみにしてるらしいから絶対おもしろくなりそうだよ

ミケル　日本の団体に目を移すと、ブロック・レスナーが新日本に入団するんじゃないかと言われてたでしょ。

ハンチョ　あれはどうなんですか？（笑）。

ホセ　まだ入団が決まったわけじゃなくて、入団させたいという意向があるということかもね。レスナー自身がWWEから新たに訴えられたので、その影響もあるかもしれないし。やっぱりレスナーが出るというだけで世界各地からPPVの依頼とかあるみたいだからな。

ハンチョ　ホントですか!?

ミケル　それだけ名前が世界に浸透してるってことでしょう。

ハンチョ　WWEはなにを訴えたんですか？

ホセ　ようするに「他団体に上がるな」ってことらしい。

ミケル　レスナーの場合は他の選手とは契約がちかって、制約も多いみたいだな。それにしても最近はWWEを退団する人が多いね。

ハンチョ　クリスティ・ヘミが退団しましたよ、大好きだったのに！

ホセ　契約更改で金額か合意しなかったらしいね。ディーバ・サーチで優勝して25万ドルで契約して入団してけっこうな活躍をしたからアップ査定だと思ってたらしいんだけど。経営的に厳しい時期だからアップも難しいみたいで結局、退団することになったという。最近はOVWで頑張ってたみたいなんだけどね。

ハンチョ　ジャマールは全日本を退団してWWEに復帰するという話で、Aトレインはユークスに買収された新日本に上がっちゃうし、動きが激しいですね。

ホセ　いままではWWEが圧倒的すぎて日本とはまったく別の動きだったけど、WWEの体力が落ちてきて日本のプロレス界は大混乱。いつの間にか連動してたということだな。

なぜ、五味隆典をイメージキャラに起用したのか？『ディメンション・ゼロ』発売元、木谷会長（ブロッコリー）が激白！

五味選手が練習する「木口道場」を訪問したときの木谷会長（ブロッコリー）のツーショット写真

五味隆典は"知的総合格闘技"として、いま話題のカードゲーム『ディメンション・ゼロ』のイメージキャラクターに起用され、注目を浴びている。この仕掛け人こそ、『ディメンション・ゼロ』最高開発責任者で、発売元の株式会社ブロッコリーの代表取締役会長、木谷高明氏だ。自身も格闘技ファンである、木谷会長が五味選手を起用した理由を語ってくれた

今回のカードゲーム『ディメンション・ゼロ』は、「真剣勝負」を彷彿させるイメージがほしかったんです。5月の「PRIDE武士道 其の七」（五味隆典vsルイス・アゼレード戦）をPPVで拝見して感激してしまって、イメージキャラクターは五味さんしかいないと思ったんです。

五味さんは「肉を切らせて骨を断つ」ような、攻撃を紙一重で交わしてゆくような試合をしますけど、それって競技性の高いカードゲームの闘い方に似ているんです。

そこから、お話を詰めさせてもらって、8月24日には五味さんを招いて制作発表会見を行いました。ただカードの本発売は11月末ですから、9月の『PRIDE GP 2005ライト級トーナメント』の2連戦、とくに準決勝（vsルイス・アゼレード戦）は相手が無傷で上がってきたので、本当にハラハラしました

あのとき、五味さんの勝利を願っていたランクで、私は全国で10本の指に入ると思います（笑）。だから勝っていただいて本当に感動しましたし、このゲームは縁起がいいなと。大晦日の試合にも期待しています。

素顔の五味さんは凄く好青年ですね。ひょうひょうとしてるけど、正直で気持ちのいい方です。この前の秋葉原の『ディメンション・ゼロ』の発売前夜祭で顔をあわせたときは「秋葉原って、初めて来ましたよ」と言ってました（笑）

木谷会長は、五味選手に『ディメンション・ゼロ』の非売品のプレイマットを贈呈。木谷道場の子供たちがたちまち取り囲んだ

カードゲームの世界ってセンスある人が、毎日、努力して練習して、研究した人が強い。あとは「運」ですね。そこも格闘技に近いし、まさしく五味選手が体現してくれてる部分です。

じつは私も毎週、地方遠征して、『ディメンション・ゼロ』を実戦で広めてる最中なんで、いまは「誰の挑戦でも受ける」という気持ちなんですよ（笑）。（談）

木谷高明／株式会社ブロッコリーの代表取締役会長兼最高開発責任者　キャラクター商品の企画、制作、販売が主な事業。アニメ系キャラクターグッズ専門店「ゲーマーズ」を全国展開。キャラクターショーなどのイベントを主催。TBS系列で放送されたオリジナルキャラ「デ・ジ・キャラット」がブレイク。新世代カードゲーム『ディメンション・ゼロ』の普及に力をそそぐ。

新世代カードゲーム『ディメンション・ゼロ』、'06年1月の公式イベント、「D-0グランプリ1」の概要が発表！

ついに本製品が発売された新世代のカードゲーム『ディメンション・ゼロ』。碁や将棋のように「プロ契約」や「高額な賞金制度」が準備されていたりと、従来のカードゲームの常識をくつがえす、豊富な話題性で各方面から注目を浴びている。

11月25日には、東京・秋葉原のゲーマーズ本店前で五味隆典選手と木谷会長、ゲームデザイナーの中村聡氏（遊宝洞）、池田社長（遊縁）らとともに発売を記念したテープカットイベントを開催。さらに秋葉原・アソビットゲームシティにて累計60名以上が参加した『ディメンション・ゼロ』発売記念大会も実施され、テープカットのセレモニー終了後、五味選手をはじめ木谷会長、中村聡氏、池田社長も激励に訪れた

本発売を受けていよいよ加熱する『ディメンション・ゼロ』。そして、このカードゲームの"肝"の部分であり、今後、1月、4月、7月、10月と年4回開催される予定の、『ディメンション・ゼロ』公式イベントが、「ディメンション・ゼログランプリ（10月は日本選手権）」！ その注目の第1回の概要がいよいよ発表された。

プロ賞金制度が伴なうこのグランプリは、本戦に出場するための権利を懸けた2種類の予選が開催される。今回は、そのうちの「グランプリ1 地方予選大会」の開催概要を発表！ まず、地方予選開催の期間は06年1月7、8、9、14、15日。北は北海道～南は沖縄まで、全国のカードゲームショップ等にて開催される（各地開催店舗の詳細はhttp://dimension-zero.comでご確認ください）。

注目の決勝大会は、1月29日（日）東京・渋谷フォーラム8にて開催予定。今回の優勝賞金はなんと100万円！ 賞金総額は、400万円以上となっている。

カードゲームの新時代の扉を開く、「ディメンション・ゼログランプリ1」に君も参加しよう！

1 Dimension0 ファースト・センチュリー ベーシックパック
【税込価格】1パック330円【パック内容】カード10枚、1BOX/10パック入り【カード種類数】全200種

2 Dimension0 ファースト・センチュリー フレイム・アンド・シャドウ
【税込価格】1,300円【デッキ内容】カード40枚、プレリリースルールブック、プレイマット【カード種類数】全20種（各デッキの中身は同じです）【内容】「赤の大陸」と「黒の大陸」のカードをそれぞれ20枚ずつ含めた構築済デッキ

今年の視聴率も
ダイナマイッ!!

K-1 PREMIUM 2005

Dynamite!!

外タレ最強決定戦[総合ルール]
曙(チーム・ヨコヅナ)
vs**ボビー・オロゴン**(フリー)

HERO'Sミドル級世界最強王座決定トーナメント決勝戦
[総合ルール]
須藤元気(ビバリーヒルズ柔術クラブ)
vs**山本"KID"徳郁**(KILLER BEE)

我らが角ちゃんが大晦日待望の初登場![K-1ルール]
角田信朗(正道会館)vs**ザ・プレデター**(UPW)

世界の所さんvs永田さんの弟[総合ルール]
所英男(リバーサルジム)vs**永田克彦**(新日本プロレス)

柔術vs柔道はまだまだ続く!![総合ルール]
ホイス・グレイシー(グレイシー柔術)vs**秋山成勲**(フリー)

新旧K-1GP王者対決[K-1ルール]
セーム・シュルト(正道会館)vs**アーネスト・ホースト**(ボスジム)

スター感謝祭!!

今年の視聴率はい〜くつだ?

『Dynamite!!』といえば、我らがアケボ……じゃなくて視聴率!! ここ数年、激化する大晦日テレビウォーズにおいて〝盟主〟NHK紅白歌合戦の牙城を脅かすほどの平均&瞬間最高視聴率を叩き出してきた。山本KIDから曙さんまで、今年も例年以上の力の入れっぷりだ!

今年も話題沸騰の大晦日視聴率戦争の行方!

小川直也vs吉田秀彦戦というジョーカーを切り出した『PRIDE男祭り』。なんと、みのもんたを総合司会に担ぎ出して〝大晦日・盟主の座〟死守に燃えるNHK紅白歌合戦。

それらを向こうに回して、テレビ局のTBSと主催者のFEGの強力タッグは、例年を上回る高視聴率獲得を狙って、FEG配下のスター選手が勢揃い。TBSの看板番組「オールスター感謝祭」にも引けを取らない、まさにテレビ向けのメンツを揃えてきた(カード情報は本誌締切13日時点のもの)。

01年からスタートしたTBS大晦日格闘技番組の躍進は、大晦日テレビ事情を根底から覆してきた。さらなる飛躍を目指す今年は、昨年の同番組瞬間最高視聴率男・魔裟斗の欠場は痛いが、目玉カード・曙vsボビーは、一般世間の注目度では小川vs吉田戦を上回るとも言われている。

加えて、テレビで見ると思わず引き込まれてしまうK-1度120パーセントのサップ、ホンマン、角ちゃん、ザ・プレデターらの、谷川モンスター軍の精鋭たちもズラリ。

そして一般層への遠心力と、マニ

TBS大晦日格闘技番組視聴率変遷史

01年
「最強の格闘王決定戦! 猪木軍vsK-1最強軍全面対抗戦完全決着!」

平均視聴率	14.9%
瞬間最高視聴率	20%超／佐竹雅昭vsサム・グレコ戦
主なカード	安田忠夫vsバンナ、ミルコvs永田さん
主な出来事	アントン渋谷駅前「小川は銭ゲバ!」絶叫事件

02年
「イノキボンバイエ2002最強の格闘王決定戦!」

平均視聴率	16.5%
瞬間最高視聴率	24.5%／サップvs高山(23時12分)
主なカード	藤田vsミルコ、アントンvsサスケ、コールマン(スネ相撲)
主な出来事	佐竹雅昭引退試合(vs吉田秀彦)

03年
「K-1プレミアム2003 人類史上最強王決定戦Dynamite!!」

平均視聴率	19.5%
瞬間最高視聴率	43%／曙vsボブ・サップ(23時02分)
主なカード	中邑vsイグナショフ、元気vsバタービン
主な出来事	スティービー・ワンダー国歌吹奏

04年
「K-1プレミアム2004 人類史上最強王決定戦Dynamite!!」

平均視聴率	20.1%
瞬間最高視聴率	31.6%／山本KIDvs魔裟斗(22時07分)
主なカード	曙vsホイス、サップvsバンナ
主な出来事	なぜか武蔵vs健介戦浮上

05年
「K-1プレミアム2005 人類史上最強王決定戦Dynamite!!」

平均視聴率	ついに……!?
瞬間最高視聴率	この試合が……!?
主なカード	元気vs山本KID、曙vsボビー
主な出来事	ンムフフフ!

サダハルンバ魔術でどう輝くのか? ダイナマイッ! な出場予定選手!!

藤田和之
1・4新日本ドームを一方的にキャンセルした藤田和之は、"Dynamite!!"へ緊急参戦が内定。因縁のジェロム・レ・バンナ戦が濃厚とされているが、果たして?

ボブ・サップ
ここ数年の大晦日テレビ視聴率戦争において、重要な役割をこなしてきたボブ・サップも当然エントリー。締切直前の13日現時点で武蔵戦の噂が! ウガー!

ピーター・アーツ
今年はMMAルールにもチャレンジ(若翔洋に勝利)したアーツ。K-1GPは無念の負傷欠場となったが"老いてますます盛ん"なK-1の顔は大晦日に欠かせない

チェ・ホンマン
韓国のモンターニャ・シウバことチェ・ホンマンもテレビ映えがする。所英男との"巨人vs小兵"対決が見たかったが、代わりに宇野薫戦はどうか もちろん"宇野ルール"で!

ジェロム・レ・バンナ
バンナを使って文句なしの"紅白越え"をはたすのであれば、清原和博との"番長"対決しかないだろう。楽天、オリックス、K-1? さぁ野球人・清原の決断は!?

アントニオ猪木
紅白仮面、すね相撲、ドラゴンとの死闘、ビンタ騒動・・・幾多の大晦日珍場面を演出してきたアントンが来場予定 どんな"馬鹿"なことをやってくれるのか?

まさに

FEGオールス

K-1 PREMIUM 2005
Dynamite!!

【日時】12月31日 16:00〜 【会場】大阪ドーム
【チケット】SRS席¥30,000／RS席¥20,000／SS席¥16,000／S席¥10,000
A席¥6,000／山本KID応援席¥16,000／須藤元気応援席¥16,000
【決定対戦カード(13日時点)】
■須藤元気vs山本"KID"徳郁 ■曙vsボビー・オロゴン
■角田信朗vsザ・プレデター ■ホイス・グレイシーvs秋山成勲
■セーム・シュルトvsアーネスト・ホースト ■永田克彦vs所英男
【チケットに関するお問い合わせ】キョードーチケットセンター 06-6233-8888
【大会に関するお問い合わせ】FEG 03-3796-5060

ア層への求心力を兼ね備えたKID vs元気戦というミラクルカードも配置。『HERO'S』の活躍で一躍、大ブレイクを果たした所くんもいる
さらに先月の本誌で「紅白を上回るビッグサプライズがあるんですよ。んあ〜!!」とイベントプロデューサーのサダハルンバ谷川氏。思わず、アイちゃんが好きだー!! と謎の絶叫をしかけない爆弾が降って湧いてくる可能性も?
04年全日視聴率でテレビ朝日に抜かれ、民放キー局で4位に転落したTBSだけに、危機脱出・捨て身の一撃が飛び出るかもしれない。ダイナマイッな展開を期待して待て〜え? もうとんでもないカードが発表されてるって? しんすれいしました〜(なぜか松澤チコ風)。
(文/紅白仮面2005)

――今日は、念願の『Dynamite!!』出場が決定した“世界の”所選手に、試合への意気込みを語っていただこうと思います。どうぞ、はりきってお願いします！

所 よろしくお願いします（無表情で）。

――なんか元気ないですね……。

上原（ZST広報） どうもすみません！この男、今日、取材4本目なんですよ。

――4本!?

所 はい……。

――売れっ子はつらいですね。

所 いや、楽しいは楽しいんですけど。でも最後が『kami:pro』さんなんで普通でいいかなって。うちは気楽でいいと（笑）。

所 あ、いい意味でですよ！

――大丈夫です。実際、難しい質問をする気はまったくありませんから（笑）。しかし所選手のインタビューは、もう毎月恒例になってしまいましたね。調べたら、なんと7号連続でしたからね。

所 凄いですよね！ でもいっつもハガキページのランキングを気にして見てるんですけど、なかなかトップ5に入らないんで心配で。

――今回は入るかもしれないですよ。「（93号で所と対談した）小野寺愛ちゃん、かわいい！」ってハガキが多数届いてますからね。

所 あ、やっぱりそっちですか（笑）。でもたしかにあれは僕的にも良かったです。恋人みたいに腕を組んでる写真があったじゃないですか。……あれ、もらえないですかね。ほしいんですか（笑）。

所 あの写真は僕の中で最高の一枚なんです！ また小野寺さんがちょっと後ろに下がり気味で、僕を立ててる感じがするところがいいんですよねぇ。

――ダハハハ！ じゃあ、あれを大きくして差し上げますんで。

所 ありがとうございます！

それはともかく。11・23『ZST』ジェイソン・ラインハート戦では見事GT-F（ZST主催のグラップリングマッチ）タイトル防衛、おめでとうございます！

所 ありがとうございます。あれは本当に、うまい具合に極まったというか、一本取れる時ってこんな感じなのかって感覚でしたね。

Hideo TOKORO

所 まだツキが残ってるみたいです。

――ツキじゃなくて、寝技はすでに達人級なんじゃないですか（笑）。

所 いや、単純にそういう時期なんだと思います。たぶん野球のバッティングと一緒ですね。来るボールが全部打てるような気がする感覚に近いかも。でも気をつけてないと、“水モノ”って言いますからね。

でも、自然に身体が動くっていうのは練習量のたまものだと思いますけどね。

所 練習してないと試合に出ないですからね。でも練習だと調子悪いときのほうが多いんですよ。けっこうストレス溜まります。

――ちなみに1日4本取材があるようなスケジュールで練習ってできてるんですか？

所 今回はそのぶんバイト行ってないんで。

あ、スターにはもうバイトは必要ないと（笑）。

所 いや！ バイトのおかげでこんなに応援してもらえてるんで、バイトは大事です！

でも、これだけ大舞台が続くと、そろそろ貧乏キャラも卒業ですか？

一本取れるときって何も考えずに身体が動いてくれるんです

03年に獲ったGT-Fのベルトを掲げ、堂々とリングインした所。超マッチョファイター、ジェイソン・ラインハートを1R2分27秒の早さで腕十字！ ZSTの主は我なりと言わんばかりの貫禄の勝利。

所 そうなんですよ（しみじみ）。

ダハハハ！ 正直すぎます（笑）。

所 通帳見て以前と比べるときありますよ。ただ、ZSTにちゃんと管理してもらってるんで、前と比べると多いってくらいですけど。

――ウワサによると、所選手が活躍すればするほど上原さんがやつれてるって話を聞いたんですけど。

所 これも上原さんに対する恩返しですよ。やっぱ仕事がないと人間ダメになりますから。

――あ、所選手が上原さんに仕事を与えてあげてるんですか（笑）。

上原 俺はいままでなんの得もないよ。

所 ハハハハ。でも本音を言えばZST様様ですよ。なので僕と上原さんが逆の立場になったらしっかり協力したいと思います！

――逆っていうのは？

所 上原さんが選手としてブレイクしたときに（笑）。

――ダハハハ！ たしかに上原さんは前田さんに「お前は佐藤ルミナに勝てるよ」とか言われてましたからね（笑）。

所 朝からどんぶりメシ二杯ですから。やっぱただもんじゃないなって感じしますよね。

――じゃあ、来年は上原さんが『HERO'S』でブレイクと（笑）。

所 レフェリーの和田さんと並ぶ“ZSTの秘密兵器”なんで（笑）。

――ダハハハ！ 本当にくだらないインタビューになってますね（笑）。そう言えば所選手は11・26『HERO'S』リトアニア大会に合わせて修行に飛ぶ予定でしたよね？

所 予定はしてたんですけど、ちょっと、飛行機に乗りたくなくて。なんかリトアニアって遠いしイヤな経験が多かったんですよね。前にリトアニアへ行った便なんか、僕の前の席の外人がリクライニングをガッツリ倒してずっとナンパしてて（うんざり）。

それはやりきれないですね（笑）。じゃあ、海外修行はしないんですか？

所 勝村（周一朗）さんがバレット・ヨシダさんのいるハワイに修行に行くとか言ってたんで、できれば僕も便乗したいなと。はじめての海外修行で一人だと心細いし、まずは様子見で行ってみようかなって。で

も最終的にはロシアに行きたいんですよ。ロシアン・トップチームの施設とかヴォルク・ハンさんのところで修行したいなって。その施設はエカテリンブルグなんでちょっと遠いですけど、モスクワだったらヴォルク・ハンもいるし、「サンボ70」っていうサンボの小中高・一貫教育の専門学校もあるからいいんじゃないですか。

所　なんか凄そうな組織ですね。そういうところでぜひ修行したいです。寝技で強くなりたいって目標があるんで。

――所選手は試合でも寝技での勝利が多いですけど、やっぱりこだわりがある？

所　ずっと練習してるのは寝技ですから。

――でも、いまは打撃の時代というか、寝技ができる選手でもけっこう打撃やってますよね。

所　でも12・2『DEEP』で今成さんの試合なんてのを見たら、本当に刺激になりますよ。あと矢野さんも凄い。あの二人はやっぱボクの中で目標ですね。

――いまの所選手の立場からすると、イヤミに聞こえるかもしれないですけどね（笑）。

所　いやいや！　単純に尊敬してますから！　僕にも二人のような独特な動きというのがほしいですよね。

――独特すぎる気もしますけど（笑）。

所　異常ですよね（笑）。あれ以上の個性というのはボビー・オロゴンぐらいやらないとダメですかね……。

――ボビーと言えば、このあいだ、テレビで共演したらしいですね？

所　そうなんですよ。年始特番の『スポーツマンNo.1決定戦』で。

――おぉ～、すでに格闘技界を飛び越えて「スポーツマンNo.1」を目指すようになりましたか（笑）。

所　いやあ、でも周りのアスリート見てたら途中から「来るんじゃなかった」って思いました。スポーツでお金稼いでる人はやっぱ違いますよ。身体能力が異常ですよ！

――所選手もモンスターボックス（跳び箱）とか跳んだですか？

所　やりましたけどダメでしたね。

上原　でも所選手は跳び箱はかろうじて格闘技界No.1の座を手に入れたよね。ボビー、小比類巻選手を抜いて。

所　でもプロは全然違いますよ。スーパーアスリートと同じ空間にいるっていうのは本当にいい経験になりますね。

――そのスーパーアスリートの中のアスリートがオリンピック選手だと思うんですけど、その銀メダリストである永田克彦選手と大晦日に闘うわけですよね？

所　世界No.2なんて、もう僕の想像を絶する世界なんでピンときてないんですよね。生半可に生きてきた人間がそんな立派な人に挑戦していいのかなって。

――まだ実感が湧かない感じですか？

所　正直、まさかやるなんてって感じです。

12月1日、都内ホテルにて発表された所vs永田の一戦。契約体重は永田と所の体重のあいだをとって75kgと設定されたが、体重の軽い所にとっては苦しい闘いになることは必至。

けど、最初にボブ・サップとか言ってたんで、もう感覚が鈍ってます。

サップよりはずいぶん小さいですけど、永田選手も所選手よりはかなり大きいですよ。

所　そんなふうに人から言われると改めて「ヤバい！」って思うんですけど、これで勝ったら逆に自分の可能性も凄く見えると思うんですよ。僕はそれを信じて闘います！

――永田選手の話では「胸を借りるつもりで闘う」って言ってますけど。

所　そうらしいですね。なんてスポーツマンらしい方なんだろう（しみじみ）

ダハハハハ！　じゃあ、思いっきり胸を貸してあげてくださいよ。

所　いや、でも貸したらすぐ潰されちゃいそうなんで、それは遠慮します（笑）。でも真面目そうな方なんで、闘い方もそんな感じかなって。

――何か作戦とかあるんですか？

所　大きなイメージは頭の中にありますけど、細かいことは成りゆき任せで。僕の中では永田選手ってエリカス・ペトライティスを一回り大きくした感じなんですよね。

――肉付きとかはそういう印象もありますね。でもテレビを見る人でエリカス・ペトライティスを知ってる人は皆無に近いと思うんですけど（笑）。

所　でもあの経験って僕にとって大きいんですよね。同じ階級であれだけ力も強くて極めさせてもられなかったってことは、それより体重が重い永田選手はもっと極められないと思うんで。そういう意味でやっぱり生半可な相手じゃないなって思いますよ。でもそのしんどさを知ってるぶん、ある意味安心なんですけどね。

――永田選手は初めての総合ですし、どっちが不安かって言ったら断然永田選手でしょうしね。

所　でも、永田選手の場合は負けても次の試合を組んでもらえると思うんですよ。でも僕が負けたら今度は厳しい相手と組まれて、どんどん表舞台から落ちていくって可能性もありますからね。そういう意味では、じつは僕も切羽詰まってるんですよ。

――ここで勝つと負けるのとでは大きく違ってくると。

所　来年はボクも『kamipro』の表紙になりたいんで。

――HGやインリン様を超えるインパクトを残したら、即表紙ですよ（笑）。

所　あと、また〝ZST4兄弟（矢野卓見、今成正和、所英男、小谷直之）〟の座談会をやってもらいたいんですよ。

――ブレイク前はよくやってましたよね。でも、その頃に比べるとホント、所選手はインタビューがうまくなりましたよね。

所　ありがとうございます！　最近自分でも滑舌が良くなったなって思うんですよね。でもいまだにビデオテープ回されると構えますよね、やっぱ。

――今回はもうテレビの取材は終わったんですか？

所　僕の実家にまで行っていろいろ撮ってきたんですよ。本当に恥ずかしい。さらけ出しすぎですよ。

上原　お父さんが一番力入ってました。カメラ回る前にディレクターの人に「ちゃんと、打ち合わせしましょう！」とか「そういう映像はね、こっちから撮ったほうがいいよ」とかアドバイスしたりして、演出家は必要ありませんでした。

所　……（顔をしかめる）。

――あれ、所選手はご家族が出るのはあんまり好ましくない？

上原　所選手にとってお父さんは厳格な方で何もモノ言えない存在だったのに、急に

スポーツでお金を稼ぐ人はやっぱ違います。身体能力が異常ですよ!

大晦日で会場のお客さんと
テレビの前のみなさんに
リベンジしてみせます!

ところ・ひでお■1977年8月22日、岐阜県出身。ホームリングZSTには旗揚げ戦から参戦。7・6『HERO'S』ベケーニョ戦で"まさか"の電撃勝利を挙げて以降、メディアから引っ張りダコに。今年の大晦日には、ついに夢の『Dynamite!!』参戦が決定し永田克彦と闘う。170cm、65kg。

応援してくれるようになったのがまだ信じられないみたいです。

所 幻想が崩れかけてます。

──ダハハハ！

上原 いままで所家では"格闘技"って言葉はタブーだったみたいですけど、いまではお父さん自ら所選手のブログとかもチェックしてるみたいで。「あ、これ英男が書いた文章じゃない!?」とか鋭いご指摘を受け [illegible]

所 それが当たってるんですよね。やっぱ [illegible] 表現があるといけないと思って、添削してもらったりするじゃないですか。そしたらすかさず「これは英男じゃないですね」って言われますからね。ビックリしますよ。

──でも、所家ではやっぱり自慢なんでしょうね。息子がテレビに [illegible]

所 [illegible]

──そういう意味では [illegible] は『HERO'S』のベケーニョ戦っていうのは所英男の人生だけじゃなくて、所家の人生も変えちゃったんですね。

所 そう。所家の絆もどんどん深くなってきてるんですよ、不思議と。でもこれってたぶん先祖の力だと思うんですよ。あとで聞いたんですけど、ベケーニョ戦当日、家族全員が試合前に亡くなったおばあちゃんにお祈りしてたらしいんですよ。そういう見えない力があるのかなって。

──それは凄いですね。

所 でも9・7の宇野戦はダメでしたけど。

──効き目は一回だけでしたか（笑）。

所 大晦日は家族も大阪ドームに集まるし、たぶんおばあちゃんとかも使えないビデオを無理やり使って、試合を録画してくれるんじゃないかと思うんで、頑張んなきゃって思いますね。最近、家族もそうですけど、仲間のため、ZSTのため [illegible] ーになったたっていう証拠なんじゃないですか [illegible] って闘わなくてはいけないですからね（笑）。

所 [illegible]

──ダハハハハ！ ちなみに、大晦日では [illegible]

所 [illegible] 徳郁 [illegible]

所 正直、予想しづらいですよね。でもいまの格闘界の中でも最もレベルの高い試合になることは間違いないです。[illegible] 本KID [illegible] きのお客 [illegible]

[illegible] X─カブリエル・リムレイ戦のときは所選手もかなりの人気だったじゃないですか。

所 [illegible]

──でも、試合は信じられないくらい静かでしたけどね（笑）。

所 本当、シーンとしてて、このまま三角絞め極めて大丈夫か [illegible] 不安になりましたもん。

──たぶん、テレビ見てる人にとっては、総合格闘技っていうのがどういうものなのかわからないし、総合格闘技よりも所英男のほうが知名度があるってことですよ。

所 本当ですか？ それは凄いことですよね。でもできれば伝わってほしいです。

──では、大晦日で会場のお客さんと視聴者の方にリベンジしましょうよ！

所 あ、そうですね。頑張ります！

──では、夢の大晦日、頑張ってください！

【05年12月8日／リバーサルジムにて収録】

秋山成勲とは何か？
国境を挟んだ人生ドラマ！

秋山成勲

「反骨の真実」

いま、韓国では秋山成勲が再び大きく注目されている。それは現地のテレビ局KBSによる秋山成勲のヒューマンドキュメンタリーが放送されているからである。その秋山成勲の知られざる半生のエピソードが詰まったドキュメンタリーの内容を紹介しながら、秋山成勲を徹底解剖!! 国籍問題をめぐって激しく揺れ動いた秋山の格闘家人生を知れば、大晦日のホイス戦への見方も変わってくるだろう。

文/大川義之 写真/乾晋也

2005年11月5日、『HERO'S』韓国大会。この日、空手家・奥田正勝に勝利した秋山成勲は、韓国・ソウルオリンピック体操競技場のリングで捨てたはずの韓国名「チュ・ソンフン」として大歓声を受けていた。しかし、その声援は満場一致のものではなく、どこかに冷めた雰囲気も漂っていた。それは、彼が歩んできた波瀾万丈な人生が大きく関係している。いまは日本人である秋山成勲は、かつて柔道でオリンピックの代表選手を目指し、韓国人としても日本人としても国際大会で優勝している珍しい選手でもある。では早速、秋山成勲の半生を追ってみよう。

◆韓国で放送された「チュ・ソンフン或いは秋山物語」が大反響

『HERO'S』韓国大会の一週間後、韓国の国営放送KBSは、大会前後から密着取材をしていた秋山に関するドキュメンタリー番組を放送した。まったく宣伝されていなかったこの50分にも及ぶ長編ドキュメンタリーは、放送以後、国籍に翻弄される秋山成勲の数奇な人生に対して感動する視聴者の意見がホームページに多数寄せられ、これまで「メダルを取るために韓国国籍を捨てた柔道家」という秋山のイメージは大きく払拭された。この番組は視聴者の依頼によって現在でもKBS系列で何度も再放送されている。

放送された番組では、チュ・ソンフンが在日韓国人4世であること、そしてオリンピックで代表になるという柔道家としての夢のために国籍を捨てざるを得なかった在日選手の複雑な背景を描いていく。

かつて韓国で行なわれた国体に海外同胞枠で出場したこともある柔道選手である父のチュ・ケイさん(在日韓国人三世)に連れられて、3歳から町道場で柔道を始めた秋山成勲は、大学時代には比方杯関西学生選手権71kg以下級3連覇という実績を持ちながら、日本国籍を持たないため日本の代表選手となって国際大会に出場する資格は与えられない境遇にあった。このため1998年に近畿大学を卒業した秋山は、祖国韓国に渡ることを選択し、釜山の市役所チームでトレーニングを積むこととなった。

◆学閥優先の贔屓判定が支配する韓国柔道界の中で

韓国に渡ってきてから順調に成長し続ける秋山の前に立ちはだかったのは、当時同階級の第一人者であったチョ・インチョルと彼の所属する龍仁大学の学閥だった。秋山がチョ・インチョルと対戦するときには、不思議と不可解な警告や注意が秋山にだけたびたび出され、判定では必ず負けた。そのたびごとに抗議したが無駄だった。韓国柔道関係者のインタビューによれば、韓国の柔道界はほぼ100パーセント龍仁大出身者で構成されており、会長から執行部、さらに20人のA級審判もほとんど龍仁大出身で固められているという。このため試合で龍仁大学の選手が試合をしていれば、どんな手を使ってでも相手を負けにする身内贔屓が当然のように行なわれていたのだった。ちなみに、現在『PRIDE』に出場しているユン・ドンシクも龍仁大学出身ではなかったため、ライバルだったチョ・インチョルとの対戦ではたびたび不可解な判定で負けている。彼の「国際大会47連勝」という記録は、逆に言えばそれだけの実力を持っていても、学閥贔屓の強い韓国内では試合に勝つことが難しいことを意味していた。結局、オリンピック代表になることがかなわなかったユン・ドンシクと秋山は、現在総合格闘技家となって試合を続けている。一見不思議な因縁に見えるが、これは不遇な環境の中で晴れの舞台を夢見ながらもくすぶっていた選手たちの必然なのかもしれない。

11・5『HERO'S in SEOUL』で韓国名チュ・ソンフンとして出場し、奥田正勝と対戦した秋山だが、会場では歓声もあったが「奥田コール」が起こるなど微妙な空気。これも秋山の複雑な立場ゆえであろう。

2000年の韓国オープンでは地元開催によって枠が拡がり、秋山もこの大会に出場することができるようになった。まるで水を得た魚のように秋山は勝ち続け、準決勝で宿敵チョ・インチョルをも一本で下し、そのまま優勝した。この優勝によって2001年4月にモンゴルで開催されるアジア選手権への出場権を手に入れた秋山は、その大会でも全試合一本勝ちという素晴らしい成績を収めて、大会のMVPに輝いた。国際大会で実績をあげ経験を積んだ秋山は、自信をもってその後のオリンピック審査試合に臨んだが、ここでも不可解な判定によって代表入りを逃してしまう。試合後のインタビューで秋山は「変わらなきゃ」って言ってもダメだ、ここは。日本に帰化して柔道をするしかない」と言い残して日本に戻り、2001年9月に正式に日本に帰化することとなった。母国で代表になる秋山の夢は、日本で感じたよりも不当な差別の前に、わずか3年でついえることとなった。

◆帰化、そしてプロ格闘家へ

日本に帰化することになった秋山は、激戦区といわれる81kg以下級で講道館杯、日本国際、フランス国際と3大会連続優勝して目覚しい成績を収める。そして迎えた2002年の釜山アジア大会でも、秋山は81kg以下級で見事優勝。在日韓国人の秋山が帰化して日本代表となり、決勝で韓国の選手を破って優勝するというスキャンダラスな出来事に注目した韓国メディアは、この事件を大きく取り上げた。翌日の新聞では秋山の境遇に同情し、学閥支配の韓国柔道界の閉鎖性を批判する記事もあったが、一方では韓国人にとって皮肉な結末を演出した秋山に対して「祖国を捨てた売国奴」として非難する内容も多かった。

この後、世界国際や日本で行なわれたオリンピック代表の査定試合で良い成績を上げられなかった秋山は、結局日本でも代表入りを逃し、2004年にはプロ格闘家への転身を決意することになる。日本の柔道界も、秋山をコーチに据えた専門の道場を建設することでプロ転身を思いとどまらせようとしたが、秋山はこれを振り切って2004年の大晦日にプロ格闘家としてデビューを果たす。番組は2005年11月の『HERO'S』韓国大会で、柔道家時代の秋山を受け入れなかった母国で再び闘う秋山を追い、柔道家ではなくプロ格闘家として、かつてのオリンピック競技場で試合をするという運命の皮肉さを描きながら終わりを迎える。

◆秋山対ホイス戦をどう見る?

韓国でこの番組が視聴者によって高く評価されたように、こうした秋山のヒューマンストーリーは、柔道を愛するがゆえに国籍問題に翻弄されてきた彼の数奇な半生を知るきっかけとなる。ただ柔道がしたかっただけの秋山、より高いステージで闘いたいだけだった彼には、常人では体験することのない様々な障害があった。しかしそんな困難な状況にいたからこそ、秋山は周囲の圧力に屈しない強烈な反骨心や貪欲な上昇志向を強めていくことができた。誰がつけたか定かではないが、「反骨の柔道王」というのは、まさに彼にふさわしい呼び名だったのである。

今年の『Dynamite!!』では、秋山成勲vsホイス・グレイシーが予定されている。この一戦を『柔術対柔道』という、いささか使い古されたアングルより、柔術のために死ねるというホイス・グレイシーに対して、実際に柔道を愛するがゆえに「チュ・ソンフン」を闇に葬った秋山成勲との闘いとして見るのも面白いかもしれない。格闘技は与えられる情報や見る者の立場によって、見方や楽しみ方も大きく変化する万華鏡のような魅力を持つ。秋山成勲の背景にある人生物語を知った上でホイス戦を見れば、さらに面白く見ることができるだろう。

『Dynamite!!』の原点はこの男にあり!

格闘技は観るもんじゃなくてするもんだ。

チャック・ウィルソン

TBSの大晦日の特番と言えば、毎年恒例の「Dynamite!!」。しかし、その起源と言えば誰がなんと言おうとTBS『オールスター感謝祭』における超リアルファイト"大相撲Bスタ場所"なのである! なかでも藤原組長と数々の名勝負を繰り広げ、その真剣なまなざしから"闘いとは何か"を教えてくれた人物、そう! チャック・ウィルソンは、大晦日=格闘技番組の構図を定着させた功績者と言っても過言ではない。その大先輩に二大バトル『Dynamite!!』『PRIDE男祭り』の行方を語ってもらった!!

聞き手/青柳直弥　構成/松下ミワ　撮影/平工幸雄　試合写真/乾晋也　designed by

現在、芸能界最強の外国人タレントといえば真っ先にボビー（・オロゴン）選手の名前が挙がると思うんですけど、『kamipro』的には、その元祖はやっぱりチャックさんじゃないかと思うんですよ！
チャック どうして？
——いまでこそ大晦日のTBS特番は『Dynamite!!』と言われるようになりましたけど、その大元はやはり『TBSオールスター感謝祭』での相撲対決。そこで獣神サンダー・ライガーさんや藤原組長らと数々の名勝負を繰り広げたチャックさんが、まさしく大晦日の格闘技番組を定着させた張本人であると僕らは勝手に思っていて。
チャック それはうれしい。ありがとう！
——取材前に改めて当時の取組を拝見したんですけど、チャックさんの見事な闘いぶりにはただ驚くばかりというか。土俵際でのうっちゃりとか最高に凄いですね。
チャック ああ〜、あれは単に相手の腰が高かっただけ（笑）。
——でもチャックさんの腰の重さは、凄いですよね。粘り腰っていうか。
チャック まあボクの場合は柔道やってたのもあるし。
——たしかにチャックさんの取組は、ちょっと柔道っぽいところがありますよね。
チャック でしょ？ だから突っ張りは好きじゃない。投げ込むのが好きだからね。
——きれいに投げますもんね。チャックさんと対戦した元プロ野球選手の角（盈男）さんなんか胸のとこから血が出てましたし（笑）。やっぱりチャックさんは、ああいう場に出る以上は絶対に負けたくないという気持ちが強いんですか？
チャック 負けるつもりでは出ない。
——さすがです！ 周りの方たちはちょっと照れながら土俵に立ってた感がありましたけど、チャックさんの目は真剣そのもの。観ているこちらにも緊張感が伝わってくるし、俄然、感情移入しちゃいますよ。
チャック もう集中するからね。でもボクだって照れるクセがあるんですよ。照れるっていうか、あがっちゃう。柔道でも試合の3日前に下痢したりとか、意外とそういうのがあるんですよ。
——それは意外ですねぇ。でも司会の島田紳介さんが言われてたようですが、あの番組から相撲対決がなくなってTBSには苦情が多数寄せられたという話ですからね。

ボクの予想？ 6:4でボビーだね。でもホントは曙さんに勝ってほしい

TBSオールスター感謝祭 大相撲全結果

この驚くべき戦績を見よ!!「全8大会出場し優勝回数なんと6回である!」対戦相手に現役力士はいないものの、藤原組長、破壊王など、闘うことを本職とする人物の名前もチラホラ。さあ、この実績を見せられて芸能人最強を"チャック"と言わずに誰と言うのか!

['93年秋（10月9日放送）]
1位：チャック・ウィルソン　2位：オール巨人　3位：伊集院光

['94年春（4月2日放送）]
1位：チャック・ウィルソン　2位：角盈男　3位：獣神サンダー・ライガー

['94年秋（10月1日放送）]
1位：藤原組長　2位：伊集院光　3位：角盈男
▼チャンピオン決定戦
○藤原喜明 vs チャック・ウィルソン×

['95年春（4月1日放送）]
1位：チャック・ウィルソン　2位：ジミー大西　3位：桜金造
▼チャンピオン決定戦
1本目　○藤原喜明 vs チャック・ウィルソン×
2本目　○藤原喜明 vs チャック・ウィルソン×

['95年秋（9月30日放送）]
1位：チャック・ウィルソン　2位：吉村明宏　3位：獣神サンダー・ライガー
▼チャンピオン決定戦
○チャック・ウィルソン vs 藤原喜明×

['96年春（3月30日放送）]
1位：藤原喜明　2位：橋本真也　3位：角盈男
▼チャンピオン決定戦
○藤原喜明 vs チャック・ウィルソン×

['97年春（3月29日放送）] ※チャックvs組長5番勝負
1本目　○チャック・ウィルソン vs 藤原喜明×
2本目　○チャック・ウィルソン vs 藤原喜明×
3本目　○チャック・ウィルソン vs 藤原喜明×

['00年春（4月1日放送）]
1位：チャック・ウィルソン　2位：藤原喜明　3位：大八木淳史

やっぱりチャックは強かった!

やっぱりファンはあの試合を年末の楽しみにしてたんですよ。
チャック そうなの？ まああの頃はボクも真剣だったよ。でもいまでも真剣な気持ちは変わらないけどね。
——いまも？ ということは現在も相撲や柔道は続けてるんですか？
チャック 相撲はないけど、柔道はやってる。水曜日と金曜日は丸の内柔道クラブで、土曜日は講道館だから、週3回ね。柔道は36年間ずっとやってるから。
——そもそも、柔道を始めたキッカケはなんだったんですか？
チャック まあ、ボクの育ったデトロイトという街があんまり、なんて言うか、やさしい街じゃないから（笑）。
——ああ、治安が悪いワケですね（笑）。
チャック そうそう。だから最初は15歳のときに護身術というか身を守るために始めたの。で、17、18歳になってからは、週に柔道が2回、空手も2回、合気道も2回ぐらいのペースでずっとやってたんですよ。あと高校、大学ではレスリングもやったし、パワーリフティングも出たし。
——ショー・コスギばりの経歴ですね〜。
チャック そうやって肉体的にも精神的にも自分を鍛えようと。じゃないと自分に対しても、誰に対しても、役に立てないなと。武道家の最大の目標というのは、世の中にどのように役に立てるかであって、格闘技は相手を倒すためだけのものじゃない。試合というのは、自分がどのぐらい成長しているかを試す場ですよね。だから格闘技みたいに、あいつを殺してやろうとか、そういうパフォーマンスはボクには合わない。
——でも、チャックさんは実戦でもいろんな噂があるじゃないですか。
チャック どんな噂？
——武勇伝が（笑）。
チャック いやいやいや。でも、「このヤローッ」という気持ちじゃないと勝負事はなかなか勝てないから。
——そういう気持ちが、相撲でも存分に発揮されてるワケですかね。
チャック 相撲もね、ボクは宮城野部屋にしばらく通ったんですよ。
——え？ あの番組のためにですか？
チャック いや、違う。30年くらい前、吉葉山って横綱が宮城野部屋にいたんだけど、そこにうちの会員さんを連れて行った

Chuck WILSON

んですよ。会員は外国人が多かったので、日本の相撲を見せようってことで。で、部屋を見学したり、マワシをつけてやってみたりするうちに、面白いなと思ったワケ。

——本当になんでもやりますね（笑）。

チャック いまは国際相撲大会ってあるけど、一番最初に出たのは素人相撲大会で、最初の6回ぐらいボクも出てたの。外国人だけのチームみたいなのを作って。

——へえ～、日本に住む外国人の方たちのあいだでは、そういう活動もあるんですか。

チャック そう。その大会には個人でも出た。ベスト8まで入ったのかな。敢闘賞にも2、3回ぐらいなって。あと日大の相撲の監督と知り合いだから、日大に行ったり、拓殖大学へも行って稽古やったりという経験があって。そしたら偶然、あの番組の中で相撲をやろうと。

——なるほど。今日は、そんな相撲にも柔道にも精通していらっしゃるチャックさんに、年末の試合を予想していただきたいんですよ。まずは『Dynamite!!』の曙vsボビーなんですけど、チャックさんはこの試合をどう見てますか?

チャック 相撲の見方としてはね、曙はほら、元・横綱じゃない。

——そうですね。

チャック で、一応相撲界のトップにも立ったけど、いまの彼はちょっと落ち気味じゃないかなぁと。負け方を見てると、彼はね、ちょっと勘違いしているんじゃないかなと思うんだよね。

——勘違いですか!?

チャック 相撲が強い＝K－1にも通じるというのは違うんじゃない? ボクの経験からすると2、3年前、柔道の大会で対戦した相手が2メートル10センチで180キロぐらいあったんですよ。

——凄い巨漢ですね。

チャック でもあんまり強くなかった。最初は心配だったけど、試合も1分間ぐらいで終わってしまったから。

——単純にチャックさんが強かったんじゃないんですか?

チャック というよりも、動きを読みやすいんですね、大きい人は。

——でも、それだけデカい相手を目の前にして、気後れとかしなかったんですか? 威圧感とか凄そうですけど。

チャック 最初見たとき、デカいなあとか、いろいろ考えたよ。でも、ああいうときは何も考えないほうがいいね。自分を信用するしかないじゃない。

——なるほど。それがチャックさん必勝の心得ですか。

チャック だって一度でも負けるんじゃないかなと思ってしまったら、もう負ける気になっちゃうから、それはダメ。

——チャックさんがその2メートル10センチの相手を倒したときは、どういう決まり手だったんですか。

チャック ボクは足技。足技で相手を倒したんだ。結果、足払いで、そのまま寝技に入ったの。自分の場合はあんまり考えないで、とにかく本能に任せて出て、それで出たのが蹴りだったんだよね。だからボビー君の試合がもし相撲ルールだったら、彼は曙に全然かなわない。だけど、総合ルールならボビー君もけっこう強いから。

——シリル・アビディにも勝ってますからね。

チャック 勝ってるからね。だからボビー君のほうが有利じゃないかなと思うんだけど、……気持ち的には曙に勝ってほしいなと。

——チャックさん、昔から相撲とかもずっと見られているんですか。

チャック ずっと見てる。好きだからね。いまはね、朝青龍が好き。性格はああいう性格だけど（笑）、でも、あれは強いよ。肉体的にもだらけてないし、絶対に負けないというあのハングリー精神は凄いと思う。もう嫌われているのはみんな、本人もわかっている。それでもやるでしょ。「ああ、オレは嫌われていいよ。このヤロー」っていう、あの気持ちがないとダメ、格闘家は。

小川＆吉田に言いたいのは一言、ただ「武道家らしくやれ」と

——曙選手の場合は、ちょっと人の良さが出ちゃうみたいなとこありますもんね。

チャック あんまり人が良すぎてもね。朝青龍みたいな部分は必要だと思いますよ。曙さんは人が良いからね。だからどうかなあ、おそらく6：4でボビーが勝つかな。

——6：4でボビー選手ですか。勝つとしたらどういうパターンですかね。

チャック 手はなかなか届かないんじゃないかなと思うんです、リーチは。だからキーになるのは〝蹴り〟だな。

——攻略するには〝蹴り〟ですか。

チャック 蹴りとか、ボクならヒザを狙うね。で、あんまり組むことはしない。小さい人が大きい人とやるときはそういうものじゃないですか。柔道でも、相手が大きい場合はだいたい足技を狙うからね。ボクの感覚ではそう。ただ、中に入って闘うのは危険。曙さんはパンチはあんまりうまくないかもしれないけど、でも当たれば終わり。あと身体の下に入ってしまうと、もうそれも終わり。

——たしかに、あの身体で乗っかられたらキツいでしょうからね。

チャック でも、結局は本能とか普段の訓練がモノを言うと思う。何回も何回も訓練することで、身体が反射的に動くからね。ただ、ボビー君にそこまでの訓練ができているか。だからある程度は、作戦を考えるべきかも。

——ありがとうございます。では、今度は柔道経験者であるチャックさんから見た小川vs吉田はどうですか?

チャック （顔をしかめて）なんて言うか、K－1はK－1であって、べつに柔道が絡む必要はないんじゃないかなと思う。K－1

はK－1でいいじゃない。
――すみませんチャックさん、こっちは『PRIDE』なんですよ。
チャック あ、『PRIDE』なの。総合ルール？　『PRIDE』もK－1もボクの中ではほとんど同じなのかな（笑）。道衣を着るの？
――吉田選手は全試合着てるので、今回も着るんじゃないかとは予想されてますけど。
チャック どっちにしても柔道界はあんまりいい顔しないでしょうね。柔道はそもそもがプロ競技じゃないし、加納治五郎（講道館初代館長で柔道の始祖）の頃から伝統的な部分がある。見せるためのものじゃないというのがもともとあったんですよ。だから道衣を着て、あのリングに上がるのはどうかなと。たしかに昔、ルスカやヘーシンクも道衣を着てリングに上がったし、ボクの考えは古くて意味のない考え方かもしれないけど、ボク個人はあんまり喜ばない。
――凄い神聖なものなんですね。チャックさんにとって道衣というのは。
チャック 神聖視する気持ちもあるけど、ボクは柔道では食っていけないし、生活もかかってないから、そう言えるのかもしれない。もし、生活がかかっている立場ならまた別の判断をするかもしれないけどね。
――じゃあ、たとえばもし小川さんが勝ったとして、道衣を着てハッスルポーズをやったら、ヒンシュクものですか。
チャック 最低。
――最低ですか（苦笑）。
チャック だって柔道というものは、健全な心とか、健全な肉体というのが基準ですからね。ただ「マスコミが乗るだろう。じゃあやろう」というんじゃ、自分のポリシーなさすぎるよ。健全と言えない。

チャック・ウィルソン■1946年10月26日、アメリカ・マサチューセッツ州出身。1970年に来日し同志社大学に柔道留学。その後、相撲、合気道、パワーレスリングなどさまざまな格闘技を経験し、93年には『TBSオールスター感謝祭』大相撲コーナーで初代チャンピオンに輝いている。現在は（株）チャックウィルソンエンタープライズを経営し、全国のフィットネスセンターの指導にあたっている。178cm、100kg。

あと20歳若かったらK-1も『PRIDE』もやってたかもね

Chuck WILSON

――道衣でのハッスルポーズは厳禁と。
チャック だからボクみたいに、できるだけその理想を守ろうとする人もいないといけないなと思うんですよ。で、「それはべつにいいじゃないか」という人も、べつにいてもかまわない。そうじゃないと比較する基準がズレるんですよね。武道家はこうであるという基準なしに、なんでも妥協すると、どんどん曖昧になっちゃう。
――たしかにチャックさんの気持ちもなんとなくわかります。でもそこであえて一言、小川選手と吉田選手についてコメントをいただきたいんですけど。
チャック じゃ、一言。武道家らしくやれと。
――勝敗についてはどうですか？
チャック うーん……わかんないけど、小川は大きいからね。柔道の基準としては、実力、技術がいい勝負だったら体力の大きいほうが有利。それに小川のほうは、柔道だけじゃないですからね。可能性としては、小川が有利じゃないかなと思います。でも、ボクはK－1と『PRIDE』はあんまり観ないんだよね。あれは観るものじゃなく、やるものだと思ってるから。
――格闘技は観るもんじゃないと！
チャック 観るだけでは面白くない。だから、ボクはやるの。
――「やるものじゃなくて観るもの」というならわかるんですけど、チャックさんの場合は逆なんですね（笑）。やっぱり、もうちょっと若かったらやりたかったですか。
チャック うん、やるぶんには面白いだろうねー。格闘技ほとんど経験してるから。
――いや、チャックさんがあと20年若かったら、間違いなくオファーがかかってたと思います（笑）。
チャック この歳ではもうムリ、ムリ（笑）。もう60歳近いですからね。でも、あと20～30年若ければやろうかなと思っただろうね。
――凄く見たかったですよ。もしいまのボビー選手とチャックさんが同じぐらいの歳だったら……。
チャック ボビー君はいま32歳？　そうだな。できるかどうかわからないけれどもやってみたいなという気持ちはある。自分を賭けてやってみようとは思うね。
――今日お話を聞いて、ますます「チャックこそ芸能界最強だ！」と叫びたくなりました。正直、ご自身でも「やったら、オレは強いよ」みたいな気持ちはありますか？
チャック ボクは45年間近く格闘技、武道をやってきたけど、わかっているのは、アイツより強いとかそういうことはまずないと思うんですよ。
――勝負に絶対はない、ということですか。
チャック よく言うだろう、上には必ず上がいると。ますますそう思う。
――おっしゃる通りですね。
チャック でも結果は別として、男はいつでも自分を賭けて闘わなければならないときがある。これは相手が格闘家とか、そこらの泥棒とかでも、そういう覚悟をしないと男じゃない。
――男は闘う人間であれ、と。
チャック それに闘うことはボクにとって大事なこと。それはボクの人生の、なんと言うかな、味付けみたいな。それがないと、人生面白くないから。
――闘いは人生の味付け。いい言葉ですね。そういうチャックさんにお聞きします！　チャックさんがいまのボビー選手の立場だったら曙選手とのオファーを受けますか？
チャック やる（即答）。絶対やる。
――ありがとうございます！　そう言い切るところが、さすがです（笑）。

【05年12月4日／都内スタジオにて収録】

インリン様の前にインリン様なし、インリン様のあとにインリン様なし

抜群のリング度胸、「見られること」をすみずみまで意識したたたずまい。喜怒哀楽を全身で示せる表現力、そして「思想と哲学の詰まった」セクシーなボディ。

インリン様は純然たるプロレスラーでないにも関わらず、強烈に僕らを惹きつける。彼女は、現代のプロレスラーが失ないつつある「魅せる」意識や気概を備えた完璧な存在だ。

インリン様は、強い。『ハッスル7』にて「元柔道のオリンピックの銀メダリスト、小川直也にピンフォール勝利」という、歴史的事件の当事者としてプロレスデビュー。このスキャンダラスな出来事を一過性に終わらせず、ハッスルにのめり込むことで、「強さ」を定着させ、ついにプロレスラーを凌駕する存在感で観客をリードする存在になる。そう、ファンに〝認めさせる〟闘いにも勝利していたのだ。

インリン様は、弱い。『ハッスル12』において、小川の容赦ないスリーパーにより、場外で悶絶失神。またたく間に崩れ落ちた姿は、可憐な女性としての弱さをきちんと表現しながら、観客の心をかき乱した。弱さをさらけ出すということは強さと表裏一体でもあるのだ。

インリン様は、美しい。磨き込まれたボディとルックスは、日本プロレス界の「美」という概念をリセットしてしまったし、業界内で牙城を崩すことは容易ではない。そして、信じがたいことだが、インリン様は大会によってメイク、ヘアスタイル、衣装を毎回毎回、チェンジしている。素材の美しさだけによりかからず、「魅せる」プロとして手を抜かない姿勢は、努力の積み重ねの上で実行される。それは、常にハイヒールを履いてリングに上がる彼女の美意識の高さからも一目瞭然である。

インリン様は、意地っ張りだ。『ハッスル・マニア2005』直前に行なわれた狂言和泉流二十世宗家・和泉元彌による、伝統的な狂言の世界の導入と、元WWEディーバである鈴木浩子のアメリカナイズされた和の世界がハッスルに加わるとみるや、突如、きわどいおいらんの和服姿で登場し、M字ビターンで牽制してみせた。この負けず嫌い加減、「このリングは自分のもの」という自負こそハッスルのアイコンにふさわしい気概だ。

インリン様は、自己主張だけではない。メディア的、興行的にも大爆発した『ハッスル・マニア』では、主役の座をHGに一歩譲り、その魅力を引き出す側にまわって、圧倒的な表現力で〝受けきって〟みせた。とくにフィニッシュとなったHGの「腰振り三角絞め」は腰の激しいグラインドに、思い切り身を委ねる鬼気迫る姿がファンの心をとらえた。

インリン様の潜在能力は、まだ底が見えない。何より真摯にハッスルに取り組む熱量が、他のレスラーやスタッフに伝播し、結果的にハッスルという場のクオリティを引き上げることに貢献している。

非プロレスラーでありつつ、存在は極めてプロレスラー的。わずか一年でインリン様はファイティング・オペラを体現する存在にのぼりつめた。『ハッスル・マニア』で黄泉の国に旅立ったとされるインリン様。一部で噂される休業、引退の可能性に関しても、12月25日の「ハッスル・ハウス～クリスマス・スペシャル～涙のラストM字ビターン！」で明らかになるだろう。

インリン様が、エンターテインメントプロレスの舞台、可能性と未来が詰まった、このファイティング・オペラのリングでやるべきことはまだまだたくさんある。

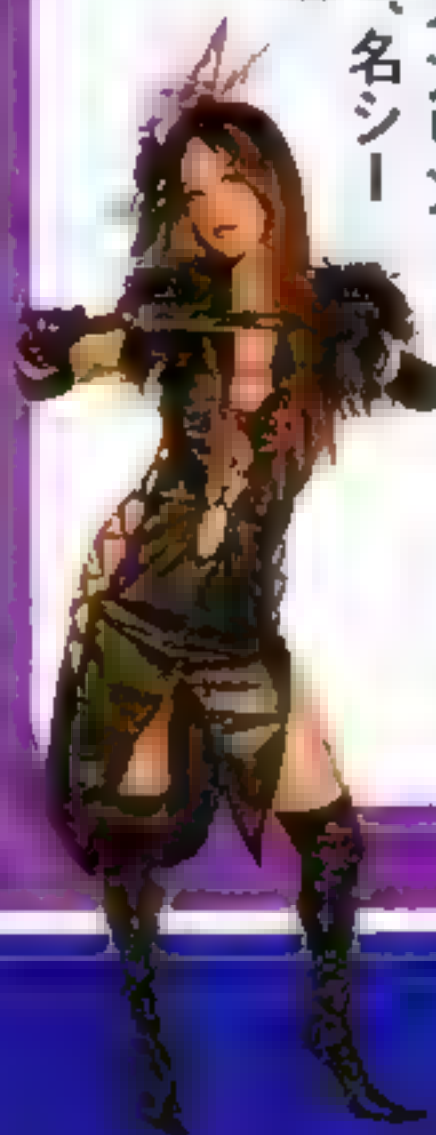
これまでのインリン様の活躍を心に刻んだファンは、今度は観客席から熱狂的なリアクションでインリン様をたたえる番であろう。

そう、僕らはまだインリン様に、さよならなんて言えるハズないのだ。

（真下義之）

『ハッスル・マニア』で因縁勃発。いまや宿敵となった、憎っくきHG。インリン様が怒りの薔薇ムチを存分にふるって、リベンジを果たす日ははたして来るのか？

kamipro編集部厳選!! インリン様、我が心の名場面集

日本プロレス史上、最も美しく、最も官能的なインリン様は初登場から、ほんの一年で心に残る名勝負、名シーンを続出させた。12月25日で活動休止？ が囁かれるインリン様を『kami-pro』編集部一同が思い入れたっぷりにフラッシュバック！

M十字固めで、小川コールを誘発した歴史的シーン

ハッスル大統領　山口日昇

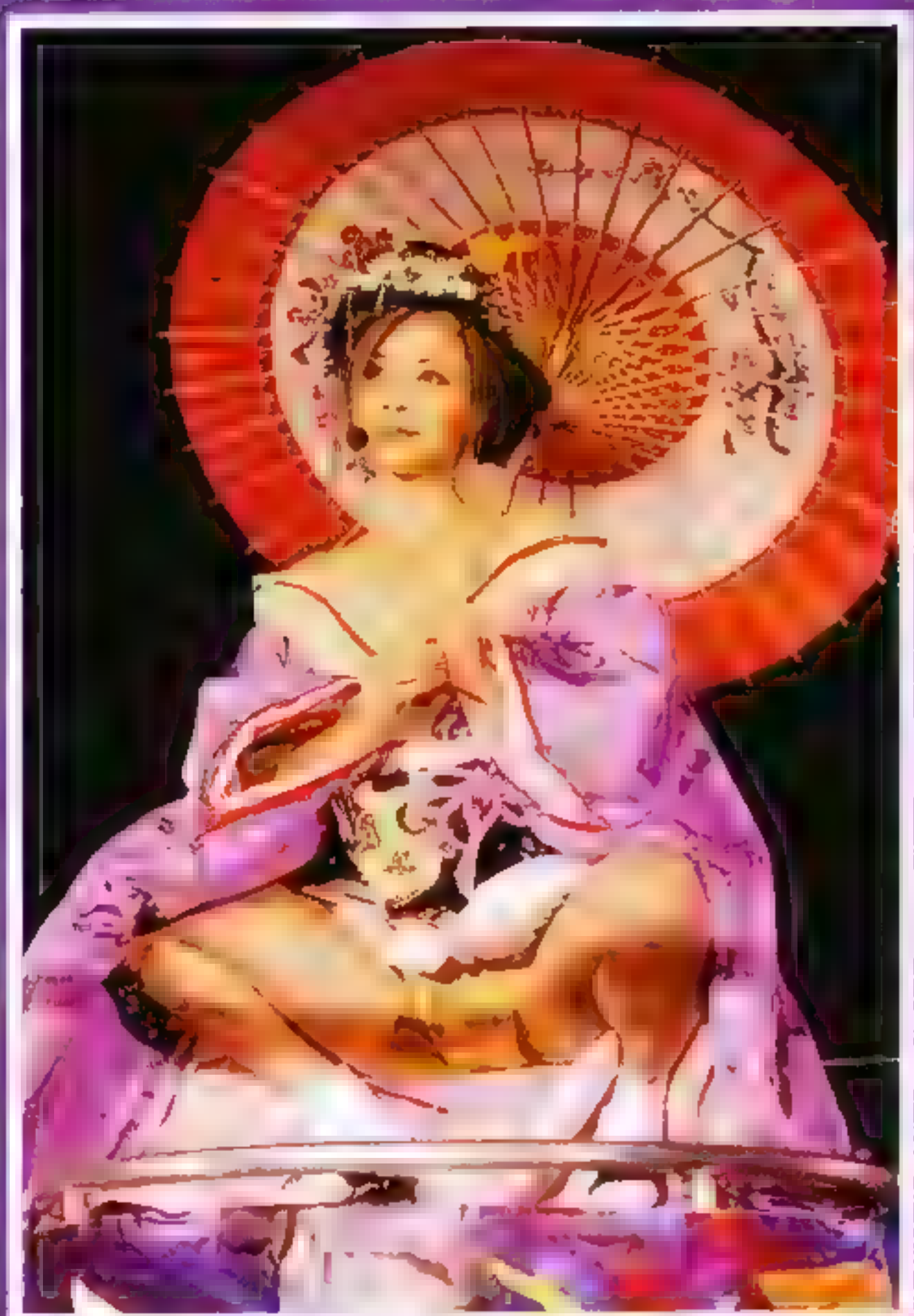
05年11月3日　ハッスル・マニア2005　（横浜アリーナ）

解説　「ハッスル・マニア」でインリン様が繰り出したM十字固めで"小川コール"が自然発生した場面。アン・ジョー司令長官の腕も折ってる必殺技ではあるけど、"小川コール"が起きたのは、「しょせん、タレント」「女」「イロモノ」と揶揄する声を払拭する説得力がにじみ出たからで、ここまでのインリン様自身のキャラづくりと"ストーリー"が活きたから。小川がインリン様に2回も負けた意味をファンが理解し、能動的に"ハッスル・ワールド"を楽しんだことが顕著に現われた、歴史的で重要な場面だと思います。

インリン様、黄泉の国への旅立ち

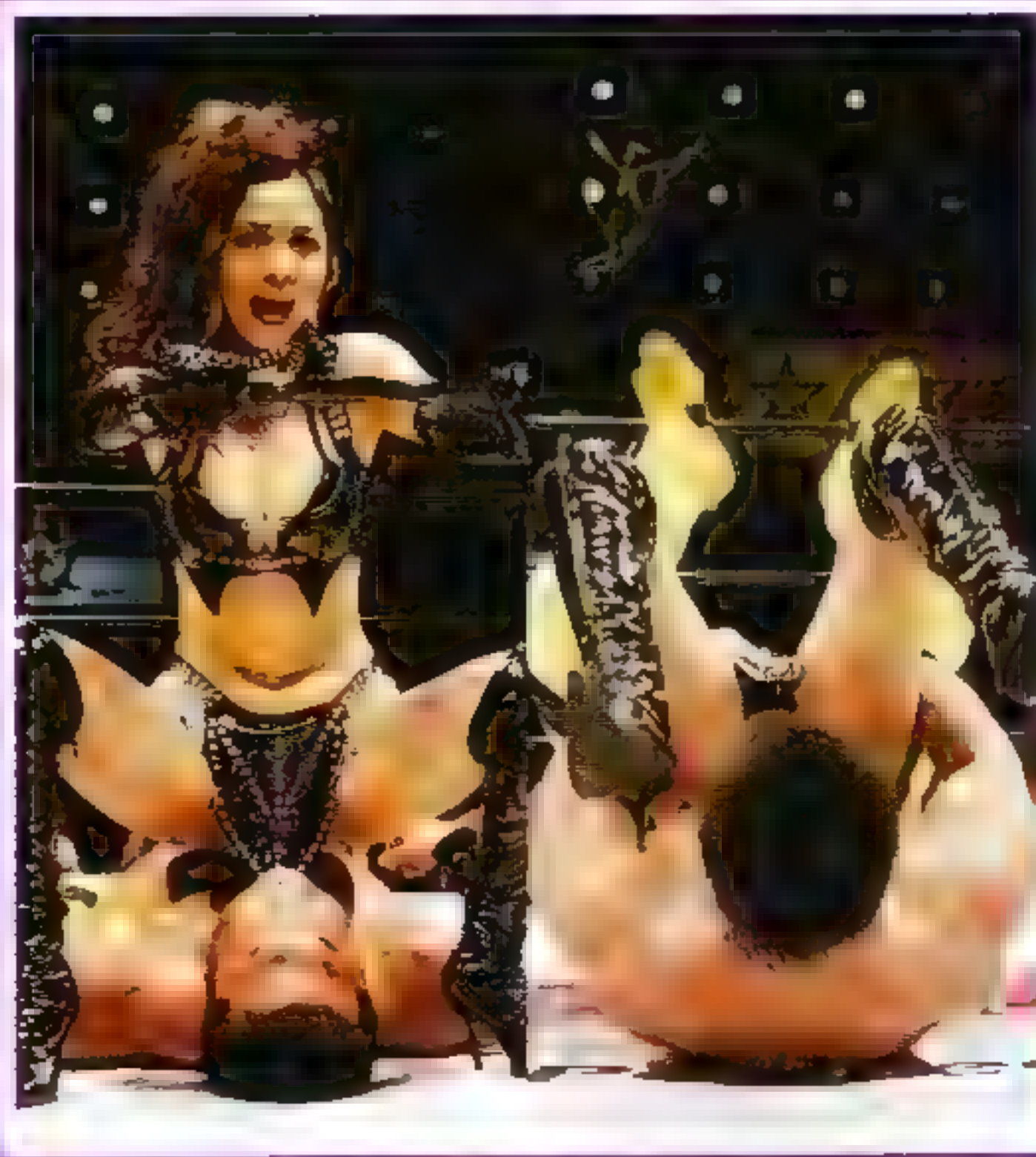
本誌・ブラジル帰りの現場カントク　堀江ガンツ

05年11月3日　ハッスル・マニア2005　（横浜アリーナ）

解説　僕はインリン様にまったく思い入れはなかった。今年1月、ハッスル大統領、山口日昇が「インリン様を表紙にしよう！」と言い出しても強硬に反対し、ミルコを表紙にしたぐらい評価もしてなかった。インリン様は、僕にとってハッスルのいち登場人物だったにすぎないはず。しかしHGに敗れ、棺に横たわる姿にはなぜか熱いモノがこみ上げてきた。破壊王が亡くなり、「こんなにも破壊王が好きだった」と気づいたように、心の中にインリン様が入り込んでいたことに気づいた瞬間だった。

インリン様史上で最もセクシー、おいらんM字ビターン！

企画制作部・キャプテン　坂井ノブ

05年10月30日　ハッスル13　（青森産業会館）

解説　のっけから断言しよう。これは様々な艶姿で、僕らを魅惑したインリン様のコスチューム史上最もセクシーな衣装だ。掛け値なしの興奮鼻血止めをマークしたこの日の興業だったが、だが秋だというのに冬のような厳しい冷え込みだった青森産業会館。そんな中、おいらん姿で降臨したインリン様は会場の温度をグッと上げてみせた。初めての和服姿ということでM字台の上でバランスを崩す場面もあったが、完璧なM字ビターンで青森県民を心から熱く燃え上がらせてくれた。

奇跡のムチ・ロープエスケープが実現！

本誌・永久電機の語り部　ジャン斉藤

05年7月15日　ハッスル11　（大阪府立体育会館）

解説　永久電機の完成発表会見を明後日（12月13日）に控えてRomanticが止まらない自分にとって、思い出すのはこの奇跡のムチ・ロープエスケープ。急回転してのムチ投げは、電機の回転磁石モーターに通じるところがある。エンタメ永久凍土と言われた日本の土壌を"M字ビターン"でセクシーに耕したインリン様と、エネルギーを使わず電気を生み出す大発明。どちらも"無から有"を生むという共通項を持った、愛おしい存在であります。

初M字ビターンと「背中の美しさ」の衝撃波！

電気部　元編集仮面ピンク　現イエロー　ささきい

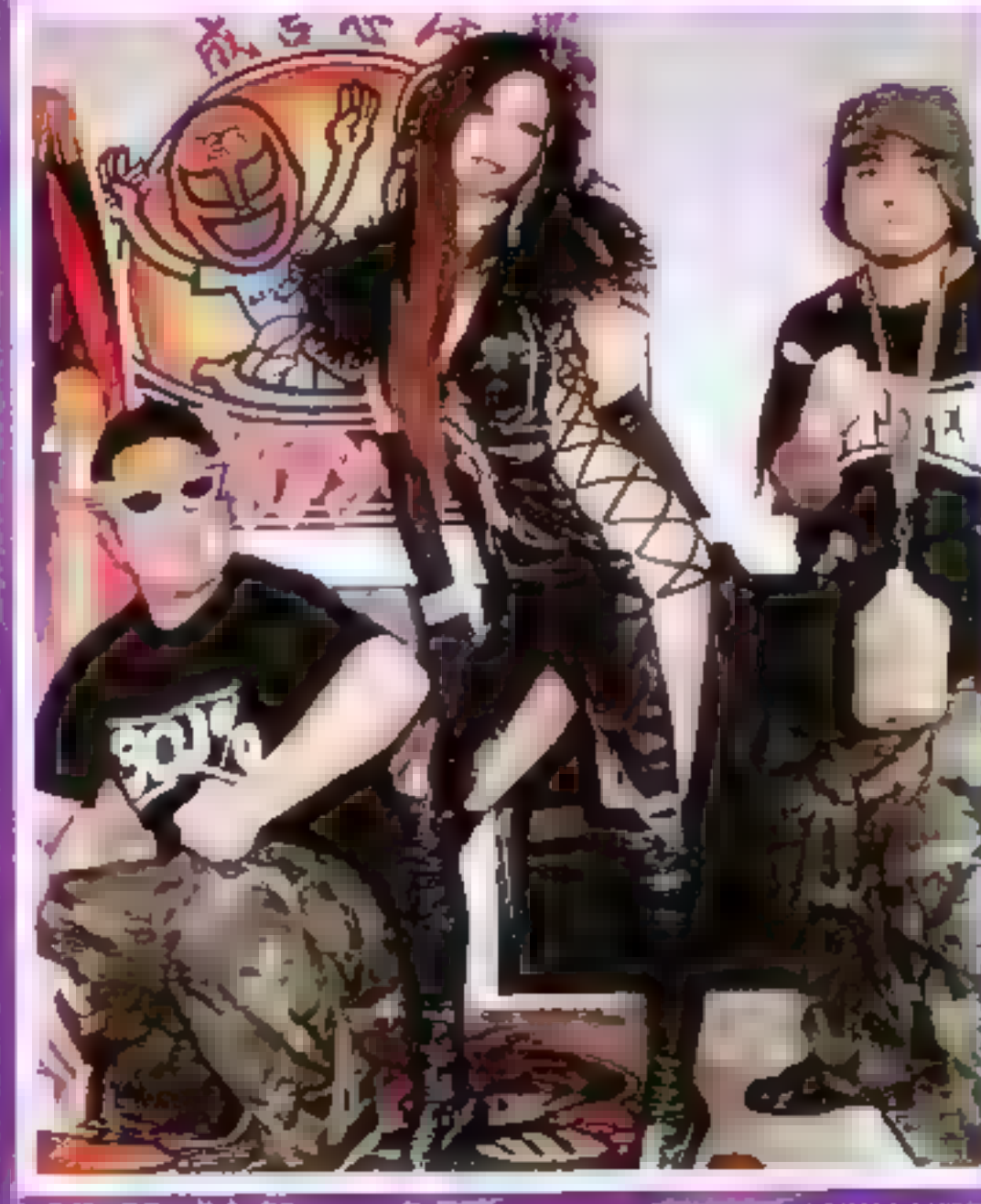
04年12月24日

うらやましい！笹原前GMに吐息＆言葉責め

電気部　臼木さんが好き　松澤チョロ

05年4月27日　ハッスルMAGAZINE 発表会見　（都内ホテル）

M字ビターンマッチで『トゥ・ザ・ジャッジ！』

05年5月10日

真夏の大阪、日中の全身スリット姿にノックアウト！

本誌　元ノアヲタ編集部員　真下義之

05年7月14日

特報!!

インリン様『東スポ大賞』プロレス話題賞受賞!!

締め切りド直前に祝報が到着！　12月13日、東京スポーツ新聞社主催『プロレス大賞』内の〝プロレス話題賞〟をインリン様が初受賞！　05年の多岐にわたった、その活躍ぶりが認められた格好だ。まずはインリン様、喜びの声を紹介したい。

クリスマスとお正月が近づき、寒さが独り身にしみる季節だけど、相変わらずヒマでモテないプロレスファン諸君のご機嫌はいかがかしら？　髙田モンスター軍・髙田アマゾネス軍リーダーのインリン様よ。

『ハッスル・マニア2005』でHGに負けて以来、私の心と身体は深く傷ついたままだったけど、今日の受賞の知らせは素直に嬉しいわね。

今年のプロレス大賞各部門の投票の中でも最多の得票だったと聞いてるわ。これも髙田モンスター軍の信奉者とドスケベなプロレスマスコミ諸君の空っぽな脳味噌を私のセクシーなボディが完全に洗脳した証（あかし）ね。

私の意志で取ろうと思って取った賞じゃないけど、こうして評価していただけたことは感謝しているのよ。この賞を受賞できたのは、もちろん私だけの力じゃないわ。あのハゲのGMのおかげでもない。ましてやファンやマスコミのおかげでもないわ。すべては〝全知全能〟である完璧なお方、髙田総統のおかげよ！　いつも私に美しい戦闘服をプレゼントしてくださるだけでなく、モンスター軍NO.2に起用してくださったり、新しい武器を授けてくださったり……。髙田総統なくしていまの私は存在してないのだから、いくら感謝しても足りないぐらいよ。私はこの賞を髙田総統に捧げるわ。

心も身体も傷ついたいまの私が授賞式に行くことを最初はためらったけど、気が変わったわ。私の感謝の気持ちを示す意味でも、授賞式には参加させていただくことにするわ。もちろん、参加するからには最高にセクシーでゴージャスな衣装であなたたちを洗脳することを約束しますわよ。そこではヒマでモテないプロレスファンの諸君がビビってたじろぐような爆弾発言をするから楽しみにしてらっしゃい。

記念すべき、初受賞となったインリン様。プロレス界のトップレスラーが揃う、授賞式ではいったい、何を起こしてくれるのか？　ぜひ、注目したい

インリン様、まさかの引退？　沈黙を破り、ついに再降臨！

12月25日、ハッスル・ハウス～クリスマス・スペシャル～にて

『涙のラストM字ビターン！』開催決定！

髙田総統からモンスタースケールのクリスマスプレゼントが到着！

11月3日、ハッスル・マニアでHGに敗れ、黄泉の世界に旅立ち、行方が知れなかったインリン様が、約1ヵ月半の沈黙を破って、ついにファンの前に登場する！

その舞台は、12月24、25日と後楽園ホールで行なわれる『ハッスル・ハウス～クリスマス・スペシャル～』の2日目。復讐に燃えるインリン様が、いったいどんな公式声明を出すのか？　そして意味深すぎる、大会タイトル『涙のラストM字ビターン！』を見るかぎりでは、噂される「引退」の可能性も捨てきれない……。いったい、何が飛び出すのか？　その動向から目を離すな！

★完売必至！

大会記念Tシャツも緊急発売決定！

ラストM字ビターンTシャツ

［S・M・L・XL ブラック］¥3990（税込）

BACK

ハッスル・ハウス ～クリスマス・スペシャル～

後楽園ホール

2005年12月24日（土）

「HARD GAY'S NIGHT フォーッ！」

開場18:00／開演19:00

2005年12月25日（日）

『涙のラストM字ビターン！』

開場11:00／開演12:00

［チケット料金　全席指定・消費税込み］

ハッスルVIP…12,000円／スタントS…8,000円

スタントA…6,000円／スタンドB…3,000円

立見席…3,000円

高田総統はなぜ、空を飛ぶのか!?

その答えは『ハッスルMAGAZINE vol.2』を読めばわかる!! かも……。

ハッスル"唯一無二"の公式読本!!

ハッスルMAGAZINE vol.2

ハッスル・マニアで大ブレイク号

ハッスル TOPICS

高田総統が新コンセプトでプロデュース！ ジンギスカン専門店 『モンゴリアン・チョップXaaH（ハーン）』がオープン！

大人気のジンギスカン専門店『モンゴリアン・チョップ』に続き、高田総統が新しいコンセプトでプロデュースしたジンギスカン料理屋「モンゴリアンチョップXaaH（ハーン）」がオープンする。現在、ブーム真っただ中のジンギスカン料理を「おいしく」、「低価格」で食べられるよう、高田総統が今年2月から大阪、東京、名古屋とオープンし、有名店の仲間入りを果たした『モンゴリアンチョップ』。ワイワイ楽しめるスタイルで、広く人気を集めてきた同店は、高田総統曰く「外食産業の常識や固定概念をブチ壊すことに成功した」。

そんな中、今回は高田総統が"女性が一人で気軽に立ち寄れる雰囲気"という新しいコンセプトで、新店舗『モンゴリアンチョップXaaH（ハーン）』を東京と大阪にオープン！

「一度、お店に寄って、私がプロデュースした特製メニューを心ゆくまで味わうがいい！」と高田総統のコメントにしたがって、君も出かけてみてはいかが？

［モンゴリアン・チョップXaaH（ハーン）］

■関東地区

渋谷区円山店	渋谷区円山町10-7（クラブASIAの裏）	03-3463-8929
港区虎ノ門店	港区虎ノ門2-5-2（虎ノ門1丁目交差点）	03-3501-8929

■関西地区

京橋店	都島区東野田3-12-2（国道1号線沿い）	06-6358-0429
阪急東通り店	北区堂山町4-6（泉の広場を上がってすぐ）	06-6363-8929
西中島店	淀川区西中島4-8-7（ホテル・ミツフ1階）	06-6886-8129

特報！

パソコンテレビGYAOで ハッスル・マニア2005を楽しむ方法

『ハッスル・マニア』を未見の君におトク情フォーッ！ 視聴登録者が470万人（12月13日現在）を突破した話題の完全無料インターネット放送「Gyao」では『KYORAKU presents ハッスル・マニア 2005』の模様を絶賛放送中！ 和泉流二十世宗家の和泉元彌と鈴木健想の対戦や、インリン様とHGが対戦した世紀のタッグマッチなど全試合をノーカット放送！ 放送期間は2006年1月16日正午まで。この歴史的なイベントを見逃した方、『kamipro』を読んでるうちにもう一度見たくなった方、いますぐ「Gyao」のURLにアクセスしよう！

GYAO http://www.gyao.jp/
いずれも試合単位での視聴が可能です 再生にはWindows Media Playerを使用 配信帯域は384kbpsと768kbpsの2種類

唯我独尊!! 話題騒然!! 高田総統ライオンTシャツ 絶賛発売中!!

ハッスル & kamipro Collaboration Goods

『kamipro』通販方法

★通販はすべて代引きです。お支払いは、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます
★全国どこでも送料一律500円です（何枚でも可 離島・山岳部の方はお問い合せ下さい）
★代引き手数料は315円です。（代引き金額によって異なります）

kamipro Handで注文の場合

詳しくは『kamipro Hand』の通販コーナーをご覧下さい。ご注文後、確認メールを送りますので注意してご覧下さい。

電話でご注文の場合

平日15:00～22:00
（株）ダブルクロス 03-5368-1797

メールでご注文の場合

郵便番号、住所、氏名、電話番号（携帯）、商品名、サイズ、枚数、年齢を書いたメールを
kapra@kamipro.com
までお送り下さい。申し込みメール確認後、佐川急便にて発送いたします（確認メールはいきませんのでご了承下さい）。
販売元：（株）ダブルクロス

高田総統ライオンTシャツ ［S･M･L･XL ホワイト］¥3990（税込）

c-pod Tシャツ ［S･M･L･XL ホワイト］¥3990

j-pod Tシャツ ［S･M･L･XL ホワイト］¥3990

ヒヒったか？ たじろいたか？ Tシャツ ［S･M･L･XL ブラック／ホワイト］¥3990

BITAAAAN! Tシャツ ［S･M･L･XL ホワイト］¥3990

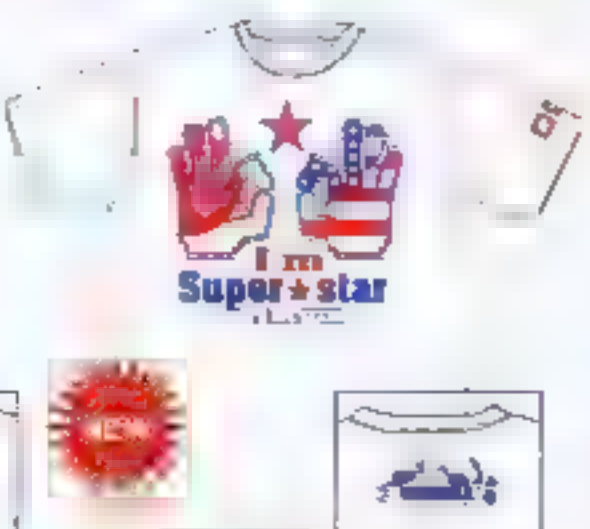
ハッスル Goods

空中元彌チョップTシャツ ［S･M･L･XL ブラック］¥3990

OTOME Tシャツ ［S･M･L･XL イエロー］¥3990

REAL HAWK Tシャツ ［S･M･L･XL パープル］¥3990

HUSTLEロゴTシャツ ［S･M･L･XL ホワイト／ブラック］¥3990

Mrs.健想Tシャツ ［S･M･L･XL ホワイト］¥3990

健想Tシャツ ［S･M･L･XL ホワイト］¥3990

キャプテン リストバンド ［ホワイト／ブラック］¥1050
あちち リストバンド ［レッド］¥1050

HUSTLEロゴフェイスタオル ［ブラック／イエロー］¥2100

※価格はすべて税込みです

『kamipro』読者必見!!
花くまゆうさく先生の人気マンガ『東京ゾンビ』(青林工藝社)が完全映画化!!

あの超人気俳優が
柔術の世界に足を踏み入れた！

浅野忠信

『東京ゾンビ』、哀川翔、そして柔術を語る！

本誌コラムも好評連載中！ の花くまゆうさく先生の傑作漫画『東京ゾンビ』が、浅野忠信、哀川翔という超豪華キャストで映画化！ 「ハゲとアフロのコンビがゾンビに柔術で立ち向かう」という奇天烈な物語だ。今回は、同作に出演した浅野忠信をキャッチ！ 映画『東京ゾンビ』、共演の哀川翔の素顔、初体験の「柔術」の魅力までを語ってもらった。

聞き手／真下義之　協力／札幌パルコ

designed by Tani-yan(Two Threes)

東京ゾンビ
TOKYO ZOMBIE

——今日は、『kamipro』という雑誌の取材なんですが、『kamipro』はご存じでしょうか？

浅野 ごめんなさい。詳しくは知らないんですけど……（と先月号に目を通す）おっ、レイザーラモンHGだ！

——ワハハハ！ やっぱり浅野さんにもハードゲイは届いてましたか？

浅野 HGは面白いですよね〜。

——そんなHGばりに、いま最もハッスルしてる映画。本誌でもおなじみ、の花くまゆうさくさん原作の『東京ゾンビ』が映画化ということで、アフロの主人公、フジオ役の浅野忠信さんにお話をうかがいたいと思います。

浅野 よろしくお願いします。

——浅野さんはこの花くまさんの原作マンガをご覧になっていたとか。

浅野 はい。もともとマンガ好きで、花くまさんみたいなタッチも好きなんで、偶然、読んでたんです。

——その原作は「ハゲとアフロのコンビ」が、「柔術でゾンビと闘う」という壮絶な内容ですが、読後の印象は？

浅野 映画のこととか抜きにして「面白いな〜」と。ハチャメチャな設定でもノリが寒くないし。主人公たちが「あり得ない状況も受け入れちゃう」素直さも面白いし。

アフロのフジオ役の浅野忠信と、師匠でありハゲのミツオ役の哀川翔が、柔術のトレーニングにはげむシーン。二人は約1カ月のトレーニングを積み、撮影に臨んだ

——でも、映画としてオファーが来たときは、驚かれたのでは？

浅野 いや、凄くうれしかったです。監督の佐藤（佐吉）さんは『殺し屋1（イチ）』とか、自分が監督した『下ーリ』でもご一緒させていただきましたし。最初の時点で「哀川翔さんもやりたいと言ってる」って聞いて、「翔さんとなら絶対やる！」って。

——そこで、スイッチが入ったと。ただ「アフロとハゲのどっちを演じるか」は問題だったんじゃないですか？

浅野 いや、僕は「ハゲはないだろう」と思ってましたから（キッパリ）。

——ワハハハ！ ハゲはないと（笑）。

浅野 ミッちゃん（ハゲ役）が年上なんで、「僕はフジオだろうな」って。

——その一方、哀川さんは、「ハゲ役なのか？」と悩まれてたようですね（笑）。ちなみに、浅野さんはアフロへは抵抗はなかったんですか？

浅野 まったくなかったです。監督からアフロになった合成写真を見せられて、自分でも、はまってるなって。だから、僕は翔さんの気持ちをよそに「早く撮影に入りたいなぁ……」と。

——やはり、哀川翔さんとの共演は大きかったんですね。

浅野 大きかったですねぇ〜。

——哀川さんには、事前には、どんな印象をお持ちでしたか？

浅野 映画祭でちらっとお会いしてたんですが、本当の翔さん像は全然見えてなかったです。一般的な見方しかできてなくて。しか[illegible]怖い人なのかな？」とか。

——任侠モ[illegible]いですしね。

浅野 実際お会いしたら、そんな心配は全然いらなく[illegible]が自然と集まってくる、凄くみんな[illegible]れるんだな〜と思いましたね。

——さすがアニ[illegible]すね。[illegible]哀川さんは現場の弾け具合も凄[illegible]聞いているんですが。

浅野 もう、圧倒されました[illegible]翔さんは「俺って、心の声がないんだよね」っていうんですけど、[illegible]んって[illegible]ってること全部言っちゃ[illegible]

——ワハハハ！ 素直す[illegible]

浅野 現場でトラブルが[illegible]撮影が止まっちゃうことあ[illegible]それで、時間だけがどんどん経[illegible]お腹が減ってご飯食べられな[illegible]みんな、我慢してるんです。そこ[illegible]さんは「あ〜ハラへったなあ！」大きな声で言っちゃうんですね（笑）。

——ワハハハ！ 普通は「ハラ減ったけど言いにくいな」と考えますよね。

浅野 でも翔さんが言うと、全然イヤミじゃなくて。「このまま待っててもしょうがない」って、どんどん話を進めちゃって（笑）。みんなも「そのほうがいいね」って雰囲気になって、先にメシを食えたりする。で、食事後にはトラブルがちゃんと解決されてて。

——結果的にスムーズにいくと。

浅野 だから、翔さんがいると現場がすごくいい雰囲気なんです。リーダーシップがあるというか。

——そんな哀川さんと浅野さんは、家がご近所同士とうかがったんですが。

浅野 はい。凄い近いです！ もう早歩きすると30秒ぐらい！

——30秒！ 近すぎですね！（笑）。それは偶然なんですか？

浅野 まったく偶然です。僕があとから引っ越したんですが、「凄く近い」っていう話は聞いてて。でも「歩いて5分ぐらいだろう」って考えてたんですけど、実際は30秒でしたね（笑）。

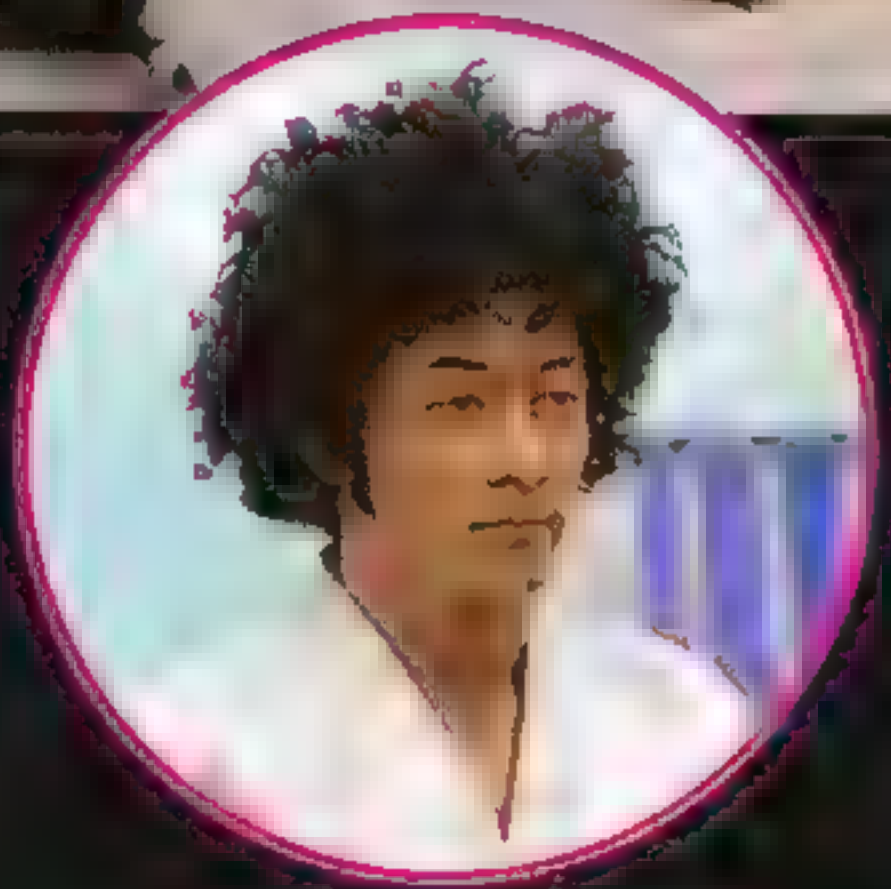
——ご近所付き合いもあったりして。

浅野 たまにコンビニで会ったりします（笑）。撮影中は翔さんの家にビデオを借りに行ったりしました。中学生が「面白いビデオあるぜ」って、ぴゅっと家から持ってくる感覚で。ビデオを返しに行ったときに、お茶をごちそうになったり。それで部屋では、翔さんが釣り竿の手入れしてたり（笑）。

——なんだか、ほのぼのしてますね〜（笑）。そんな友情もはぐくみつつ、映画では翔さんに柔術を習ったり、闘ったりされてますが、「柔術」という格闘技はご存知でした？

浅野 これも偶然ですけど、知ってましたね。明大前にアクシス柔術アカデミーって柔術の道場があって、一緒に

東京ゾンビ
TOKYO★ZOMBIE

11月29日(火)、映画『東京ゾンビ』のHMV渋谷のトークイベントに浅野忠信とハゲの哀川翔が登場[illegible]

柔術は奥が深いし、見応えある世界
映画では翔さんの「デラヒーバ」に注目して下さい

バンドをやってた友だちが、ヒクソン（・グレイシー）とかの影響で通ってたんです。

――奇しくも、その同じ道場に通うことになるんですね。

浅野 はい。そのアクシスの渡辺（孝真）先生に習ったんです。渡辺先生は、ヒクソンから黒帯をもらってる人で、道場にヒクソンの写真もバーンと貼ってあって。

――先生の指導は厳しかったですか？

浅野 いやいや、全然。じつは初日の練習で、いろいろ教えてもらって「こんなに一気に覚えられるかな……」って心配して。そのときは「習ったこと忘れたらまずいな。家で復習しなきゃ」と思ってたんです。でも、帰り際に先生が「浅野くん、今日教えたことをもし忘れちゃったらね、忘れてください！」って言うんです。

――忘れちゃってもいいと（笑）。

浅野 もうビックリして。「帰り道でケンカ売られて負けても、それは身に付いてないってことだから」って。

――柔術は護身術から来てますし。「身に付かないと意味がない」とおっしゃりたかったのかもしれない。

浅野 「今度来たときにまた教えますから。自宅練習もいらないですし、気にしないで」って。それで逆に、柔術って凄そうだなと思いました。

――大変にお忙しい中で、道場へは週何回ぐらい通えたんですか？

浅野 週一回以上、行きましたね。凄く集中して練習してた記憶があります。

あさのただのぶ■1973年11月27日、神奈川[illegible]。『バタアシ金魚』（松岡錠治監督）で映画デビュー。以後、映画出演[illegible]本近くにのぼる。若手監督から大[illegible]インディペンデント、メジャー問[illegible]活躍中。日本映画界で唯一無二[illegible]在感を放つ。海外からも好評価を得て[illegible]、韓国映画『オールド・ボーイ』のカ[illegible]ヘジョンと共演した、ペンエーグ・ラ[illegible]タナルアーン監督の『INVISIBLEWAVES』の公開、ロシアはセルゲイ・ボドロフ[illegible]『モンゴル』（仮題）の撮影も控える。[illegible]イト www.anore.co.jp/asano/

――撮影では原作者の花くまさんが演技指導をされたんですよね。

浅野 そうですね。翔さんとの動きとか技術的な部分で花くまさんに指導していただきました。現場で、花くまさんや渡辺先生も加わって一緒に「こうしたら、ああしたら」ってアイデアを出しあいましたね。

――柔術を習ったあとで意識は変わりましたか？

浅野 そうですね〜。奥が深くて、見応えもあるというのが実感として、よくわかりましたねぇ……（しみじみと）。最近は、テレビで総合格闘技を観てても「なるほど〜」って。

――テレビでも、寝技の攻防を意識して見るようになったと。

浅野 柔術やる前は、友だちとテレビで格闘技を見ても、打撃のほうが面白かったんです。「寝て、ごろごろしてても、わかんねえな」とか（笑）。でも、いまは打撃より、倒れてからの攻防のほうがハラハラしますね〜。

――それは面白い現象ですね。

浅野 柔術やってる人からしたら、僕なんて下手だと思うんですけど、柔術をここまで全面に出した映画はなかったと思うんで。それから、映画の中で翔さんの出した「デラヒーバ」っていう技が凄いみたいで。

――「デラヒーバ」は今月の花くまさんのコラム（P122）でも触れてましたね。

浅野 あれは凄いらしいです。渡辺先生も「この技を映画の中でやってるのは凄い。この先もきっとないと思う」と言ってましたから。

――一番ノリは翔さんってことですね。では完成作品を見てのご感想は？

浅野 もう難しいことや細かいことは考えず、映画がスピーディーに進んでいくのがいいですね。最後まで、楽しく見終われるし、「フジオとミッちゃん」の友情も面白おかしく描けている部分と、清々しい部分の両方あって。演じてても凄く気持ちよかったですね。

――続編にも期待したいですね。

浅野 翔さんとご一緒できるなら、ぜひやりたいですね。今度は、ロシアにロケしてみたり（笑）。

――その可能性はありそうですよね。

浅野 翔さんとはいろんな形でご一緒したいです。刑事ものやヤクザのコンビも面白いし（笑）。でも、今回の役に勝るのはなかなかないでしょうけど。

――インパクトでは、『東京ゾンビ』を上回るものはないでしょうね。

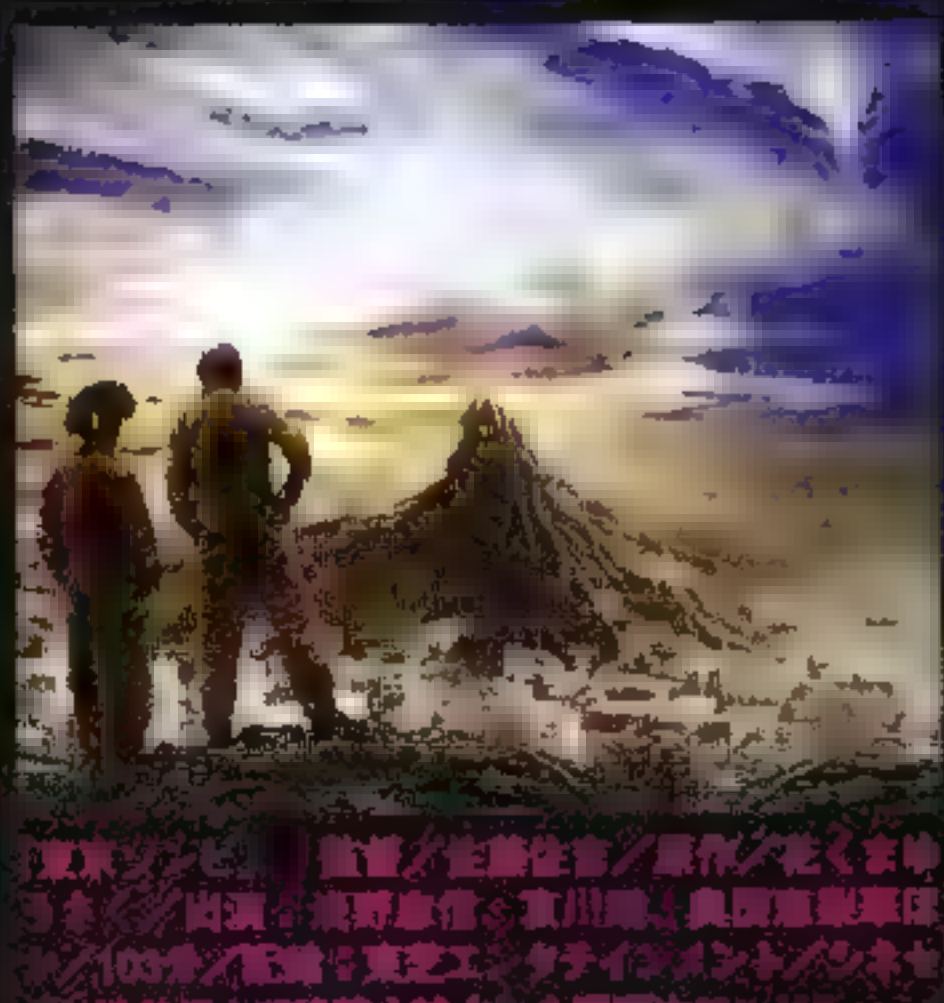
浅野 ここを通ったらなんでもできますね。ハゲとアフロですから（笑）。

――もう怖いものはないと（笑）。では、今後もご活躍を期待しております。ありがとうございました！

【05年11月21日／札幌・アーバンホールにて収録】

『東京ゾンビ』 監督／佐藤佐吉／原作／花くまゆうさく／出演：浅野忠信、哀川翔、[illegible]／103分／配給：東芝エンタテインメント／シネセゾン [illegible]で絶賛上映中 全国順次ロードショー

花くまゆうさく語る！

花くま先生は、柔術家の渡辺孝真さんとともに劇中で柔術の実技指導[illegible]ても出演している。

漫画『東京ゾンビ』と映画『東京ゾンビ』

大人になった今でも私の中にあるのが、[illegible]。大人と子どものハンパな時期にあたる中学生[illegible]中学生の「中」とは中途ハンパの「中」なのだ。私はこのハンパな時期が人生の中でイチ[illegible]そして、いつまでも中学生気質を体内いっぱいに詰め込んだまま現在に至る。[illegible]中途ハンパな教派、これらの中学生気質全開フルスロットルで、自分のために[illegible]1998年に書き始めたのがこの『東京ゾンビ』。他の作品で好きなものもありま[illegible]このマンガを描いている時は、自分で映画作っているつもりで描いていました[illegible]哀川さん）で映画になるとは夢[illegible]じゃこうは思いつかなかったとかありまし[illegible]しいモノとなりました。自分ならこ[illegible]たなという感じ。[illegible]映画を見て何かひっかかればうれしい[illegible]質を持ったまま大人してる人たちに見てもらいたいですね。そんでマンガのほうも見てくれたら、またうれしいなと。

年末年始も大豊作！PRIDEウェアでゆく年、くる年！

ミルコ パーカー
[S・M・L・XL　ホワイト／ブラック] ¥10,290（税込）

シウバ パーカー
[S・M・L・XL　ホワイト／ブラック] ¥10,290（税込）

BTT パーカー
[S・M・L・XL　ブラック／グリーン] ¥10,290（税込）

レッドデビル パーカー
[S・M・L・XL　ブラック／レッド] ¥10,290（税込）

桜庭 パーカー
[S・M・L・XL　オレンジ／ネイビー] ¥10,290（税込）

シュートボクセ パーカー
[S・M・L・XL　ホワイト／ブラック] ¥10,290（税込）

レッドデビル チームTシャツ
[S・M・L・XL　ブラック／レッド] ¥3,990（税込）

"PRIDE男祭り"
参戦選手
勢揃い!!

レッドデビル ロゴTシャツ
[S・M・L・XL　ブラック／レッド] ¥3,990（税込）

ブラジリアン・トップチーム・ロゴTシャツ
[S・M・L・XL　ホワイト／ブラック] ¥4,200（税込）

ブラジリアン・トップチームTシャツ
[S・M・L・XL　グリーン／ブラック／ブラウン] ¥4,200（税込）

シウバHEAD TATTO Tシャツ
[S・M・L・XL　ブラック／ホワイト] ¥3,990（税込）

I♥BUSHIDO Tシャツ
[XS・S・M・L・XL　ブラック／ホワイト／イエロー] ¥3,990（税込）

美濃輪 OH!! Tシャツ
[S・M・L・XL　ホワイト／レッド] ¥3,990（税込）

桜庭ジャージ
[M・L・XL　オレンジ] ¥9,345（税込）

このページの商品はKamipro Handでも購入可能!! 詳細はP152下段を参照ください➡

ヒマでモテない読者に捧ぐ!!

大晦日直前！プレゼントバトル大勃発!!

kamipro PRESENTS

さぁ、ガシガシ応募しろ!!

応募要項

ハガキに応募券を貼り、1～9の質問の答えをご明記の上、下記の宛先まで郵送してください。応募多数の場合はそれぞれ抽選で決定いたします。ただし、雑誌公正競争規約の定めにより、懸賞に当選された方は、この号の他の懸賞に当選できない場合がありますのでご了承ください。なお、当選者の発表は発送をもって変えさせていただきます。賞品は12月20日以降発送予定です。

【質問事項】1 郵便番号・住所・電話番号 2 氏名 3 年齢・職業 4 希望商品 5 面白かった記事&その理由 6 つまらなかった記事&その理由 7 2005年ベストバウト&ワーストバウト 8 2005年ベストファイター&ワーストファイター 9 ［illegible］

【宛先】151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6ハレ・シュノ2F 株 タフルクロス kamipro 編集部 クレイタイフ 係まで

※締切は2006年1月19日(木)当日消印有効

kamipro 094 UFOが来ない

ちきって持ってっちゃダメだぞ

■HP･･･http://www.prideofficial.com/
■講談社HP･･･http://www.kodansha.co.jp/
■秋田書店HP･･･http://www.akitashoten.co.jp/

PRIDE 男祭り2005 頂 -ITADAKI-

高田延彦・10・11

¥1,500(税別)

97・10・11『PRIDE』、ヒクソン戦について高田延彦自らが綴ったハードカバーを講談社から発売。桜庭和志、吉田秀彦との二大ロング対談も収録!! さあ、あのころの舞台裏を読め!!【講談社提供】

10名様

2006年PRIDEカレンダー

PRIDEおよびPRIDE武士道で活躍するファイターたちの名場面で構成されたPRIDE2006年カレンダー。『PRIDE男祭り』を見終わったら、さっそく一枚目をめくろう!(サイズ:B2縦壁掛けタイプ)。【DSE提供】

2名様

HUSTLE

6名様

■HP･･･http://www.hustlehustle.com/
■KONAMI HP･･･http://www.konami.jp/

五味隆典サイン色紙

『PRIDE』ライト級決勝戦直前の五味選手の貴重なサイン色紙を1名様にプレゼント。前回のサイン入りTシャツがあまりに反響があったので、またまた五味選手にお願いして書いていただきました。
【五味隆典選手提供】

1名様

所十三 バウンドフォーバウンド

3名様

高田延彦本部長や桜庭和志選手など、実在のPRIDEファイターが続々と登場する『バウンドフォーバウンド』。いわば"紙のPRIDE"を1名様にプレゼントします。【秋田書店提供】

古賀稔彦サイン色紙

2名様

今回、大晦日の目玉カード、小川直也vs吉田秀彦を存分に語っていただいた古賀先生からサインをいただきました！ しかも額に入れたいぐらいの達筆。これで"勝負魂"を入魂しろ!! 2名様限定だ!
【古賀稔彦さん提供】

セイサーXフィギュア

みんなのヒーロー&ハッスルで大活躍のセイザーXのフィギュアを、6名様にご提供!! KONAMIさん、ありがとうございます! 編集部・真下義之も机に飾っています。
【KOMANI提供】

BOOKS

■東邦出版HP･･･http://www.toho-pub.com/
■集英社HP･･･http://www.shueisha.co.jp/

『八極拳ノート 発勁呼吸と戦闘法概論』

1名様

¥1,890(税込)

"史上最強の中国武術"と呼ばれている八極拳。そのすべてがここに記されている。熟読しまくって、キミも最強の男になろう!!【東邦出版提供】

『リングにかけろREAL』

¥980(税込)

『生々流転 車田正美作詞全集』

¥3150(税込)

魔裟斗、永田克彦、武蔵、榊原社長など、格闘界の蒼々たるメンバーと車田先生との対談集。車田先生の作詞全集も一緒にあげちゃうゾ。
【集英社提供】

まとめて3名様

BRAZIL

各2名様

堀江ガンツがブラジル取材でゲットしたレアもの土産をあげちゃうぞコラ!! グレゴリー・グレイシーTシャツはこれまた貴重なサイン入り。日本では間違いなく買えません!(当たり前)。【堀江ガンツ提供】

ファベーラの道場のオリジナルシャツ(黒・青)

BACK

ブラジルの格闘技雑誌

クレゴリー・グレイシー サイン入りTシャツ

カポエイラシャーシ(青・赤)

OTHER

■ZERO1-MAX HP***http://www.zero-one-max.com/
■SB HP***http://www.shootboxing.org/
■Fu-ten Promotion TEL***03-3373-7939
■PINK TIGER HP***http://blog.goo.ne.jp/pintai
■ART JUNKE***092 711 1021

2名様

アートシャンキー Tシャツ（黒・ピンク

アートシャンキーさんから新作をご提供いただきました！ 今回は太っ腹にも2種類プレゼントです さあ、カンカン応募しろ!! 【ART JUNKE提供】

1名様

SB百列拳Tシャツ

シュートボクシングで活躍中の宍戸大樹選手オリジナルTシャツをGET!! これを纏って北斗百列拳ばりの打撃を出せ! 【SB提供】

1名様

日高郁人＆藤田ミノルTシャツ

ZERO1-MAXの超スペシャルタッグ日高選手＆藤田選手からTシャツをいただきです! 【ZERO1-MAX提供】

サイン入り 6名様

パチパチ3サイン入りパンフレット

キングスロードにレギュラー参戦が決定した池田大輔選手のサイン入りパチパチパンフレットを6名様に大放出! 【パチパチ提供】

1名様

ピンクタイガーマスク

92号掲載のTシャツにつづき、今度はグレードアップしてマスクをプレゼント提供してもらいました! これを被ればキミも今日からピンクタイガーだ!! 【PINK TIGER提供】

ALL JAPAN

■マイスター・ジャパンTEL***06-6191-5907

チャンピオンベルト

1月下旬に店頭にならぶ予定の全日本のミニチュアチャンピオンベルトをプレゼント。全部集めると全10種類（下記参照）。これとは別に超レアもののスペシャルBOXもアリ。これは応募するしかない!! 【マイスター・ジャパン提供】

- インターナショナルヘビー級 チャンピオンベルト
- PWF認定ヘビー級 チャンピオンベルト
- ユナイテッドナショナルヘビー級 チャンピオンベルト
- インターナショナルタッグ チャンピオンベルト ライトパートナー
- インターナショナルタッグ チャンピオンベルト レフトパートナー
- PWF認定世界タッグ・チャンピオンベルト ライトパートナー
- PWF認定世界タッグ チャンピオンベルト レフトパートナー
- アジアタッグ・チャンピオンベルト ライトパートナー
- アジアタッグ・チャンピオンベルト レフトパートナー
- 世界ジュニアヘビー級 チャンピオンベルト
- ヒミツのレア種1点

20名様

K-1 PREMIUM 2005 Dynamite!!

■FEG HP***http://www.so-net.ne.jp/feg/
■ポニーキャニオンHP***http://www.ponycanyon.co.jp/

1名様

所英男愛用Tシャツ

所選手が3日連続で着用したGT−Fチャンピオンシャツを洗わないままプレゼント! "世界の所"ファンにはとうにもたまらない逸品だ!! 応募される方、送るまで洗いませんから安心してください! 【所英男選手提供】

サイン入り 2名様

チャック・ウィルソンサイン入りウォータータンベル

59歳のいまもなお柔道に励み、身体を鍛えまくっているというチャックさん「さあ、お前も鍛えろ!」と言わんばかりのプレゼントだ!! これはもう、筋肉つけまくるしかないでしょう!! 【チャック・ウィルソンさん提供】

2名様

K-1 WORLD GP in OSAKA

120分／¥5040（税込）

9・23「K-1 WORLD GP in OSAKA」のDVDが12月14日に発売開始。K-1ファイターの熱い闘いを永遠に見続けろ!! 【ポニーキャニオン提供】©フジテレビ

GAME

2名様

■エレクトロニック・アーツTEL***03-6229-8800

PS2 ニード・フォー・スピード モスト・ウォンテッド ¥7140（税込）

12月22日発売の新作ゲームソフトをまたまたエレクトロニック・アーツからプレゼント。パトカーから逃げる緊張感と爽快感がたまらない!! 【エレクトロニック・アーツ提供】

UFO

ザ・グレート・サスケ＆韮沢潤一郎サイン色紙

大晦日のもうひとつの特番「TVタックル」韮澤さんvs大槻教授の闘いも見逃せない!! UFO肯定派のサスケ選手も一緒にサインを書いてくれました もらった人は必ずUFO肯定派を応援しよう!! 【韮澤潤一郎さん＆サスケ選手提供】

1名様

サイン入り

藤原敏男＆山本KIDパパのサイングッズ

全8ページのインタビューで2時間しゃべりまくったという二人の貴重なサインをプレゼント。kamiproオリジナル藤原先生Tシャツにもサインをもらったぞ。どれがほしいかちゃんと書いてドシドシ応募しろ! 【藤原敏男＆山本KIDパパ提供】

各1名様

MOVIE GOODS

■東京ゾンビHP***http://tokyo-zombie.com/
■コアラ課長HP***http://www.koala-kacho.com/

浅野忠信サイン色紙

花くま先生原作「東京ゾンビ」に出演された浅野さんからサインをゲット!! こんなプレゼントなかなかないゾ!! 【浅野忠信さん提供】

2名様

コアラ課長 オリジナル名刺入れ＆名刺

映画「いかレスラー」と同じ監督・河崎実氏が指揮をとった「コアラ課長」が2006年より公開予定!! ハッスルでもおなじみの石井太一も豪華出演者に混じって熱演中。これは見るベシ!! 【トルネード・フィルム提供】

1名様

DVD

■クエストHP***http://www.queststation.com

各1名様

マッハ、ルミナ、ハンセンらが大活躍した2005年修斗の映像をはじめ、今月もクエストさんからDVDをたっぷりプレゼント!! 6本すべて絶賛発売中。要チェック!! 【クエスト提供】

01★流智美の黄金期プロレス50選 vol 4 234分／¥5880（税込）
02★大道塾 着衣総合格闘技 空道 PART1 96分／¥5880（税込）
03★小室宏二 サ・コムロック 柔道実戦的寝技 93分／¥5880（税込）
04★静飛雲 双節棍・ヌンチャク 47分／¥5880（税込）
05★流智美の黄金期プロレス50選 vol 3 193分／¥5880（税込）
06★修斗2005BEST vol 2 190分／¥5880（税込）

ファイティングスタンド・フルセット

セット内容 ファイティングスタンド+サンドバックDX150+パンチングボール+トレーニンググローブ+安定用重し袋

50,000円→**10,800円**（消費税込）

サンドバックを使いパンチ、蹴りの練習。逆サイドでパンチングボールを使いコンビネーションの練習。これ1台であなたの部屋が本格練習場に！

お買得セット

W158×D152×H183～228cm

さらに 先着500名様に限り SBスプリングをプレゼント！
トレーニング時の揺れやショックを軽減しすばらしい打撃感を実現!!

サンドバッグDX

最高級レザー使用！中身入りでこの価格!!

φ30×150 15,000円→**6,800円**（消費税込）

φ30×130 13,000円→**4,800円**（消費税込）

φ30×100 9,000円→**3,800円**（消費税込）

クサリ付き

ファイティングバッグ

NEW

プロ格闘家が認めたファイティングバッグ

様々なコンビネーション練習に最適です!!

FIGHTING ROAD

Wプレゼント！
今、ファイティングバッグをお買上げの方に、トレーニンググローブをプレゼント。
さらに、トレーニング解説DVD「ファイティング」もプレゼント！

魔裟斗「ファイティング」DVD

40×H180×土台60

パンチにキック激しい衝撃をガッチリ受け止める 自宅でできる本格トレーニング！

高級レザー

30,000円→**14,800円**（消費税込）

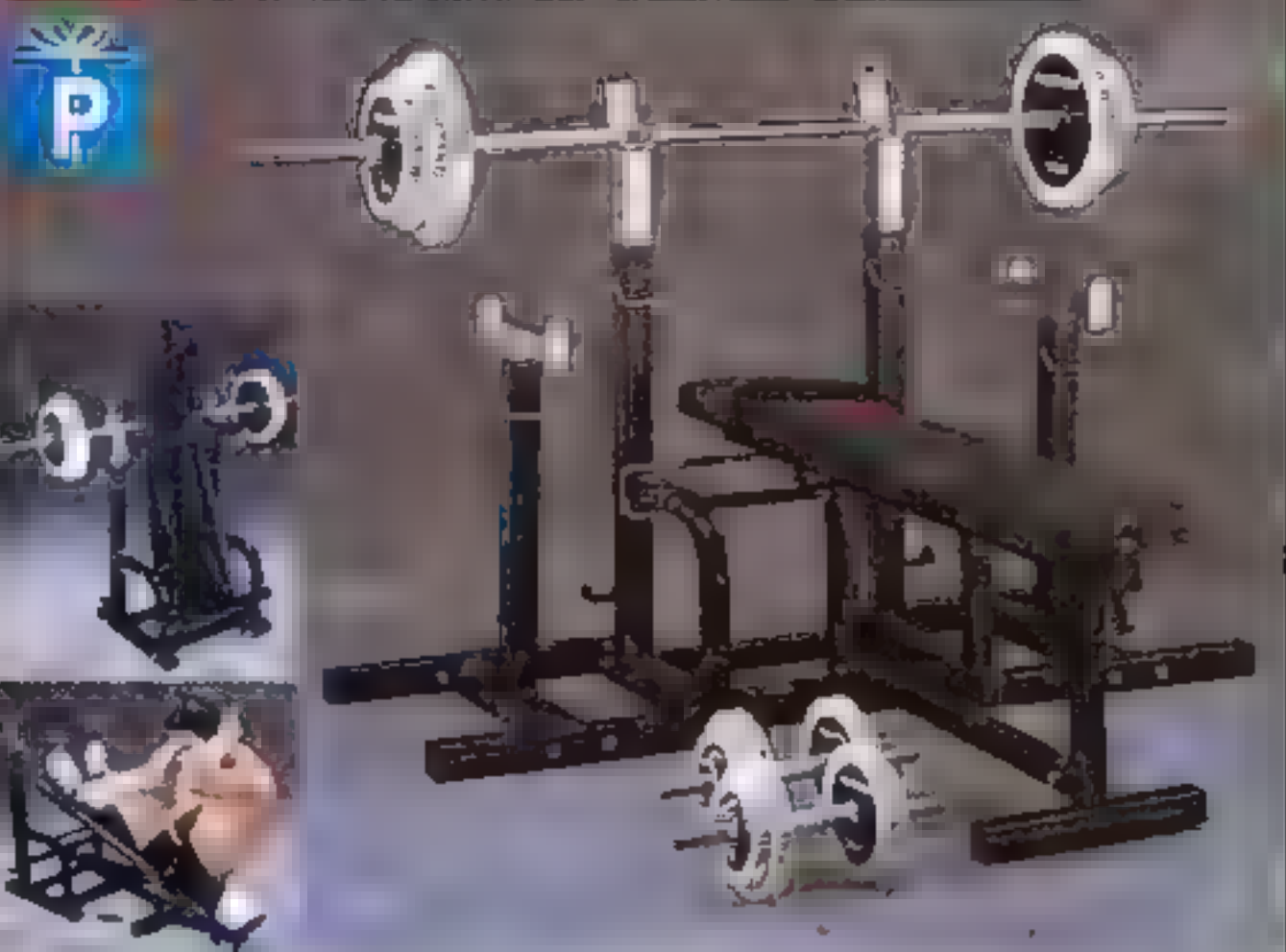
打撃本体には、多重構造ウレタンを使用。

ファイティングセットⅢ

当社推薦 キングスセット+ベンチセーフティ+バーベルラバータイプ100kgセットがついてこの価格！

97,000円→**49,800円**（消費税込）

ファイティングセットⅡ

当社推薦 ハードベンチ+ベンチセーフティ+バーベルラバータイプ70kgセットがついてこの価格！

65,000円→**34,800円**（消費税込）

ベンチマット

8,000円→**4,800円**（消費税込）

サイズ 110cm×200cm×厚5mm

セーフティプレスベンチセット

当社推薦 プレートラバータイプ2.5kg×2/5kg×2/7.5kg×2 10kg×2計50kgの重りがついてこの価格！

W150×D157×H63～137

47,500円→**29,800円**（消費税込）

プロフェッショナル ボクシンググローブ

サイズ 8oz・10oz・12oz・14oz カラー 黒・赤

最高級本革製 19,800円→**4,800円**（消費税込）

プロフェッショナル ヘッドガードインナーバー

サイズ フリー カラー 黒・赤

最高級本革製 17,800円→**5,800円**（消費税込）

プロフェッショナル パンチングミット

サイズ フリー 両手

最高級本革製 9,800円→**3,800円**（消費税込）

プロフェッショナル レッグガード

サイズ フリー カラー 黒・赤

14,800円→**4,800円**（消費税込）

最高級本革製

プロフェッショナル キックミット

サイズ 40×18×10 カラー 黒・黄 赤・黄

9,800円→**3,800円**（消費税込）

最高級本革製

(株)ファイティングロード

FIGHTING ROAD

〒547-0027 大阪市平野区喜連2-5-49 龍本平野ビル7F

お申し込み方法

ご注文はTEL・FAX・ハガキにて 通販OK

TEL/06-6706-4411

FAX/06-6706-4412

HPアドレス http://www.fightingroad.co.jp

Eメールでのお申込み shop@fightingroad.co.jp

受付時間 AM9:00～PM9:00（年中無休）
1月1日～3日のみ休業致します。（1月4日より通常営業）

便利なクレジットカードもご利用OK!

■ハガキでのお申し込み方法

切手 〒547-0027 大阪市平野区喜連2丁目5-49龍本平野ビル7F ファイティングロード 通販係

商品名
電話番号
住所
氏名

- 受注後スピード配送（但し、地域により異なります）
- 代金は商品到着時、配達員にお支払い下さい。
- 表示価格には送料は含まれておりません。
- 返品、交換は未開封に限り、到着後7日以内にて（送料はお客様負担になります。）
- 改良の為、予告なく色・形状が変わる事があります。
- 全商品に生産物賠償保険付
- お客様の個人情報は商品およびカタログの発送以外には使用いたしません。

肉体改造!

1日15分のトレーニング。

日々の練習で強さを勝ち取れ!!

魔裟斗<マサト>
K-1 WORLD MAX 2003 世界王者
シルバーウルフ所属

正しく学ぼう!

P入り商品お買い上げの方には、**トレーニング解説DVD「ファイティング」をプレゼント!!**

第1部は魔裟斗選手の試合直前本格練習を収録しました!!
☆魔裟斗選手による正しい打撃、蹴りのアドバイスもあるぞ!
第2部はあの東京大学ウエイトリフティングチームによるより良い筋肉の造り方を収録!!☆ベンチプレス、ダンベル、腹筋・・・等、正しいフォームを学ぼう!

P 魔裟斗「ファイティング」DVD

Wプレゼント!

バーベル、ダンベルお買上げの方に、**ウェイトグローブをプレゼント!**
発汗によるスベリを無くし、安全にトレーニングできます。さらに、**トレーニング解説DVD「ファイティング」もプレゼント!**

ブラックタイプ

バーベル ブラックタイプ

重量	消費税込価格
30kgセット	12,000円→6,800円
50kgセット	17,000円→9,800円
70kgセット	22,000円→13,800円
100kgセット	29,500円→17,800円
140kgセット	39,000円→23,800円

シャフト付き

ダンベル ブラックタイプ

重量	消費税込価格
20kgセット	7,000円→4,800円
30kgセット	9,500円→6,800円
40kgセット	12,000円→7,800円
50kgセット	14,000円→8,800円
60kgセット	16,500円→10,800円

シャフト付き

プレート ブラックタイプ

重量	消費税込価格
1.25kg	300円
2.5kg	600円
5.0kg	1,200円
7.5kg	1,800円
10.0kg	2,400円
15.0kg	3,600円
20.0kg	4,800円

ラバータイプ

バーベルラバータイプ

重量	消費税込価格
30kgセット	16,000円→9,800円
50kgセット	24,000円→13,800円
70kgセット	32,000円→19,800円
100kgセット	44,000円→26,800円
140kgセット	60,000円→34,800円

シャフト付き

ダンベル ラバータイプ

重量	消費税込価格
20kgセット	9,500円→6,800円
30kgセット	13,500円→8,800円
40kgセット	17,500円→10,800円
50kgセット	21,500円→12,800円
60kgセット	25,000円→14,800円

シャフト付き

プレート ラバータイプ

重量	消費税込価格
1.25kg	400円
2.5kg	800円
5.0kg	1,600円
7.5kg	2,400円
10.0kg	3,200円
15.0kg	4,800円
20.0kg	6,400円

W130×D137×H100~130

キングofベンチ
(プレートセット別売)
背もたれ角度4段階に調節可能!
35,000円→12,800円(消費税込)

W62×D126×H85~105

ハードベンチ (プレートセット別売)
ワンタッチでシットアップベンチ、折りたたみが可能!
20,000円→9,800円(消費税込)

W52×D126×H100

トレーニングベンチ (プレートセット別売)
安定感抜群のベンチプレス台
12,000円→5,800円(消費税込)

W130×D137×H205

キングスセット
(プレートセット別売)
背もたれ角度4段階に調節可能!
40,000円→18,800円(消費税込)
ラット運動によるショルダー部の集中強化によりパンチ力強化、持久力が備わります!

W130×D195×H205

キングスセットDX
プロスクワット台付
(プレートセット別売)
背もたれ角度4段階に調節可能!
58,000円→27,800円(消費税込)

W100×D115×H140~220

マルチジム
高さ調整可能
24,800円→9,800円(消費税込)

1日10分!!

抵抗値設定
運動時間累計
速度の計測
走行距離の累計
消費カロリーを累計表示

W51×D80×H111cm

フィットネスバイク fr
サドル高さ調整可能
39,800円→7,800円(消費税込)

W55×D130×H45

フラットベンチPRO
極太パイプを使用抜群の安定感!
10,000円→4,800円(消費税込)

W56×D127×H123

シットアップベンチ
手軽に腹筋・背筋のトレーニングが出来ます。
10,000円→4,800円(消費税込)
5段階の角度調節が可能!

W45×D51×H60~82

ベンチセーフティ
ベンチの両サイドにセットすれば安全にプレス運動ができます。
13,000円→6,800円(消費税込)

W100×D60×H120~160

プロスクワット台
(プレートセット別売)
18,000円→9,800円(消費税込)

kamipro 紙のプロレス
No.94
2006年1月4日 発行

発行人
浜村弘一

編集人
山口日昇
青柳昌行

編集若頭
堀江ガンツ

編集スタッフ
ジャン斉藤
真下義之
松下ミワ
八木賢太郎（引き続き"有頂天"のため非番）

電気部
さささぃ
松澤チョロ

企画制作部
坂井ノブ
上杉・放置プレー

終身名誉バイザー
吉田 豪

助っ人
ジャイ子RG

編集次長リローデッドPart.3
松林 貴

デザインカントク
出田さん（TwoThree）

デザインキャプテン
金井ヒサくん（TwoThree）

デザイン
松坂マツくん
谷タニやん
廣田ブンちゃん
野口ノグッチー
白木ご主人様（以上、TwoThree）

トメさん
はなえちゃん
黄川田洋志（以上、さおとめの事務所）

カメラマン
乾 晋也
菊池茂夫
黒田史夫
平工幸雄
森モーリー鷹博
山口比佐夫

お勘定&衣料部
林一枝

体調
プリン体・入江（Two Three）

雑誌営業
堂前秀隆
中村宣忠

助っ人営業
上野宏樹

業務部
割石"新宿2丁目悪石"芳司

愛犬が想像妊娠の編集庶務
高木由美子

広告営業
株式会社ビューポイント
（広告掲載のお問い合わせは☎03-5776-0717まで）

発行所
株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
☎0570-060-555（代表）

印刷
図書印刷株式会社

協力
BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS

本書の内容、不良品交換等についてのお問い合わせは下記の窓口までお願いいたします。なお、内容につきましては記載以上の詳細につきましてはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。

[カスタマーサポート]
☎0570-060-555
（受付時間／土日祝祭日を除く 12:00〜17:00）
メールアドレス support@ml.enterbrain.co.jp

●個人情報の取り扱いについて
本書にお寄せいただいたハガキ、各種のお問い合わせに関連してご提供いただいた個人情報につきましては株式会社ダブルクロス、および株式会社エンターブレイン（URL:http://www.enterbrain.co.jp/）、それぞれのプライバシー・ポリシーの定めるところにより、取り扱わせていただきます。

kamipro 2005 94
大晦日格闘技大戦大特集 行ってみよう!
2006年1月4日発行
発行人/浜村弘一 編集人/山口日昇、青柳昌行 発行・発売所/株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 ☎0570-060-555(代表)
印刷・製本/図書印刷株式会社 ©2005 Enterbrain,Inc. ©2005 DOUBLECROSS
enterbrain

定価:本体838円+税
雑誌61953-75 Ⓗ2006.4
Printed in Japan 図書印刷

9784757725751
ISBN4-7577-2575-2
C9476 ¥838E
1929476008381